

2019年度 点検評価改善報告書

[教育研究活動報告]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

大 学

保健福祉学部

看護学科

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 工藤 二郎	職名 教授	学位 医学博士 九大 1985 年
----------	-------	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
医学 内科学 倫理学 看護学	消化器疾患、血液疾患 肝疾患 集団検診 病院倫理 看護教育

研 究 課 題
内科的疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、血液疾患についての臨床的研究 消化管の集団検診についての研究 主として病院内で起こる倫理的な問題についての考察 看護教育の研究

担 当 授 業 科 目
疾病学総論 2 単位必修 医療と倫理 1 単位選択 キリスト教と西南女学院のあゆみ 1 単位必修 (1 コマ)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【疾病学総論】 対象は臨床医学用語を初めて学習する 1 年生であるため、できるだけ平易な説明をした。今回初めて医療の歴史について、最後の 1 コマで教えた。毎回シラバスを確認し、各授業の目標を明らかにして授業を開始した。授業終了時には予習を促した。キーワードのノートを毎回チェックし、書写を促し、また漢字の説明をした。教科書の重要な文章を指摘し、マークを入れさせた。パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように心がけ画像を多く紹介した。キーワードのノートを使って予習をしていた学生も多数いた。
授業科目名【医療と倫理】 医療と関係する倫理的諸問題を講義した。国家試験にも、たまに必須問題で出題されることがあるのでポイントを押さえるよう注意した。毎回シラバスを説明して講義を開始した。毎回講義で扱った問題について議論を促し、短い作文を課し、配点した。パワーポイントのプリントは文字を少なくして画像を多く紹介した。いくつかの教科書を紹介した。大教室だったが、集中するように促し、学生の注意は途切れなかった印象である。
授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 1 コマのみであったが大学の開学時の貢献者たち、ことにレオナ・キャンベル院長と高木俊一郎初代学長の営為に焦点を当てて開学の精神、および学生に当てた多くのメッセージを紹介した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本消化器病学会会員	九州地区評議員 専門医	1976年4月
日本内科学会会員	認定内科医	1978年11月
日本血液学会会員	専門医、指導医	1979年4月
日本癌学会会員		1987年9月
日本感染症学会会員		1988年1月
日本肝臓学会会員		1988年12月
日本消化器内視鏡学会会員		1989年3月
日本看護科学学会		2008年6月
日本臨床救急医学会		2011年6月

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) (運営・宗教等に関する)				
2019年を迎えて	単	2019年5月	西南女学院月報	総合人間科学のカリキュラムが刷新されたこと、将来計画2016-2018が終了したことなどを述べた。
2019年度を迎えて	単	2019年6月	広報西南女学院	一般向けに地域活動の活発なこと、就職率が99%超のこと、短大部の認定絵本士養成講座開設の件などを述べた。
西南女学院創立100周年記念誌の方向性について	単	2019年9月	西南女学院月報	2018年夏設置の記念誌出版委員会が話し合いを続け、関係者が気軽に手を取って読みやすいものを目指すことになり、出版日の目標を2022年4月とすることになった件を述べた。
悩みへの対応	単	2020年1月	シオンのそのあゆみ	悩みへの対応には新しい心で1日1日働くことが大切なことを述べた。
(翻訳) なし				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州労災病院倫理委員会	委員	2003年4月より
同 臨床研修委員会	委員	2004年4月より
同 薬剤治験審査委員会	委員	2000年4月より
社会福祉法人福音会	理事長	2016年6月より
学校法人阿部学園	理事	2015年4月より

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学長、大学評議会議長、運営会議議長、入学試験会議議長、学院運営協議会委員、学院評議員、学院理事、西南女学院後援会顧問、西南女学院維持会幹事、チャペルアワー奨励：三浦綾子（2020年1月8日、9日）

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	浅野嘉延	職名	教授	学位	医学博士 (九州大学 1989 年)
----	------	----	----	----	--------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、保健統計学、高齢者福祉学	看護学生教育、福祉用具

研 究 課 題
<p>医療現場での臨床医と看護系大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を有効に教授する教育法の確立を目指している。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材を作成し、5冊のテキストを出版してきた (現在、150校以上で教科書採用されている)。今年度は、うち2冊で改訂版を出版した。</p> <p>高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」での研究から商品化した「車椅子用フットプレートカバー」は、有菌製作所より販売を継続中である。</p>

担 当 授 業 科 目
<p>疾病学各論 I (前期) (看護学科)</p> <p>医学総論 (前期) (福祉学科)</p> <p>保健福祉学入門 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科)</p> <p>疾病学各論 II (後期) (看護学科)</p> <p>看護のための臨床検査 (後期) (看護学科)</p> <p>保健統計学 (後期) (看護学科)</p> <p>疾病学特論 (後期) (看護学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【保健福祉学入門】</p> <p>看護学科、福祉学科、栄養学科の1年生に対して、各学科の専門性と多職種連携の意義、社会の期待に応えるための課題などを解説した。授業は学部長、学科長、卒業生などの外部講師によるオムニバス形式とした。保健福祉学部での勉強や学生生活を送るうえでの指標となるような内容を心掛けた。</p>
<p>授業科目名【保健統計学】</p> <p>看護学科の学生にとって数少ない社会医学の系統講義である。ただ、馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計 (改訂3版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。前回の復習に時間を使って、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。</p> <p>授業中に3回、統計データから社会問題を考察するなどのレポートを課した。</p>

授業科目名【疾病学各論Ⅰ】【疾病学各論Ⅱ】

自著の教科書「看護のための臨床病態学（改訂3版）」を使用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は専門家に依頼し、全体的なコーディネートを行った。

主要な疾患に関して、自分なりにまとめを作るレポートを課した。今後の看護科目の授業や実習で活用できると期待している。

授業科目名【看護のための臨床検査】

上記の疾病学各論Ⅰ&Ⅱと連携させて進行し、疾病とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。自著の教科書「看護のための臨床検査」を使用して、各々の検査法やデータの解析を解説するとともに、検査データから患者の病態が把握できるように症例検討をした。検査手技のDVD5本を用意し、検査の説明と平行して映像を供覧した。

また、2コマを用いて演習を行った。心電図、検尿、肺機能、骨密度測定、血液型検査を、学生自らが検査者や被験者になって検査の実際を体験させた。

症例を提示して疾患名を考えるレポートを課した。期末試験は教科書持ち込みで患者データを解析するといった（知識だけではなく）思考力を問う問題を出題した。

授業科目名【医学総論】

福祉学科の学生に、基礎医学（解剖生理）、臨床医学（主要疾患）、社会医学（公衆衛生）といった非常に広範囲な内容を講義するため、福祉の業務に関係する内容にポイントを絞って解説した。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、社会福祉士国家試験の出題範囲であるため、国家試験の過去問題の解説も行った

授業科目名【疾病学特論】

卒業後は臨床現場で働くことになる4年生に対して、自著の教科書「解剖生理と疾病の特性（改訂2版）」を使用して、疾病学の総復習を行いながら、臨床現場で必要なことを解説した。また、看護師国家試験の直前であるため、国家試験の対策となるようにポイントを示した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学科	専門医部会編集担当委員（2006年9月～現在）	1983年6月～現在
日本血液学科	評議員（1998年4月～現在） 九州支部評議員（2011年4月～現在）	1985年6月～現在
日本癌学会		1986年6月～現在
アメリカ内科学会	上級会員FACP（2000年1月～現在）	1998年12月～現在
日本看護科学学会		2008年12月～現在
日本看護学教育学会		2008年12月～現在

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<<教科書の編集>> 1. 看護のための臨床病態学 (改訂4版) 2. なるほどなっとく！内科学 (改訂2版)		2020年3月 2020年3月	南山堂 (全838ページ) 南山堂 (全633ページ)	編集者：浅野嘉延、吉山直樹 (改訂3版から医学の進歩に伴いアップデートした) 編集者：浅野嘉延 (初版から医学の進歩に伴いアップデートした)
<<教科書の分担編集>> 1. 血液 2. 救急医療 3. 内科診療の実際 4. 血液	共著 単著 単著 共著	2020年3月 2020年3月 2020年3月 2020年3月	看護のための臨床病態学 (改訂4版) P497-540、南山堂、2020 看護のための臨床病態学 (改訂4版) P793-801、南山堂、2020 なるほどなっとく！内科学 (改訂2版) P1-23、南山堂、2020 なるほどなっとく！内科学 (改訂2版) P489-525、南山堂、2020	著者：浅野嘉延、下田晴子 (主要な血液疾患を解説) 著者：浅野嘉延 (救急医療のポイントを解説) 著者：浅野嘉延 (内科診療一般を解説) 著者：浅野嘉延、下田晴子 (主要な血液疾患を解説)
<<雑誌の依頼執筆>> 1. 検査まるわかり pocket book	単著	2019年5月	プチナース (2019年5月号) 特別付録 (全82ページ)	著者：浅野嘉延 (主要な検査についてポケット版で解説)
<<その他の出版物>> 1. 人類の福祉と文化の発展 2. 和而不同 (和して同ぜず) 3. SDGsと保健福祉学部 4. 保健福祉学部の活性化と定員充足	単著 単著 単著 単著	2019年6月 2019年 2019年12月 2019年	西南女学院月報 第662号:2, 2019 広報 西南女学院 第96号:4, 2019 西南女学院月報 第668号:2, 2019 広報 西南女学院 第97号:2, 2019	著者：浅野嘉延 (巻頭言) 著者：浅野嘉延 (入試部長として大学紹介) 著者：浅野嘉延 (巻頭言) 著者：浅野嘉延 (保健福祉学部長として所感)

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. 誠之南部武士御座候 義士御座候	単著	2020年	西南女学院大学図書館 報 27: 1, 2020	著者：浅野嘉延 (壬生義士伝の紹介)
6. 創立100周年プレイ ベントについて	単著	2020年	地域活動論叢 2019年 度: 61, 2020	著者：浅野嘉延 (プレイベントの紹介)
7. 序文	単著	2020年3月	看護のための臨床病態 学(改訂4版)、南山堂、 2020	著書：浅野嘉延 (改訂版の序文)
8. 序文	単著	2020年3月	なるほどなっとく！内 科学(改訂2版)、南山 堂、2020	著書：浅野嘉延 (改訂版の序文)
<<講演など>> 1. 研究する皆さまに伝えたいこと ~自分の研究歴を振り返って~ 2. みんなちがって、みんないい 3. 長生きのコツ ~内科医からのアドバイス~ 4. 統括責任者の説明		2019年7月 2019年10月 2019年12月 2019年12月	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所講演会 西南女学院中学校・高等学校 全体礼拝 2019年度後半 北九州市民カレッジ 研究費の使用に関するコンプライアンス研修会	演者：浅野嘉延 (自分の経験をもとに研究の面白さや厳しさを伝えた) 演者：浅野嘉延 (多種多様なひとが楽しく暮らす世界の大切さを伝えた) 演者：浅野嘉延 (臨床医の経験をもとに生活習慣病の予防法などを伝えた) 演者：浅野嘉延 (研究費の適正使用について解説した)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	平成31年度 西南女学院大学共同研究費	近江雅代、手嶋英津子、他、浅野嘉延、他	1,120,101円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人 福音会	産業医	2007年4月～現在
北九州いのちの電話	評議員	2009年2月～現在
小倉血液コンソーシアム研究会	世話人	2009年4月～現在
医療法人起生会 大原病院	評議員	2009年4月～現在
神理幼稚園	産業医	2016年6月～現在
北九州市医療センター治験審査委員会、医の倫理委員会	評議員 委員会委員	2010年4月～現在 2015年4月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

西南女学院 評議員 2011年4月～現在
外部資金導入促進プロジェクトメンバー 2013年8月～現在
茶道部 顧問 2015年4月～現在
入試部長 2016年4月～現在
地域連携室 運営協議会委員 2016年8月～現在
地域連携室 室員（広報担当） 2016年8月～現在
保健福祉学部長 2019年4月～現在
西南女学院 理事 2019年4月～現在
保健福祉学部研究所 所長 2019年4月～現在
倫理審査委員会 委員長 2019年4月～現在
動物実験委員会 委員長 2019年4月～現在
公的研究費運営管理部門 統括責任者 2019年4月～現在
創立100周年記念事業実行委員会 2019年7月～現在
大学短大事前行事担当 2019年7月～現在
100周年記念誌出版WG 2019年7月～8月
100周年記念誌編集委員長 2019年10月～現在

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	安藤 愛	職名	助教	学位	修士(看護学)(福岡県立大学 2017年)
----	------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学	ストレングス 精神科病棟 精神科看護 継続

研 究 課 題
精神科看護の臨床現場におけるストレングスモデルの活用・継続に向けた課題の明確化

担 当 授 業 科 目
精神看護学演習、看護技術論、診療関連技術論、基礎看護学実習Ⅱ、家族と健康(前期)(看護学科) 精神看護方法論、精神看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 精神看護学演習 】</p> <p>実習に向けてペーパーペイシエントによる看護展開とプロセスレコードを活用した自己の対話の振り返り方法の伝授を主に行った。学生の情報収集能力強化に向けて目的を明確にした情報収集の必要性を伝えると共にワークシートの工夫を行った。できるだけ実際の看護がイメージできるように臨床指導者にも演習に参加していただいた。学生が事例の展開を行う過程で患者の気持ちを考え、成育歴や生活歴を踏まえたアセスメントが行えるように具体的な問いかけや解説を心がけた。</p>
<p>授業科目名【 精神看護方法論 】</p> <p>「パーソナリティ障害」「大人の発達障害」「強迫性障害」「適応障害」「身体合併症」をもつ人の看護を担当した。患者の苦痛や生活のしづらさがイメージしやすいように DVD や本を活用し、状況に応じた具体的な看護を深められるようにグループワークを行った。また、特に現代社会で問題になっている事柄を伝え自分の身近な問題として興味関心をもてるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【 精神看護学実習 】</p> <p>学生が指導者に質問しやすいよう環境調整を行い、問題が生じた際には指導者および師長との連携を強化した。学生が自分の傾向と向き合い受け持ち患者と関係性を築き、患者の希望や思いを尊重した看護計画の立案・実施ができるよう学生の理解度に応じた問いかけを心がけた。また、グループカンファレンスでは、学生が発言しやすいよう効果的な発問を心がけ、患者理解が深まるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 看護技術論 】</p> <p>ベッドメイキングの演習では、技術の重要なポイントをおさえながら指導した。患者役や実践を通して感じたことや考えたことをグループ間で共有し、学生同士で学びを深められるよう環境調整を行った。また、患者の状況を具体的に想起できるよう具体的な情報提供を行い、臨床での実践をイメージできるよう工夫し、観察の重要性を説明した。</p>

<p>授業科目名【 診療関連技術論 】</p> <p>与薬・輸血の演習では、安全に実施できるよう基本的な技術の実施とその根拠の確認を行った。また、与薬・輸血の準備、投与時の確認事項等、臨床現場で実際に行われている方法やリスクについて伝え確認することの重要性を強調した。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】</p> <p>基本的な臨地実習におけるマナーや報告・連絡・相談の重要性について指導した。学生の日々の目標を明確にし、その目標が達成できるよう指導者と連携し関わった。また、学生が患者との対話を通して患者のニーズや自己の傾向に気づくことができるように患者の気持ちやおかれている状況、学生自身の感情や思考について具体的に発問するよう心がけた。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】</p> <p>学生が患者との関わりを通して感じたことや気づきをもとに、患者に必要な看護援助が導きだせるよう指導した。また、生活者として患者を理解し、個別性を考慮した援助ができるよう疾病総論や解剖生理学、基礎看護学実習Ⅰで学んだコミュニケーション技術を想起・活用できるよう発問を工夫した。</p>
<p>授業科目名【 家族と健康 】</p> <p>疾患の発症や大きなストレスが生じることによって家族機能がどのように変化していくのか、変化に伴ってどのような支援が必要となるのかがイメージできるよう指導した。個人ワークの充足を図り、グループワークでの意見交換が促進されるよう声かけを行った。学生の状況に応じて、全体へフィードバックできるよう教員間で連携を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
福岡県看護協会会員		2014年4月～現在に至る
日本教師学学会会員		2015年1月～現在に至る
日本精神科看護協会会員		2017年4月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2017年4月～現在に至る
日本看護科学学会会員		2017年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 第108回看護師国家試験 問題解説	共	2019年5月	メディカ出版 国 家 試 験 対 策 e-Learning N プラス	第108回看護師国家試験において出題された精神看護学の問題の一部の解説を担当した。
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) Trends in case studies on nursing focused on strength in psychiatric ward in japan	共	2019年6月	2019年国際看護師協会大会(シンガポール)	①日本の精神科病棟におけるストレングスに焦点をあてた看護に関する事例研究の対象者の主疾患や入院期間の動向について調査し、ストレングスに焦点を当てた看護実践の特徴と効果についてまとめた。 ②共同発表者名 ○後藤有紀, 安藤愛, 前田由紀子 ③2019年ICN大会抄録集 P1179
				教育研究業績 総数 (2020年3月31日現在) 著書: 3 (内訳: 共3) 学術論文: 2 (内訳: 共2) 学会発表: 3 (内訳: 共3)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし (科学研究費を申請したが2019年度不採択)			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
第30回日本精神保健看護学会学術集会	編集副委員長	2018年12月3日～2020年6月14日
福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会	会員	2017年3月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

2年アドバイザー (2019年4月～2020年3月31日)

後援会学校委員 (厚生部) (2019年4月～2020年3月31日)

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 飯野 祥之	職名 助教	学位 修士 (看護学) (九州大学 2012 年)
----------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学 看護教育学	クリティカルシンキング 臨床判断力 アクティブラーニング

研 究 課 題
・看護学生の臨床判断力向上を目指した研究。

担 当 授 業 科 目	
診療関連技術演習 (前期 看護学科)	リハビリテーション看護学 (前期 看護学科)
成人・老年看護学演習 (前期 看護学科)	基礎看護学実習 I (後期 看護学科)
基礎看護学実習 II (前期 看護学科)	成人急性期看護学実習 (後期 看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 診療関連技術演習 】</p> <p>与薬に関する技術演習 (皮下注射、筋肉内注射) で指導教員として参加した。注射は危険の伴う処置であることを念頭に置き、安全に行うための適切な方法について指導を行った。1つ1つの手技・手順を説明するだけでなく、それぞれの根拠についてその都度説明し、正しい手順の必要性について理解を促した。</p>
<p>授業科目名【 リハビリテーション看護学 】</p> <p>摂食・嚥下障害のある患者、運動器に障害のある患者のリハビリテーション看護についての実技演習に参加した。前者に関しては、嚥下するときの姿勢や食事介助の方法について、良い例と悪い例の双方とも提示して、どのような援助が適切かを実感的に理解できるように配慮した。後者は階段教室で行った。転倒の危険があったため階段での杖を用いての昇降をする際は必ず学生の下に位置し、転倒予防に努めた。その上で杖歩行の困難な状況や適切に行う時のポイントなどを提示した。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 (前期 看護学科) 】</p> <p>＝看護過程＝</p> <p>慢性期の看護過程事例の改訂を行った。実際の演習においては、基本的な看護過程の展開の仕方や記述の仕方の理解を丁寧に説明することを心掛けた。アセスメントの視点がずれている場合が多かったため、各パターンのアセスメントの視点をかみ砕いて説明するとともに、アセスメントに必要な指標についても提示を行った。また、紙面の事例だけでなく、実習を意識して「実際の事例だったら～～」のように他の事例だとどのようなアセスメントの展開となるのかを具体的に説明した。</p> <p>＝技術演習＝</p> <p>術後の患者観察についての実技演習に指導、テストの評価をするために参加した。</p> <p>手術や病態について学生の知識の及ばないところはこちらから提示するとともに、既習の知識については教員側から積極的に問いかけ、記憶の想起や知識の深化・定着に努めた。また、術後患者の観察について、初回の説明時はかみ砕いて説明するとともに根拠を説明し、実技練習の際にその根拠を問いながら演習を進めた。</p>

<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ（後期 看護学科） 】</p> <p>初めて患者を受け持つ実習であり、患者とのコミュニケーションをとることが一番の目的であった。可能な限り患者と学生のコミュニケーションを直接見て、患者の非言語的な反応などをフィードバックし、コミュニケーションの意味を考えられるよう努めた。また、こちらから答えを与えるのではなく、患者とのやりとりや病態についてなぜそうなっているのかということ自力で導き出せるように発問するよう心がけた。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ（前期 看護学科） 】</p> <p>受け持ち患者のことをアセスメントし、看護過程を含めた看護展開を行う初めての实習であった。病態的に理解が及びにくいところがあったため、逐一病態の説明を行った。また、学生が積極的に看護実践を行えるように、教員も一緒に入り、ケアを行える機会を増やせるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 成人急性期看護学実習（後期 看護学科） 】</p> <p>術後侵襲における生体反応、整形外科手術、心臓外科手術、術後全身管理について事前学習内容を明確に提示して、術後の早い看護展開についていけるように学習を促した。また、術後の患者状態の理解を促すために、患者状態の説明をかみ砕いて行った。また、術後の変化やケアについて説明し、教員も一緒に観察やケアに入るようにして学生の理解力、看護技術の習熟度の把握に努めた。</p> <p>看護過程についての理解が進んでいない場合が多かったため、看護過程の各セクションの書き方や視点などについて学生の進行に合わせて説明を行った</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	一般会員	2010年7月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称 (学会発表)	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
国家試験対策担当（2018. 4. 1～現在に至る） 1年次アドバイザー(2019. 4.1～現在に至る) 研究推進委員(2019. 4.1～現在に至る)

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	石井 美紀代	職名	准教授	学位	修士 (看護学) 大分医科大学 2001 年
----	--------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅ケア、訪問看護

研 究 課 題
医療・介護の一体化改革によって、医療機関の受け皿を在宅医療・在宅看護に期待されている。また、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおいて看護職に求められるニーズおよび協働・連携について研究する。

担 当 授 業 科 目
社会保障概説 (看護学科 1 年 後期) 保健医療福祉行政論 (看護学科 2 年 再履修者) 家族と健康 (看護学科 2 年 前期) 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ (看護学科 2 年 後期) 看護研究の基礎 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学演習 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学実習 (看護学科 3 年後期・4 年前期) 看護総合演習 (看護学科 4 年 通年) 看護総合実習 (看護学科 4 年 通年) 看護学 (栄養学科 3 年 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【社会保障概説】</p> <p>講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の 4 本柱を、社会福祉士の外部講師と分担して実施した。1 年生後期の科目であるため、はじめに、看護職がなぜ社会保障を学習するのか？を説明した。</p> <p>各制度を解説していくと、「わからない」を連発する学生が多く、すぐに学習するのをあきらめてしまう。そのため、簡単な事例をあげて学生に問い、生活上の身近なものとして感じてもらう工夫をした。また、練習問題をつくり、講義内で繰り返し解説した。</p> <p>この科目は、覚えることが基本であるため、必ず、自分でまとめるように、テストは自分で作成した資料を持ち込み可とした。最初は、漠然と「難しい」「わからない」と言っていたが、資料作成を始めたころから、講義後に残って質問しに来る学生が増えたことから、有効な方法であったと考える。</p>
<p>授業科目名【家族と健康】</p> <p>新カリキュラムで創設された科目である。家族看護学を基盤に、社会学や心理学で「家族」をどう捉えているかを解説した。学生は、家族も看護の援助対象であることを認識しているが、どう援助していくかを考える最初の科目であることから、小児の例、生活習慣病の例、高齢者介護の例、をそれぞれ違う理論やモデルを使って事例検討していった。それにより、年の離れた兄弟姉妹の事、祖父母の介護に家族で取り組んでいる事、医療職・介護職の親から聞いている事、などと結び付けて考える学生も多くなった。</p> <p>一方、学生の中には、複雑な家族関係や家族への負の感情を持っている場合がある。そのため、なるべく学生のプライバシーに触れず、「家族」を客観的に見られるような題材、資料、演習を行った。また、授業期間内に気になる学生は、学生総合支援室のカウンセラー、キャンパス・ソーシャルワーカーに相談しながら進めていった。</p>

授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ】

本授業は、保健師課程の必修、看護師課程の選択授業であるが、保健師選抜が2年後期終了後であることから、受講生は保健師を目指す者と選択科目の単位をとるために受講した者があった。そのため、病院での看護とは違う「公衆衛生の視点」を身につけることを目標として、教科書とオリジナルの授業プリントで特徴を解説した。さらに、保健師ジャーナルから公衆衛生分野で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは専門雑誌のため、学生が読み解くのは難しい。読み解くポイントや活動の企画・運営から評価に至るプロセスを解説して読ませると、学生は、専門雑誌の記事であっても取り組んでくれた。

授業科目名【看護研究の基礎】

教員5名がオムニバスで実施した。半分を講義、半分をグループワークで構成し、研究計画書の作成から簡単な調査研究もしくはインタビューを実施し、それらを整理して抄録を作成、発表する一連の作業を体験させた。講義が半分、グループワークが半分で進めた。3年前期は、各看護学の演習科目が重なる時期であり、どの科目もグループワークが多い。この科目は学生の優先順位では低いことから、積極的な取り組みになりにくかった。指導者として「このテーマでは研究にならない」「目的と方法が一致できていない」ことを気づかせようとするが、学生にそのことを理解させるのが難しく、修正を面倒がるため、指導に苦慮した。

授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】

学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。最初の授業で、在宅ケアが必要とされる社会背景を解説し、「継続療養が必要な人のQOLの視点で考える」をテーマに、制度、家族、医療ケア児についての調べ学習をした。その後、医療や介護を社会のありようにつなげて講義していく内容につなげて考えてもらいたかったが、意図が伝わらない学生もあった。看護過程の演習にあたっては、最初に知識確認の口頭試問を実施した。これは、目的を明確にしたことで積極的に取り組み、好成績であった。看護過程ではアセスメントを重視したが、リスクや観察事項は計画に記載できても、実際に問題があった場合の対処まで考えさせることができなかつたことから、他の科目と連動しながら在宅看護の特性を学ばせる工夫の必要性を感じた。

授業科目名【在宅看護学実習】

在宅看護実習は、学生と看護師が1対1で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、指導看護師と事前に実習目標や進め方の打ち合わせを重視した。また、学生にとって、1対1の同行訪問がストレスフルであり、気後れして看護師と会話も質問も出来ないことが多い。指導看護師にこのことを理解してもらい、場づくりを重視した。

訪問看護は、1人の看護師が1日4~6件訪問をするが、学生は複数の患者を同時に考えることができないため、実習では同伴訪問1日1~3件に絞って考えさせた。さらに、教員が学生の思考を方向づけながらすすめた。

一方で、直接学生の指導をするのは、助手と臨床系非常勤助手であるため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や助手の自己研鑽の機会につながった。

授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

本授業は、卒業研究に代わるものである。そのため、これまでの臨床実習から学生自らテーマを選択し、文献検索から実習での介入計画を立案し、論文としてまとめさせた。

看護総合演習では、段取りする力、資料化する力、わかりやすい発表の工夫につながることを期待し、前半は毎週1回、テーマに沿った内容を調べ、プレゼンテーションをさせて行った。研究計画書の段階からは個人ワークとしたが、個人の力量と取り組み意欲の差によって、作業進行の速度に差があった。できるだけ主体性に任せたかったが、期限を細かく区切って、教員から学生に連絡をとり個別指導していくしかなく、総仕上げの科目として不安が残った。

授業科目名【看護学(栄養学科)】

受講者3名に対し、在宅看護学、公衆衛生看護学を担当した。それぞれの特性と簡単な事例を解説し、その後はディスカッションをしていったが、学生は意欲的な学びをしてくれた。

事例は、必ず栄養指導が必要な状況をつくり、看護師と栄養士がどう役割分担し、どう連携していくか、を念頭に置いて投げかけた。また、栄養指導でも使える、看護学で使う理論や行動科学のモデルを紹介し、事例の状況を学問的に捉えることを心がけた。在宅看護学、公衆衛生看護学は、統合科目であることから、期間の最後に講義したことが理解しやすかつたのではないかと感じた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～ (現在に至る)
日本地域看護学会		1997年10月～ (現在に至る)
日本看護学教育学会		1998年4月～ (現在に至る)
日本公衆衛生学会		1998年4月～ (現在に至る)
日本老年社会科学会		1999年4月～ (現在に至る)
日本学校保健学会		1999年4月～ (現在に至る)
日本老年看護学会		1999年8月～ (現在に至る)
日本看護研究学会		2001年11月～ (現在に至る)
日本在宅ケア学会		2004年8月～ (現在に至る)

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 慢性疾患をもつ高齢者の退院調整にかかわる職種が感じる困難感	共著	2020.3	西南女学院大学紀要 Vol.24	① 退院調整にかかわる3職種(病院の退院調整専門職、介護支援専門員、訪問看護師)を対象に、慢性疾患をもつ高齢者が病院から在宅に退院する場合の調整にある困難感について聞き取り調査をした。その困難感と背景にあるものをまとめた。 ② 共著者：水原美地、石井美紀代、鹿毛美香 ③ (p35～p45)
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2021年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

[大学委員会] 図書委員 [学科役割] 国家試験対策担当 カリキュラム検討（オブザーバー）

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 一期 崎 直 美	職名 講 師	学位 修士 (教育学) (熊本大学 2010 年)
-------------	--------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
養護教育	養護教諭、専門職、ケア

研 究 課 題
養護教諭による子どもへのケアを社会的に研究している。養護教諭の仕事に関する教育学の研究を検討し問題の所在を定め、次に専門職に関する社会学を検討し、理論枠組みを構築している。今年度は、養護教諭を対象とした社会調査を実施した。

担 当 授 業 科 目
対象別公衆衛生看護活動論 I (前期) 看護学科
学校保健 (後期) 看護学科
養護概説 (後期) 看護学科
健康相談活動 (前期) 看護学科
学校保健教育法 (後期) 看護学科
事前及び事後の指導 (4 年生対象) (前期・後期) 看護学科
事前及び事後の指導 (3 年生対象) (後期) 看護学科
養護実習 (前・後期) 看護学科
教育実習 I (前・後期) 看護学科
教職実践演習〈養護教諭〉 (後期) 看護学科
教職実践演習〈中・高等学校〉 (後期) 看護学科
看護総合演習 (前・後期) 看護学科
看護総合実習 (前・後期) 看護学科

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論 I】</p> <p>① この科目は、看護学科公衆衛生看護関係科目の選択科目になる。公衆衛生看護活動の一つである学校保健の概要について、学生は、4 コマ学ぶ。学校保健は、これまでの学校生活で理解できる点もあるため、これまでの経験と結び付くよう説明した。</p> <p>② 学校保健と関係する特別支援教育の理解が深まるよう、発達障害の事例を用いた演習を取り入れた。</p> <p>③ 保健教育は、現在、児童性が主体的に考える方向に変ってきている。そのため、実際に参加型健康教育の演習を実施した。</p> <p>④ 学生が養護教諭の役割を担い、グループで保健教育を実施する演習を取り入れた。</p>
<p>授業科目名【学校保健】</p> <p>① 学校保健は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学生の主体的な学習を促すために、授業における事前学習課題などをポートフォリオするよう指導した。</p> <p>② 講義内容に関する事前学習について学びを深化させるために、討論したり発表したりする機会を設定した。</p> <p>③ 学校保健でよく利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について紹介し、実際に必要な資料は学生がダウンロードし、授業中に活用するようにした。</p> <p>④ 学校保健における健康課題を理解するために、図書館の雑誌を紹介し、学生が発表するよう指導した。</p>

授業科目名【養護概説】

- ① 養護概説は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学校保健活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な知識・技術を学ぶ。そのため学校保健の内容と連動するように構成した。
- ② 学生の主体的な学習を促すために、授業の事前学習課題をポートフォリオするようにした。
- ③ 授業中に事前学習について学生に発表の機会を設け、養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について解説した。
- ④ 養護教諭が学校で行う主な仕事について演習（健康診断の検査・児童生徒への保健指導・救急処置・環境衛生検査・保健だより作成）を取り入れた。
- ⑤ 救急処置・保健指導などのロールプレイは、学生が養護教諭と児童生徒役を相互に担うように設定し、振り返りには、自己および他者評価を取り入れた。
- ⑥ 実際の養護教諭が行う保健活動に関する調べ学習は、本学図書館で現在利用でき、養護教諭がよく活用する雑誌を用いるようにした。

授業科目名【健康相談活動】

- ① 養護教諭は、児童生徒に対して身体面だけでなく全人的な支援が求められている。その精神的な支援の基礎となる健康相談の知識・技術について学ぶ。健康相談を行う学生自身が、心の健康を保つことが重要となる。そのため、学生自身が自己理解を深めるような演習を取り入れた。
- ② 養護教諭の健康相談に必要とされる心理学領域の基礎理論を学習し、演習で理解を深めた。
- ③ 養護教諭の職務の特質および保健室の機能を活かした健康相談の基礎・基本を身につけるために、演習では、事例を活用した。
- ④ 学校における課題を抱える子ども（虐待、不登校など）への理解を深めるだけでなく、そのような子どもたちへの対応について、学生同士で討論させ理解を深めさせた。
- ⑤ 保健室来室者への対応場面の演習では、ロールプレイを取り入れ、その後、各自の対応を学生同士で振り返るような演習を実施した。

授業科目名【学校保健教育法】

- ① 学校保健教育法は、教職課程における養護教諭一種免許状取得希望学生を対象とした必修科目である。学校で養護教諭として保健教育が担えることを目指し実施するようにしている。
- ② 学校での保健教育は、学習指導要領に基づき実施されるため、その知識を踏まえながら進めた。
- ③ 養護教諭が主に担う保健教育（歯の健康づくり、性に関する教育、環境教育、安全教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育）について事前学習するように指導している。可能な内容は、演習内容と連動するよう授業を構成した。
- ④ 各学生が実施した模擬授業について、学生自身が実践を振り返ることができるよう他者評価やビデオ等を活用した。
- ⑤ 情報活用能力を児童生徒に育成するため、学校保健教育で役立つホームページなどを学生に紹介した。
- ⑥ 授業時間外でも、学習指導案や教材の作成などについて、学生への個別支援を行った。

授業科目名【事前及び事後の指導】4年生対象（前・後期）

- ① 教職課程の実習は、4年次にはじめて学生が体験することになる。その実習に関わる事前事後指導の科目である。3年後期の看護学科領域実習後より開始される。4年生の実習時期を考慮し、授業を実施している。
- ② 実習校で体験する実習内容（授業や参加行事）について、可能な限り学生に情報を収集させ、その内容を取り入れようとした。
- ③ 学生は、実習で初めて児童生徒へ授業を行うため、学生の指導計画作成や教材づくりは、授業時間外でも支援した。
- ④ 学生が行う模擬授業の評価は、学生および教員からの他者評価を取り入れ、実習校で授業改善できるようにした。
- ⑤ 実習後に学生同士が実習校での学びを共有することを目的に、実習発表会を実施した。
- ⑥ 実習発表会は、学生が主体的な取り組みとなるよう、発表会の進行は学生が担うようにした。
- ⑦ 次年度実習予定の3年生が参加できるよう発表会の時間設定を工夫し、他学年との連携を図った。

授業科目名【事前及び事後の指導】3年生

- ① 教職課程の実習は、4年次にはじめて学生が体験することになる。その実習に関わる事前事後指導の科目である。3年後期の看護学科領域実習後より開始される。4年生の実習時期を考慮し、授業を実施している。
- ② 学生の実習時期は、実習に行く学校との相談でそれぞれ異なるが、感染症が流行したため面談などは、遠隔指導を含めて対応した。実施できていない内容は、4年次に教職課程の担当者と相談しながら検討していく。

授業科目名【教育実習Ⅰ】

- ① 教育実習は、高等学校教諭一種免許状（看護）の取得のために行う。高等学校における看護教員としての仕事を体験する2週間の実習である。学校で実際に生徒に関り、現職の看護教員の授業を参観したりや担任の役割についても学ぶ。学生は、グループではなく単独で実習するのは初めてのため、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生自身が目標に到達できるよう、事前に面談した。
- ② 各自が実習の際に実践する授業内容について、自主的に実習校と連絡をとって準備をすすめるように指導した。

授業科目名【養護実習】

- ① 養護実習は、養護教諭一種免許状取得のためには必修科目である。学校で実際に児童生徒と関わり、養護教諭としての仕事を体験する3週間の実習である。学生は、グループではなく単独で実習するのは初めてのため、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生自身が目標に到達できるよう、事前に面談した。また、次年度、学生自身が一人で養護教諭として働くことを目指し、積極的に実習するよう指導している。
- ② 各自が実践する学校保健行事などが実施できるよう、自主的に実習校と連絡をとって準備をすすめるようにした。

授業科目名【教職実践演習】（養護教諭）

- ① 教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるように機会が設定されている。
- ② 教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の状況を把握した。主に看護学科の養護教諭 志望学生の講義を担った。
- ③ 他学科の学生と発表や討論を行う講義を企画した。
 - ・福祉学科養護教諭志望学生とグループを組み、性に関する保健指導を学生が実施するよう企画した。
 - ・栄養学科栄養教諭志望学生と看護学科養護教諭志望学生で、相互の職務について発表したり討論したりするよう講義を企画した。
- ④ 特別支援学校における養護教諭の職務や子どもたちの実態を学ぶために、特別支援学校へ参観できるよう機会を設定した。
- ⑤ 北九州市学校保健研修会に参加し、表彰校の学校保健活動実践を学ぶ機会を設けた。

授業科目名【教職実践演習】（中・高等学校教諭）

- ① 教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるように機会が設定されている。
- ② 教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の状況を把握した。中・高等学校教諭の講義は、主に学生の模擬授業の際に参加した。

授業科目名【看護総合実習】

- ① 看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、主体的に計画から展開していくことが重要になる。学生が、実習だけでなく事前事後に実習指導者と連絡を取りながら進めるように指導した。
- ② 学校保健の領域は、養護教諭の職務を体験し、担任などの他職種と連携しながら、学級で保健指導（授業）を実践させていただく。実施させていただく保健指導の準備を看護総合演習で支援し準備した。
- ③ 実習中、学生が学級で保健指導（授業）を実践する際は、可能なかぎり参観し、保健指導の内容を改善していくよう、実習指導者と連携して指導した。

授業科目名【看護総合演習】

- ① 看護総合演習は、看護学科専門の必修科目である。各個人で看護実践における自己の課題を探求し、看護総合実習に向けて計画を立案し、実習終了後テーマに基づきレポートを作成していく。講義・演習だけでなく個別指導を含めて支援した。
- ② レポート作成は、3年次の講義「看護研究」での既習事項を振り返りながら進めた。
- ③ 量的研究の統計処理は、パソコン室を利用して、模擬的なデータで統計処理を実際に演習した。
- ④ 看護の専門性をいかした実習校での保健指導が実践できるよう、指導計画や模擬授業を支援した。実習後のレポート発表会では、各自が抄録を作成し、他の人のレポートについて討論するようにした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本学校保健学会		2008年～現在に至る
日本養護教諭教育学会		2008年～現在に至る
日本健康相談活動学会		2008年～現在に至る
日本教育保健学会		2013年～現在に至る
日本看護協会		2015年～現在に至る
日本看護学教育学会		2016年～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 学校保健 (よくわかる!教職エクササイズ8)	共	2019年5月	ミネルヴァ書房	① 「よくわかる!教職エクササイズ」は教職の教科書として編集されている。アクティブラーニングに着目し、討議場面を設定するなど工夫された教科書である。担当した分野は、学校保健における保健管理の中心的な活動の健康診断、もう一つは、子どもの心の健康問題に対応するための健康相談である。保健管理的な側面だけでなく教育的な活動として重視して構成した。 ②監修者 森田健宏, 田爪宏二 編著 柳園順子 共著 一期崎直美 他11名 ③担当分野 第6講 健康観察・保健調査・健康診断 (P70-P80) 第7講 健康相談 (P84-P93) 総頁数 P240 ④B5版

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 2.看護学科における初年次教育の取り組み		2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	① 2018年度より大学全学科的にスタートした初年次教育の看護学科における教育プログラム〈スタディスキルズの基本を学ぶ・看護専門職としてのキャリア支援〉を検討した。結果、学生の到達度自己評価からみると、90%以上の学生が目標を達成していた。 ② 共著者名 高橋甲枝・目野郁子・新谷恭明・前田由紀子・一期崎直美 笹月桃子・溝部昌子・吉原悦子・財津倫子・中原智美 ③ P11-P21
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績 総数 (2020年3月31日現在) 著書 (内訳 単0, 共1) 学術論文 (内訳 単1, 共4) 翻訳 (内訳 単0, 共0) 学会発表 (内訳 単3, 共3)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
教職課程委員会委員	2019年4月1日～2020年3月31日
FD委員	2019年4月1日～2020年3月31日
看護学科1年・4年アドバイザー	2019年4月1日～2020年3月31日
教員免許更新講習コーディネーター	2019年4月1日～2020年3月31日

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 井手 裕子	職名 助教	学位 修士(看護学) (大分大学 2006年)
----------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学 看護教育

研究課題
成人慢性期看護学の教育活動に関して、学生が慢性期にある患者および家族の特徴とその看護を理解するために、学内での演習とそれに連動する臨地実習での指導の在り方について考察する。また、学生に実習で受け持たれた慢性疾患患者と学生との人間関係構築に影響する因子について、受け持ち患者の立場からの調査をして、今後の実習指導の示唆を得る。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅰ(後期) ・基礎看護学実習Ⅱ(前期) ・成人・老年看護学演習(前期) ・成人慢性期看護学実習(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅰ <p>担当した病棟は各論実習で担当している病棟であり、通常からも指導者との連携が取れていたもので、病棟師長や臨床指導者と本学の基礎実習Ⅰのねらいについての共有を図りやすかった。学生にとっては、初めて自分の患者を受け持ち、看護職という専門職の立場で患者とのコミュニケーションをとることになる。慣れない病棟という環境への不安や緊張もある中で、実習の目的達成へ向けて、学生の個別性に応じた指導へつながるよう、学生への声かけなどを通して実習の進捗状況などを把握するように努めた。また日々指導者とも個々の学生の達成度を確認しながら翌日への指導の方向性についての確認を行った。</p> ・基礎看護学実習Ⅱ <p>実習導入時において、個々の学生に対し1年次で履修済みの基礎実習Ⅰでの課題と、それらを達成するためにはどのような実践がもとめられるかを確認し実習に臨ませた。また初めて看護過程の展開を実施する実習であり、看護者として患者を観察すること、療養生活上の看護上の問題点(気がかり)を解決するための看護実践について、基本的知識や技術の定着化を基盤におきながら個別的な援助への工夫にも、目を向けられるよう指導した。</p> <p>基礎実習といえども、実際の臨床の場面では患者の病状によっては、各論レベルの看護を求められる場合もあるが、そのような場合は学生の学習状況に応じて臨床指導者と連携を図りながら、3年次の学習へつながるように支援を行った。</p> <p>インシデント事象が発生した場面があり、インシデントレポートの指導を要する学生がいた。初めてこのようなレポートを作成するにあたり、決して「罰としての報告書」ではなく看護職としての倫理に基づき次回への医療事故発生予防の目的であることに視点を置いて指導した。</p>

授業科目名【成人・老年看護学演習】

・紙上患者における看護過程展開において、患者の情報から専門的な知識を用いて科学的に分析するという基本的な指導は勿論のことであるが、各学年ごとの学びは連動していることを意識づけるためにも、2年次の看護過程論での学びも想起させた。情報を分析する段階では、急性期および慢性期という健康レベルにおける看護の特徴をいかに伝えられるかを念頭におきながら指導を行った。看護の方向性を考える際には、急性期の特徴である術後患者の合併症の予防と早期の回復を目指す視点と、慢性期の特徴である疾患と共に共存しながらQOLを維持する視点を比較しながら口頭で説明した。4年生の各論実習で参加できない時もあったが、同じグループの担当教員と適宜調整を図りながら指導に当たった。

・技術演習

血糖測定・インスリン自己注射の技術では、看護技術の正確な習得のみならず、看護者として慢性疾患患者の自己管理へむけての指導をいかに実施していくかについて、実際の臨床での様子などを口頭で説明しイメージさせた。

糖尿病食事指導の演習においては、昨年導入したロールプレイによる演習を今年度も実施した。1回の演習であるため、十分にアセスメントしたうえでの指導は実践できないが、後期での実習へ向けての学びにつなげることができた。また演習内容のワークシートでは、前年度の修正を行い、本演習での目的わかりやすい表現になるように工夫した。

術直後の援助の演習においては、学生はパターン化された看護を実践する傾向にあるため、実際の臨床で遭遇しそうな場面などを話し、単に身体的な援助にとどまらず、精神面での看護の必要性も口頭で指導した。

授業科目名【成人慢性期看護学実習】

・上記の演習において慢性期の看護の特徴をいかに理解させるかということに重要視し、昨年度に引き続き実習事前学習において、糖尿病患者の闘病記を読んで学生個々がとらえた患者および家族の特性やその看護についてレポート提出を求めた。今年度はレポート作成時のキーワードを指定せずに学生に考えさせたが、視点から外れている学生も多く次年度は再検討する必要がある。

・療養生活が長期にわたり、尚且つはっきりしない病態へのもどかしさを抱える慢性期疾患患者および家族の精神的苦悩に少しでも共感できるよう、学生と共にベッドサイドへ行き、タッチングなどの技術を通して患者との援助的人間関係を成立させるよう工夫した。

・今年度初めて実習を行う病棟があったため、臨床指導者や病棟師長に実習の目標や当大学の学生の傾向などを伝えながら、指導の調整に視点を置いた。

・病棟のみの実習では、継続看護についてイメージできないことも多いので、学生を患者会や外来などへも積極的に参加できるように指導者との調整を密に行った。

・病棟での学生への指導のばらつきが生じないように、実習指導者との調整を密に行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
聖路加看護学会		1996年 4月
日本看護研究学会		1996年 6月
日本看護学教育学会		1998年 4月
日本看護診断学会		1998年 6月
日本糖尿病教育・看護学会		2003年 8月
日本看護科学学会		2008年 10月
日本慢性期看護学会		2017年 7月

2019 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
<p><3年生アドバイザー></p> <p>① 個別面接の実施</p> <p>年度初めに担当する 28 名の学生の個別面接を実施した。面接では、2 年次までの学習における課題や後期から始まる長期にわたる各論実習への目標などを学生と共に確認し、前期で見直す内容について方向性を見出せるよう指導した。また、必要時個々の学生に応じて問題解決に向けて適宜面接を実施した。</p>

② 保護者会の企画・実施

本年度も昨年に引き続き、2年生と合同の保護者会を実施した。就職に関しては、就職情報専門業者および就職課からの話題提供の機会を設けた。終了後のアンケート結果では、保護者会のプログラムに対し9割以上の保護者が「適当」と回答し、関心の高さが伺えた。また個人面談を希望した保護者からは、各論実習への取り組み方や就職活動に対する相談があり、保護者の不安を傾聴しながら個々の学生への個別性のある指導の方向性について説明をした。

③ 学習支援（模擬試験実施を含む）

年度初めの個別面接の折に、ポートフォリオの作成を促し後期から開始される実習での自己学習を綴じるなど、4年次の国家試験の学習へつながるように指導した。また、各領域での夏季休暇中の課題について、それらの学習計画を整理し長期にわたる実習期間において効果的な学習がすすむように、「領域別実習事前計画書」を作成し、学生に記入させた。

8月の前期定期試験終了後に、各論実習開始前の基礎学力を確認するために業者模擬試験を実施した。

年度末の12月に学生に対して、模試の結果についての講評と実習前半の振り返りを行った。

④ 就職活動指導

新型コロナウイルス感染症の国内発生に伴い、2021年卒業予定者に対する各医療機関の就職試験やインターンシップなどの開催時期が例年より早まったため、3年次の3月から指導を要することとなった。前例のない事態に対する学生らの不安に対して心理的なケアを行いながら、履歴書作成の指導や、推薦書の作成を行った。

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	伊藤直子	職名	教授	学位	学士(社会学)(佛教大学 1996年)
----	------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学 地域看護	公衆衛生看護 介護保険 地域包括ケア

研究課題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担当授業科目
公衆衛生看護学概論(後期)必修 15/15 コマ 疫学(前期)選択 15/15 公衆衛生看護管理演習(後期)選択 15/15 公衆衛生看護学実習(通年)選択 看護総合演習(通年) 15/15 看護総合実習(通年) 地域母子保健(前期)(助産別科) 8/15

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】</p> <p>「公衆衛生看護学概論」では、2018年度より1年生後期科目となった。初年次の学生に地域で看護を実践する視点の基盤を養成するための授業内容に一部変更した。受講動機は必修であるためから授業後に公衆衛生看護学への興味が増えた学生の変化が見られた。今後も毎時の授業コメントから学生の理解状況を判断し、次の授業で補足及び修正を図っていきながら、学生とのコミュニケーションに努めていきたい。</p>
<p>授業科目名【 疫学 】</p> <p>「疫学」では、選択の科目である。演習のため、保健師課程の学生は必修科目となっている。昨年度の疫学演習受講者34名から66名と大幅に増加した。</p> <p>授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。</p> <p>今年度も授業展開は、教材事例の検討を毎年度実施し、新人保健師が遭遇する事例を精選し、思考判断の醸成に努めた。保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫を行なっている。保健統計に苦手意識を持っている学生も理解できるよう、授業時間外においても希望する学生には個別に対応している。</p>
<p>授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】</p> <p>「公衆衛生看護学実習」は、実習期間が5週間と長いので、学生の学習意欲が持続できるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行った。また、実習指導者および施設と教員間の共有も有効に機能し、学生の教育支援が効果的に運営された。従来と同様に、学生個々の学修状況の違いに即応した実習対応が実施され、全員の学生が到達レベルに達成することができた。</p> <p>また、今年度も実習の成果指標である、保健師国家試験結果は、全員合格したことにより、概ね保健師選択学生の学修成果は評価できる。</p>

授業科目名【 看護総合演習 】【 看護総合実習 】

「看護総合演習」「看護総合実習」は4年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域である産業保健における保健師活動について、演習・実習を行い、就労者およびその家族における健康管理の現状および課題について、議論を進めていった。加えて、2018年度から行政機関の2か所から協力を得ることができ、行政保健師就職希望学生がさらに行政の課題解決に向けた実習を看護総合実習で展開することができた。今年度も受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

看護総合実習で実習した行政機関へ実習した学生が就職することができたことも本科目の大きな成果となった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 (1996年4月～1997年3月) 訪問看護委員会委員長 (1997年4月～1998年3月) 介護支援専門員支援委員会委員長 (1997年4月～2004年3月) 認定看護管理者研修委員会委員 (2001年4月～2006年3月) 介護保険関連委員会委員長 (2004年4月～2006年3月) 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録選考委員 (2014年3月～2014年9月) 消費税対応検討委員会委員長 (2015年11月～2016年7月)	1977年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979年4月～現在に至る
日本地域看護学会		1999年4月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000年9月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002年4月～現在に至る
日本病院管理学会		2002年9月～現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003年8月～現在に至る
日本看護教育学会		2003年2月～現在に至る
日本健康教育学会		2005年6月～現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2008年4月～現在に至る
日本臨床救急医学会		2011年8月～2016年3月

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 九州・沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識とその活動の現状 第一報—公益社団法人日本産業衛生学会会員に対する調査—	共著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol. 24, 23-33	①本研究は、産業看護職研修システムの構築に向けて自己研鑽意識とその活動の現状を明らかにすることを目的とした。日本産業衛生学会九州地方会会員に対し無記名自記式郵送法による質問紙調査を実施した。産業看護職の自己研鑽を妨げている要因として、雇用形態、一人職場、上司が事務職、体系的教育体制の未整備があると考えられた。 ②鹿毛美香・伊藤直子
(その他)				
(学会発表) 九州沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識と活動現状—2015・2019年調査を踏まえて—	共同	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会(高知市)	①本研究は、産業看護職の保健活動の質向上への支援システムの構築を目指し、その基礎調査として九州沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識と活動現状を明らかにすることを目的とした。産業看護職は、自身が直面している問題を解決したいという思いから、学会以外の研修等にて自己研鑽を積んでいると同時にワークライフバランスの観点から研修機会をうまく活用できない現状が見受けられた。2015年から研究方法や統計解析などへの要望が増えたのは、産業保健看護専門化制度が始まったことが影響しているのではないかと考えられる。 ②鹿毛美香・伊藤直子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
九州における産業看護職が担う保健活動の質向上のための支援の在り方	西南女学院大学 保健福祉学部附 属研究所	○鹿毛美香 伊藤直子 (住徳松子) (日笠理恵)	126,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007年7月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012年4月～現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012年6月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013年7月～2018年7月
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005年4月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013年4月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進にかかわる意見交換会	構成員	2014年2月～現在に至る
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013年4月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015年4月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016年7月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017年12月～2018年2月24日
行橋市地域保健計画推進委員会	委員	2018年2月25日～現在に至る
北九州市健康づくり活動表彰選考	審査員	2018年10月1日～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学校法人西南女学院 評議員 2005年4月～現在に至る

西南女学院大学 教務部長 2013年4月～現在に至る

- ・教務委員会 委員長
- ・教務人間科学小委員会 委員
- ・教職課程委員会 委員
- ・教員免許状更新講習会 委員
- ・大学点検評価改善会議FD部門 部門長
- ・教育の質保証プロジェクト会議 代表
- ・教学マネジメント検討会 構成員
- ・3部門会議(教務部・学生部・入試部) 構成員
- ・教学IR推進室 構成員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	大嶋 満須美	職名	教授	学位	修士 (健康福祉学) 山口県立大学
----	--------	----	----	----	-------------------

研究分野	研究内容のキーワード
慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 組織、人材育成

研究課題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護

担当授業科目
成人看護学概論 (前期) 成人・老年看護学演習 (前期) 緩和・終末期看護 (前期) 保健福祉学入門 (前期) 成人慢性期看護方法論 (後期) 成人慢性期看護学実習 (通年) 看護総合実習 (通年) 看護総合演習 (通年) 看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人看護学概論 】</p> <p>ライフサイクルの中で成人期の位置づけを明確化し、看護の対象を地域社会で暮らす生活者として健康の側面から理解できるように統計資料を用いて教授した。また、学生の成長発達と関連づけながら授業をすすめた。学生の主体性や共同学習の観点からグループワークや発表を交え授業を構成した。毎回、学生の気づきや感想に対して、内容のフィードバックに努めた。</p>
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護 】</p> <p>がん医療の進歩は飛躍的なものがあり、患者の治療や環境については最適とする個別化医療も進んでいる。そして、それに伴い看護者の役割拡大も求められている。「がん」の罹患による健康障害や、患者・家族が治療過程をどのように歩んでいるのか、また「緩和」を対象とする考え方の広がりや終末期のありようについて教授した。「がん」や「緩和」は、看護者の健康観や人間観そして死と向き合うことの「死生観」を育むと重要な機会として捉え、人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者がかかわることの意義について教授した。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】</p> <p>既習の知識や、基礎看護学実習、成人看護学概論を基盤に、系統別看護として健康障害とアセスメントの視点について解説し、形態機能や疾患の理解に結び付けながら、対象への看護について教授した。学生の既習の知識が看護実践に応用できるよう、毎回学生の反応を確認し次回に繋げた。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>成人・老年看護学の臨地実習に向けた学内演習として看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による課題演習と基本とする看護技術が安全にできるように 30 コマを展開した。学生の進行状況を確認しながら解説を行い、グループワークと個人ワークを組み合わせ、個別にも配慮し領域全員で関わった。演習終了後、教員間で、進捗状況や方向性について情報共有を行い確認をするとともに、課題や到達度について協議した。</p>

<p>授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】</p> <p>学生の受け持ち事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら担当教員と指導した。指導においては臨床指導者との連携を図り、アセスメントの視点を重要視し看護過程の展開が出来ること目標とした。また慢性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても機会をとらえ伝えた。学びの共有と場としてカンファレンスへの参加を通じ看護実践について助言を行った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。また、そのことを教員間で確認した。</p>		
<p>授業科目名【 看護総合実習： 成人慢性期・終末期 】</p> <p>看護職への将来展望を視野に入れ、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図し、臨地の指導者と学生が直接調整を図り、学生の課題達成を支援し、調整を行いながら実習展開を行った。実習計画の段階では学生自身のテーマと実習展開の具体的方法の決定に時間をかけ、自らが取り組む実習内容の確認を行った。また、社会に出る前の学生として複数の事例を体験し時間管理や多職種による連携、看護管理についても組み入れた。</p>		
<p>授業科目名【 看護総合演習 】</p> <p>看護総合実習前後の演習として位置づけられ、学生が取り組もうとしている課題に向き合い、関心のあるテーマや自己の課題について文献検索を踏まえ、主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生の言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、学生とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。看護に対する洞察は学生自身の専門職としての自立の一步として捉え、新たな視点について学びを共有するためグループメンバーによる学びの機会を設けた。</p>		
<p>授業科目名【 保健福祉学入門 】</p> <p>履修学生は学部3学科(看護・福祉・栄養)の1年生である。入門編として保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題への認識を深め、自己の専門性との関連を学修できるよう各学科で協議し、構成されている。合同講義を通じ、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることができること、また毎回ミニレポートの提出を行い、「他職種」と自身の専門性における課題の明確化を図った。</p>		
<p>授業科目名【 看護研究演習 】</p> <p>既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。本年度ゼミには選択履修者はいなかった。</p>		
<p>学 会 に お け る 活 動</p>		
<p>所属学会等の名称</p>	<p>役職名等 (任期)</p>	<p>加入時期</p>
<p>日本看護協会</p> <p>日本家族看護学会</p>		<p>1975年～ 現在</p> <p>1997年～ 現在</p>

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～ 現在
山口県立大学	非常勤講師	2014年4月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科 学科長 (2018年4月～ 現在) 運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員 学科会議議長 学科運営・人事にかかわること ・看護キャリア支援センター長 (2018年4月～ 現在) 認定看護管理者教育課程 講師 ファーストレベル講師 (2019年6月29日) 認定教育課程検討委員長 (2018年4月～現在) 認定教育課程運営委員長 (2018年4月～現在) ・高大連携講座 (2019年11月12日) 講師 	

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 小田日出子	職名 教授	学位 修士(法律学)(九州国際大学 1998年)
----------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学, 基礎看護技術 社会人基礎力の育成・向上	看護技術教育, シミュレーション 社会人基礎力, 主体的学習

研究課題
看護技術教育に関する研究(シミュレーション教育) 大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

担当授業科目
看護技術論(→早期看護実習のみ)(1年前期) 生活援助技術論演習(1年後期) フィジカルアセスメント技術演習(1年後期) 診療関連技術論(→統合技術試験(実技)の試験監督及び評価)(2年前期) 看護過程論(2年前期) 看護キャリア形成論(2年前期) 基礎看護学実習Ⅰ(1年後期), 基礎看護学実習Ⅱ(2年前期) 看護総合演習(4年前期・後期) 看護総合実習(4年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護技術論(→主に早期看護実習の企画・実施・振り返りを担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年前期「看護技術論」の履修者は、2019年度入学生93名であった。主には実習の企画・運営・振り返りを担当した。 ・新1年生95名を対象に、例年どおり6月第4週の2日間、看護技術論に位置づけた早期看護実習を企画・実施した。今年度は2病院(JCHO九州病院・小倉記念病院)で見学実習を行った。 ・本実習のねらいは看護の“Early exposure”であり、病院で療養生活を送る人々を対象に看護を実践する看護師の“Shadowing”を通して、臨床看護の役割・機能、看護活動の実際を理解すること、加えて看護学生であることへの自覚を高め、今後の学習への意欲向上を図ることであった。 ・学生93名のうち、JCHO九州病院で実習に臨む10グループ53名を担当・引率した。実習前1週間、臨地実習を効果的に進めるためのチーム作りを兼ねて、メンバー間で討議する機会を設けた。実習グループ毎に課題学習に取り組み、学生の学習動機の高揚や主体的学習行動を促した。事後の学習成果発表に向けても、担当した10グループについて、基礎看護学領域の講師1名、助教1名とともに、プレゼンに向けてのきめ細かな助言と指導を行った。 ・実習後の学習成果発表では、実習施設毎に、各グループ3分の持ち時間で、パワーポイントによる発表を行った。事前の課題学習で共有した実習の目的・目標に基づいて、それぞれ各病院や病棟の特性を捉えた内容での発表であった。発表後、各々の気づきや発見を基に意見交換を行ったが、学生間の活発な意見交換や事後に提出されたレポート内容から、全体を通して、当該実習のねらいは達成できたと判断した。 ・次年度も、今年度と同様の形式・内容で「早期看護実習」を企画・実施したいと考えている。

授業科目名【 看護過程論 】

- ・2年次生104名(→途中2名が長期欠席,最終102名)を対象に,講義・グループワークを組み合わせた授業を展開した。
- ・看護学科LMS(kaname.net)を活用し,毎回の学習目標と授業内容及び授業進行を提示,授業のイメージ化を図るとともに,講義とグループ学習活動を効果的に組み合わせながら,学生の主体的学修を支援した。
- ・講義はグループワークの進捗と連動させ,ワークの学習到達目標と照らして,適時に実施した。
- ・講義には視聴覚教材(パワーポイント,VTR等)を活用した。講義資料をはじめ,使用する教材は全て事前にkaname.netにupし,授業中の資料配布は一切行わず,学生個々の責任で授業準備を整えるよう促した。
- ・グループワークへの支援は,基礎看護学分野の教員3名と助教1名の計4名で行った。基本は教員1名,一部教員1+新任助教1の2人体制をとり,学生6~7名のグループを5グループずつ担当し,各担当教員がグループのチューター役割を果たした。
- ・学習支援体制の充実を図るため,随時,教員間の情報交換を行いながら指導の標準化に努めた。
- ・グループワーク時の振り返りには,独自に作成した観点別評価シートを用い,学生自らが所属するグループの学習活動を客観視するとともに,グループとしての目標達成状況を確認できるようにした。振り返りの結果は全体共有し,他との違いを意識させることで,グループとしての学習活動の活性化を図った。
- ・例年同様,グループ間の学習成果の共有を目的として,各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレイングとして発表する機会を設けた。何れのグループも原則としての安全・安楽には留意できていた。但し,対象の個別性をふまえた援助技術の実践に至ったグループは少なかった。また,根拠に基づく援助技術の実践という点においても,全体的に,深く「考える」ことはできていなかったように思う。
- ・当該科目の達成度評価は,筆記(50%),個人学習/課題レポート(20%),グループワーク成果(10%),学習貢献度(20%)による総合評価とした。

最終評価としてのクラス平均は66.7点(最高89点,最低41点)で,昨年度72.4点(最高90点,最低51点)より6ポイント近く低かった。再試験該当者も23(4)名と多く,受験失格者も2名いた。23名中22名が再試験を受験したが,20名が合格,2名は不合格であった。最終評価は,秀0(2)名,優(20)14名,良29(51)名,可56(38)名,不可2名,受験失格1名で,102名中99名が当該科目の履修を修了,3名が次年度再履修となった。

※()内は前年度の人数。

授業科目名【 看護キャリア形成論 】

- ・2年次生104名(→途中で2名の学生が受講を放棄,最終102名)を対象に,授業は,毎回の講義とグループワーク,適時,個人ワークを加えながら,参加型学習を軸に進めた。
- ・当該科目は,2019年度看護学科カリキュラム改訂に伴い新設された科目であり,それを新たに担当することとなった。個人的には,当該科目のねらいは,2年次の学生に“キャリア形成”についての知見を付与し,看護職としての自身のこれからを考える機会とする点にあると考えている。そのため,まずは学生の①自己理解を促し,②職業理解を深めさせ,自身の③キャリア選択に係る意思決定を促す,さらに現時点での④看護キャリアプランが描けるように支援できればと考えた。
- ・当該科目の授業の質を担保するために,キャリアコンサルタント国家資格を取得した(登録番号19062372)。
- ・授業では,学生6~7名のグループを15グループ編成し,教員は全体をファシリテートした。
- ・講義には視聴覚教材(パワーポイント等)を使用。グループワークには,その都度,独自に作成したワークシートを配布し,提示した課題に沿ってワークを進めた。授業開始時に,ワークシートは各自の学習ポートフォリオに綴じること,授業終了時に学習ポートフォリオの提出を求め評価の対象とすることを伝達しておいた。
- ・看護のキャリアアップの実例として,授業3回目に本学看護学科OG3名(がん専門看護師,大学教員,海外での看護師育成支援事業)を外務講師として招聘し,パネルディスカッションを企画・実施した。学生達の興味・関心は極めて高く,積極的に質問する学生も多く見られ予想以上に盛会であった。次年度も継続したい。
- ・当該科目の達成度評価は,学習成果としての課題レポート(40%),グループワーク成果及びプレゼンテーションの実際(40%),学習貢献度(20%)による総合評価とした。

最終評価としてのクラス平均は81.0点(最高63点,最低30点),途中リタイアした学生1名を除き,殆どの学生が標準レベル以上,評価の内訳も,秀11名,優50名,良36名,可4名で,103名全員が当該科目の履修を修了した。

授業科目名【 生活援助技術論演習 】

- ・ 1 年次生 96 名(途中, 退学 2 名, 休学 1 名→最終 93 名)を対象に, 生活援助技術のうちの「清潔」単元を講義・演習合せて 10 コマ (20 時間) 担当し, DVD による看護技術の反転学習, 講義, 演習, 最後に学生によるパフォーマンスの流れで授業を展開した。
- ・ 看護の基本技術習得のための学生支援策として, 自作「看護技術手順書」に基づく看護学科 LMS (Kaname.net) への教材 (DVD 等の提示を継続し, 学生にその活用を奨励, 技術習得に向けた自主学修の強化を図った。
- ・ 授業後は, 知識の整理と蓄積を目的にポートフォリオの作成を促した。また, 一定期間を置いた後の「おさらいテスト」(1)~(5)を準備し, ケア技術のエビデンスとなる知識の定着を図った。
- ・ 「清潔」ケア技術の演習は, 昨年同様の方法で実施した。使用する物品量の多さ, 演習の場と時間確保の難しさ, 演習前日からの大掛かりな準備, 演習後の片付けなど, 例年のことながら, 準備・実施・後片付けと最も大変な演習である。加えて, 1 技術項目をクラス全員で演習すること自体が困難なため, 今年度も, 「清潔」単元で取り上げる 4 技術項目を, クラス全体での演習が可能な「寝衣交換」「洗髪」と, 2 クラスに分かれて行わざるを得ない「全身清拭」「足浴」に分けて企画・実施した。2 クラスに分かれる技術項目 (全身清拭, 足浴) については, 物品準備等に要する時間と関係者の負担軽減を図り, クラス全体の技術習得度を高めるために, 時間をおかず演習できるよう時間割上で工夫し, 当該科目と「フィジカルアセスメント技術演習」の授業時間を組み合わせて実施した。
- ・ 当該科目の実技試験については, 今年度より, その内容・方法ともに変更し, 学生 2 人でペアを組み, 協同・連携して 3 項目中 2 項目の課題に臨むこととした。生活援助技術としての技術習熟度を測る実技試験の課題としては, この数年「導尿」技術を課題としてきたが, それを(1)車椅子の移乗・移送, (2)背部清拭・寝衣交換, (3)陰部洗浄の 3 つの技術項目に変更した。理由は, これらは, 学生が実習中に①日常的に遭遇・実践する機会が多い, ②習得した看護技術として実践しやすい, 従って, 実技試験の課題とするならば, 学生が臨床で③実践可能な援助技術の習熟度を上げるのがよいと考え, 「活動・運動」「清潔」「排泄」の各単元で学ぶ生活援助技術を採用するのが妥当と判断した。学生には 1 ヶ月日以上から課題を提示し, 看護学実習室での自主練習を促した。自主練習中は助手・助教が中心となって学生への助言・指導を行ったが, 学生は毎日のように看護実習室に入り, 積極的, 主体的に課題とした技術の習得に励んでいた。実技本試験 (3 コマ, 6 時間) では, 「背部清拭・寝衣交換」を担当, 所定の「技術評価表」に則って学生の技術到達度を評価した。反復練習の成果か, 何れの学生も技術習熟度は高かった。評価終了後は全体調整会議に加わり, 評価の妥当性・公平性を担保した。試験後, それぞれが獲得した評価点を平均し, 2 人の得点とした。いずれのグループも 16/25 点 (60%) 以上を得点しており, 実技の再試験対象者はいなかった。
- ・ 筆記試験については, 担当した「清潔」単元の問題 (全体の 25%分) を作成・出題した。
- ・ 当該科目の達成度評価は, 筆記 (60%), 実技 (25%), ポートフォリオ (10%) および学習貢献度 (5%) による総合評価とした。

最終評価としてのクラス平均は 70.1±9.50 点 (最高 92 点, 最低 49 点), 追・再試験該当者 9 名に対しては, 筆記による再試験を実施したが, 追試験合格 1 名, 再試験合格 4 名, 再試験不合格 4 名の結果であった。最終評価の内訳は, 秀 1 名, 優 10 名, 良 41 名, 可 37 名, 不可 4 名で, 93 名中 89 名が当該科目の履修を修了, 4 名が次年度再履修となった。

授業科目名【 フィジカルアセスメント技術演習 】

- ・ 1 年次生 96 名(途中, 退学 1 名, 休学 1 名→最終 94 名)を対象に, スクリーニング技術としてのバイタルサイン測定技術, 呼吸器系・循環器系, 消化器系 (腹部), 感覚器・脳神経系・運動器系のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の習得を目標に, 一連の流れ (講義→デモンストレーション→技術演習) で授業を展開した。
- ・ 1 単位 30 時間 (2 コマ 8 回) に納めるには, かなりボリュームのある内容であり, また, バイタルサイン測定技術は実技試験を行うため, 学生にとってはハードな科目と言える。
- ・ 自作「技術手順書」をもとに, 教員によるデモンストレーションの他, 看護学科 LMS (Kaname.net) を積極的に活用し, 技術習得のための学生の自主学習を支援した。

- ・1年次生に看護の基本技術を確実に習得させるのは容易ではないため、実技試験を伴うバイタルサイン測定技術の演習時は、例年同様、4年次「看護総合演習(看護管理)」のゼミ学生にSAを依頼し、支援を得ている。1年生にとっては、日頃関わる機会のない4年生に直接指導を受けることで、技術習得への関心・意欲が高まり、演習への積極的な取り組みにつながった。先輩・後輩としての学生間の関係性の構築およびピア・ラーニングによる学習意欲の向上を期待しての試みだが、毎回、1、4年生双方にプラスの効果をもたらされている。
- ・実技試験によりスクリーニング技術としてのバイタルサイン測定技術の技術習熟度を確認した。科目責任者として、当該実技試験の企画・準備・運営に当たった。実技試験の結果、受験者94(108)名中、本試合格者69(88)名、不合格者25(19)名で、合格者は全体の73.4(81.5)%で昨年度を8.1ポイント下回っており、バイタルサイン測定技術を習得できたのは約7割だった。本試不合格者25(20)名については、後日、同一課題による再試験を実施、受験放棄した1名を除く21(15)名が合格、3(5)名が不合格であった。不合格者3名については、臨地での患者観察に不可欠なバイタルサイン測定技術を確実に習得させるために、再度、科目責任者による講義・デモンストレーションを実施したうえで、助手、助教および科目責任者による段階的な技術指導と技術チェックを行い、2月末の基礎看護学実習Iに備えた。結果として、実習時は、3名とも滞りなく測定を行うことができていた。 ※()内は前年度の人数。
- ・当該科目の達成度評価は、筆記(60%)、実技(25%)、ポートフォリオ(10%)および学習貢献度(5%)による総合評価とした。

最終評価としてのクラス平均は69.7±13.24(70.1±9.50)点(最高95(92)点、最低29(49)点)、追・再試対象者16名については、筆記による再試験を実施、追試合格1名、再試合格13名、再試不合格1名、受験放棄1名の結果であった。最終評価の内訳は、秀3(1)名、優15(10)名、良37(41)名、可37(37)名、不可2名で、94名中92名が当該科目の履修を修了、退学1名を除く1名が次年度再履修となった。 ※()内は前年度の人数。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護学教育学会		1998年7月～現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999年4月～現在に至る
日本看護診断学会		1999年6月～現在に至る
日本看護技術学会		2007年12月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009年6月～現在に至る
日本がん看護学会		2009年12月～現在に至る
日本看護管理学会		2012年10月～現在に至る

2016年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
・九州地区における学生ネットワークの構築 －学生の主体的学びを促進するために－	西南女学院 (2019年度教育の 質向上支援経費)	○上村 眞生 小田日出子 天本 理恵 塚本 美紀 高橋 幸夫 篠木 賢一 築別昇一郎 藤川 信幸 宮浦 崇	624,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・日本看護協会/福岡県看護協会	会員	2005年4月～現在に至る
・西南女学院大学認定看護師教育課程	認定看護師教育課程検討委員	2016年4月1日～現在に至る
・門司掖済会病院看護部看護研究指導	講師	2016年5月11日～現在に至る
① 第1回：研究計画書の作成		2019年5月24日
② 第2回：質問紙調査，質問紙の作成		2019年6月28日
③ 第3回：データ分析，最終指導		2019年11月27日
④ 第4回：院内研究発表		新型コロナウイルス感染拡大防止のため 2020年3月28日を延期→同年6月を予定
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル	「討議法」オリエンテーション講師(1時間)	2019年5月31日
	「討議法」講師(3時間)	2019年7月 6日
	「資源管理Ⅰ-看護における情報の管理」講師(6時間)	2019年7月27日，2019年8月 3日
・独立行政法人地域医療機能推進機構九州地区事務所主催：新任副看護師長研修	「ファシリテーションに関する基礎知識」講師	2019年9月20日
・北九州市国民健康保険窓口業務委託業者選定委員会（面接）	選考委員	2019年7月31日

・北九州市国民健康保険運営協議会	副会長	2012年2月～現在に至る 委嘱期間(継続)：2019年9月1日～ 2022年8月31日まで(3年間)
① 令和元年度第1回北九州市国民健康保険運営協議会		2019年8月21日
② 令和元年度第2回北九州市国民健康保険運営協議会		2019年2月12日

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

【大学委員会】

● 2019.4.1～2020.3.31 看護学科入学試験委員

- ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し、看護学科入試委員として、看護学科長とともに2020年度入学試験に関する事項(入学者選抜要項の検討、入学試験実施に関する事項、入学者選抜方法に関する事項、入学者の選抜に関する事項等)の審議に加わり、入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を遂行した。
- ✓ 一般入学試験(前期)の折、主任監督者としての業務を支障なく遂行した。
- ✓ 助産別科一般入学試験に関して、依頼された業務を支障なく遂行した。

● 2016.4.1～現在に至る 学び場プロジェクト委員

- ✓ 2016年度より、旧FD研修企画委員会メンバー(5名)のうち、上村眞生准教授(福祉学科)を中心に、教・職・学合同の全学的な取り組みとして、「学びの拠点づくり」として、主に看護学科、福祉学科の学生有志による自主活動グループ;STEP UPへの支援を継続して行っている。
- ✓ 昨年度に引き続き、看護学科、福祉学科の新一年生を対象に、教務課との連携を図りながら、先輩学生による新1年生への「履修指導支援」を企画・実施した。今年度も多くの学生が参加しており、次年度もさらに充実した支援が行えるよう工夫していきたい。
- ✓ 教員集団としては、本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum (潜在的カリキュラム)』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる。

【学科役割】

- 2018年度より、他3名の教員(講師1名、助教2名)とともに実習コーディネーター(統括)を継続して担当、年間実習計画案の策定、実習要項作成、実習生の要件整備(予防接種等の勧奨・確認等)、実習オリエンテーションの企画・運営、実習会議等の日程調整、公文書発送準備、実習中の学生支援、インシデント・アクシデントレポートの分析・報告など、必要に応じて実習コーディネーター会議を開催し、多岐にわたる業務を遂行した。
- 看護キャリアセンター：認定看護師教育課程検討委員および助産別科推薦・一般入学試験関連業務等を継続して担当、課された業務・役割を遂行した。
- 2019年度より、他の教員3名(講師1名、助教2名)とともに3年生アドバイザー(責任者)を担当、3年次生の学習・実習・進路についての全般的な支援を行った。また、実習・就活・国試対策等、保護者の関心事への情報提供の機会として3年生保護者懇談会を企画・運営し、多く(46家族51名)の参加を得た。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	小野 正子	職名	准教授	学位	修士 (看護学) (Oregon Health Sciences University 2002 年)
----	-------	----	-----	----	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護学	小児慢性疾患 看護用語 (臨床)

研 究 課 題
慢性疾患をもつ小児およびその家族の看護について考察する。 小児看護学の教育方法について考察する。 臨床で使用する看護の言葉について考察する。

担 当 授 業 科 目
小児看護学概論 (前期) 必須 小児看護方法論 (後期) 必須 小児看護学演習 (前期) 必須 看護研究 (前期) 必須 緩和・終末期看護学 (前期) 必須 助産診断・ケア学IV (新生児・乳幼児) (前期) (助産別科) 必須 小児看護学実習 (通年) 必須 看護総合演習 (通年) 必須 看護総合実習 (通年) 必須 看護学 (後期) 栄養学科 選択

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 小児看護学概論 】</p> <p>小児看護の対象である子どもや家族の理解を科目目標の大きな柱としている。少子化の時代で、なかなか子どもに接する機会の少ない学生に出来るだけ子どもをイメージしやすいようにビデオや DVD 等の 視聴覚教材を活用した。また、実際の社会の中で子どもがおかれている状況を、子どもの健康という視点で考えられるよう、雑誌・記事の中から探させ、グループ討議を行い自分の考えを発表する機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 小児看護方法論 】</p> <p>この科目は、健康障害をもった子ども現状や看護の考え方、方法を理解できるように1年次から学んできた形態機能の復習を取り入れながら授業を進めた。また健康障害をもった子どもや看護をイメージしやすいように、ビデオや写真、実物などを見せること等で、学生が理解しやすいよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>演習では、実習で活用できるよう事例検討と技術演習を中心に行った。事例検討では、乳児、幼児期の各発達段階の子どもを対象として、臨地実習で学生が遭遇することの多い症例 (国家試験にもよく出題される疾患) を用いて看護過程の展開を行った。また、全員がグループワークに参加できるように少人数のグループで進めることにした。はじめに全員で事例の見方、アセスメントの仕方を一通り確認した後、グループワークのメンバーで別の事例を考えていくようにした。また、グループで検討しているファイルを提出し、その都度コメントを返しながら指導を行った。技術演習においては、実際の実習場面を想定できるような設定をし、技術の習得が確認できるよう技術試験を行った。習得ができていない学生については、全員一定レベルに到達するまで個別指導を行った。</p>

授業科目名【 小児看護学実習 】

病棟実習では、既習の知識・技術・態度が、実際の患児・家族を通して統合されるように関わった。また、助教の先生方の学生への指導が的確に行われるように、日々の報告やカンファレンス、個人面接を通して相談、検討を行い学生への指導に繋がるように調整を行った。また、必要時病院・病棟側とも調整を図った。

授業科目名【 看護総合演習・実習 】

看護総合演習では、小児看護学領域を担当し7名の学生を受け持った。看護総合演習に引き続き、看護総合実習が実施されるため、自分自身の目標・テーマを実習に連動できるように指導した。演習の目的としては、小児看護の理解を深めるとともに、実習前準備として、実習場で必要とされる知識・技術の振り返りと、自分の選んだテーマに関する文献検索・検討を行いレポートとしてまとめることで、看護を実践するための基盤づくりを行った。演習の中には、地域での小児救急のワークショップに参加したり、学内での3年生の技術演習に参加してもらい、自分たちの技術の振り返りと確認に役立つよう工夫した。演習の進め方としては実習場別のグループ毎に自主的に計画をたてて進めた。また、実習終了後は、各自のテーマに基づいて作成していた事前のレポートを追加修正したものを、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで、各自の看護観を深めることができるように工夫した。

看護総合実習は、大学での最後の実習であり、学生自身が臨地の指導者とのミーティングやカンファレンスを通して実習前・中・後と実習内容を検討しながら、基本的に学生主体による実習展開ができるように調整した。また、実習記録用紙や評価表も自分たちの目標に沿ったものを各グループ（病棟毎）で作成し、目標の達成度が確認出来るようにした。

授業科目名【 看護研究の基礎 】

看護研究の一連の流れを理解し、自身のリサーチクエスチョンを解決するための研究方法を探求し、合理的に計画できることを目標に、1グループ6から7人の学生を、担当教員6人で2から3グループを担当した。研究実施においては、与えられた課題（自分たちの興味のあるテーマ）に沿って学生はグループ内で自主的に話し合い協力して与えられた時間内にまとめられるよう計画的に実施した。また担当教員は必要時アドバイスを行い、基礎的な研究プロセスが理解できるよう支援した。

授業科目名【 看護学 栄養学科 】

栄養学科3年生における選択科目で、専門基礎分野（社会環境と健康）の中の科目である。今回は科目履修者が4人と少人数での授業となったが、少人数のメリットを活かし自分の意見を自由に発言できる機会を提供できるよう配慮した。また、看護の対象・場の特徴から、小児、成人、老年、地域での看護教員5人でオムニバス形式での授業を行い、それぞれの領域の中で管理栄養士等が関わる疾患・生活状況を事例を用いながら具体的に人間や生活について理解を深め、社会や環境と健康とのかかわりについて考えられるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		1976年4月～1985年、1989年～現在に至る
日本看護科学学会会員		1993年～現在に至る
日本小児保健協会会員		1993年～現在に至る
日本学校保健学会会員		1995年～現在に至る
聖路加看護学会会員		1996年～現在に至る
日本看護学教育学会会員		1998年～現在に至る
日本小児看護学会会員		2002年～現在に至る
九州小児看護教育学研究会	幹事（2003年～現在に至る）	2001年～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. 実践医療用語の語構成要素－意味を基準とした分割	共著	2019年12月	情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol.2019.No.1.人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 p.57-64.	全8頁 相良かおる, 山崎誠, 麻子軒, 東条佳奈, 小野正子, 内山清子 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から一般的な語を含む合成語 7,194 語を選定し、これらの語構成を明らかにしている。
(翻訳)				
(学会発表) 2. 実践医療用語の語構成への分割と意味ラベル付与 3. 実践医療用語の語構造に関する考察－医療記録に含まれる合成語の妥当な細分割を目指して－	共著 共著	2019年6月 2019年11月	言語資源活用コーパスワークショップ発表論文集 (LRW2019),pp.161-168 第20回日本医療情報学会学術大会 39th JCFMI(Nov.2019) pp.698-701	全8頁 山崎誠、相良かおる、小野正子、東条佳奈、麻子軒 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から『分類語彙表 増補改訂版』に収録されている語を含む合成語 1,000 語を抽出し、語構成要素に分割し、意味ラベルを付与し、意味ラベルによる語構成のパターンを調査している。 全4頁 相良かおる、小野正子、山崎誠 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から『分類語彙表 増補改訂版』に収録されている語を含む合成語 2,771 語について、語構成要素への分割を行い、語構成要素に付与した意味ラベルの解析を行っている。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究(B)）	○相良かおる、小野正子（山崎誠、東条佳奈、内山清子）	2019年度 3,900千円 (直接経費: 3,000千円、間接経費: 900千円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市小児慢性特定疾病対策協議会	委員	2015年4月～ 現在に至る
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2015年4月～ 現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

大学委員会：研究紀要委員
学科役割：1年生アドバイザー
物品管理係

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	鹿毛 美香	職名	助教	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2008.3 月)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学 公衆衛生学 公衆衛生看護学	労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積 大学生の健康 現任教育 住民の健康 保健行動

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の雇用不安やワークストレスを中心に労働と健康の関連について考察する。 ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する。 ・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する。

担当授業科目
生活援助技術論 (前期;看護学科), 基礎看護学実習 I (後期;看護学科), 基礎看護学実習 II (前期;看護学科), 公衆衛生看護学方法論 I (前期;看護学科), 疫学 (前期;看護学科), 在宅看護学演習 (前期;看護学科), 在宅看護学実習 (前期・後期;看護学科), 公衆衛生看護技術演習 (前期;看護学科), 地区活動論演習 (前期;看護学科), 公衆衛生看護学実習 (前期・後期;看護学科),

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生活援助技術論 (演習) 】 1. 演習では、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。 2. 看護技術の習得の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた。また、実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。
授業科目名【 基礎看護学実習 I 】 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるよう、看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた。 4. 学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう、また臨床指導者と学習状況を共有しやすいよう、ワークシートとは別に患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した。
授業科目名【 基礎看護学実習 II 】 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、基礎看護学実習 I で獲得したコミュニケーション技術をどのように生かしていくのかを踏まえ、患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように、基礎看護関連および疾病総論・各論の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた。

授業科目名【 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（産業保健・看護） 】

1. 産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。例えば、校内の職場巡視を実施し、3 管理の視点で改善提案書を記録するなど。

授業科目名【 疫学 】

1. 保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた。協同学習が未体験の学生を考慮し、まず Think-Pair-Share を用い、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。
3. 授業資料の1 枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた。
4. 今年度より、保健師課程以外の学生も受講できるようになったため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。

授業科目名【 在宅看護学演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し、ペーパーペイシエントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。演習の際は、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。
3. 在宅看護の現場では、治療を優先する病棟看護とは異なり必要最低限の情報しかカルテに記載されていない。そのため、療養者の全体像をとらえるために、どのような患者情報が必要なのか、学生自身が疑問に思い、知りたいと思う情報をどのようにして現場で収集するのかを経験させるために、カード形式で教員とやり取りをする方法を試みた。その情報の必要性を明確にさせ思考できるよう発問内容や想起させる場面を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

1. 病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた。
2. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
3. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
4. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいうようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
5. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
6. 実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり、在宅看護学領域の教員間で検討を重ね、指導の方向性を調整した。

授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。

- 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である。
- 健康教育（集団）では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。

授業科目名【 地区活動論演習 】

- 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
- 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
- 保健師に必要な情報収集能力を獲得できるように演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

- 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
- 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
- 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場면을再構成しやすいうようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
- 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいうように心がけた。
- 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【 その他 】

- 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008年11月～） 倫理審査委員（2018年1月～）	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006年4月～）	2003年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008年4月～現在に至る
日本産業保健師会		2013年1月～現在に至る
日本産業看護学会		2014年4月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 特になし				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文) 九州・沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識とその活動の現状 第一報－公益社団法人日本産業衛生学会会員に対する調査－</p>	共	2020. 3	西南女学院大学紀要	<p>①産業看護職に対する研修システムの構築に向けて自己研鑽に対する意識とその活動の現状を明らかにすることを目的とした. (公社) 日本産業衛生学会九州地方会員の産業看護職 (122 名, 回収数 59 名, 回答率 48. 4%) に対し無記名自記式郵送法にて質問紙調査を行った. 産業看護職の自己研鑽を妨げている要因として, 雇用形態, 一人職場, 上司が事務職であること体系的教育体制の未整備があると考えられた.</p> <p>②鹿毛美香, 伊藤直子 ③pp23-33</p>
<p>慢性疾患をもつ高齢者の退院調整にかかわる職種が感じる困難感</p>	共	2020. 3	西南女学院大学紀要	<p>①退院調整関わる職種がもつ退院調整の困難感について明らかにすることを目的とし, 病院で退院調整を担当する専門職, 介護支援専門員, 訪問看護師を対象に聞き取り調査を行った. 三職種に共通する困難感は, 「病院側と在宅側との情報共有の不足」「退院までの調整期間の短さ」であった. また, それぞれの活動の場において特有の困難感もみられた.</p> <p>②水原美地, 石井美紀代, 鹿毛美香, ③pp35-45</p>
<p>(翻訳) 特になし</p>				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 九州沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識と活動現状－2015・2019年調査を踏まえて－	共	2019. 10	第78回日本公衆衛生学会総会(高知)	①産業看護職の保健活動の質向上への支援システムの構築にむけて, 2015年および2019年に基礎調査を日本産業衛生学会九州地方会産業看護職に対し, 無記名自記式郵送法にて実施した. 2015・2019年調査結果は同様の傾向を示した. 産業看護職は, 自己研鑽を積んでいると同時に, ワークライフバランスの観点から研鑽機会をうまく活用できない現状も見受けられた. ②鹿毛美香, 伊藤直子 ③第78回日本公衆衛生学会総会抄録集 p536

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
九州における産業看護職が担う保健活動の質向上のための支援の在り方	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○鹿毛美香, 伊藤直子 (住徳松子) (日笠理恵)	126,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
◎ (公社) 日本産業衛生学会 ・ 学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員	2018年1月～現在に至る
◎ (公社) 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・ 九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・ 産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006年4月～現在に至る
◎福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・ 母性看護学、小児看護学（各社会保障含む）について講義する。	講師	2017年1月～現在に至る 2019年度： インドネシア現地 2020.1/8～17

学 内 に お け る 活 動 等 (役職, 委員, 学生支援など)

・ 実習コーディネーター	2016年4月～現在に至る
・ 生協理事	2012年5月～現在に至る

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	金山 正子	職名	教授	学位	修士(経済学)
----	-------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学、看護教育、臨床看護学	看護教育、看護学生、看護倫理、看護実習

研究課題
看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果の研究

担当授業科目
看護学概論、看護倫理、看護技術論、看護過程論、診療関連技術論演習、生活援助技術論演習、フィジカル アセスメント技術演習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護総合演習、看護総合実習、看護研究演習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 看護学概論 】</p> <p>1 年次前期の科目であり、「人間」「環境」「健康」「看護」の概念、および、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護に対する考え方について、個人学習によるレポート作成とグループ学習を導入し発表会を行い、相互に学ぶ機会を設定した。また、看護のエピソードや看護事例の紹介、DVD の視聴などを導入し理解を助ける工夫を行った。講義終了前に、質問・感想の記入用紙を配布し、学生の意識や反応を確認するようにした。</p>
<p>授業科目名【 看護倫理 】</p> <p>2 年次後期に看護者の倫理綱領、看護倫理の原則、倫理的課題、倫理的意思決定の方法などの基礎的知識の修得をめざし、講義を行った。事例検討をグループ学習し発表することにより、相互に理解が深まるように工夫した。また、過去の国家試験問題を練習問題とし、考える時間を作るようにした。講義終了前に、質問・感想の記入用紙を配布し、学生の意識や反応を確認するようにした。</p>
<p>授業科目名【 看護技術論 】</p> <p>1 年次前期の科目であり、コミュニケーション、ベッドメイキングなどの講義・演習と早期看護実習が円滑に進むようにした。また、学生には看護衣の着用、身だしなみチェック、実習室使用のオリエンテーションなど、具体的に説明を行い、ベッドメイキングやシーツ交換、手洗いなどの基礎的な基本技術を実践できるように複数の教員で技術の指導を行った。早期看護実習では 2 日間、実習病院に引率し、病院や看護の見学を安全に行うことができるように調整した。実習終了後は、実習の学びをパワーポイント使用による発表会を行い、実習成果のレポートを作成できるように指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 看護過程論 】</p> <p>2 年次前期に看護過程論のグループ学習において、学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、学習が進むように、助言や指導、提出物へのコメントなどを工夫した。</p>

<p>授業科目名【 診療関連技術論演習 】</p> <p>2 年次前期に複数の教員とともに、診療関連技術演習への指導を行った。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考慮すること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な 助言・指導を行うように工夫した。</p>
<p>授業科目名【生活援助技術論演習】</p> <p>1 年次後期に、複数の教員とともに、学生生活援助技術演習への指導を行った。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考慮すること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な 助言・指導を行うように工夫した。</p>
<p>授業科目名【フィジカルアセスメント技術演習】</p> <p>1 年次後期に、複数の教員とともに、フィジカルアセスメント技術演習への指導を行った。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考慮すること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な 助言・指導を行うように工夫した。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>1 年次生 2 月の 1 週間の実習である。学内での実習前準備として、ロールプレイを導入したコミュニケーション演習やプロセスレコードの説明・演習を行った。また、1 年次に学習した看護技術を実践できるように練習し、病棟での実習に繋がるように配慮した。実習前に、病院指導者と教員で指導者会議を行い、受け持ち患者の選定やスケジュールなどを調整し、複数の教員が学生を担当して、実習指導を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>2 年次生 9 月の 2 週間の実習であり、看護過程にそって実習指導を行った。事前に実習病院の実習指導者と指導者会議を行い、受け持ち患者の選択や実習スケジュールなどの調整を行った。学生の学習については、受け持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、実習が円滑に進むように、工夫した。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>4 年生の基礎看護学領域看護技術分野を担当した。看護総合演習では学生の希望するテーマの設定、自己学習、実習計画書の作成に対して、助言を行った。また、実習前に学生が病棟指導者と打ち合わせを行い、実習に必要な準備を行う機会を調整した。</p> <p>実習終了後は実習体験をもとにテーマにそって学生がレポートを作成できるように、助言指導を行った。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>看護総合演習で作成した実習計画書に基づいて、各学生が 2 週間の看護総合実習を行うように指導した。</p> <p>7 月初旬に 1 名、8 月下旬に 6 名の学生がテーマにそって主体的に実習を行うことができるように、実習指導者と学生、教員とで打ち合わせを行い、受け持ち患者の選定とスケジュールについて調整した。また、教員として、受け持ち患者に対する実習の説明と同意を得る手続き、電子カルテ利用に必要な手続きを行い、実習中の実習状況の確認など、学生の実習が円滑に進むように配慮した。</p>
<p>授業科目名【看護研究演習】</p> <p>4 年次の選択科目であり、通年で看護研究のプロセスに従って研究に取り組み、研究論文を作成する科目である。受講学生の他の科目履修状況に配慮して時間調整し、学生の主体的取り組みへの助言を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会		1990～現在
日本看護科学学会		1990 年-2012 年、2014 年～現在

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	講師	2019年6月
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	講師	2019年10月
北九州市立年長者研修大学校 周望学舎シニアサマーカレッジ	講師	2019年8月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生委員会委員 キャンパス・ハラスメント防止・対策委員長 看護学科 教務担当 1年生アドバイザー 4年生アドバイザー

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	財津倫子	職名	講師	学位	修士 (看護学) (広島大学 2005 年)
----	------	----	----	----	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
<p>看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について再度調査を行い、結果を論文にまとめて投稿する予定である。</p> <p>成人看護学 (急性期) に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。</p>

担当授業科目
<p>救急・クリティカル看護学 (前期：看護学科) 救急・クリティカル看護学演習 (後期：看護学科) 成人・老年看護学演習 (前期：看護学科) 成人急性期看護方法論 (後期：看護学科) 成人急性期看護学実習 (後期：看護学科) 看護総合実習・演習 (前期・後期：看護学科) リハビリテーション看護学 (前期：看護学科) 看護研究の基礎 (前期：看護学科) 健康教育論 (前期：看護学科) 看護学 (後期：栄養学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 救急・クリティカル看護学 】3 年生前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 「クリティカルケア看護の特性」「対象の理解」「生体侵襲・生体反応」「外傷患者」「熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護」「呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア」「IABP/PCPS 施行中の看護」について、解説する際、パワーポイントで図や写真や動画を用いながら、わかりやすいよう工夫した。 重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。
<p>授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】4 年生後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
<p>授業科目名【 成人老年看護過程演習 】3 年生前期</p> <p>< 講義 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説する。

<看護過程>

1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

<看護技術：周手術期の看護>

1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎（6人）に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいようにした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。
2. ①深部静脈血栓症の予防として、弾性ストッキング装着の実践。フットポンプの装着。②JVACの仕組みについての解説と実践。①②が学べるブースを作り、時間ごとに移動し全員が実践しながら学べるよう工夫した。

授業科目名【成人急性期看護方法論】2年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。
3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがにつながるよう配慮した。

授業科目名【成人急性期看護学実習】3年生後期～4年生前期

1. 臨床実習では、慣れない環境に置かれている学生のことを考え、まずはどのように動いていくかを説明した。知識の上でわからなければ、どこに（教科書や参考書や事前課題）戻ればいいのかを伝え、自分で考えることが出来るよう導いた。また、質問しやすい雰囲気を作り、グループ間そして教員へもわからないことがあれば質問・確認ができるように、必ず学生に所在を伝えた。
2. 臨床指導者と毎日コンタクトをとり、各学生の目標やゴールを定め、協力して指導を行った。
3. 担当患者さんに対し、毎日実習開始前と終了時に挨拶に伺い、患者さんが気になることや大学側に伝えたいことがあれば、伝えられる機会を持った。また、表情などを観察し学生との関係性も確認していった。
4. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
5. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようにするためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。

授業科目名【看護総合実習・演習】4年生（通年）

1. 総合演習においては、総合実習前に「12誘導心電図」「気管挿管の介助」「気管挿管時のチューブ固定」「心電図モニター」の装着方法と「輸液ポンプ」の使用法とその看護の演習を実施した。学生の事前学習をもとに、当日は物品準備から学生に実施させ、準備から実践そして後片付けまで体験することで、考えて動きそして学びとなる演習を心がけた。保清の技術演習に関しては、患者そして看護師を必ず体験し、学生同士で気づきを相手に伝えることで、お互いの学びとなるよう支援した。
2. 総合実習においては、看護部との調整のみ教員が行い、その後の病棟との調整は学生に任せた。実習計画書の作成・記録用紙の検討を学生自身で進められるよう支援する。
3. 実習終了後のレポート作成においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、学生自身でレポートを進められるよう支援する。
4. レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催する（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、

質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。
<p>授業科目名【 リハビリテーション看護学 】3年生前期</p> <p>1. 「心臓に障害のある患者のリハビリテーション」「呼吸リハビリテーション」について解説する。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【 看護研究の基礎 】3年生前期</p> <p>1. 科目の担当の教員が講義を行い、それを受けた形でグループワークをおこなった。</p> <p>2. 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、実践、データ集計、結果の分析、まとめ、発表までをグループワークし、その助言を行った。講義時間内ではまとめきれない内容については、学生と話し合い、時間外に指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 健康教育論 】2年生前期</p> <p>1. 保健師・看護師分野に分かれ講義を行った。看護師分野を担当し、講義からパンフレット作成、発表までの実践を行った。</p> <p>2. 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かをグループ間で話し合いながら、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。またパンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会も設けた。</p>
<p>授業科目名【 看護学 】3年生後期：栄養学科</p> <p>1. 胃がんの手術を受ける患者の看護（胃がんの病態の説明も行う）を講義し、胃がんの事例を提示した。提示した事例をもとに、栄養管理計画書に栄養士としてどのように関わっていくかを整理させ、発表会を開き、質疑応答も行った。看護師と栄養士との協働の在り方などを検討しあう良い機会となった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会 日本運動器学会（日本整形外科 看護研究会より改名） 日本看護科学学会 日本看護学教育学会会員	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2015年12月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24, 2020 P11～21	① 初年次セミナーにおける教育プログラムの検討および実践報告 ② 高橋甲枝 目野郁子 新谷恭明 前田由紀子 一期崎直美 笹月桃子 溝部昌子 吉原悦子 財津倫子 中原智美

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p>3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)</p> <ol style="list-style-type: none"> 前期及び後期に1回ずつ全メンバーに面接を実施。 保護者懇談会では、1年生の保護者の方々が情報交換できる場を設けた。その後、希望する保護者の方と面談し、質問に答えていった。 各論実習前に低学年模試を行った。その結果を受けて、12月の各論実習期間の中間地点で模試結果（学年全体における）の説明および各個人へ結果を配布した。また、実習グループでグループの在り方を振り返りさせ、今後の課題についても明確にさせた。 休学中の学生に対し、個々の学生と約束した日付にメール送信あるいは電話連絡を行い、近況の確認を行った。メールでの質問に対しては、その都度わかりやすく返答した。 12月の時点で実習点が60点に満たない学生に対して、保護者に対し面談を行った。学生の現状についての説明と、学生に対するサポートについてお願いする機会を設けた（学科長、3年生アドバイザー長も参加） 退学が確定した学生に対し、面談を行う（本人及び保護者来学）。

研究推進委員(2019年4月1日～2020年3月30日)

1. 4月に第1回目の会議が開かれ、年間活動計画について検討。特別講演会・カンファレンス・研修会・ブログ掲載についてどなたに依頼するかを決定し、開催日時についても検討した。
2. 年間計画表の提示を行うことにより、今後研究を始めようとしている若手研究者は、研究を行う予定が立てやすいのではないかと、前年度の将来計画の振り返りを生かし、2019年度年間研究予定表を作成し、5月の学科会議にて配布した。
3. 研修会、研究カンファレンス、特別講演会の掲示、会場設営、出席者の確認、アンケートの配布と集計をその都度行った。特別講演会前には、日ごろお世話になっている実習施設全てにポスターを郵送し、出席を募った。

教育経費予算配分委員会 (2019年4月1日～継続中)

1. 当該年度予算について
 - 1) 5月に、5月1日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
 - 2) 6月末までに2019年度の確定予算を会計課に提出した。
 - 3) 学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り11月末までに終了するよう8月の学科会で依頼した。
 - 4) 1月の「購入伺い書」提出期限の前に会計課に予算執行状況の概算を確認し、追加購入を検討したが、余剰分はなかった。
2. 翌年度予算について
 - 1) 8月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼を行った。
 - 2) 各領域から提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した（調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。消耗品については、文具は定価の7割、医療・実験用は定価の9割がけで購入可能であるため、実質金額は、それぞれ $\times 0.7$ 、 $\times 0.9$ で計算しているはずであるが、そのように計算されていないものに関しては、再計算した。また、消費税が0.1となったためその点についても確認した。
 - 3) 2020年度暫定シーリング額におさまるよう、調整・話し合いを行った。
 - 4) 2020年度の暫定シーリング額を10月23日にメールで報告を受けた。
 - 5) 2020年度の暫定シーリング額に調整し、暫定シーリング内におさまった2020年度の予算書を11月1日（金）に会計課へ提出。
3. 委員会の開催について
4月のみの1回であった。

BLS 受講調整 (2019年4月1日～継続中)

1. 受講料は前期の学費へ追加して納入いただくこととしている（郵送にて連絡）。そこで新4年生の誰が受講するのかを3月25日ぐらいまでには会計課へ連絡した。看護コースの受講となるため、会計課へ受講者名簿をメール送信した（コース別分類）。
2. 3月初旬には博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行った（その前に学科長と調整する）。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出。
4. 受講者の名簿作成（英語記およびメールアドレスを入れたもの）
5. 教材と案内書が博多トレーニングセンターより郵送されてくるため、午前班、午後班の通達も兼ねて教材を配布。
6. 就職試験と受講日が重なる学生がちらほら報告に来るため、定期的に博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れる。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日は、8時30分からの開始となるが、当日にBLS人形等の搬入がため、7時から搬入が開始される。出欠確認はインストラクターの方が実施くださった。欠席者・遅刻者へは教員が連絡しなければならないが、2019年度は欠席者・遅刻者はなかった。
8. 受講中の写真撮影を許可いただき、写真撮影を行った後、ブログへUPする準備を整えた。
9. 終了時間に実習室に下り、片づけを手伝い、実習室施錠し、完了した。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	笹月桃子	職名	准教授	学位	医学博士
----	------	----	-----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
小児緩和ケア 小児の生命倫理・臨床倫理 医療プロフェッショナルリズム・医学教育	小児、生命、倫理、緩和ケア、代理意思決定

研究課題
1. 「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナル アイデンティティ形成に関する調査研究」 2. 「重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討」 3. 「協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究」

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護形態機能学 I・II ● 疾病学各論：小児科 ● 遺伝看護学 ● 緩和・終末期看護：小児緩和ケア ● 初年次セミナー I・II ● 看護のための臨床検査

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【 看護形態機能学 】</p> <p>身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。</p>
<p>授業科目名【 疾病学各論：小児科 】</p> <p>範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。</p>
<p>授業科目名【 遺伝看護学 】</p> <p>外部講師 2 名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護学：小児緩和ケア 】</p> <p>子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。</p>

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。
- ② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。
- ③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設（医療機関）から実習指導者を招き講演をしていただいた。
- ④ 科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。
- ⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。
- ⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

初年次セミナーII

- ① 初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。
- ② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。
- ③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。
- ④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
- ⑤ 本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次I同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員2名～3名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】

検尿、血液型検査、など、結果をその場で即判断できる臨床検査を実際に体験する場を設け、臨床検査の意義と同時に、看護師として果たせる役割、検体の扱いの注意点など学習する機会とした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会 日本小児神経学会 日本重症心身障害学会 日本小児血液・ガン学会	日本小児科学会専門医 ・第58-61回日本小児神経学会学術大会 実践教育セミナー企画責任者 ・第59-62回日本小児神経学会学術大会 実践教育セミナー及びシンポジウム企画責任者 ・緩和ケア等事業委員会委員 ・「小児科医のための緩和ケア教育プログラムCLIC」ファシリテーター	

日本緩和医療学会 日本生命倫理学会 日本臨床倫理学会	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員 ・第 28 回日本生命倫理学会年次大会 プログラム委員 ・第 30-31 回シンポジウム企画者 ・臨床倫理認定士 	
--------------------------------------	---	--

2019 年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 重篤な先天性心疾患を 抱える子どもの治療 と ケアに関する倫理的論 点 特集 先天性心疾患の 子ども・家族への看護 “いのち” と “生活” を 支えるために ケアのポ イントと実践	単著	2019	小児看護 42(7), 852-8 へるす出版	
(学術論文) Decision-making dilemmas of paediatricians: a qualitative study in Japan	共著	2019 Aug	BMJ Open. 19;9(8):e026579	Sasazuki M, Sakai Y, Kira R, Toda N, Ichimiya Y, Akamine S, Torio M, Ishizaki Y, Sanefuji M, Narama M, Itai K, Hara T, Takada H, Kizawa Y, Ohga S:
(翻訳)				
(学会発表) 小児緩和ケア総論～そ の理念と実践～ 実践教育セミナー3「重 篤な神経疾患を抱える 子どもたちのための小 児緩和ケア」 呼吸器症状に対する医 療介入における倫理的 な論点 シンポジウム 18「重篤な 神経疾患を抱えるこど もの緩和ケア～呼吸障 害にまつわる方針決定 と症状緩和について～」		2019. 5. 30 2019. 6. 1	第 60 回日本小児神 経学会学術集会、名古 屋 第 60 回日本小児神 経学会学術集会、名古 屋	

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
意向表出ができない子どもの代理意思決定支援		2019. 7. 14-15	小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、東京	
「小児緩和ケア」の役割と可能性		2019. 10. 26	こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム、福岡	
いのちについて考える～小児医療現場から～		2019. 11. 2	修猷館高等学校 出前授業、福岡	
意思の表出が困難な人たちの意思決定と医療選択～共に見出す～		2019. 11. 9	2019年度びわこ学園医療福祉センター草津 第二回公開講座、滋賀	
代理意思決定の可能性を探る シンポジウムⅢ「小児医療現場より問う：代理意思決定を再考し、その可能性を探る」		2019. 12. 7	第31回日本生命倫理学会年次大会、仙台	
心臓病の子どもたちのいのちをめぐる対話～代理意思決定の可能性～		2019. 12. 14	第6回 初心者のための小児循環器セミナー、名古屋	
腹痛「お腹が痛い」と言われたら		2020. 1. 22	北九州養護教諭のための勉強会、北九州	
子どものいのちをめぐる対話 ～代理意思決定における医療者の役割～		2020. 1. 26	日本小児救急医学会第10回脳死判定セミナー 教育講演、北九州	
子どものいのちを巡る対話 ～代理意思決定の可能性～		2020. 2. 14	あいち小児家族支援委員会・臓器提供WG 共催研修会（あいち小児保健医療総合センター）、名古屋	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
「重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討」	本学共同研究 日	2,009,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

倫理審査委員 研究推進委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	新谷 恭明	職名	教授	学位	博士 (教育学) (九州大学 1995 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育学	道徳教育 人権教育 教育会研究 唱歌研究

研 究 課 題
道徳教育のあり方についての歴史的・理論的研究。 帝国教育会の歴史的な研究 人権教育のあり方についての歴史的・理論的研究 唱歌の教育的活用に関する史的研究

担 当 授 業 科 目
教育方法論 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科) 教職概論 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科) 人権と社会 (前期) (人文学部) 教育課程論 (後期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科) 教育原理 (後期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科) 事前事後指導 (通年) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科) 教職実践演習 (後期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科) 諸年次セミナー (前期・後期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【教育原理】 毎回、疑問点や理解できなかった点を申告させるようにし、そうした事項について特別に説明資料を作成して解説した。
授業科目名【教育課程論】 毎回、疑問点や理解できなかった点を申告させるようにし、そうした事項について個別に回答するとともに別途説明資料を作成して解説した。
授業科目名【教職方法論】 模擬授業の回数を増やすとともに発表グループを抽選で選ぶことで1つの模擬授業をじっくり分析させた。同時にきちんと授業を批判できるようなシートを作成し、それぞれ批判点を発言させるようにして授業研究の力を向上させるよう工夫した。
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
教育史学会 日本教育学会 大学教育学会 全国地方教育史学会 日本教育史学会	すべて役職は辞した	

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
近現代日本の地方教育行政と「教員育成コミュニティ」の特質に関する総合的研究	日本学術振興会	新谷恭明 (西南女学院大) ○須田将司 (東洋大) 前田一男 (立教大) その他	5,200,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
(公益社団法人) 福岡県人権研究所 (NPO 法人) 宗像地区人権と共生の 会	理事長 理事長	2018年7月～2020年7月 2019年6月～2020年6月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教職課程実施委員会委員長

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	隅田由加里	職名	講師	学位	修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、相互支援、 看護技術、シミュレーション教育

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理：急性期病院における看護師の看護実践能力習得に影響を与える要因の共分散構造分析。 ・基礎看護学：シミュレーション演習が看護学生の思考に与える影響

担 当 授 業 科 目
<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療関連技術論 (必修) ・看護技術論 (必修) ・看護過程論 (必修) ・看護マネジメント論 (選択科目) ・基礎看護学実習Ⅱ ・看護総合演習・実習 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助技術論演習 (必修) ・看護マネジメント総論 (必修) ・フィジカルアセスメント技術演習 (必修) ・基礎看護学実習Ⅰ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 診療関連技術論 】</p> <p>講義の時間を可能な限り減らし、演習室でのアクティブラーニングに切り替えている。また演習内容も実習病院が使用している物品等と可能な限り同じにし、リアリティの追及を工夫した。さらにワークシートや国家試験問題集を活用して事前・事後課題を作成し、複数の方法で学びが深まるようにした。</p>
<p>授業科目名【 看護マネジメント論 (4年生) 】</p> <p>看護総合演習・実習の中の「看護管理」を選択したゼミ生が中心に選択しているため、看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、学生の実習部門を考慮し授業を構成した。最も看護管理を学ぶにあたってわかりやすい組織である「医療安全管理部門」を軸に看護管理とは何かから実践例を盛り込み学生が意見交換や思考できるようなアクティブラーニング形式を取り入れた。</p>
<p>授業科目名【 生活援助技術論 】</p> <p>講義の時間を可能な限り減らし、演習室でのアクティブラーニングに切り替えている。演習では、基本を大切にしつつも、各論実習や臨床現場で実践されている内容ともかけ離れないように注意した。実技試験を基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで実践する可能性が高い「活動」「清潔」「排泄介助」に変更し、グループダイナミクスも考慮しペアで協力する方式に変更した。また実技だけでなく、技術根拠も思考できるよう各ペアで手順を考えられるよう基礎看護学実習Ⅰの様式も活用して行った。</p>

授業科目名【 看護マネジメント論総論（2年生） 】

看護管理は経営学などの要素も入っているため、まずは用語理解に努めること、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえて授業を展開した。現在の医療において重要性が高い医療安全は国家試験にも出題されるため、講義内に4単位盛り込み、医療安全の基礎知識と、実際の過去の事例を活用して危険予知トレーニングを実施し、医療事故の発生機序、改善策を考えることに視点を置き授業を展開した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会	なし	2017年4月
日本看護学教育学会	なし	2017年4月
日本看護管理学会	なし	2017年4月
日本看護科学学会	なし	2017年4月

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 (教育運営委員役割) (質管理Ⅰ：看護サービス管理の安全管理授業担当)	教育運営委員	

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・看護師国家試験対策担当
- ・2年生アドバイザー
- ・公開講座委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	高橋 甲枝	職名	准教授	学位	修士 (看護学)
----	-------	----	-----	----	----------

研究分野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 初年次教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーション教育 ・ 初年次教育 ・ 乳がん患者の就業支援 ・ 運動器疾患を持つ患者の QOL

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する。 ・ 笹月准教授を中心に看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究のために、インタビュー結果の検討を行っており、今後、学生を対象に調査を行う予定である。 ・ 急性期看護技術教育の一環として、ストーマ造設した学生の学びを明らかにする。 ・ 初年次教育の効果を経時的に検討する。

担当授業科目
初年次セミナーⅠ (前期) リハビリテーション看護学 (前期) 救急クリティカルケア看護学 (前期) 成人・老年看護学演習 (前期) 看護総合演習 (前期) 看護総合実習 (前期) 初年次セミナーⅡ (後期) 成人急性期看護方法論 (後期) 成人急性期看護学実習 (後期) 救急・クリティカルケア看護学演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 15 コマ, 30 時間 ①今年度より科目担当者が 10 名から 5 名の体制になった。教員が約 20 名の学生を担当することから、教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。 ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。 ③スタディスキルズの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より 2 コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。 ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。 ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。
授業科目名【リハビリテーション看護学】前期 15 コマ, 30 時間 (13 コマ, 26 時間担当) ①リハビリテーション看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。2 年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。

<p>②講義だけではなく、演習を取り入れている。演習は、運動器リハビリテーション、嚥下リハビリテーションに加え、ストマケアの演習を行っている。今年度より学生がストーマ造設する患者の日常生活における想いを理解するために、学生に装着体験を導入した。学生のレポートをみると日常生活の不便さやストーマサイトマーキングの重要性を学んでいた。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 15 コマ, 30 時間 (5 コマ, 10 時間担当)</p> <p>救急・クリティカルケア看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。集中ケア看護認定看護師の講義を取り入れ、学生が興味・関心を持てるように工夫を行った。救急・クリティカルケアの場面では、尊厳死、倫理的な葛藤について考える機会が多いため、事例をもとに展開を行い、倫理的要件について考える機会とした。助手・助教の先生に演習に参加してもらい、自分たちの経験を語ってもらうことで、身近な課題であること、意識して行動する必要性について学ぶようにした。</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習】前期 30 コマ, 60 時間</p> <p>成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。昨年より、急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）、老年事例の 3 例を展開した。グループワーク人数を 5 名から 4 名と人数を減らし、個人ワークをしてこないとグループワークに反映できないようにした。人数が少ないことで発言せざるを得ない状況をつくることで、おとなしい学生も発言する機会を得ることができていた。但し、グループダイナミクスを発揮できるグループとそうではないグループがあり、グループ活動の難しさを感じる。次年度は学生の主体的な発言ができるように発問を考えながら演習を展開していきたい。例年、学生から課題が多いという指摘を受けるため、実習では在院日数の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に強調した。</p> <p>看護技術演習は、食事療法、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の 5 項目からなる。主に手術後の観察演習はシミュレーション演習を担当した。実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行っている。4 年生の模擬患者の導入に加え、試験後に 4 年生を交えたリフレクションを導入したことで、患者の状態にあわせて観察・判断をしていくことの必要性を学んでいた。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】前期 15 コマ, 30 時間</p> <p>看護総合演習では、7 名の学生を担当した。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。また、学生が事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができるように病棟との調整を行い、学生にも指導を行った。</p> <p>9 月卒業生は、7 月に実習へ行き、9 月にケーススタディとして論文作成、抄録、パワーポイントを用いた発表を行った。その際に 3 月卒業生が参加し質疑応答を行った。3 月卒業生も同様に論文にまとめ、抄録作成と、その内容の発表をし、自己評価を行うことができていた。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習】前期 2 週間 (臨地 7 日間)</p> <p>看護総合実習では、7 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、眼科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、手術室、救急部で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができていた。実習終了後、ケーススタディとしてまとめ評価を行うことができていた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 15 コマ, 30 時間</p> <p>主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。</p> <p>① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。</p> <p>② 講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。</p> <p>③ 初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。</p> <p>④ 課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。</p> <p>⑤ 初年次セミナーⅡでは初年次Ⅰとは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話したことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。</p> <p>⑥ DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。</p>

<p>⑦ 今年度は、教育体制を教員 10 名から 5 名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なくなった。また、パワーポイントを用いた発表評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で評価した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うことができた。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ, 30 時間 (8 コマ担当)</p> <p>成人急性期看護方法論は、2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の総論を 3 コマとした。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、婦人科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。今年度より手術創と固定法、ドレーンがどのように体内に挿入され、固定がされているのかを理解するために患者モデル T シャツ作成を導入した。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護学実習】前期 3 週間 2 クール 後期 3 週間 4 クール</p> <p>成人急性期看護学実習は 2 週間の病棟実習と 3 週目に ICU および手術室見学実習の 3 週間実習である。今年度より、2 週目金曜日に「入退院センター」の見学実習を導入した。</p> <p>病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。入退院センターの見学実習では、病棟との連携や入院前の説明の重要性を学ぶ機会となった。ICU および手術見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリエンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を行っている。実際の物品をもとに説明を行うことで目的や方法についての理解に努めた。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 15 コマ 30 時間</p> <p>2 名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明および拘束性肺疾患の体験と人工呼吸体験を行い、患者の苦痛の理解と看護を深めるように努めた。挿管モデル人形を用いて、挿管の介助方法について学ぶ機会となった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護技術員		2011 年 4 月～(現在に至る)
日本運動器看護学会会員		2015 年 2 月～(現在に至る)

2019 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020 年 3 月	西南女学院大学紀要, 24, 11-21, 2020	①全学的にスタートした初年次教育の看護学科における教育プログラムを検討した結果、学生の到達度自己評価では 90%以上のものが目標を達成していた。

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				今後は教育プログラムの改善に向けて評価指標の検討を行っていきたい。 ② 高橋甲枝、目野郁子、新谷恭明、他 7名
(翻訳)				
(学会発表) 示説 「食と健康」に関する地域 密着型食育活動の展開 ～2018年度事業概要なら びに参加者の行動変容	共	2019 9.6	第66回日本栄養改善 学会総会 於 富山	近江雅代、境田靖子、田川辰也 他

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・西南女学院大学は、「食べ物と健康」の立場から、九州歯科大学は、「口腔保健」の視点から、公開講座を開講時に学生ボランティア募集および血圧測定・酸素飽和度測定支援		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
就職委員：2018. 4. 1～2019. 3. 31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2019. 4. 1～2020. 3. 31

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士(保健学)(山口大学2011年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学, 遺伝看護学	慢性期看護, 糖尿病教育・看護, 生活習慣病, 多因子遺伝, 遺伝看護

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 2型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 初年次教育の学修効果に関する研究

担当授業科目
緩和・終末期看護学 (看護学科) 成人・老年看護学演習 (看護学科) 成人慢性期看護方法論 (看護学科) 成人慢性期看護学実習 (看護学科) 2019年度前期, 2019年度後期~2020年度前期 初年次セミナーⅠ (看護学科) 初年次セミナーⅡ (看護学科) 看護研究の基礎 (看護学科) 看護総合演習 (看護学科) 看護総合実習 (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護学 】</p> <p>主な担当内容は、がん看護(5コマ)、症状緩和のためのマネジメント(2コマ)であり、実際に3年次以降の実習で知識を活用できるように、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、それに対応した看護方法を示すことで、看護の根拠を理解しやすいように工夫した。</p> <p>講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、テレビドラマなどの話題を盛り込んだりした。また、講義終了後にカードに質問や感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では、慢性期疾患(肝硬変)の事例を通して看護過程の展開(10コマ)を主担当として講義した。対象(成人、慢性疾患を持つ患者)の状態を根拠に基づいてアセスメントするためのポイントを解説し、看護上の問題を引き起こしている原因やなりゆきを考え、看護目標・看護計画とのつながりを考えられるように繰り返し説明した。個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークでの直接指導に加えて提出ファイルへのコメントを細やかに言い、思考過程のトレーニングを行った。</p> <p>技術演習では、糖尿病の食事療法に関する演習、血糖自己測定・インスリン自己注射に関する演習などを通して患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。それぞれ、技術の手技習得のみならず、事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながら実践できるようにした。事後には必ず振り返りの機会を設け、学生が患者の生活を思い描きながら患者の心身の状況に沿った援助を導きだせるように指導を行った。</p>

授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計 7 コマ）と中間まとめ（1 コマ）を担当した。それぞれの機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOL をより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援についても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義中に指名して問いかけながら知識を確認することで学習への動機づけができるように意識した。また、病態の理解をもとにアセスメントの視点や看護の方法を思考するトレーニングができるように、課題を出したり、講義中に意図的に問いかけ思考を促す機会を増やしたりするように工夫した。また、講義終了後にカードに質問や感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。

授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

実習中のカンファレンスや学内日、最終面談において、次の 2 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

- ①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。
- ②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。特に指導を要す学生に対しては実習前・中・後に個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

- ①今年度より科目担当者が 10 名から 5 名の体制になった。教員が約 20 名の学生を担当することから、教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。
- ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。
- ③スタディ・スキルズの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より 2 コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。
- ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。
- ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディ・スキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。
- ④課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。
- ⑤初年次セミナーⅡでは初年次Ⅰとは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話したことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。
- ⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。
- ⑦今年度は、教育体制を教員 10 名から 5 名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なくなった。また、パワーポイントを用いた発表評価は、担当者 5 名に看護学

科教員1名を加えた計6名で評価した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うことができた。

授業科目名【 看護研究の基礎 】

本科目では、研究の基礎となる知識や考え方を講義で学びながら、同時に研究計画から発表までの研究のプロセスを実践することで、クリティカルシンキングや看護研究の視点をもち疑問を追求する姿勢を育むように工夫した。担当教員ごとに3グループ(20名前後)の看護研究を受け持ち、グループワークを通して指導、助言を行ったが、少しでも疑問を追求することの楽しさを感じられるように、テーマ設定から意欲を高めることを意識して関わった。また、発表会を通して他のグループとも学びを共有でき、それぞれのグループが達成感を感じられるように関わった。

授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】

実習前の計画立案では、自己課題に基づいた実習テーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、実習計画立案に反映できるよう指導した。

実習後のレポートでは、自己の実践を振り返り、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもって検証することで今後の課題が明確になるよう指導した。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、達成感も感じられるように計らった。

そのほか、臨地との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】

各論実習からステップアップし、根拠に基づいた総合的な看護実践能力を培うことや自己課題の明確化を目標に、各学生の立案した計画に基づき実習が遂行できるように指導や臨地指導者との調整を行った。

また、これまで経験できなかったことなどを積極的に見学・実践し、学びを上げられるように助言を行った。実習姿勢としては、これまでより自立した姿勢をもち、専門職の一員として責任感をもって実習にあたるように指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 看護学科における初年次教育の取り組み	共著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	①看護学科の初年次教育(初年次セミナー)におけるスタディ・スキルの修得および看護専門職としてのキャリアデザインを描くための動機づけとなる教育プログラムを検討し報告している。また、プログラム実施後の学生

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				の到達度自己評価をふまえた今後の課題について述べている。 ②共著者名 高橋甲枝, 目野郁子, 新谷恭明, 前田由紀子, 一期崎直美, 笹月桃子, 溝部昌子, 吉原悦子, 財津倫子, 中原智美 ③ (P11～P21)
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・ギラヴァンツ北九州 救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州 に於けるホームゲーム全17試合) 	<p style="text-align: center;">コーディネーター および指導, 引率</p>	2019年2月～現在に至る
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州マラソン2020 AED隊ボランティア 	<p>学内代表者(参加希望者の統 括・オリエンテーション、引 率) およびボランティア参加</p>	2020年2月16日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・実習コーディネーター
(実習施設間との連絡・調整, 各領域間との連絡調整, 実習計画, 会議・オリエンテーション日程の調整など)

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	樋口 由貴子	職名	助教	学位	修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年)
----	--------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・ 大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・ 一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・ 発達障がい児とその家族への支援について考察する。 ・ 病気や障害をもつ子どものきょうだいへの支援について考察する

担 当 授 業 科 目
小児看護学演習 (前期)、小児看護学実習 (通年)、小児看護学方法論 (後期)、看護学 (後期) (栄養学科)、基礎看護学実習 I (後期)、基礎看護学実習 II (前期)、感染と免疫 (前期)、成人・老年看護学演習 (前期)、母性看護学演習 (前期)、生活援助技術論 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習を行った。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開を理解できるように工夫した。実技演習では、援助技術の根拠と発達に応じた工夫をすることの重要性について説明し実践することで、学生が習得できるよう援助した。また、実技習得に向け、学生の自己練習時に指導を行い、全学生が一定レベルに到達するよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学実習 】</p> <p>臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドと一緒にいき、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。特に、発達や個性を考慮した技術とは何かを発問し、学生が気付き実践できるよう指導した。日々、学生がもった「疑問」・「気付き」から看護に広げ、目標達成できるよう努めた。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。看護師以外にも医師、保育士などの他職種と学生が関わりを持てるよう調整し、他職種間連携の重要性について学べるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学方法論 】</p> <p>「検査・処置を受ける子どもの看護」の講義を担当した。子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、子どもの理解の仕方を学生が考えることで、検査・処置時における看護の工夫の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明することで、小児医療現場を見たことがない学年の学生も現場や実習のイメージが出来るように工夫した。</p>

<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】</p> <p>初めて患者を受け持つ実習となる為、学生としての身なり・行動や安全、個人情報取り扱いの責任を持つことを意識行動できるよう具体的に指導した。グループで行動する意味を説明し、報告・連絡・相談を意識して行動できるよう指導の工夫をした。プロセスレコードを用い、自己の振り返りの中から自己の特徴と看護者としての在り方を考察できるように支援した。学生が目標達成できるよう、臨床側と学生の現状を共有し、実習環境や指導内容の調整を行った。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】</p> <p>学生それぞれが、基礎看護学実習Ⅰでの個人課題を克服し、基礎看護学実習Ⅱの目標を達成できるよう臨床側と調整し、実習環境を整えた。学生に対しては、患者さまを実際に見て・触れて・感じたことから気がかりを見つけ、その気がかりの原因を形態機能学などの知識を用い理解し、必要な看護を導き実践できるよう指導した。また、カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 看護学 】</p> <p>栄養学科学学生を対象に、オムニバス形式の講義を担当した。「乳幼児期の子どもの健康と栄養」、「学童期の子どもの健康と栄養」をテーマに、子どもの発達を踏まえた援助方法について講義した。講義の中で、テーマディスカッションを取り入れ、看護の視点と栄養の視点から考察できるように工夫した。また、離乳食体験やエビペン練習用トレーナーを用い、体験を通して看護を知ることができるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 感染と免疫 】</p> <p>細菌培養結果を顕微鏡で観察する演習で、病棟の状況を説明しながら、この知識を病棟や生活でどう使うかなど、知識を活用できるように支援した。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>手術後の看護演習を行った。その際、根拠となる知識を発問しながら、学生に確認し、患者をイメージできるよう声掛けを行いながら、学習の支援を行った。今までの知識を活用し清潔や不潔を意識できるよう声掛けを行い、技術の習得が出来るように支援した。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>沐浴演習では、新生児の解剖生理学に基づき技術の根拠となる考え方とそれを実践する方法について説明し、学生が理解し安全に実践できるよう援助した。</p>
<p>授業科目名【 生活援助技術論 】</p> <p>技術の根拠と患者さまの状態に合わせて工夫することの重要性について説明し、学生が援助技術の根拠を考えながら実施できるように発問した。また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージできるように工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		2002年4月 (現在に至る)
日本小児看護学会会員		2009年1月 (現在に至る)
日本小児保健協会会員		2009年4月 (現在に至る)
日本環境感染症学会会員		2010年10月 (現在に至る)
日本看護科学学会会員		2013年6月 (現在に至る)

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) A 保育園への感染症対策に向けたアプローチ -効果と課題-	共	2020.3	西南女学院大学紀要 No.24	<p>① 2013年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。その効果について、園での組織的な取り組み、園児の欠席者数や予防接種率を指標に調査し、その結果をまとめた。</p> <p>② 共著者名 樋口由貴子, 目野郁子</p> <p>③ (P1-P9)</p>
(翻訳) なし				
(学会発表) A 保育園における感染症対策の取り組み	共	2019.6	第66回日本小児保健協会学術集会 (於：東京)	<p>① 2013年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。情報提供後に園での感染症対策の取り組みがどのように変化したかを具体的な実践例をあげ、まとめた。</p> <p>② 共著者名 樋口由貴子, 目野郁子</p> <p>③ 第66回日本小児保健協会学術集会抄録集 (P232)</p>

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				研究業績 総数(2020. 3. 31 現在) 著書 1 (内訳 単0, 共1) 学術論文 0 翻訳 0 学会発表 1 (内訳 単0, 共1)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
重篤な疾患や重度の障害を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学共同研究費	○ 笹月桃子 野井未加 文屋典子 山本佳代子 樋口由貴子	2,009,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし (科学研究費を申請したが2019年度不採択)			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉学部1年生および助産別科1年生への感染症予防/予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨(2011年6月～現在に至る) ・親子遊びの会(ほほえみの会)(2016年4月～現在に至る) ・キャンパスハラスメント委員(2018年4月～2020年3月) ・看護学科3年生アドバイザー(2019年4月～2020年3月)

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 布花原 明子	職名 教授	学位 看護学 (修士)
-----------	-------	-------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育 (授業及び実習方法) 保健師のキャリア形成 地域組織活動

研究課題
公衆衛生看護学に関して、地域の健康課題の解決をめざす組織活動のあり方や、その発展要因との関連、支援課題について考察する。 保健師の専門職育成に関して、公衆衛生看護学教育およびキャリア形成の双方から考察する。

担当授業科目
<p><2年次> 公衆衛生看護方法論Ⅰ、公衆衛生看護方法論Ⅱ</p> <p><3年次> 地区活動論</p> <p><4年次> 地区活動論演習 公衆衛生看護技術演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅰ (旧カリ：公衆衛生看護技術論)】</p> <p>2年次前期保健師必修・看護師選択科目 (新設科目) である。</p> <p>履修者は前年度の約 1.5 倍に増加し教室変更を行った。授業ではメディア教材を取り入れる機会を増やし、実際の公衆衛生看護技術の場면을イメージできるよう工夫した。また、参加型授業では健康教育に関して学生が企画書を作成し発表する機会を取り入れ理解を深められるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅱ (旧カリ：地区活動論)】</p> <p>2年生後期保健師必修・看護師選択科目 (新設科目) である。</p> <p>昨年度「現場での実際の保健師活動を知りたい」との学生の要望を取り入れ、外部講師 (北九州市役所健康推進課) による講義を 1 回取り入れた。自治体の保健福祉計画作成と保健師の機能について予め教員が基礎的知識を講義した後、外部講師が市の保健医療統計データの分析に基づく保健医療福祉計画 (データヘルス計画) について講義を行った。学生からは理解が深まったとの感想が多くみられた。改善点は、事前に学生の情報リテラシーの習得状況を把握しておらず、地域診断の単元では統計データの処理に時間を要し、学習目標である地域アセスメントの理解の到達度が低かった点である。</p>
<p>授業科目名【4年次集中講義：公衆衛生看護技術演習・地区活動論演習】</p> <p>保健師課程 4 年生前期の必修科目である。</p> <p>公衆衛生看護学実習の開始前に、実習地域の地域診を行う「地区活動論演習」と、実習地域の健康課題の解決のための健康教育技術演習及び家庭訪問技術演習「公衆衛生看護後術演習」を連動させて計画した (4 月中旬～6 月上旬集中講義)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区活動論演習：シラバスをベースに演習の進め方のガイドブックや統計データのアクセス方法の資料等を配布し、学生が効率的に情報を収集できる方法を提示するなどの工夫を行った。しかし、学生にとっては統計データの収集と提出課題への負担感が強いようである。実習に向けて保健師が対象とする住民の健康に関心をもち、集団データから住民の健康状態を推測しながら公衆衛生看護活動への興味関心を高められるような工夫が課題である。

- ・公衆衛生看護技術演習：家庭訪問技術ではロールプレイを実施。教員が住民役となりいくつかの反応パターンを準備し、対象と状況に応じた実践的な保健指導について学生が思考できるよう心掛けた。健康教育技術では事前に実習施設に伺い、指導者との事前打ち合わせを行い、学生の習熟度に合わせたテーマ及び対象を設定していただけるよう調整に配慮した。学内演習成果について、実習施設から全グループとも準備状況に対し高評価を得ている。

授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

4年次前期科目である。

保健師課程学生が3か所の企業において各施設の特性に応じた看護実践を行う。学生が企業特性を生かした実習テーマを設定できるよう、事前に指導保健師から施設の情報を得るなど工夫し、演習の授業に役立てるよう工夫した。実習前に文献を収集しテーマ設定と実習計画を立案することができた。また、実習後は共通のテーマで考察を深められるよう、実習施設ごとに演習時間を確保した。最終評価となるレポートは看護総合実習で実践した内容について文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～ 〃

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(学会)				
協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究	共著	2020年3月	西南女学院大学附属 研究所	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究	本学附属研究所	270,000円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012年4月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

1. 学生募集委員会

1) 高校訪問を実施した（北九州市内2校、大分県内2校）。

看護学科の訪問校の選定にあたっては、5年間の入試形態別志願者・受験者・入学者数のデータを入手し、学科長、入試委員と動向を協議し高校訪問重点校15校を選定した。訪問時持参資料を学科で作成（5年間進路一覧表や就職推薦枠の実績等）し持参したが、訪問先の先生方の反応は好評であった。今後、近郊の高校を拡大し継続する方針である。

2) 高校模擬授業および進路ガイダンスを行った。

3) 看護学科オープンキャンパスの企画、担当教員との調整及び当日の運営を行った。

4) 入試説明会をはじめ、学生募集に係る本学のPR（パンフレット等）などを作成した。

5) 在校生の高校訪問の依頼学生の選出を行い、訪問前後の準備を整えた。

2. 2年生アドバイザー

責任者として年間のアドバイザー活動方針を示し、4名のアドバイザー体制のもと年間活動計画を作成、実施した。

1) 学習支援

国家試験対策の一環として業者模試の実施（9月）。その後、テーマ「看護師国家試験の動向と2年次の国家試験対策」について2年生を対象に研修を実施（1コマ）。その後、模試問題のやり直し学習とポートフォリオファイルの作成支援を行った。年度末に成果確認テストを実施した（1月）。

2) キャリア形成支援

6月、10月にキャリア形成に関する研修の実施。学生は各自が興味関心を持つ看護職や働く場について情報収集と交換会の実施等を行った。学生が自らの目標に向かって2年生次に行くことを話し合い発表した。

3) 保護者懇談会について

今年度、1年次と合同で保護者懇談会を実施。企画及び講演テーマの決定と講師との調整、当日の運用等を行った。

4) 個別支援

新年度及び後期開始時に個別面談を行い学生個々の状況を把握し、履修計画や生活指導等を行った。成績不良者や留年確定者へは学科長や実習指導者と連携し随時、面談を実施した。同時に保護者対応を実施した。

3. 保健師国家試験対策

保健師課程学生を対象に、8月～2月にかけて業者模試(3回)、結果分析に基づき対策を講じた。前年度は不合格者1名という結果であったため、今年度は補講の開始時期を早めて対応した。毎回の業者模擬試験の実施後、結果分析に基づき補講を実施。1月は集中強化期間として全員を対象に隔日2コマの国試対策補講を実施した(2019年度保健師国家試験合格率100%)。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	前田 由紀子	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学 2004 年) 博士 (教育学) (福岡大学 2010 年)
----	--------	----	----	----	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア、リカバリー、ストレングス

研 究 課 題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担 当 授 業 科 目
精神看護学概論 (後期) (看護学科) 精神看護方法論 (後期) (看護学科) 精神看護学演習 (前期) (看護学科) 精神看護学実習 (通年) (看護学科) 看護教育論 (後期) (看護学科) 看護総合演習 (前期) (看護学科) 看護総合実習 (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅰ (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅱ (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【精神看護学概論】</p> <p>人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調し、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。対象者やその家族の心理面の理解、共感能力の向上を目的に、精神疾患当事者や家族などの著作を5編読み、感想を提出させた。授業の進行と読書を重ねることで対象者の理解が進んだと思われる。国家試験対策を兼ねて、精神看護学概論に関する問題の解説を記述させポートフォリオの作成を行った。</p>
<p>授業科目名【精神看護方法論】</p> <p>精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、3回に分けて提出させ、内容の不備がある場合、適宜指導を行った。</p>

<p>授業科目名【精神看護学演習】</p> <p>精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。今年度は2つの実習病院の指導者6名が演習に参加し、ディスカッションに加わった。指導者より具体例を提示され、精神科看護のイメージが捉えやすくなったと思われる。ディスカッション後は、グループごとに発表させ、その後、事例に沿って精神科看護のポイントの資料を作成し解説した。精神科病院のイメージがわからないという学生が多く、指導者に施設の特徴、治療の様子、日常の様子などパワーポイントを用いて説明していただき、学生には好評であった。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。</p>
<p>授業科目名【精神看護学実習】</p> <p>実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え、複数回指導を行った。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、オリエンテーションの充実に努め、スムーズな実習ができるよう配慮した。今年度はA・B病院の指導者が演習に参加したため、A・B病院の学生は緊張が軽減していた。演習において対話の練習を重ね、学生は患者のストレングスを引き出すために対話を活用した効果的な実習をすることができた。また、演習でプロセスレコードの強化を図り、実習の目的である自己洞察への意識が高まった。PSW から受け持ち患者の社会復帰について説明を受け、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めることができた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題とし、解説をしている。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】</p> <p>7人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科デイケアを総合実習の施設として展開した。精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。</p>
<p>授業科目名【看護教科教育法Ⅰ】</p> <p>「講義」形態の授業ができることを目的に授業を展開した。まず、学習指導要領に基づき、高等学校看護科教育の目標・教育課程を理解できるように、教育方法論・学習理論について図書を利用し、学びを深めさせた。模擬授業の展開においては、教材研究及び教材開発に積極的に取り組み、授業案の作成に取り組ませた。模擬授業の練習を重ね、実際に模擬授業を展開し、自身の授業について客観的に評価でき、自己の課題を明確にすることができた。</p>
<p>授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】</p> <p>看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導し、講義と演習の一体的な授業設計について意見交換をすることができた。臨地実習の経験後であったため、臨地実習における指導計画・指導方法について、実習の特性、指導法について具体的に考えさせることができた。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開後は、授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつなげた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2003年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2003年4月～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2007年10月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007年10月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008年4月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) iOS/Android アプリケーション e-learning Nプラス (国家試験対策用 e-learning) 監修：安酸史子 (関西医科大学看護学部教授)	共	2019, 4	メディカ出版 iOS/Android アプリケーション	第 108 回看護師国家試験問題についてメディカ出版より依頼を受けた。今回は精神看護学分野の全4問について解答とその解説をした。 共著者：前田由紀子、安藤愛
(学術論文) 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020, 3	西南女学院大学紀要 Vol.24	①2018 年度より全学的にスタートした初年次教育の看護学科における教育プログラムを検討し、実施したものの報告である。看護専門職としてのキャリアデザインと将来の進路への動機づけとなる内容を含めたスタディ・スキルズの強化を図った。学生の到達度自己評価では 90%以上のものが目標を達成した。 ②共著者：高橋甲枝、目野郁子、新谷恭明、前田由紀子、他 6 名 ③P.11-21、担当部分：考察の検討
(翻訳)				
(学会発表) 1. The study on career development of certified nurse specialists in psychiatric mental health nursing in Japan [Poster]	共	2019, 6	ICN Congress 2019 Singapore	①本研究の目的は、日本の精神科病院に勤務する看護師が精神看護 CNS の資格を取得する過程とその後の活動を明らかにすることである。精神専門看護師を目指した理由は、<精神科看護の質向上><倫理的問題の解決><専門性の向上><リエゾン精神看護への学び>の 4 カテゴリーに分類された。認定後の経験活動は、<経験の積み重ね><知識や技能の獲得><対象者、集団へのコミットメント><組織へのコミットメント>の4カテゴリーが抽出された。 ②共同発表者：前田由紀子、立石和子、松林太朗、後藤有希、安藤愛

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. Trends in case studies on nursing focused on strength in psychiatric ward in Japan [Poster]	共	2019, 6	ICN Congress 2019 Singapore	<p>①日本における精神科病棟看護師の精神疾患患者へのストレングスに焦点を当てた看護の特徴を明らかにするために文研研究を行った。ストレングスに焦点を当てた看護の結果として、大きく患者の変化と看護師の変化があった。患者の変化は、「自立に向かう行動やセルフケア能力の向上」11件、「言葉による意思や希望の表出」7件、「患者—看護師関係の変化」2件、「家族関係の変化」2件、看護師の変化は、「患者本来の姿への気付き」2件、「患者に対する陰性感情の軽減」1件であった。</p> <p>②共同発表者：後藤有希、安藤愛、前田由紀子</p>
3. The Experience of Prompting the Growth of New Graduate Nurses in Psychiatric Hospital [Poster]	単	2020, 2	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science(Osaka, Japan)	<p>①本研究の目的は、日本の精神科病院に就職した新卒看護師の成長を促した経験を明らかにすることである。就職後3年間において、新卒看護師の成長を促進した経験は、〈院内教育の充実〉〈積極的探究心〉〈先輩の支援〉〈患者とのかかわり〉〈看護上の失敗〉〈後輩の存在〉の6カテゴリーに分類された。新卒看護師の育成において、組織化された人材育成の体制が必須であり、それにより先輩の支援が有機的に新卒看護師に働いていた。新卒看護師の成長は先輩のロールモデルが最大の支援となる。</p> <p>②発表者：前田由紀子</p> <p>③The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science Programme Book.P.102</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明	文部科学省科学研究費補助金(平成29～令和2年)	○(立石和子)、前田由紀子、(有澤舞)	4,550,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学,看護キャリア支援センター、看護協会認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」	講師	2019年9月6日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

〔大学委員会〕 教務委員会 2018年4月1日～現2020年3月31日
--

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	丸山 泰子	職名	助教	学位	修士(保健看護学) 川崎医療福祉大学 2011 年
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア 行動-心理症状 (BPSD) 緩和 認知症高齢者の生活機能の維持

研 究 課 題
・ 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に効果的なケアのあり方を探求する。

担 当 授 業 科 目
成人・老年看護学演習 (前期) 看護技術論 (前期) 診療関連技術論 (前期) リハビリテーション看護学 (前期) 基礎看護学実習Ⅱ (前期) 老年看護学実習Ⅰ (後期) 老年看護学実習Ⅱ (後期) 老年看護学方法論 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 (前期) 】</p> <p>1. 看護過程 (急性期、慢性期、老年)</p> <p>教員 2 人で 5 グループ (20 名) を担当した。2 年次の看護過程論で学んだことを想起させ、それを土台に疾患を踏まえたアセスメントが学びとして上乗せされるよう意識して関わった。急性期、慢性期、老年期と事例ごとに患者の病期を押さえ、回復の経過を踏まえた展開となるよう指導に努めた。特にアセスメントでは、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、助言を行った。教員間で学生の理解習得状況を共有し、状況に応じた指導となるように調整した。</p> <p>2. 技術演習 (摂食嚥下障害患者への援助[評価方法, ポジショニング, 食事援助]、片麻痺患者のトイレ援助、血糖測定)</p> <p>事例を読み込み、アセスメントを踏まえての援助実践になっているか確認をしながら手技・ケア方法の確認と指導を行った。また、患者に対し精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【 看護技術論 演習 (前期) 】</p> <p>◆ベッドメイキング ◆シーツ交換</p> <p>手順のみを伝えるのではなく、その根拠や入院環境の調整は患者の生活支援の基本であるという認識が強まるよう助言や問いかけに努め、学生間で援助を受ける患者の思いや患者の立場をイメージしながら取り組めるように努めた。また、1 年生初期の演習であり、基本的手順に沿った指導に心がけ、ボディーメカニクス、安全・安楽への配慮、実習室での学生の演習姿勢等に対しても具体的に説明し、注意喚起に心がけた。</p>

授業科目名【 診療関連技術論 演習（前期） 】

◆皮膚・創傷を管理する技術（創傷処置、包帯法など） ◆静脈血採血 ◆与薬・輸血を安全に行う技術

誤薬や手技の失敗は患者の健康被害や苦痛を招く。そのため、演習に集中し、正確な手技で行うことを優先させた。検査を受ける患者の不安や苦痛を学生に想起させながら技術演習を進め、学生の気づきが患者役とのコミュニケーションや、技術を提供する上での配慮につながるよう意識して指導を行った。また、実習室での学生の演習姿勢に対しても具体的説明と注意喚起を行った。

授業科目名【 リハビリテーション看護学 演習（前期） 】

◆運動器リハビリテーション

松葉杖の取り扱いと松葉杖歩行（三点歩行、階段昇降）に関する演習を担当。階段教室にて、実際に段差を使って実施。まずは各自が松葉杖歩行を実践し、松葉杖の正しい使用方法、安全と危険上を理解した上で適切な患者指導ができるように進めた。慣れない松葉杖の使用と松葉杖での階段昇降実施のため、演習実施にあたっては、ふらついた時に咄嗟に支える場所を確認させ、学生同士の手出しもできる状態での実施とし、安全には十分注意した。

授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 】

2年生を対象とし、臨床の場で初めて看護過程を展開し生活援助技術の実践を目指す実習である。カルテ情報のみでなく、患者との関わりから学生自身が知り得た情報が分析に生かされているか、情報収集から看護計画立案・実施までの過程を意識して、看護過程の展開ができていないかを確認し、指導を行った。また、既習の知識を随時振り返り、その知識が分析や実践に活用されているか確認し、不足部分は補いながら実習が進むよう関わった。臨床指導者へは学生の進行状況を説明し、臨地指導が円滑に進むよう関わった。

授業科目名【 老年看護学実習Ⅰ（後期） 】

1. 回復期にある高齢者を担当し、高齢者看護を学ぶ。疾患のみでなく、老年期にある患者の生活に目を向け、生活機能を中心に高齢患者の全体像を捉えることができることを重要課題と位置づけ、臨地指導を行った。世代、立場の違いから学生は老年期にある患者の身体や精神面の問題、悩みに気づき辛い。学生が自ら気づけるように問いかけ、既習の老年看護の専門知識と自らの気づきを下に看護過程が展開できるよう指導に心がけた。
2. チーム医療、協働に関する理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスなど学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。

授業科目名【 老年看護学実習Ⅱ（後期） 】

1. 介護施設で生活をする高齢者を担当し、健康課題を持ち合わせる高齢者の生活を理解すること、安全で高齢者本人が望む生活の継続に向けた施設支援の在り方を学ぶことを目的とし指導を行った。特に、高齢者と関わりながら生活史をたどることで、施設という場で、高齢者が日々どのような思いで生活しているのか、生活の中で大事にしているものは何なのかなどに関心を向け、捉えることができるよう実践の振り返りを重視した。学生個々の高齢者観が育まれることを意識し関わった。
2. 加齢、疾患によりコミュニケーション能力が低下している高齢者も少なくない。関わりでの振り返りやその時の対象者の思いを想起することを促して、高齢者理解が深まり、高齢者との良好な関係性構築につながるよう助言を行った。

授業科目名【 老年看護学方法論（後期） 】

「高齢者の患者安全」を担当。まずは患者安全を学ぶ意義から始め、高齢者事故の種類や死亡者数等の現状を把握し、高齢者の安全を図ることの重要性が理解できるよう進めた。高齢者看護では欠かせない“転倒転落”、“誤嚥”を中心に、観察ポイント、アセスメントの方法を細かく解説し、療養の場でどのようなことが起こりえるか具体例を含めながら解説した。事例を設け、その中で起こりうることを各自考えさせ、起こったことの対処だけでなく、予測予防の必要性がわかるように授業構成を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本在宅ケア学会 日本看護研究学会 日本老年看護学会 日本看護科学学会 日本認知症ケア学会		2008年7月～現在に至る 2010年3月～現在に至る 2010年5月～現在に至る 2011年6月～現在に至る 2012年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) デイサービスでの BPSD の軽減に関連する効果的なケアの要因	共	2019年11月 9日(土)	日本看護研究学会 第24回九州・沖縄地方会学術集会 (於：大分大学医学部 挾間キャンパス)	①デイサービスを利用する中でBPSDの軽減や生活行動の安定が見られた事例について、関わり方を分析し、認知症高齢者支援の在り方に関し考察する 目的で、デイサービス職員に面接調査を実施した。“他者との関りを観察”、“認知症の進行をアセスメント”しながら、利用者の心身の能力が発揮できるタイミングを見極め、環境を作ることが実践されていた。BPSDを発症したとしても、安全の範囲を見極め、認知症患者が安全の範囲内で見守られ、能力が発揮できる関りを実践しようとしている職員の意識と実践状況が明らかとなった。 ②共同研究者：江上史子、丸山泰子、櫛直美 ③日本看護研究学会 第24回九州・沖縄地方会学術集会抄録集 p38

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
地域在住の女性高齢者における尿失禁の実態	共	2019年11月30日(土)、12月1日(日)	第39回日本看護科学学会学術集会 (於：石川県立音楽堂)	①地域在住の女性高齢者の尿失禁に関する実態を把握することを目的に、市民センターに通う41名の女性高齢者を対象とし、質問紙調査を行った。 χ^2 検定、Mann-WhitneyU検定を実施。対象の約半数に尿失禁はなく、年齢区分と尿漏れ有無の有意差や、健康質問票スコアとの有意差もなかったが、7割は尿パッドを使用していた。失禁発症の要因は単に年齢のみでなく、活動等諸要因も関連していると考えられる。尿パッド使用も含め、高齢者が安心して活動範囲、機会が得られるような支援の視点を検討し、実施していくことが求められる。 ②吉原悦子、丸山泰子、金子由里、溝部昌子 ③第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集 p76

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特記事項なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
特記事項なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・ 老いを支える北九州家族の会		2011年5月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
・ 実習コーディネーター	2019年4月 ～ 現在に至る

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9(2019))

氏名 溝部 昌子	職名 教授	学位 博士(保健学) 東京大学 2003年
----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護 国際看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学 異文化対応能力

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が行う下肢血流障害の評価、深部静脈血栓症予防対策 ・看護基礎教育における血管看護技術教育 ・血管看護教育における教材開発 ・異なる文化的背景をもつ患者への看護ケア ・外国につながる人々への看護におけるコミュニケーション

担当授業科目
成人・老年看護学演習(前期) 老年看護学概論(前期) 総合看護学演習(前期) 総合看護学実習(通年) 看護研究の基礎(前期) 老年看護学方法論(後期) 国際保健論(後期) 老年看護学実習I(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【老年看護学概論】</p> <p>①今年度より、成人老年看護学概論から老年看護学概論が独立したこと、老年看護学方法論、老年看護学演習と続く科目での学習内容と主な方法を示した資料を配布し、学生が知識や技術の修得の計画や自己評価ができるようにした。老年看護の特徴について、高齢者を取り巻く状況、知識を第1回、第2回に集中して講義したうえで、高齢者のからだ、こころ、かかわり、暮らし、生きがいについて広く知り、様々な特徴ある高齢者を想起できるようにした。講義資料は、予め kaname 上で閲覧、ダウンロードできるようにし、予習復習に活用できるようにした。事前課題をもちより、クラス内で発表、ディスカッションする機会を合計3回設けた。</p> <p>②従来に比べ、老年看護学概論では、アセスメントや看護に直接必要な事柄ではなく、高齢者の豊かな生、生きがい、高齢者の生き方、サクセスフルエイジング、高齢者の意思決定、高齢者の意思決定、エンドオブライフケア、看護中範囲理論(スピリチュアリティ、レジリエンス、コンフォート、エンパワメント)等から構成し、概論の科目としては妥当で、充実した内容となった。</p> <p>③全体の評価平均点は76.5点、標準偏差7.3、尖度-0.29、歪度-0.19の正規性の高い分布となった。秀2名、優33名、良49名、可16名で、1名は再試験で合格となった。老年看護は、記憶する必要のある知識と、深く人間やその考えを理解したり、創造性を以て思考する能力が要求されるが、定期試験による知識の確認と、高齢者や環境を理解するために資料を収集しそれを基に論述する学習活動を通して、老年看護の基礎的知識や態度を修得できたと考える。</p>

④老年看護学概論、老年看護学方法論、老年看護学演習、老年看護学実習 I, II を総合して、高齢者看護について学ぶ体系を考慮しながら科目構成、内容、方法を検討している。内容の構成、資料などの教材の整備は、毎年学生の反応、達成度、臨地実習での成果をモニタリングしながら、老年看護学の科目全体と調整しながらすすめている。部分的に充実や改善が得られてきているので、総合的にも老年看護学教育の充実が進行していると考えられるが、その成果の示し方についても検討していく。

授業科目名【総合看護学演習・実習】

①7人の学生を担当した。4月より総合看護実習のテーマに関する情報検索を開始し、5月には概ね総合看護実習の計画を策定し、7月末から8月にかけて総合看護学実習、9月実習報告書を完成した。テーマの選定や実習方法の具体的な計画は、学生の興味・関心に沿い、それぞれのペースで進め、それに応じた指導ができた。

介護老人保健施設伸寿苑2名、小倉リハビリテーション病院5名のテーマは、認知症高齢者に対する回想法、運動療法、塗り絵の効果、睡眠障害の原因別のケア、口腔ケアにおける看護師の役割、食事量アップのための看護ケア、脳梗塞患者の障害受容過程についてで、高齢者看護の今日的課題とそのケアの方法について実践的に学び、その成果について医療チームと共有することにつながったと思われる。

②受講者7人の平均点82.4点、最低77、最高87であった。実習課題に関する情報検索とその整理、実習計画立案、実習とその記録について、全ての学生が自律して取り組み、指導を受けてさらに修正、改善しようとする態度が見られた。臨地実習場所においては、それぞれが実習指導者や病棟師長、関連職種と連絡を取りながら日々の看護計画や実践を調整し、実践、報告している様子は、実習ラウンドで都度確認でき、実習生として望ましい行動がとれていた。最終的な成果物については、思考や踏み込んだ学習の不足が感じられる面があり、到達度としては概ね達成された水準と考える。

③学生はこの間、並行して就職活動にあたり、第1志望に内定した。それぞれの背景や、希望を言語化することを中心とした就職活動に関する指導を通して、情報収集や、自身の考えを整理して記述することが上達し、総合看護実習での実習計画の立案や、臨地実習先での調整を自律して進めることにつながった。

④就職活動や総合看護学実習の進捗はよかったが、国試対策への取り掛かりが遅かった印象があり、学習習慣の確立のために、4月から老年看護学演習への参加、定期的な国試対策問題集の勉強会を実施したい。総合実習の進行日程については、あまり急ぎすぎず、その時々学生にとって大切なことを優先できるように日程的計画に幅を持たせたい。また、自身が国家試験対策担当で、4年生全体の学習指導に注力していたが、2名が国家試験不合格となったため、担当学生個々に応じた細やかな指導をしたいと強く思う。

授業科目名【看護研究の基礎】

①看護においては、実習、実践、教育いずれにおいても研究的思考や継続的な学修が必要であり、そのことは生業としての看護の価値を高めるものであるということを経験として授業構成を検討した。生活の中で活用されている研究的思考やデータ分析などの技術により、合理的でより効果的、効率的な暮らし、看護学、看護実践を発展させ、患者や人類の利益につながるという指向で、身近なものから臨床実務、看護科学的なものなど、様々な難易度と種類の研究論文を精読する機会を設けた。

本科目では、例年グループワークにより、研究テーマを定め、研究計画書作成、研究の実施、まとめ、発表を行っている。私は本年度から担当しているが、過去には他大学で担当したことがあった。本学3年生前期は、看護演習科目で課題を多く抱えている状況であることを鑑み、できるだけ授業時間中にグループワークによりデータ分析、論文作成ができる時間配分とした。実際には、各自が持ち帰り作業した日は何日かあったと思われる。研究テーマは学生自身が興味を持てるものを記載してもらい、希望調査を基に担当教員全体でグループわけ、担当教員配置を決定した。このため、学生は自身の興味に沿ったテーマで学修できた。

②本科目の評価配点は、課題 20 点とグループワーク 80 点であり、複数教員担当で、グループワークをするため、10 項目についての評価者、評価基準を講義のはじめに資料を配布し、詳細に説明した。グループワークの終了、発表終了、各教員評価終了後に、担当教員全員で評価を供覧し、点数調整を行った。特に、秀でていたグループについては、秀となるような基準として、概ね優という評価となった。平均点 85.3 点、中央値 85 点、秀 13 名、優 94 名、良 5 名で、グループ共通の点数が部分的に含まれ、全体に高く評価された。中には、グループの学修活動に積極的に参加していなかった者も含まれるという声は散見されたが、学生の学修実績や努力が反映されていないということはないと考える。

③研究プロセスを理解し、研究の実践を通して学ぶ事については、学生の積極性や器用さを感じられた。基礎教育ではあるが、リテラシーの高い学生も多いので、限界をこちらから設定するのではなく、興味への探求や、情報検索、試みなどを幅広く受け入れ、将来の看護や職業人としての生活の礎の要素にでもなるような、記憶に残る学修体験となるよう工夫したい。

授業科目名【老年看護方法論】

①前期「老年看護学概論」で、高齢者の生きがいやサクセスフルエイジング、高齢者看護の理論について触れ、2 年間を通して学べる事例を提示し、継続的にそれを利用しながら後期「老年看護方法論」で技術的な側面を中心として展開し、知識の増加や学習の深まりを実感できるようにした。3 年生の看護過程の展開での学生の自己学習の負担を軽減でき、対象の理解や看護実践についての学習を促進し、臨地実習への準備状態が高まることを期待している。また、講義内容に関連した課題学習（栄養指導、褥瘡予防ケア、排泄自立支援、肺炎予防、聴覚障害、災害支援）を評価対象とし、優れたレポートを講義内で発表・紹介したことで、回数を重ねるごとに、提出物全体の質が向上した。

昨年度は定期試験で自作まとめの持ち込み可としたところ、今年度学生が当初から「持ち込み」を前提にして講義に参加している様子であったため、「持ち込み不可の記述式テスト」とし、10 月頃から通知した。結果的には、昨年度の持ち込み試験よりも得点が向上し、知識の定着が得られたと考える。

②本科目は、定期試験と提出課題とその他から総合的に評価され、平均点 88.3 点、標準偏差 0.7 最低 66 最高 99 であった。秀 46 名、優 39 名、良 9 名、可 3 名で不合格者はゼロであった。筆記試験だけについてみれば、平均点 87.5 点、最低 60、最高 100、持ち込み不可の記述式試験であったにもかかわらず、学生の学習は深くなされており、知識の定着がしっかり確認できた。

そもそも老年看護学に必要な知識は少なくなく、教科書に記載されていない新しい事実も多いため、提示している資料が多いことを考慮すると、学生はそれを修得するための努力は高く評価できるが、授業評価における自己評価の平均が 3.7～3.8 で高くない。

③高齢者看護技術は日進月歩であり、診療報酬制度で新たに保険収載されるものが常にあり、看護師として求められる知識、技術を常に up-to-date していく必要がある。これに応じた授業構成にするためには、既存の教科書では不足であり、現在の医療や国家試験問題、今後の高齢者を取り巻く環境をふまえてよく調整されていると考える。また、卒業後も自律して学びを継続できる基礎力の醸成に役立っていると考えられる。

④当初期待した以上に、学生は課題に熱心に取り組み、定期試験でも優れた成績を修めたことをフィードバックしたい。学生に期待することの水準を下げるのではなく、到達を支援できる方法を教員として継続的に工夫していきたい。方法論に用いていた 2 冊の教科書の内容に重複があるため、老年看護技術の教科書を変更し、さらに、様々な評価スケールが一覧できるハンドブックを新たに選定した。学習や実習を効率的に進められると考える。

授業科目名【国際保健論】

①身近な話題から世界にも目を向けられるように、北九州市に暮らす外国人に関する情報、教員が行った海外での調査についての写真やデータ、テレビ番組や書籍で紹介されている様々な国や地域での暮らしや文化について紹介した。

「しおり 2018 異文化との出会い 42」外国につながる人々への看護の困りごとマップを教材とし、学生同士のディスカッションと、アンケートへの回答により、どのように対応したらよいかを自身の課題として整理した。また、将来看護師として外国につながる人々への看護に役立てられるように、「看護英語ノート」または「食文化ノート」をグループに分かれて制作した。

②学生が制作した「看護英語ノート」は、今後印刷して学生に配布する予定だが、将来にわたって、全く同じような状況ではなくても、文化背景の異なる患者と遭遇した時の対処についてヒントが得られると思われる。この作業の出発点に関わったこと、その作業を発展させると、教材が完成するという体験できたことはよかったと思われる。なお、実際に学生が作成した看護英語ノートは、十分な情報検索によらないものが多く、状況を理解するための情報、看護師としての説明（日本語）、説明（英語）の全てをこちらで改めて制作した。

③今年度より「国際看護」の教科書を用いた。情報が整理されており、効率的に知識を習得することが可能であったと思われる。また、ディスカッションやグループ学習活動を通して、異なる文化背景をもつ人々への対応について考える時間が多く持てたことはよかった。授業評価とは別に行ったアンケートでは、この学修をどう役立てるかについての記述が多くあり、成果があったと考える。統合科目としての国際看護をふまえ、国家試験出題基準にも対応できるようにしたい。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】

①昨年度は自身の病気療養のために管理できなかった実習があった。今年度は自身の科目（実習）への関わりを明確にするために、実習期間中、全ての学生に面談を行った。面談では、学生による症例のプレゼンテーションにより、病態の理解、専門的言語の活用、患者理解のための情報収集、看護問題の優先性の判断、患者の個別性を汲んだ看護目標、看護計画の立案、看護実践とその評価について、達成度を評価、記録し、領域教員との成績評価会議で共有した。また、学生の進路志望や学習課題について、一看護師として助言し、激励した。

②本年度は、科目責任者としてだけでなく、実習グループを担当したので、学内用務を調整しつつ、他の教員と協力を得て実習指導を行った。これによって、実習方法や指導上の課題が明らかになり、学内教育での改善点が見つかった。看護問題と病態について、関連図を作成し理解と表現を促すことは、2年生後期から既に取り入れた。併せてこの学年の臨地実習の際の実習方法、記録様式の一部を変更し次年度実習要綱を作成した。教科書の一部見直し、3年前期に看護過程に関する書籍を追加する。看護過程演習で、看護目標、看護計画の設定方法を具体的に演習する、健康知覚パターンで病態、治療、看護観察を詳細に記述するよう講義するなどである。

③本科目は進行中のため、最終評価ではないが、平均点は80点前後となる見込みである。各担当教員の評価表に従った評価、評価会議、前述の評価面談を基に実習担当者で調整しており、成績評価として妥当であると考えられる。また、実習到達度としても概ね満足できる。さらに、本年度は欠席者が少なくのべ10人未満であり、学生指導と自己管理がうまくいっているものと思われる。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014年～現在に至る
日本血管看護研究会	代表世話人 研究会プログラム委員	2015年～現在に至る
日本リンパ浮腫治療学会	評議員	2016年～現在に至る
日本看護科学学会	編集委員会委員	1999年～現在に至る
日本看護管理学会		2003年～現在に至る

日本看護評価学会	学術委員会循環器看護ワーキンググループメンバー	2011年～現在に至る
日本循環器看護学会		2014年～現在に至る
日本看護理工学会		2016年～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【著書】 ナーシング・グラフィカ 「疾患と看護シリーズ」 『2循環器の疾患と看護』	共著	2020年1月	メディカ出版	下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、肺塞栓症患者の看護、予防的ケアについて解説した。 B5版 総頁数:358頁 担当部分：p.311-312、p.314、p.315-317
【学術論文】 看護学生の老人福祉センターにおける老年看護学実習の学び	共著	2019年4月	インターナショナル Nursing Care Research 18巻1号	老年看護学実習記録の内容分析を基に、老人福祉センターでの実習成果を明らかにした。「老人福祉センターで学んだこと」に記載された内容には《老人福祉センターの役割・機能》、《利用者像》、《利用者にとっての老人福祉センターの意味》、《看護師の役割》、《老年観の変化》の5つがあった。老年看護学実習の対象の療養生活の場には、治療の場(病院)・療養生活の場(介護施設)・日常生活の場(在宅)があるが、なかでも老人福祉センターでは、活力ある元気高齢者の姿を捉える機会となっていると考えられた。 A4版総頁数:114頁、p97-106 著者：岩倉真由美、溝部昌子
看護学科における初年次教育の取り組み	共著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	「初年次セミナー」では、1年生を対象に、スタディ・スキルズの基本を学び強化を図った。さらに、看護専門職としてのキャリアデザイン・将来の進路への動機づけとなる内容を含めた。スタディ・スキルズの修得には、スモールステップ法を用い、レポートは文字数と課題のレベルをあげていった。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>学生の到達度自己評価では90%以上のものが目標を達成した。また、図書館等の利用率も高かった。</p> <p>A4版総頁数:147頁、p11-21 高橋甲枝, 目野郁子, 新谷恭明, 前田由紀子, 一期崎直美, 笹月桃子, 溝部昌子, 吉原悦子, 財津倫子, 中原智美</p>
<p>【報告書】 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテックス報告書</p>	共著	2020年3月	看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	<p>医療の国際化、看護職の多文化対応能力養成のための研修を構築し、7月から2月にかけてベーシックコース、アドバンスコース、エキスパートコースを4回実施した。この内容と参加者アンケートを報告したもの。</p> <p>A4版 頁数:全140頁 著者: 野地有子、溝部昌子、近藤麻理、小寺さやか、野崎章子、相原綾子、炭谷大輔、米田 礼他 担当:p5-12、 p 53-92、 p98-99</p>
<p>外国につながるのある人たちへの看護コミュニケーションに関する研究 -「看護英語ノート」の制作-</p>	共著	2020年3月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所2019報告書	<p>「しおり2018外国につながるのある人たちへの看護ケア」より15場面を抜粋した。遭遇した看護師が状況を理解するために必要な情報について資料を収集し整理した。看護師として最低限必要と思われる説明を作成した。日本語説明を基に英文を作成した。英語を母国語とし、看護英語教育を専門とする英語教員が担当した。医療イラストの実績のある印刷所にレイアウト・イラストを依頼し、B6版24頁の小冊子となった。</p> <p>A4版 頁数:全頁 著者: 溝部 昌子、野地 有子、藤田 比左子、Mathew Lee Porter、近藤 麻理、小寺 さやか、飯島 佐知子</p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>【学会発表】</p> <p>The current situation and problems of nursing care in hospitals caring for international patients in Japan- To make a policy recommendation from the viewpoint of nursing administraiotn</p>	共著	2019年6月	ICN Congress 2019 (Singapore)	<p>看護師・看護管理者により実施したフォーカスグループディスカッションで外国人患者受け入れに対する課題をまとめたもの。言語的障壁については種々のツールを用いて克服できる部分があるが、それ以外の文化の違いにどう対応するかが課題であり、看護師の文化能力を高める必要がある。</p> <p>Ariko Noji, Akiko Nosaki, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, <u>Akiko Mizobe</u></p>
<p>循環器看護とは何かを考える-グローバルスタンダードと日本の医療動向を見据えて-</p>	共著	2019年11月	第16回日本循環器看護学会学術集会 (於 東京)	<p>日本循環器看護学会学術委員会、循環器看護の定義及びステイトメント作成にかかわるワーキンググループでの検討内容の示し、新しい循環器看護の定義について提案した。</p> <p>発表者：岡田彩子、三浦英恵、<u>溝部昌子</u>、北村愛子、瀬戸奈津子、南川貴子、仲村直子、濱上亜希子</p>
<p>熟練透析看護師が透析治療の準備から終了までのプロセスにおいて実践している医療安全の取り組み</p>	共著	2019年11月	第22回日本腎不全看護学会 (於 札幌)	<p>透析医療を担う看護師10名を対象に、半構成的インタビューを実施し、逐語録を質的記述的に分析した。《患者個別の状態とフロア全体の状況認識》、《経験知に基づく臨床判断》《嚴重な体重管理と除水管理》《専門的な知識・技能・心構えによるシャント管理》《スタッフ一丸となって実践するチーム医療》《リーダーシップを発揮して行うスタッフ統制》など10カテゴリーが抽出され、透析医療における熟練看護師のコンピテンシーを示した。</p> <p>発表者：岩倉真由美、<u>溝部昌子</u></p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
【学会発表】 つづき 食文化ノートと看護英語 集録集の制作	単著	2019年11月	nGlobe研修アドバンス コース（於 千葉）	JSPS (A)「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」(代表野地有子)における看護職を対象とした研修会において、外国につながりのある人たちへの看護ケアのツールとして、食文化ノート、看護英語集録集の政策に至った経緯、プロセスを報告したもの 発表者：溝部昌子
看護職の多文化対応能力 研修ベーシックコースの 開発と評価第1報 研修コ ース開発のプロセスと構 造	共著	2019年12月	第39回日本看護科学学 会学術集会（於 金沢）	看護職の多文化対応の困難を軽減し文化対応能力が向上する多文化対応能力研修プログラムの開発過程と、研修プログラムの概要を示した。2015年看護師を対象としたアンケート調査結果（4738件）より、外国人対応で困った42場面を抽出し、イラストを用いて「異文化との出会い42病院マップ」を開発した。これを用いた研修を受講した看護職の異文化への関心度に関わらず、マップの活用が効果的であった。研修プログラムは、看護師7494名のカフリー文化対応能力調査結果により3つの潜在特性に応じて、ベーシック、アドバンス、エキスパートの3段階とし、コミュニケーション演習や倫理事例演習を含むそれぞれ1日研修とし、日本語版CCCHSで評価する。 発表者：野地有子，野崎章子，溝部昌子，近藤麻理，小寺さやか，飯島佐知子
地域在住の女性高齢者における尿失禁の実態と支援の在り方	共著	2019年12月	第39回日本看護科学学 会学術集会（於 金沢）	地域在住の女性高齢者を対象として、King健康質問票日本語版を用いて尿失禁の実態について調査した。対象41名、平均年齢80歳について、尿漏れありは48.8%、後期高齢者では43.3%、後期高齢者の尿漏れ頻度は1週間に1回かそれ以下と回答とした人が65%で、尿漏れの量は少しとした人が84.2%であった。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>【学会発表 つづき】</p> <p>看護職の多文化対応能力育成を目的とした研修プログラム開発過程について</p>	共著	2019年12月	第4回国際臨床医学会学術集会（於 福岡）	<p>年齢が長ずるにしたがって尿失禁の頻度は上昇すると言われているが、今回対象となった市民センターや通所介護での活動に参加している高齢者については、そうとは言えなかった。</p> <p>発表者：吉原悦子，丸山泰子，金子由里，<u>溝部昌子</u></p> <p>看護職の多文化対応能力の育成を目的とした研修プログラムの開発過程において、大学教員の国際化、外国人患者対応に関する困りごと、文化能力評価スケールに基づいて教材、研修プログラムを構築したことを示した。</p> <p>発表者：<u>溝部昌子</u>、野地有子、大友英子、近藤麻理、小寺さやか、飯島佐知子、野崎章子、炭谷大輔、相原綾子</p>
<p>Study on Evaluating a Cultural Competency Training Program in Japan</p>	共著	2020年2月	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	<p>文化能力研修プログラムベーシックコースの実践報告とプログラム評価について示した。217名の受講者に対し、インバウンド医療提供、社会的背景と教育の必要性、外国人患者への看護ケア、コミュニケーション、倫理課題を含む研修を実施した。</p> <p>アンケート回答者167名の満足度は高かった。自由記載は、同様の課題の共有、振り返りの機会、外国人患者対応についての知識の習得、業務へのヒント、自施設での実施、アドバンスコースの要望の6つに分類された。</p> <p>Ariko Noji, Mari Kondo, Sayaka Kotera, Sachiko Iijima, <u>Akiko Mizobe</u>, Akiko Nosaki, Hikaru Matsuoka, Yoshiko Hamasaki, Daisuke Sumitani, Ayako Aihara</p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>【学会発表 つづき】 Participatory approach in "a training program for enhancing nurses' capability of responding multicultural situations"</p>	共著	2020年2月	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	<p>多文化対応能力研修プログラム教材「異文化との出会い42病院マップ」英語版を用いて、看護職、看護学研究者がフォーカスグループディスカッションにより、異なる文化背景を有する患者への看護における課題解決法、その対処法に関する研究プログラムについて検討するインフォメーションエクステンションを企画した。</p> <p>Ariko Noji, Mari Kondo, Sayaka Kotera, Sachiko Iijima, <u>Akiko Mizobe</u>, Akiko Nosaki, Hikaru Matsuoka, Yoshiko Hamasaki, Daisuke Sumitani, Ayako Aihara</p>
<p>外国につながるのある人たちへの看護ケア －異文化との出会い 42 病院マップの開発と活用 第2報－</p>	共著	2020年3月	第10回日本看護評価学会 (於 東京)	<p>多文化対応能力研修プログラム教材「異文化との出会い42病院マップ」を活用した研修参加者に実施したアンケート調査の結果の内、受け入れるのが困難な文化や習慣、コミュニケーションの工夫、個人や組織の努力や期待について尋ねた自由記載を整理して示した。通訳者、表示、デバイスに関すること、マニュアルの整備や組織体制の整備、勉強会や事例検討のニーズが明らかとなった。</p> <p>発表者：相原綾子、野地有子、近藤麻理、小寺さやか、飯島佐知子、<u>溝部昌子</u></p>
<p>HCAHPS を用いた日本に滞在する外国人と日本人の日本の病院での入院経験の質の比較</p>	共著	2020年3月	第10回日本看護評価学会 (於 東京)	<p>米国で開発された病院サービスを評価するHCHAPSを用いて、日本に滞在する外国人の入院建研について調査し、日本人のそれと比較した。外国人63名、日本人60名の回答があった。コミュニケーションについて、日本人に比べて外国人、医師に比べて看護師、国際医療認証施設が非認証施設に比べて満足度が高いことが分かった。</p> <p>発表者：飯島佐知子、松岡光、野地有子、近藤麻理、小寺さやか、<u>溝部昌子</u></p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（１） 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン（17H01607）」	文部科学省科学研究費補助金 基盤（A）	代表：野地有子 （千葉大学） 研究分担者	分担研究者 50,000 円 (H29-33)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（２） 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
「外国につながりのある人たちへの看護における看護コミュニケーションの検討と看護英語集録集の制作」	西南女学院大学 附属医療福祉研究所研究助成金	研究代表者 283,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
千葉大学大学院看護学研究科附属看護 実践研究指導センター	共同研究員	2015年～1年毎に継続更新中 研究会議出席
	nGlobe 研修モデレーター、 講師	2019年7月、11月
日本血管看護研究会	代表世話人 学術集会主催 学術集会プログラム委員	2015年～ 2015年～毎年 2015年～毎年
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	教育運営委員 検討委員	2018年度より 開講式、閉講式出席 運営会議
西南女学院大学認定看護管理者コース 「人材育成」	セカンドレベル講師	2019年10月
西南女学院大学シニアサマーカレッジ 「足の痛いのがさようなら-足の病気とフットケア-」	講師	2019年8月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
国際交流委員会委員
国家試験対策担当
西南女学院大学紀要査読委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 目野 郁子	職名 教授	学位 博士 (医学) (九州大学 1994 年)
----------	-------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 予防接種免疫抗体

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチンで予防可能な感染症について、成人を対象にワクチン接種とその免疫持続状況を調査し、発症予防のためのワクチン接種時期の妥当性について考察する。 ・ 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。 ・ 2018 年度より開講した初年次教育について、看護学科 1 年生を対象に教育プログラムの検討をする。

担 当 授 業 科 目
感染と免疫 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (福祉) 初年次セミナーI (前期) (看護) 初年次セミナーII (後期) (看護) 微生物学 (後期) (福祉)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【感染と免疫：看護】 ①講義は、最初に教科書を使い説明、次にパワーポイントで補足説明をした。学生には重要な箇所を教科書及び配布プリントに書き込むよう指示した。また、講義途中で学生の反応を見ながら質問を受ける時間を作り、理解できていない内容は、繰り返し説明を行った。 ②学生に緊張感と学習準備を促す意味で、小テストを導入した。小テストは講義進行半ばで実施し、国家試験を意識する内容とした。成績は開示し、テストの解説を行なった。 ③自主学習を促すため、講義内容を整理するためのプリントを 3 回配布した。学生にはプリントの項目に沿って、教科書を中心に関連する専門基礎科目や専門科目と連携させながらまとめるよう指導した。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ①高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の位置づけで講義内容を組み立てた。看護学科では、"体の構造と機能を知ることによって疾病が生じる原因を根拠に基づき説明できるよう"、疾病モデルを提示し、高校で学ぶ基礎的な知識を基盤に講義を展開した。 ②学生に緊張感と学習準備を促す意味で講義進行半ばに小テストを実施した。 ③また、主体的な学習を促すために小テストの解説レポートを課題として課した。レポート作成法・解答を導くための解説は、事前にモデルを提示し図書検索・図表など積極的に使うよう促した。特に、関連科目の教科書や参考図書を使い解説するよう指導した。 ④講義途中と講義後に質問を受ける機会を設けた。また、グループディスカッションをさせ、自己解決を促し、その後に再度質問を受けるようにした。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- ①高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の位置づけで講義内容を組み立てた。講義では "生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)" に焦点をあて、高校で学ぶ基礎的な知識を基盤に講義を展開した。
- ②学生には、日常生活の中から理解しやすい事例を用い講義を行った。また、配布した講義プリントに重要点を書き込むよう指示した。
- ③学生に緊張感と学習準備を促す意味で講義進行半ばに小テストを実施した。成績は開示し、解答を導くための解説を行なった。
- ④講義途中と講義後に質問を受ける機会を設けた。また、グループディスカッションをさせ、その後、自己解決を促し、その後に再度質問を受けるようにした。
- ⑤学習課題の評価項目には、雑誌・図書を使うことを明記し学生に図書館活用を促した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ：看護】

- ①科目担当者が10名から5名の体制になった。教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。
- ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。
- ③スタディスキルの習得を図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より2コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。
- ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。
- ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。

授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。
- ②講義を2コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。
- ④課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。
- ⑤初年次セミナーⅡでは初年次Ⅰとは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話したことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。
- ⑥DPにそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。
- ⑦今年度は、教育体制を教員10名から5名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なくなった。また、パワーポイントを用いた発表評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で評価した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うことができた。

授業科目名【微生物学：福祉】

- ①昨年同様、第1回目の講義において本科目の該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。また、養護教諭免許取得に必要な科目のため内容は専門的であること、講義の前後に主体的な学習が必要であることを説明した。
- ②知識の整理をするために講義8回目小テストを実施し、早期から講義を振り返る姿勢を促した。

- ③特に大切にしていることは、感染症についての基礎的な知識を修得し、そこから学校や医療福祉現場で発生した感染症事例について学ぶことである。講義→感染症事例→予防策という一連の流れにより現場で必要な知識の修得を目指した。
- ④講義内容を整理するために講義進行にそって重要ポイントを数回提示し、雑誌・図書を積極的に利用し自主学習するよう促した。また、講義外にも空き時間を利用し質問をうける体制をとった。
- ⑤学生のモチベーションを上げるため、養護教諭として活動している先輩の情報や感染症についての最新のトピックスを提供した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本細菌学会		1987年4月～現在に至る
日本感染症学会		1996年4月～現在に至る
日本小児保健協会		2000年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2004年4月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 病原体・感染・免疫	共	2020.2	南山堂	<p>① 医療系の学生および医療従事者を対象に、病原体、感染及び免疫を学ぶ教科書・参考書として企画した。3版4刷では最新の情報を入れ内容を更新した。</p> <p>② 監修者名 藤本秀士 共著者名 目野郁子 小島夫美子</p> <p>③ 担当部分 第4章 感染症の予防と感染制御対策・技術 (P91-P128)</p> <p>総頁数 P394</p> <p>④ B5 判</p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. A 保育園への感染症対策に向けたアプローチ -効果と課題-	共	2020. 3	西南女学院大学紀要 No.24	① 2013 年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。その効果について、園での組織的な取り組み、園児の欠席者数や予防接種率を指標に調査し、その結果をまとめた。 ② 共著者名 樋口由貴子, 目野郁子 ③ (P1-P9)
2. 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020. 3	西南女学院大学紀要 No.24	① 2018 年より全学的にスタートした初年次教育(初年次セミナー)の看護学科における教育プログラムを検討し、実施した内容についてまとめた。 ② 共著者名 高橋甲枝, 目野郁子, 新谷恭明, 前田由紀子, 一期崎直美, 笹月桃子, 溝部昌子, 吉原悦子, 財津倫子, 中原智美 ③ (P11-P21)
(翻訳)				
(学会発表) A 保育園における感染症対策の取り組み	共	2019. 6	第 66 回日本小児保健協会学術集会 (於：東京)	① 2013 年より保育園での効果的な感染症対策の検討を目的に、A 保育園をモデルに感染症に関する情報提供を継続的に行なってきた。情報提供後に園での感染症対策の取り組みがどのように変化したかを具体的な実践例をあげ、まとめた。 ② 共著者名 樋口由貴子, 目野郁子 ③ 第 66 回日本小児保健協会学術集会抄録集 (P232)

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績 総数 (2019.4.1-2020.3.31日現在) 著書 1 (内訳 単 0 共 1) 学術論文 2 (内訳 単 0 共 2) 報告書 0 (内訳 単 0 共 0) 学会発表 1 (内訳 単 0 共 1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> 福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において、食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。 北九州養護教諭のための勉強会 養護教諭を対象に「腸管感染症とその予防」というテーマで講演を行なう。 	委員	2019年5月1日～2021年4月30日 2019年10月10日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・ 人事委員会委員 2017年4月1日～現在に至る
- ・ 動物実験委員会委員 2016年4月1日～現在に至る
- ・ 保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～現在に至る
- ・ 公的研究費内部監査部門担当者 2017年2月～現在に至る
- ・ 西南女学院100周年記念誌編集委員会所属担当委員 2018年7月～現在に至る
- ・ 学生の健康支援
保健福祉学部、人文学部、および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。
2019年5月～2019年7月、5回実施
- ・ 保健福祉学部福祉学科2年生対象：講義1回
学外実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。2019年12月10日、講義1回
- ・ 看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当
課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	吉原 悦子	職名	講師	学位	修士 (看護学) 大分大学 2007 年
----	-------	----	----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
老年看護学	排泄ケア 認知症ケア 地域貢献活動

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症高齢者の排便ケア ・ 地域貢献活動に参加した学生の学び

担 当 授 業 科 目
(前期) <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人・老年看護過程演習 ・ 地域連携協働支援論 ・ 在宅看護学 ・ 在宅看護学演習 ・ 看護総合演習 ・ 看護総合実習 (後期) <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年看護方法論 ・ 老年看護学実習Ⅱ ・ 看護学 (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【成人・老年看護過程演習】 病像シートでは、解説があったこともあり、項目に沿って整理しようとした様子が伺えたが、分析に活用ができるように指導を行った。慢性期、急性期、老年期とそれぞれの特徴が分析できるように具体例を挙げ、かかわった。グループワーク自体は比較的活発に行うが、提出期限が迫ってくると記録の体裁を整えようとする傾向が強く、グループ内で分担をし、提出をしようとするグループが多かったため、返却の際に、指導を行った。また、グループワークの効果を意図し、1 グループの人数を少数とした。学習の習熟度には個人差が大きく、実習においても繰り返し指導していく必要がある。
授業科目名【地域連携協働支援論】 今年度より開講の科目である。「地域で生活する人々」をキーワードとし、自らの生活に着眼するところから始めた。①自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージするような課題を提供し、講義を行った。②講義に集中できるように学生個人での作業とグループワークを取り入れ、発表する機会を設けた。③学生の自由な発想を妨げないように行った。④講義の中で地域・看護・認知症・高齢者・障害者などのキーワードでのトピックスなどを交えて提供し、幅広い視野を持てるように内容を工夫した。
授業科目名【在宅看護学】 地域包括ケアの部分を担当した。地域包括ケアは背景がさまざまであり、なぜ地域包括ケアが必要になったのかを制度を含めて解説した。これまで、概論や方法論で学んできたことを想起させながら、講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を伝えた。特に学生は、これまで学んだ内容等を想起しながら講義を聞くことが難しく、「習ったか」「この用語は聞いたことがあるのか」など、確認をしながら、講義を進めていった。国家試験にも出題する分野であるため、繰り返し伝えていった。

<p>授業科目名【在宅看護学演習】</p> <p>地域包括ケアの部分を担当した。在宅看護学を踏まえながら、事例に基づいてサービスを図式化していった。その中でもサービスを丁寧に洗い出し図にまとめたグループについては講義の中で発表を行ってもらい、補足した。また、資料として配布し、ほかの学生の参考になるようにした。単にサービスを羅列するのではなく、その人の人生という長いスパンの中で必要なサービスも変化していくことの意識付けを行った。この資料に関しては、老年看護学実習においても参考にしていただいていた学生がいたので、学んだことが実践の場において生かされたと考える。しかし、制度は日々変わっていくため、常に情報収集をすることも今後は意識づけをしていく。看護過程に関しては、目先の疾患、症状、家族の介護負担にとらわれがちになり、在宅看護として何を大事に考えていく必要があるのかなどをこれまでの看護過程や学んできたことをベースに考えていくような指導を行った。そのためにも、教員間においても内容に関して十分に検討を行った。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習・実習】</p> <p>看護総合演習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。実習につながる演習であるためどのようなことに関心を持っているのか、などを具体的に聞きながら、主体的に学ぶ方向に助言を行った。各論実習と重なり、全員でディスカッションができる時間はあまりなかったが、進度の早い学生から他の学生へと助言をするように勧めた。</p> <p>看護総合実習については、学生自ら取り組む実習として演習に引き続き実習内容を確認し、臨床側と調整を行った。また、実習終了後は個別にレポート指導を行った。</p> <p>総合演習・実習の報告会を実習施設で行い、直接、指導者（多職種）からのコメントもいただいたことで、学生たちの行ったケアやまとめたレポートの有意義な振り返りとなった。</p>
<p>授業科目名【老年看護学方法論】</p> <p>高齢者に起こりやすい症状とケアについては、基本的な疾患や症状はすでに学んでいるため、高齢者では特に気を付けるべきことについて具体的な実習場面を盛り込み、講義を行った。特に認知力の低下した高齢者については一般的なかかわりの原則は理解しているが、実習終了した学生に具体的に実習場面や困難に感じたことどのようなケアを行ったのかを話してもらうことで、具体的な場面をイメージしながら講義を聞くことができた。高齢者を理解するために必要な知識を習得するのみではなく、実践に生かすことを目指しながら講義を行った。</p>
<p>授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】</p> <p>施設実習で1週間と短いため、その中でいかに療養者の全体像を捉えられるのかを意識して指導した。特に学生と療養者とのかかわりの場面を逃さずに確認し、その関わりから何を考えたのかを確認するように心がけた。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。また、今年度から受け持ち療養者のライフストーリーを聞き取る課題に加え、レクリエーションの企画、実践を課題とした。担当療養者のみではなく、フロアに入所する高齢者全体へと目を配ることや、レクリエーションの内容について積極的に看護以外のスタッフに相談をする学生が多くみられ、様々な職種との関わりを行うこととなった。</p>
<p>授業科目名【看護学（栄養学科）】</p> <p>栄養学科の学生でもなじみのある、また、今後必要となる疾患を取り上げた。3、4年生であるため、ある程度の知識はあると考えたが、その都度、用語の確認などを行い、講義を進めていった。事例をもとにアセスメントについて個人作業を行った際には、学生個人のわからないところを確認していった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001年4月～現在に至る
日本老年看護学会		2003年4月～現在に至る
日本老年社会科学会		2003年4月～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2008年6月～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016年5月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 地域在住の女性高齢者における尿失禁についての実態調査	共著	2019年11月	第39回日本看護科学学会学術集会 (於：石川)	地域在住の女性高齢者の抱える尿失禁の実態や尿失禁による生活への影響を把握した。尿もれありは、約半数であった。しかし、年齢区分と尿失禁の有無や生活への影響では有意差はなかった。また、尿パッドをつけている割合は7割という結果であった。 共同発表者名：吉原悦子、丸山泰子、金子由里、溝部昌子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	2019年度西南女学院大学共同研究費	○吉原悦子 (谷川弘治) 今村浩司 樋口真己 (石丸美奈子)	1,325,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- 学生募集委員 2019年4月～2020年3月
- 学生募集関連：模擬授業（若松高校、東鷹高校、東九州龍谷高校）
学科説明・校内案内（戸畑高校、新宮高校）
ゆめみらいワーク
高校訪問（中津北高校、中津南高校、東九州龍谷高校）
- キャンパスハラスメント相談員 2019年4月～2020年3月
- 北九州市民カレッジ 講師
- 地域貢献活動：学生と共に「尿漏れを予防しよう」を行った。（於：井堀市民センター 2019年9月）

福 祉 学 科

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 荒木 剛	職名 准教授	学位 修士 (社会福祉学)
---------	--------	---------------

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方。 ・ 社会福祉士養成教育における実習のあり方。

担当授業科目
<p>基礎実習 (1 年次通年)、福祉入門 (1 年次通年)、介護技術演習 (1 年次後期)、高齢者福祉論 (2 年次通年)、相談援助実習指導 I (2 年次通年)、相談援助演習 II (2 年次前期)、相談援助演習 III (2 年次後期)、高齢者支援学 I (2 年前期)、相談援助実習指導 II (3 年次通年)、相談援助実習 (3 年次通年)、相談援助演習 IV (3 年次前期)、相談援助演習 V (3 年次後期)、専門研究 I (3 年次通年)、高齢者支援学 II (4 年前期)、社会福祉特講 II (4 年次後期)、専門研究 II (4 年次通年)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎実習】</p> <p>本科目は、1 年次開講の福祉基礎科目 (選択) であり、対人援助の実践現場で体験型実習を行うものである。講義は、学生を 3 グループに分け、各教員による担当制とした。実習前には、対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先を理解させ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を通して、実習体験から得た学びや気づきの振り返りを行った。</p>
<p>授業科目名【福祉入門】</p> <p>本科目は、1 年次開講の福祉基礎科目 (必修) であり、学生の社会福祉への動機・関心を高めることを目的としている。講義では、初学者である 1 年生が福祉課題の現状や対人援助職の魅力・やりがいを理解できるよう、統計資料や DVD 等を活用した。また、授業全体のマネジメントを担い、教授内容の検討や外部講師との日程調整等を行った。</p>
<p>授業科目名【介護技術演習】</p> <p>本科目は、外部講師 2 名による介護技術の実技指導を主な内容としている。講義では、外部講師との連携を図り、使用物品の準備や講義環境の整備等を行った。また、單元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく、介護者としての視点や考え方の習得度を把握した。</p>
<p>授業科目名【高齢者福祉論】</p> <p>本科目は、社会福祉士指定科目の 1 つである。講義では、毎回、教科書を中心としたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、適宜、新聞記事や DVD 等を活用し、最新情報の提供を行った。講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。</p>

<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】</p> <p>本科目は、相談援助実習（3年次）の実施に向けた準備学習を主な内容としている（高齢者福祉領域を担当）。講義では、グループ学習やDVD等の視覚教材、高齢者体験セット等を活用し、実習領域・施設や利用者理解が深まるよう工夫した。また、見学実習により実習内容のイメージ化と動機づけを行った。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】</p> <p>本科目は、相談援助実習（3年次）の事前・事後の学習指導を主な内容としている（高齢者領域福祉を担当）。実習前には、実習計画書、個人紹介票、誓約書等の作成指導を通して、学生の動機づけを行った。実習後には、個別面談やケアプラン報告会、実習報告会を通して、実習体験の学び・気づきを深めさせた。また、実習期間中は、巡回訪問や帰校日において、個別指導及び実習状況の確認を行った。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習】</p> <p>本科目は、社会福祉士受験資格取得のための学外実習（180時間）を行うものである（高齢者福祉領域を担当）。実習を実施するにあたり、実習指導者との連絡・調整を密に行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、新規実習施設の開拓や実習指導者協議会（9月）による実習指導者との連携にも努めた。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅱ】</p> <p>本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法、記録等について教授した。また、毎回、各人に意見発表の機会を与え、主体的な態度を引き出せるよう心がけた。さらに、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等を積極的に取り入れ、体験・参加型の講義となるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】</p> <p>本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、要支援高齢者の事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。 ※相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴはオムニバス形式のため、講義内容・方法は同じ。</p>
<p>授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】</p> <p>本科目は、本学（福祉、看護、栄養学科）、九州歯科大学、西日本工業大学の3大学による合同講義である。内容は、アクティブ高齢者への支援について、講義とPBL（事例検討）を通して検討するものである。講義では、他大学・学科の学生が理解を深められるよう、内容や資料を工夫した。また、PBLにおいては、3大学の学生が多職種連携の視点から議論できるようファシリテートの方法を工夫した。</p>
<p>授業科目名【高齢者支援学Ⅱ】</p> <p>本科目は、本学（福祉、看護、栄養学科）、九州歯科大学、西日本工業大学の3大学による合同講義である。内容は、実習（ケアハウス）およびPBLを通して、虚弱高齢者の支援を検討するものである。講義では、PBLのファシリテーターを担い、各専門性に基づく議論が深まるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】</p> <p>本科目は、4年次の開講科目であり、社会福祉士国家試験対策としての位置づけもある。講義では、高齢者福祉を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉士会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本介護福祉学会 日本ケアマネジメント学会		1998年4月～現在に至る 2002年3月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2008年1月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 地域包括支援センターにおける社会福祉士の実践上の課題－個人属性・組織の運営及び実践状況からの検討－	単	2019年4月	『ソーシャルワーク研究』45(1)	① 地域包括支援センターにおける社会福祉士の実践実態を把握するとともに、個人属性と組織の運営上との関連を検討したもの。 ② P51 - P58
(学術論文) 地域包括支援センターにおける地域ケア会議の実施状況－社会福祉士の実践面への効果について－	単	2020年3月	『九州社会福祉学』第16号	① 地域包括支援センターが主催する地域ケア会議の実施状況と会議実施による社会福祉士の実践面への効果について検討したもの。 ② P1 - P14

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市社会福祉協議会 (権利擁護・市民後見センター運用委員会)	委員	2009年4月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 (福祉人材バンク事業運営委員会)	委員	2012年4月～2020年3月
北九州市社会福祉協議会 (総合企画委員会)	委員	2018年4月～現在に至る
社会福祉法人兼恵園 (評議員会)	評議員	2017年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<p>教務委員 (2019年4月～現在に至る)</p> <p>地域連携室室員 (2016年8月～現在に至る)</p> <p>COC+3 大学連携講義検討部門・公開講座部門 (2015年11月～2019年3月)</p>
--

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	稲木 光晴	職名	教授	学位	博士 (体育科学) (筑波大学, 1994 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
運動生理学	持久性パフォーマンス

研 究 課 題
持久性競技パフォーマンスの向上に関する研究

担 当 授 業 科 目
運動と健康 (前期) (看護学科) 運動と健康 (福祉学科) チームスポーツ (前期) (看護学科) チームスポーツ (前期) (福祉学科) チームスポーツ (前期) (栄養学科) チームスポーツ (前期) (英語, 観光文化学科) 生涯スポーツ (後期) (看護学科) 生涯スポーツ (後期) (福祉学科) 生涯スポーツ (後期) (栄養学科) 生涯スポーツ (後期) (英語, 観光文化学科) 運動処方論 (後期) (福祉学科) 専門研究 I (通年) (福祉学科) 専門研究 II (通年) (福祉学科) 母性の運動科学 (前期) (助産別科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【運動と健康】 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。
授業科目名【チームスポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。
授業科目名【生涯スポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。

<p>授業科目名【運動処方論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 机間指導や質問をすることによって、学生の理解度合いをチェックしながら授業を進めた。 2. 授業の最初に小テストをすることで、授業の復習ができ、内容を理解しているかのチェックを行った。
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人で興味のあるテーマに関するキーワードを手がかりに文献検索を行わせた。 2. 得られた原著論文等の要旨を読ませることによって、研究におけるオリジナリティー、方法論の重要性を理解させるようにした。
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 2. 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
<p>授業科目名【母性の運動科学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する感想や質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本体力医学会 American College of Sports Medicine	評議員 (1999年～)	1988年4月～現在に至る 1993年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
日本高等教育評価機構	評価員	令和元年度

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

福祉学科長 人事委員長 衛生委員 保健福祉学研究所 運営委員

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 今村 浩司	職名 教授	学位 修士(福祉社会)(福岡県立大学)
----------	-------	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健福祉)領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健福祉)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研究課題
メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究 精神保健福祉士の専門性向上に関する研究 精神障害者の成年後見に関する研究 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

担当授業科目
相談援助の基盤と専門職(福祉学科1年通年必修4単位) 福祉入門(福祉学科1年前期必修2単位) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(福祉学科3年前期選択4単位) 精神保健学(福祉学科3年後期選択4単位) 精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(福祉学科3年通年選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(福祉学科2年後期選択1単位) 精神保健福祉援助演習Ⅲ(福祉学科4年後期選択1単位) 精神保健福祉援助実習Ⅰ(福祉学科3年選択4単位) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位) ボランティア概論(保健福祉学部の看護学科・福祉学科・栄養学科1年前期選択1単位) ボランティア概論(人文学部の英語学科・観光文化学科1年前期選択1単位) 専門研究Ⅰ(福祉学科3年通年必修2単位) 専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【相談援助の基盤と専門職】</p> <p>福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、刑務所福祉専門官やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。</p>

<p>授業科目名【福祉入門】</p> <p>対人サービスを行う福祉専門職養成のために、福祉学科4名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。毎時間アクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対するの援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間アクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健学】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修である。可能な限り臨場的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神保健学の実際を、視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間アクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神障害者地域生活支援論】</p> <p>精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対するの総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解してきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間アクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士レーン担当の3人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対する理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】</p> <p>上記同様3人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対するのイメージも膨らませるよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】</p> <p>精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。</p>

授業科目名【ボランティア概論】

人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

14名のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考慮して、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に精神科病院や刑務所等の施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的なイメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスをし、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生の合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年～現在）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書等) 1. 21世紀の現代社会福祉用語辞典	共	2019年6月	学分社	①社会福祉関係者等に対しての社会福祉用語辞典。主として精神保健及び精神障害者福祉の分野を担当した。 ②編集 九州社会福祉研究会 ③担当部分「医療保護入院」「ウイニコット, D」「うつ病」「感情障害」「感情転移」「感情鈍麻」「精神障害者短期入所事業」「精神障害者地域生活援助事業」「心神耗弱」「公共の福祉」「済世顧問制度」「社団医療法人」「国民国家」「公的扶助」「救貧事業」 ④総頁数 471 頁 A5版
(学術論文・総説 研究ノート 報告等) 1. 北九州成年後見センターの実践活動～法人後見における社会福祉専門職の役割について～	共	2019年9月	「医療ソーシャルワーク研究」No.9	① 北九州成年後見センターにおける実践活動の中で、特段ユニークである法人後見について整理した。またその中で、法律専門職と福祉専門職とのチーム形成にて実践するのであるが、とりわけ福祉専門職の役割について整理し、展望を論じたものである。 ② 発行 日本医療ソーシャルワーク学会 ③ 54 頁から 58 頁を執筆

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	西南女学院大学 共同研究費	○吉原悦子、谷川弘治、今村浩司、樋口真己、笹月桃子、石丸美奈子	1,350,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001年4月～
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012年7月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月～
北九州地区社会福祉専門職5団体連絡協議会	代表世話人	2006年4月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月～
北九州成年後見センター	理事	2006年3月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006年4月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008年7月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013年4月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013年4月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014年6月～
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016年8月～

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

西南女学院大学・短期大学部 地域連携室 室長
西南女学院大学 入学試験 委員
西南女学院大学 精神保健福祉研究会 顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会）
福祉学科 精神保健福祉士養成レーン 担当
教員免許状更新講習会学 内開催分 講師（養護教諭）
北九州市年長者研修大学校 シニアサマーカレッジ 学内開催分 講師

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	上村 眞生	職名	准教授	学位	博士 (教育学) (広島大学 2012 年)
----	-------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・ 保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。 ・ 教育効果に関する研究 ・ 幼児の言葉に関する研究

担 当 授 業 科 目
保育原理 (前期) 保育内容 環境 (前期) 保育内容 総論 (前期) 保育内容 言葉 (後期) 保育の表現技術Ⅳ (後期) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習Ⅱ (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ (通年) 保育実践演習 (通年) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。毎年受講人数の増減があるため、授業進行においてグループ化等に配慮している。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。
授業科目名【保育内容総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

<p>授業科目名【保育内容言葉】</p> <p>保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。</p>
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】</p> <p>保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。</p>
<p>授業科目名【保育実践演習】</p> <p>保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。</p>
<p>授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。</p>
<p>授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	2005年6月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	2006年7月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	2007年8月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	2009年5月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	特になし	2018年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
特記事項なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
多声的保育評価の開発：子どもと保護者の声 を評価に導入する方法	科学研究費	○（松井 剛太） 上村 眞生 （松本 博雄） （水津 幸恵） （片岡 元子） （中西 さやか） （岡花 祈一郎） （大野 歩） （越中 康治） （佐藤 智恵）	200,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
九州地域における学生ネットワークの構築- 学生の主体的学びを促進するために-	西南女学院	624,000 円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001年4月～現在に至る
・福岡県保育協会遠賀中間地区	研修コーディネーター	2018年4月
・福岡県保育士等キャリアアップ研修	指定講師	2017年～

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・情報システム管理運用委員 2017年4月1日～現在に至る
- ・PHOTO部 顧問 2010年12月14日～現在に至る
- ・FD委員 2018年4月～現在に至る
- ・学生募集委員 2019年～現在に至る
- ・WEST管理責任者 2018年4月～現在に至る

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	岡田和敏	職名	教授	学位	修士(社会学)(佛教大学 1984年)
----	------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研究課題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

担当授業科目
医療福祉論 (2年前期) 福祉行財政と福祉計画 (3年前期) 社会福祉特講 (4年後期) 相談援助演習 I (1年後期) 相談援助演習 II (2年前期) 相談援助演習 III (2年後期) 相談援助演習 IV (3年前期) 相談援助演習 V (3年後期) 相談援助実習指導 I (2年前・後期) 相談援助実習指導 II (3年前・後期) 相談援助実習 (3・4年) 専門研究 I 専門研究 II

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【医療福祉論】 身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰しもに共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。
授業科目名【福祉行財政と福祉計画】 社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。福祉行財政の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度、社会福祉の基礎構造改革、支援体制の実際を取り上げて解説した。 また、各種福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明し、計画策定の実際を解説した。

<p>授業科目名【社会福祉特講 II】</p> <p>『福祉行財政と福祉計画の動向』</p> <p>社会福祉の領域、特に福祉行財政と福祉計画における制度・政策の最新動向について理解出来るよう講義を行った。</p> <p>『保健医療施策の動向』</p> <p>保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 I】</p> <p>社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 II】</p> <p>ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践について考えさせる形で学ばせた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 III・IV】</p> <p>問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 V】</p> <p>地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導 I】</p> <p>医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導 II】</p> <p>他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習】</p> <p>学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 専門研究 I】</p> <p>病気やケガを中心に据え、各自が考え、気付き、そして、人々の生活課題から研究してみたいとなったことを見つけられるよう指導した。</p>
<p>授業科目名【 専門研究 II】</p> <p>専門研究 I から各自が気づき研究していくテーマについて個別に指導している。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会 福岡県医療ソーシャルワーカー協会 佐賀県医療ソーシャルワーカー協会 日本医療社会福祉協会 日本医療ソーシャルワーカー協会 日本キリスト教社会福祉学会		1990年10月～現在に至る 1985年4月～現在に至る 1998年6月～現在に至る 1998年4月～現在に至る 2010年9月～現在に至る 2001年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) (その他) 地域活動について	単	7/16 12/12	北九州市立年長者研修大学校「穴生学舎」	研修講師 教育研究業績 総数 (2020年3月31日現在) 著 書0 (内訳 単 共) 学術論文0 (内訳 単 共) 翻 訳0 (内訳 単 共) 学会発表0 (内訳 単 共) そ の 他2 (内訳 単 共)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市民生委員推薦委員会	委員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月～現在に至る
北九州市小倉南区社会福祉協議会評議員	評議員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市民カレッジ企画運営委員会	運営委員	2017年12月1日～2019年11月30日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク第三者委員会	委員	2020年5月～2021年3月31日
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013年5月～現在に至る
社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2017年4月1日～2021年3月31日
社会福祉法人 孝徳会苦情解決委員会 入所判定委員会	第三者委員長 委員長	2003年4月～現在に至る 2003年4月～現在に至る
社会福祉法人 敬寿会	理事	2019年6月～2021年6月
特定非営利法人 生活支援館「パートナー」	理事	2002年3月～現在に至る
社会福祉法人 療養介護事業所「ひなた家」	理事	2019年6月15日～2021年6月14日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ① 研修委員会委員 職員研修懇談会委員長
職員研修懇談会委員と共に研修内容の企画運営を行った。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶原 浩 介	職名	講師	学位	博士 (社会福祉学)
----	--------	----	----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	家族福祉、子ども福祉、ファミリーソーシャルワーク、 ソーシャルワーク

研 究 課 題
社会福祉学に関して、地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、 精神疾患など)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上でのみえて くる語りを対象として、主に質的研究・量的研究を用いて考察する。家族が抱える生活課題の現状及び傾向、 家族支援における視点、援助技術の生成などについて研究している。

担 当 授 業 科 目
精神保健福祉に関する制度とサービス (前期) 地域福祉論 (通年) 精神障害者の生活支援システム (後期) 相談援助演習 I (後期) 精神保健福祉援助実習指導 I (通年) 精神保健福祉援助実習指導 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【精神保健福祉に関する制度とサービス】</p> <p>メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【地域福祉論】</p> <p>地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【精神障害者の生活支援システム】</p> <p>精神障害者の生活支援の意義と特徴およびそれに関する制度と施策、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導 I】</p> <p>福祉学科3年生を対象にした実習科目。実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう工夫した。</p>

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】

福祉学科4年生を対象にした実習科目。3年次の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指しているよう、4年次の実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	九州地域部会事務局員（2018年6月～現在に至る）	2014年6月～現在に至る
日本地域福祉学会	正会員（2019年6月～現在に至る）	2019年6月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会	正会員（2014年7月～現在に至る）	2014年7月～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会	正会員（2012年5月～現在に至る）	2012年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 「要保護児童対策地域協議会支援者の専門性と限界性を越えた対話活動に基づく家族支援の在り方に関する研究-支援者が捉える課題と創造的な対話活動の展開についての一考察-」	単 著	2020年3月	熊本学園大学社会関係学会・『社会関係研究』第25巻・第2号・1-25頁	本論文は、要保護児童対策地域協議会(以下「要対協」と記載)の支援者27人を対象に、(1)家族支援の課題整理、(2)支援者同士の創造的な対話活動について明らかにすることを目的に質問紙調査をした。その結果、支援者が捉える家族支援の課題は、「対話を創る場」「多角的な情報の統合」等を捉えた。創造的な対話活動は、【共有】【明確化】【探求】【統合】【創造】【具体化】を捉えた。要対協の対話活動は【創造】の過程が「要対協の機能及び役割」の〈役割分担〉する上で重要になることを示した。(※査読有)
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 「要保護児童対策地域協議会による家族支援の対話活動の在り方に関する研究 ― A 地域における家族支援の対話活動の構成過程についての一考察 ―」	単 独	2019年 6月	日本社会福祉学会 九州部会 第60回研究大会, 口頭発表(会場: 北九州市立大学)	要保護児童対策地域協議会の対話活動に関する報告を行った。主な目的は、担当者の家族支援における課題と対話活動の構成過程について明らかにすることである。個別ケース会議に参加する担当者 27 人を対象にインタビュー調査を実施した結果、23 人の回答を得た(回収率 85.2%)。その結果、「対話を創る場」等の課題が捉えられ、【共有】【明確化】【探求】【統合】【創造】【具体化】といった対話活動における構成過程が特徴として捉えられた。
				教育研究業績 総数 (2020年4月17日現在) 著 書 0(内訳 単0, 共0) 学術論文 1(内訳 単1, 共0) 翻 訳 0(内訳 単0, 共0) 学会発表 1(内訳 単1, 共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域包括ケアシステム推進下における介護系NPO の役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、梶原浩介	4,420,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興会	2,210,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員会	調査研究班	2014年11月～現在に至る
日本精神保健福祉士協会	会員	2014年5月～現在に至る
福岡県精神保健福祉士協会	会員	2019年12月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2019年12月～現在に至る
北九州市民カレッジ企画運営委員会	企画運営委員	2019年12月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

宗教委員会 委員 2019年4月 ～ 現在に至る ・副委員長 2020年4月 ～ 現在に至る 学生アドバイザー 2019年4月 ～ 現在に至る

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	金谷めぐみ	職名	講師	学位	修士 (芸術学) (日本大学 2003 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
キリスト教音楽 子どもの音楽表現 モーツァルトの声楽作品	モーツァルトの声楽作品

研究課題
モーツァルトの声楽作品について文献学的に考察し、声楽上の意義を検討する。

担当授業科目
保育の表現技術Ⅰ (前期) (福祉学科) 保育の表現技術Ⅱ (後期) (福祉学科) 西洋の音楽と文化 (前期) (人文学部 英語学科・観光文化学科) 西洋の音楽と文化 (後期) (保健福祉学部 看護学科・福祉学科) 保育実践演習 (通年) (福祉学科) 保育内容表現 (前記) 保育内容総論 (後期) 初年次セミナーⅠ (前期), Ⅱ (後期) (福祉学科) 保育実習指導Ⅰ (通年) (福祉学科) 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅰ】 学生に到達目標を具体的に示すことで、学習意欲の向上をはかった。ピアノの実技指導では、練習ノートに課題を達成するための具体的な練習方法を記入するシステムを実施し、各自が課題を把握し、明確な目標を立て、具体的に練習に取り組めるよう工夫した。歌唱では、表現豊かに歌うことを目的とし、歌詞の内容について話し合う等の時間を設け、季節感を考慮した子どもの歌のレパートリーを増やすよう、工夫した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅱ】 歌唱では、保育の表現技術Ⅰで行った内容を踏まえて、さらに豊かな表現と歌声について検討し、学生自ら音楽を表現することができるよう、独唱および合唱において実践的な指導を行った。ピアノ奏法においては、弾き歌いを目標として保育の現場を想定した伴奏の体験により、演奏技術の向上を図った。
授業科目名【西洋の音楽と文化】 西洋音楽の歴史について、とくにキリスト教音楽について、讃美歌を用いて解説した。学生が西洋音楽の歴史について理解するだけでなく、西洋の音楽文化と日本の音楽文化との接触について深く考えることができるよう授業内容を工夫した。また、讃美歌への関心を高めるため、授業で学生がリクエストした讃美歌について解説し、讃美歌成立の知識をもって讃美できるよう工夫した。
授業科目名【保育内容・表現】 表現領域だけでなく他領域をふまえた表現について解説し、保育内容について総合的な理解を深めるよう工夫した。また、子どもの表現を引き出すためには、学生自身が自分の表現について深める必要があることから、楽器の即興演奏および身体表現のワークを行うことで体験しながら学習できるよう工夫した。

<p>授業科目名【保育実習指導Ⅰ】</p> <p>実習の現場で行う設定保育を想定し、指導案の作成と手遊びや絵本の読み聞かせの発表を行い、改善すべきところや感想を全員で共有することで、実習での実践力を養うことができるよう工夫した。また、指導案作成においては、個別の指導を繰り返すことで、一人ひとりの指導案を書く力を養うことができるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【保育実習指導Ⅱ】</p> <p>「保育実習指導Ⅰ」に引き続き実習の現場を想定し、指導案の作成および設定保育の発表を行った。実習前に設定保育を想定し、発表することでその反省から指導案の内容をより深め、保育現場における実践力を養うことができるよう工夫した。また、個別指導において十分な時間を確保し学生の学習内容を補強するよう努めた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅠ】</p> <p>レポートの型とレポート作成の手順について解説した。学生の文章を書くことへの苦手意識を取り除くために、身近にあるテーマを扱った解説と演習による授業を行った。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】</p> <p>初年次セミナーⅠで学んだ内容をもとに、日常生活における身近な疑問や問題、課題をテーマとして、グループで調べた内容を整理して発表するなど、セミナーⅠとの関連性をもって学習できるよう工夫をした。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本演奏連盟		2009年12月～現在に至る
日本保育学会		2012年10月～現在に至る
日本声楽発声学会		2013年～現在に至る
日本音楽療法学会		2018年3月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 原著：モーツァルトの《声楽のためのソルフェージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393(385b)》とオペラ《ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni K.527》のエルヴィラのアリア「あの恩知らずの人は私を裏切った Mi tradiquell'alma ingrata K.540c」	単著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	①《ソルフェージュ》の旋律とアリアの旋律との関係、すなわち、《ソルフェージュ》の旋律にエルヴィラのアリアの旋律が存在していたことを報告し、その意義を検討した。 ②p.47-53
(翻訳)				
(学会発表) 日本声楽発声学会「歌のつどい」	単	2019年8月	日本声楽発声学会 夏季研修会 D 講座	学会会員による歌唱研究の発表。 場所：日本福音ルーテル教会

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(資格取得) リトミック指導者資格 (1、3歳児)	単	2019年4月	特定非営利活動法人 リトミック研究センター	リトミック指導者養成において、 1歳児および3歳児の指導法を習得した。
保育士	単	2019年10月	福岡県	保育士国家資格の取得
(研修会講師) 保育協会研修会講師	単	2019年11月	遠賀中間地区保育協会	保育士を対象者とした子どもの 音楽表現活動のワークショップ を実施。 場所：水巻いきいきホール

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
苅田キリスト教会 国立音楽大学同調会北九州支部 地域密着型 通所介護施設「和楽庵」 ふたば保育園	奏楽者 総会役員 音楽講師 リトミック講師	2006年～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2018年6月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

懇親会委員 合唱サークル クールベルフィーユ顧問 入学式の讚美指導 大学および短期大学部チャペルの讚美指導 西南女学院中学・高等学校讚美歌コンクール審査員および講評（2019年6月1日） クリスマス礼拝の讚美指揮、聖歌隊指導、独唱（2019年12月19日）

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	木村 茂喜	職名	准教授	学位	修士 (法学) (九州大学 1997 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、犯罪行為者、社会復帰支援

研 究 課 題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 犯罪行為者に対する社会復帰支援と社会保障のあり方

担 当 授 業 科 目
法学(前期) (看護学科) 法学(前期) (福祉学科) 日本国憲法(後期) (看護学科) 日本国憲法(後期) (福祉学科) 日本国憲法(後期) (栄養学科) 社会保障論 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 初年次セミナーI(前期) 初年次セミナーII(後期) 専門研究 I 社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【全講義科目】</p> <p>2019 年度後期より、コメントカード兼用のマークシート式出席カードを導入し、出席確認・登録作業の効率化を図るとともに、学生から講義内容に関する質問・意見・感想をより気軽に提出するための便宜を図った。学生から提出された質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。</p> <p>限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。</p> <p>講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。</p> <p>やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。</p> <p>授業科目名【法学】</p> <p>講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。</p>

<p>授業科目名【日本国憲法】</p> <p>抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。</p> <p>学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。</p>
<p>授業科目名【社会保障論】</p> <p>非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を2回（前期末・後期末）行った。</p> <p>講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p> <p>学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。</p>
<p>授業科目名【公的扶助論】</p> <p>最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。</p> <p>生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。さらに、貧困の実態について紹介するビデオ鑑賞も行った。</p> <p>講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p>
<p>授業科目名【司法福祉論】</p> <p>社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。</p> <p>制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、3名の外部講師（保護観察官・保護司・更生保護施設長）に講義を依頼した。</p>
<p>授業科目名【権利擁護論】</p> <p>成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。</p> <p>成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的なイメージを理解するための一助とした。</p> <p>講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p> <p>学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーI・初年次セミナーII】</p> <p>1年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。前期は「調べる」と「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。後期は、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1クラスを4グループに分けて「ディベート」を行った。</p>
<p>授業科目名【専門研究I】</p> <p>伊藤周平『社会保障入門』（筑摩書房、2018年）を講読し、現行の社会保障制度が抱える問題点や課題について、学生と積極的な議論を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月～2017年3月) 企画委員(2018年10月～現在に至る)	1995年12月～現在に至る
日本労働法学会		1998年5月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月～現在に至る
日本更生保護学会		2012年12月～現在に至る
日本障害法学会		2016年12月～現在に至る

九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013年4月～2014年3月)	1995年4月～現在に至る
社会法判例研究会		1995年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 『法学概論—身近な暮らしと法—』	共著	2019年11月	嵯峨野書院	①法学の講義における様々な方法論をミックスした方法を基本に、全体としては、伝統的な法学の講義にしたがって、法全般のガイドとなるように、また、各法の分野においては、できるだけ身近な事例を用いて解説している。これから「法」を学ぶ者に対して、いわゆる「リーガル・マインド」が涵養されるように努めている。 ②編著：國友順市・畑雅弘 執筆：齋田統・増尾均・木村俊郎・田畑嘉洋・吉行幾真・坂本学史・木村茂喜 ③担当部分：第10章 労働・社会保障と法 (261～283頁) 総頁数：299頁 ④A5判
『よくわかる公的扶助論—低所得者に対する支援と生活保護制度』	共著	2020年3月	法律文化社	①社会福祉士指定科目「低所得者に対する支援と生活保護制度」の内容に準拠したテキストである。公的扶助制度の中心である生活保護制度のほか、ホームレス問題、子どもの貧困、生活困窮者自立支援など、近年の政策動向や生活保護をめぐる代表的な裁判例についても解説する。 ②編著：増田雅暢・脇野幸太郎 執筆：西山裕・木村茂喜・嶋田佳広・濱畑芳和・河谷はるみ・廣田久美子 ③担当部分：第4章 生活保護基準の考え方 (65～78頁)・第6章 生活保護の動向 (93～101頁)・第9章 生活保護と財政 (127～132頁) 総頁数：184頁

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
『改訂版 社会福祉と法』	共著	2020年3月	放送大学教育振興会	<p>④A5判</p> <p>①放送大学の2020年度開講の総合科目「社会福祉と法」(20)(ラジオ開講科目、主任講師：大曾根寛放送大学教授)用の印刷教材(テキスト)である。社会福祉と法との関わりについての講義が中心であるが、社会福祉の領域において市民との人権がいかん尊重されるかだけでなく、社会福祉に関わる事業者、行政機関、立法機関、国際機関の役割と責任という観点からも論じている。</p> <p>②編著：大曾根寛 分担執筆：原田欣宏・廣田久美子・木村茂喜・奥貫妃文</p> <p>③担当部分：第8章 社会福祉における紛争解決・第9章 社会福祉における行政責任・第10章 刑事司法と社会福祉(141～198頁) 総頁数：296頁</p> <p>④A5判</p>
(学术论文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
放送大学 総合科目「社会福祉と法」 第7回～第9回	印刷教材執筆担当講師・放送 教材担当講師	2016年4月～2020年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

西南女学院大学生生活協同組合 理事長 2019年6月1日～2020年5月31日
図書委員会 委員 2018年4月1日～2020年3月31日
フォークソング部 顧問
KOIKOI 顧問

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 高口 恵美	職名 専任講師	学位 修士(社会福祉学)(福岡県立大学 2011 年)
----------	---------	-----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
1.子どもの「生活力」に着目したグループワーク 2.メンタルヘルス課題に対する集団認知行動療法	メンタルヘルス、グループワーク、子どもの生活力、ストレングス、学校ソーシャルワーク

研 究 課 題
子どもの貧困や虐待環境などが及ぼす様々な行動課題に対し、子ども自身がレジリエンスを高め、対応しうる力を高めるために必要なソーシャルスキルについて考察し、プログラムを作成する。

担 当 授 業 科 目
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(前期・後期)、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(前期・後期) 精神保健福祉援助演習Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅲ 初年次セミナーⅠ(前期)、初年次セミナーⅡ(後期) 専門研究Ⅰ(前期・後期)、専門研究Ⅱ(前期・後期) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(後期) 相談援助演習Ⅰ(後期) 精神保健福祉相談援助の基盤専門(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>精神科病院への実習に向け、支援を行う上で必要な精神疾患に対する理解や制度サービスに関する知識を深めることが出来るよう指導を行った。また、自分の意見や思いを言葉で発信するスキルを高めるため、グループディスカッションや発表の場を多く設けた。また、Ⅱでは地域実習に向け、精神障害者が地域で生活する上での困難さについて理解し、一人ひとりがその人らしく生きるために、精神保健福祉士として担える役割について、ディスカッションを用いて理解を深めた。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅱ・Ⅲ 】</p> <p>精神科医療に限らず、メンタルヘルスに関する支援を行う上で必要な「家族・組織システムを理解する」という広い視点でのアセスメントを意識した演習を取り入れた。また、人のとらえ方(認知)と行動の関連性について理解を深めるため、自己覚知および他者理解の上での違いを受け入れるなどの視点を伝えた。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ・Ⅱ 】</p> <p>学生同士の交流の場面を多く取り入れ、お互いの気づきあいを促す工夫を盛り込んだ。併せて、自己理解を高める、多角的に物事を捉える、他者に意見を伝える、チームで合意形成を図るといった視点を深める題材を用意して演習に取り組んだ。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉相談援助の基盤(専門) 】</p> <p>精神保健福祉士を目指すうえで基礎的な知識を広く身に着ける教科であるため、テキストに沿って知識の共有を図ることを重視しながら、一方で現場に出たときに役立つよう、要約する、見やすくまとめるなどノートを活用した授業展開を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会 県立大学社会福祉学会 日本学校ソーシャルワーク学会 心理臨床学会		2009年～現在に至る 2010年～現在に至る 2009年～現在に至る 2017年～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				う

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
子どもの生活力を高めるプログラム考案	日本私学学校 振興共催事業 団	400,000円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 社会福祉士会 精神保健福祉士協会 北九州市精神医療審査会 大牟田市地域福祉計画推進委員会 福岡県教育委員会義務教育課	理事(2012～現在に至る) 委員 地域福祉推進委員 スクールソーシャルワーカーSV	2012年～現在に至る 2005年～現在に至る 2018年～現在に至る 2018年～現在に至る 2013年～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

ハラスメント委員会 委員 2018年4月～ 学生相談室 アドバイザー 2018年4月～ 地域活動支援室 助成活躍委員 2018年 月～

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9))

氏名 杉谷修一	職名 准教授	学位 教育学修士(九州大学 1990年)
---------	--------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション

研究課題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2) 教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3) ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担当授業科目
道徳教育の理論と実践(前期)(看護学科) 道徳教育の理論と実践(前期)(福祉学科) 道徳教育の理論と実践(前期)(栄養学科) 道徳教育の理論と実践(前期)(英語学科) 社会調査の基礎(前期)(福祉学科) 現代と教育(前期)(看護学科) 現代と教育(前期)(福祉学科) 現代と教育(前期)(栄養学科) 現代と教育(前期)(英語学科) 現代と教育(前期)(観光文化学科) 教育原理(後期)(福祉学科) 教育社会学(後期)(看護学科) 教育社会学(後期)(福祉学科) 教育社会学(後期)(栄養学科) 教育社会学(後期)(英語学科) 社会学概論(後期)(福祉学科) 基礎演習(通年)(福祉学科) 教職実践演習(後期) 教育実習Ⅰ(福祉学科) 養護実習(福祉学科) 事前および事後の指導三期にわたる(福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 道徳教育の理論と実践 】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びつけた力を養うことを心がけた。次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。

<p>授業科目名【 社会調査の基礎 】</p> <p>国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などについて複数の比較を行うなど工夫して理解を助けた。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 現代と教育 】</p> <p>現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるよう心がけた。現代の動向についてはVRやARなど仮想空間上の遊びと現実の遊びや消費行動との結びつきについて解説した。</p>
<p>授業科目名【 教育社会学 】</p> <p>子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関係をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。発展的学習として、キーワードを用いて複雑な対象を説明する方法について解説した。</p>
<p>授業科目名【 社会学概論 】</p> <p>国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や身近な現象でたとえた具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。</p> <p>また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本教育社会学会	九州教育学会紀要編集委員 (2009年4月～2011年3月、2016年3月～2016年12月)	1985年6月～現在に至る
九州教育社会学会		1985年6月～現在に至る
日本教育学会		1990年5月～現在に至る
九州教育学会		1990年5月～現在に至る
日本社会学会		1990年11月～現在に至る
日本教育方法学会		1997年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) ゲーミフィケーションにおける経験の組織化	単	2020年3月1日	西南女学院大学紀要 Vol.23	① 目標達成に合理的にデザインされているゲーミフィケーションにおいて、参加者の主体性を可能とする条件について、ゲーム内ゲームのデザインのあり方を中心に検討した。 ② 杉谷修一 ③ (P71～P80)
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー講師	2007年9月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教職課程委員 2014年4月1日～現在に至る

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	杉本 有紗	職名	講師	学位	人間環境学(修士)(九州大学2003年)
----	-------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
認知症高齢者の臨床心理学的援助	認知症、高齢者、施設入所、対人交流、コミュニケーション役割、役割意識、援助的介入

研究課題
認知症高齢者の臨床心理学的援助に関して、個別の実践事例を積み重ね、具体的援助方法を考察する。また、援助対象となる認知症高齢者の心理について、対人交流および役割意識という観点から考察していく。その際、援助プロセスに伴う認知症高齢者の心理的变化プロセスについても考察する。さらに、認知症高齢者の対人交流形成とその効果を評価するため、コミュニケーション役割や役割意識の評価方法についても検討していく。

担当授業科目
初年次セミナーⅠ(前期)(福祉学科) ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) 心理学概論Ⅰ(前期)(福祉学科) 発達心理学Ⅱ(前期)(福祉学科) 発達臨床心理学演習(前期)(福祉学科) 初年次セミナーⅡ(後期)(福祉学科) 臨床心理学概論(後期)(福祉学科) 社会心理学(後期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅲ(後期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期・2コマ)(福祉学科) コミュニティ心理学(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科) 専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2019年度は12~13名のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個人へのフィードバックを重ね、最後に一つのブックレポートを作成させた。各学生がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】</p> <p>本演習では、新入学というタイミングでヒューマンサービスの基礎となる対人場面でのスキルアップを目指した。12名前後のグループを1名の教員で担当し、各学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回小レポートを課し、フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。</p>
<p>授業科目名【 心理学概論Ⅰ 】</p> <p>本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究手法、基礎となる理論や著名な研究、導き出された理論等、心理学の概論について解説を行った。分野が多岐に渡るため、学生の記憶の定着を図るべく、毎回、前回の内容を振り返る時間を設け、前回の授業後に提出された小レポートを踏まえて補足説明を行った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。試験前には、積極的に質問を受け付け、研究室での個別指導も行った。</p>

<p>授業科目名【 発達心理学Ⅱ 】</p> <p>本年度は受講生が0名であったため、開講していない。</p>
<p>授業科目名【 発達臨床心理学演習 】</p> <p>本演習では、事例論文についての解説ののち、論文講読を行った。発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を学生が持ち寄り、論文講読、学生同士のディスカッションを行うことで、この分野の理解を深めるよう促した。学生の興味に沿って積極的な発言を促したりするなど、学生の参加しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。論文の比較についての課題を課すなど、各臨床分野での最新の研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】</p> <p>本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2019年度は12～13名のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。人を対象とする研究の考え方の要約・読解、データの収集方法、データのまとめ方、レポートの形式をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個人へのフィードバックを重ね、最後に一つのレポートを作成させた。各学生がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 臨床心理学概論 】</p> <p>本講義では、臨床心理学の基礎となる精神分析理論、学習理論、人間性心理学の理論と、フロイト、エリクソン、クライン等の発達理論、またそれらの理論に基づく心理療法、心理アセスメントについて解説を行った。専門用語などは初めて聞く学生も多いため、テキストに加え補足プリントを配布し、語句や概念の理解を促した。毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 社会心理学 】</p> <p>本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて小レポートにするよう促し、次回始めに授業内にてフィードバックし、知識の定着を図った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートのフィードバックを行うことで、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 福祉臨床心理演習Ⅲ 】</p> <p>本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達の側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮、アセスメントのフィードバックのあり方について、演習を行った。また、認知症高齢者の心理についてビデオや文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、前後のアセスメントについて、演習を行った。具体的な手続きを学ぶことで、学生が心理的課題への理解を深められるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 心理学基礎実験 】</p> <p>本演習では、心理学の具体的な研究手続きについて演習を行った。目的に沿った研究方法、データ収集、データ解析を指導した。また、問題と目的、方法、結果、考察という形式に則った論文レポートにまとめる作業について指導した。学生の理解、課題の進み具合に沿って指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 コミュニティ心理学 】</p> <p>本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。4年次開講科目ということもあり、一方的な講義ばかりではなく、疑問提示や質問をする機会を積極的に設けることで、議論しながらこれまで身につけた臨床心理学や社会福祉学の理論と比較する中で、コミュニティ心理学の特徴について理解を深めるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 専門研究Ⅰ 】</p> <p>本年度は受講する学生は1名であった。学生の関心のある領域の研究論文を選択するよう課題を課し、各専門分野における研究の動向と課題についてディスカッションを行った。また、その領域の古典的研究と理論について文献購読を行った。後半は、専門研究Ⅱに向けて、学生の関心のある領域を絞り込み、研究テーマを決定するまでのプロセスについて指導を行った。</p>

授業科目名【 専門研究Ⅱ 】

本年度は受講する学生は2名であった。前期前半にそれぞれの学生が自らの興味関心と先行研究に基づいて研究目的の決定を促した。その後、学生の進捗に合わせて研究目的の明確化、調査手続き、アンケート用紙の作成、データ収集のための倫理的配慮、データの統計的分析について指導を行い、1年間を通して研究レポートの作成を指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本心理臨床学会	会員	2001年～現在に至る
日本臨床心理劇学会	監事 (2012年4月～現在に至る)	2001年～現在に至る
日本リハビリテーション心理学会	会員	2002年～現在に至る
日本発達心理学会	会員	2007年～現在に至る
日本心理学会	会員	2008年～現在に至る

2 0 1 9 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 該当なし				
(学術論文) 該当なし				
(翻訳) 該当なし				
(学会発表) 該当なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
該当なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
該当なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	研究員	2019年4月～2020年3月（1年間）
大分県中津児童相談所	非常勤心理判定員	2019年4月～2020年3月（月1回）
北九州市立年長者研修大学校穴生学舎『傾聴ボランティア講座』	講師（集中講義）	2019年6月21日、7月5日、7月12日（3日間）

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

(大学) 公開講座委員会 委員 (学科) ヒューマンサービス基礎演習 担当 保護者向けニュースレター WGメンバー

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 通山 久仁子	職名 講師	学位 博士 (コミュニティ福祉学)
-----------	-------	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動、NPO、持続可能性

研 究 課 題
発達障害のある人の親が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性(「親当事者」性)を基盤とした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通じた「親当事者」への主体化過程とその意義について明らかにする。さらにこれらの活動の持続可能性に関わる課題について検討する。

担 当 授 業 科 目
ヒューマンサービス基礎演習 (前期) 相談援助演習Ⅰ (後期) 相談援助演習Ⅱ (前期) 相談援助演習Ⅲ (後期) 相談援助演習Ⅳ (前期) 相談援助演習Ⅴ (後期) 相談援助実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 福祉入門 (前期) 就労支援サービス論 (後期) 福祉経営論 (前期) 生命倫理 (後期) 社会福祉特講Ⅱ (集中) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】 初年次の演習科目であるため、ゲーム性のあるグループワークをできるだけ取り入れ、仲間づくりを促進できるようにした。ワークの内容も学生の希望を取り入れ、企画するようにした。このグループワークの中で、自分の意見を述べる機会を多く設け、自己表現力が養えるよう努めた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、内省する力を養えるように努めた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】 グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けた。福祉的課題・問題の理解については、難病当事者をゲストとして招き、講話を聴いたり、感想をもとにワールドカフェを実施したりした。

<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】</p> <p>本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。また教材については、学生の関心が高い虐待などの福祉課題を取り入れるようにした。そして学生がその技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。ロールプレイの際には、面接場面を録画し、学生が自身を客観的にふり返られるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅲ 】</p> <p>本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅳ 】</p> <p>本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。実習後の指導では、実習生の自己評価結果をレーダーチャートで示せるようにし、自身の到達度を視覚的に認識できるよう工夫した。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅴ 】</p> <p>本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であるため、実習で習得した知識や技術を総合して、学生が創意工夫しながら福祉課題に対する課題解決方法を見出していけるような演習となるよう努めた。また個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中で、学生の学びとしては馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得できるような事例を取り入れた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】</p> <p>実習前指導を行う本科目では、実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、基礎的知識の習熟度試験を行い、基本的な技術と知識を確認する機会を設けた。見学実習では、施設からのオリエンテーションだけではなく、現場体験の時間を組み入れ、見学実習後のふり返りとして、まとめのプレゼンテーションを行う機会も設けた。個別指導の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3年次の実習指導につなげられるよう心がけた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】</p> <p>実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの事例についてプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。</p> <p>また実習評価を標準化していくため、各施設と課題を共有し、共通認識を得られるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 福祉入門 】</p> <p>本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の回を担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。</p>

<p>授業科目名【 就労支援サービス論 】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また実践現場で障害者の就労支援や困窮者支援を展開している実践者の講話を取り入れたり、視覚教材を用いたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 福祉経営論 】</p> <p>本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。</p> <p>本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢が近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。</p>
<p>授業科目名【 生命倫理 】</p> <p>受講生がおらず、開講されなかった。</p>
<p>授業科目名【 社会福祉特講Ⅱ 】</p> <p>本科目は5人の教員によるオムニバス形式の講義である。4年次の国家試験対策として位置づけられており、「福祉サービスの組織と経営」、「就労支援サービス論」を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に、問題演習を取り入れながら実施した。</p>
<p>授業科目名【 専門研究Ⅱ 】</p> <p>学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の方法を指導した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		2004年～現在に至る
日本発達障害学会		2005年～現在に至る
障害学会		2009年～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
発達障害者の「親当事者」組織と多様なアクターの協働による地域生活支援に関する研究	日本学術振興会	○通山 久仁子	1,950,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害支援区分認定審査会	理事 委員	2008年6月～現在に至る 2013年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

【学生募集委員】

2018年度より本委員を務めている。リーフレット作成では、各資格取得後の将来像と在学生の様子をわかりやすく示すことに焦点を当て構成した。オープンキャンパスでは、学科で取得できる各資格の説明を中心に、各資格に関わる模擬講義を高校生も楽しめるようなワークを含めながら構成してもらうよう調整した。

【保健福祉学研究所運営委員】

2017年度より本委員を務めている。研究所の運営の補助を行った。

【社会福祉士国家試験対策講習会】

オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。今年度は週2コマ国試対策を行い、前期に穴埋め試験、過去問演習、後期に一問一答試験（基礎編、応用編）、過去問3年分の問題演習を継続して行い、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくるようにした。また個別面談の回数を増やし、特にフォローが必要な学生について、丁寧に個別指導を行えるようにした。

【高大連携・出前講義】

高校生が福祉の視点に触れ、福祉の仕事の楽しさを感じられることを目標に、福祉の仕事が求められている状況、社会福祉士がどのような仕事かについてわかりやすく伝えられるよう工夫した。また演習などを取り入れることで、大学での授業を体感できるようにした。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 中島俊介	職名 教授	学位 博士 (学術)
研 究 分 野	研究内容のキーワード	
心理学	メンタルヘルス 心理教育 地域精神保健	
研 究 課 題		
平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の心理教育モデルの構築		
担 当 授 業 科 目		
保育内容 (人間関係)	教育心理学	行動科学 こころと人間 発達心理学 保育の心 理
授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)		
<p>授業科目名【保育内容 (人間関係)】</p> <p>少人数なので演習中心の講義となった。そのために学生との対話型授業に工夫と努力した。心理劇を演じて実際の保育現場で起こりがちな「ケンカや遊び場面」での人間関係の問題点に自然に気付くように配慮した。人間関係の基礎である、「聞く力・書く力・話す力」が向上したと自負している。</p>		
<p>授業科目名【教育心理学】</p> <p>教育学と並んで教職科目の重要科目の一つである。教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の定期試験の内容も採用試験を意識した内容とした。教師として最も重要な「人権感覚」のセンスも磨けるように配慮した。</p>		
<p>授業科目名【行動科学】</p> <p>受講人数が少人数の為、ゼミ風の授業ができて学習の効果が大きかったと思う。学生の集中力をいかに途切れないようにするか考えを深める課題に留意した。学生の自主的な意見をできるだけ出させるように「聞く」態度を教師の基本的な姿勢と考えキープできるように努力した。次年度さらにこの点に工夫を加えたい。</p>		
<p>授業科目名【こころと人間】</p> <p>学生の心理学講義に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて毎年苦慮する。今年度も「映像を講義中に必ず入れる」は実行できた。「質疑を活発にする」はなかなか困難であったが、できるだけ発問をして意欲を喚起した。</p>		
<p>授業科目名【発達心理学】</p> <p>看護学科の必須科目である。看護にあたっては人間の年齢ごとの発達課題を学習しておくことは重要である。</p> <p>エリクソンの「人生 8 段階説」を基盤にして胎児期から老年期までの発達課題とその周辺のトピックについて講義した。活発な質問や自主的な発表を試みたがなかなか難しかった。次年度の課題としたい。</p>		
<p>授業科目名【保育の心理】</p> <p>保育士として知っておきたい「子どものこころのありよう」と「保育者自身のこころのありよう」さらに「保護者のこころのありよう」について理解と共感を深められるように講義を展開した。小人数なので、きめ細かい指導ができたと自負している。</p>		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理学会 日本教育心理学会 日本人間性心理学会		2018年4月加入 1982年4月加入 1998年4月加入

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
平和活動における学生のメンタルヘルス向上効果の研究	クラウドファンディング	1080000 円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市人権施策審議会委員（第一期・二期・三期・四期、現在に至る）	第三期より委員長	2003年から2021年6月まで

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

なし

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	西丸 月美	職名	講師	学位	教育学修士
----	-------	----	----	----	-------

研究分野	研究内容のキーワード
学校保健、健康教育	専門性、養護教諭、多職種連携

研究課題
養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。また、学校看護婦がどのように、多職種と連携をしていったか考察する。さらに、現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

担当授業科目
地域保健学Ⅱ、看護臨床実習、事前及び事後の指導、基礎看護技術、養護実習、学校保健教育法、学校保健Ⅱ、教職実践演習、看護学、専門研究Ⅰ、専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【地域保健学Ⅱ】</p> <p>本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習(病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク(ロールプレイなど)も取り入れて行う。</p> <p>授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護技術】</p> <p>本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。</p> <p>授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。さらに、養護実習で経験する身体計測についても、学生が計画し実践できるように工夫した。</p> <p>看護技術については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるように、15コマ目に実技試験を行い、知識や技能の定着を確認した。</p>
<p>授業科目名【看護臨床実習】</p> <p>本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめていく。</p> <p>3年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。</p> <p>4年生の看護臨床実習では、病院実習の経験を踏まえ、学校現場で実際行う保健指導の模擬授業、ロールプレイなどを取り入れ、知識理解の定着を確認し授業を行った。</p>

<p>授業科目名【学校保健教育法】</p> <p>学校における保健教育の意義及び学習指導要領の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校における保健学習、保健指導の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。</p> <p>授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。一人ひとりが、保健指導の指導案、教材を作成し、10分間の保健指導を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。</p> <p>教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。</p>
<p>授業科目【学校保健Ⅱ】</p> <p>学校保健Ⅰの教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基ついた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健指導と健康相談などである。</p> <p>授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。特に保健室経営についての講義では、「私の理想とする保健室」について、ディスカッションを行い、グループごとに発表を行った。</p>
<p>授業科目【事前及び事後の指導】</p> <p>養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。</p> <p>授業では、養護実習を前に、オリエンテーションを行い人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。また、養護実習前の学習として、救急処置の演習を行い、グループごとにテーマを決め、演習を行った。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。さらに、4年生が養護実習で学んだことを3年生に発表できるように時間を設定し、4年生と3年生の交流を実施した。</p>
<p>授業科目【看護学】</p> <p>看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について、緊急度の判断の方法及び適切な処置・対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。</p> <p>授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてグループでプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。また、解剖学、生理学の知識の定着が図れるよう、課題を作成し授業内容を工夫した。</p>
<p>授業科目【教職実践演習】</p> <p>この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。</p> <p>養護実習での課題をグループごとにディスカッションを行い、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習を行い、学校現場における実践的な力を身につけるために授業の構造を工夫した。さらに、現職の養護教諭の講話「性に関する指導」、「特別支援教育における養護教諭の役割」について行い、実践力を高めるための工夫を行った。特に「性に関する指導」については、グループごとに指導案を作成し、模擬授業を実施した。</p>
<p>授業科目【養護実習】</p> <p>養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。</p>

<p>授業科目【専門研究Ⅰ】</p> <p>専門研究Ⅰでは、テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。</p> <p>また、3年生と4年生の交流を行い、教員採用試験対策等について情報交換を行った。さらに、現職養護教諭の保健室を訪問し、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるように工夫した。</p>
<p>授業科目【専門研究Ⅱ】</p> <p>専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭として視点から専門性を深め、さらに、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成にも工夫した。</p> <p>また、現職養護教諭の保健室を訪問し、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるように工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本学校保健学会員 日本教育心理学会員(現在に至る) 日本教育保健学会会員(現在に至る) 日本人間性心理学会会員(現在に至る) 日本教育カウンセラー学会員(現在に至る) 日本学校心理士会学会員(現在に至る) 日本アロマコーディネーター協会会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会 第23回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局 日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会 第28回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局		平成21年4月～(現在に至る) 平成21年9月～(現在に至る) 平成21年6月～(現在に至る) 平成22年6月～(現在に至る) 平成26年8月～(現在に至る) 平成27年1月～(現在に至る) 平成27年1月～(現在に至る) 平成27年10月 平成28年2月～(現在に至る) 令和元年4月～(現在に至る)

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(共同研究) 1. 養護教諭の専門性に関する理論的研究	共	2018年	西南女学院大学 保健福祉学部研究所	養護教諭の前身である学校看護婦の組織化と研修活動が起り始めた歴史的背景を考察した。帝国衛生会が設置した看護部が雑誌「養護」を刊行した。雑誌「養護」は学校看護婦の専門性を確立していく情報雑誌として機能したととらえ、養護教諭の専門性を歴史的に理論づける手がかりとすることを目的とした。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
よくわかる！ 教職エクササイズシリーズ 「学校保健」	共	2019年3月	ミネルヴァ書房	教職課程にある学生、現職教員などに学校保健についてわかりやすく解説したテキストである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
「教育実践演習」における養護教諭と多職種連携に関する事例を用いた教育効果の研究	西南女学院大学 保健福祉学部研究所	○西丸月美 一期崎直美	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教職課程委員会委員 2019年4月～2020年3月31日
教員免許状更新講習プロジェクトリーダー 2019年4月～2020年3月31日
教員免許状更新講習講師 2019年4月～2020年3月31日
キャンパスハラスメント相談員 2019年4月～2020年3月31日
オープンキャンパス模擬授業 講師 2018年8月～2020年3月31日

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 野井 未加	職名 准教授	学位 修士
----------	--------	-------

研究分野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU ハイリスク児 心的帰属 家族への援助 極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助 保育所相談援助 個別支援計画

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「NICU 入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその変容過程に関する研究」 ・「極低出生体重児とのその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」 ・「保育士との協働による気になる子どもへの個別支援計画立案と実行に関する研究」

担当授業科目
ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) カウンセリング論(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科) 心理学研究法(前期)(福祉学科) 障害者心理学(前期)(福祉学科) 母子の心理・社会学(集中講義)(助産別科) 心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期)(福祉学科) 発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科) 保育相談支援(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】</p> <p>ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例：「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。</p>
<p>授業科目名【カウンセリング論(前期)(福祉学科)】</p> <p>カウンセリング論では、カウンセリングの基本構造、主要なカウンセリングの段階とそのプロセス、代表的な4つのカウンセリングの立場とそのプロセス、カウンセリングのそれぞれの段階において、どのようなことが主題となりやすいのか、そしてクライアントが解決を導き出していくために、カウンセラーがどのような援助を行っていくのかについて、事例を豊富に取り入れ説明する予定であった。しかし受講希望者が1名のみで、その者も1回のみ授業に参加したため、15回の実施を待たずして授業が中断した。</p>

<p>授業科目名【障害者心理学(前期)(福祉学科)】</p> <p>第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を書いてもらった。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義および概念の整理を重点的に行った。また、障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族がどのような影響を受けるのかについて解説することを通して、障害者の包括的な支援の在り方についての視座が得られるように努力した。</p>
<p>授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】</p> <p>児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-III に関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。</p>
<p>授業科目名【心理学研究法】</p> <p>心理学では、直接観察することができない心理現象を科学的に研究するための様々な方法が開発され、発展してきた。本講義では、事実を明らかにするための「実証」の基本的考え方、心理学における「実験的研究」と「観察的研究」の特徴とその諸手続きについて学ぶことを目的とした。昨年度まで本科目を担当していなかったため、開講時点での学生の学修準備性が不明であったため、必要に応じて「心理統計学」の授業でどこまで学んだかを適宜確認しながら授業を進めた。教科書の各章の要点を受講者各自がまとめ発表させる形式で授業を展開したが、適宜教員が解説を行った。</p>
<p>授業科目名【母子の心理・社会学(集中講義)(助産別科)】</p> <p>前半の4回で基本的な母子関係・父子関係の形成プロセスについて学習をした後、後半4回を筆者が担当した。4回の授業では、親になる準備の段階としての思春期・青年期について概説した後、若年出産の現状などにも触れた。また周産期における女性と家族の心理プロセスについて説明した上で、その際に援助や配慮が必要となる事例について触れることで、実践力につなげる工夫をした。さらに周産期の母親だけでなく、その家族も援助対象であるという視点を伝えるように努力した。</p>
<p>授業科目名【心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科)】</p> <p>福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Ⅱでは特に、神経心理学、学習理論、認知心理学、感情心理学、発達心理学の概要について解説した。情報提示の仕方(実験内容を体験する等)によっては、理論的なものであっても、身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。</p>
<p>授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】</p> <p>心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。</p>
<p>授業科目名【発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】</p> <p>発達心理学Ⅰでは、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。内容的には抽象度の高い理論的な科目であるが、人間発達の不思議さや興味深さを感じたようであるため、今後も両者のバランス(理論的であっても身近なもの)を図っていきたい。</p>

授業科目名【保育相談支援(後期)(福祉学科)】

保育相談支援では、学生が保育相談支援の意義と基本的視点について理解した上で、保育相談支援に求められる基本姿勢と相談の内容、保育士の専門性を活かした支援の方法について考えることを目的としている。学生には、保育所保育指針における原則や基本姿勢について具体的行動レベルで考える・様々なニーズを抱えた家族の事例に対する支援方法について考える事を課し、その上でグループ討議をしてもらった。グループ討議の基本的姿勢として、答えは一つとは限らない事、他者の意見を評価せずあらゆる可能性を考慮に入れることをルールとして設定した。回を重ねるごとに学生間のグループ討議の様子に変化が見られ始め、「答えを見つける」ことよりも「あらゆる可能性を考えてみる」といった姿勢が見えてきたため、方法論的妥当性は一定程度担保できているものと捉えている。

授業科目名【専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)】

心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、文献講読及びディスカッションを行った。ゼミへの参加態度において、学生が主体的に学ぶ姿勢が感じられた。また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感したようである。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開していく力を培うことを目標にしていきたい。

授業科目名【専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)】

学生各自がそれぞれ興味のある内容について、レビュー論文を作成した。学生は、3年次の専門研究Ⅰにおいて論文の読み方を学んでいたため文献検索に優れており、論文を批判的に読む力が身につけていたと考えられる。従って、レビュー論文作成にあたって問題意識がはっきりしており、自らの論を進めていく事に意欲的であった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本臨床心理学会	北九州地区委員(2006年4月～現在)	1998年7月～現在に至る
日本特殊教育学会		1998年9月～現在に至る
発達心理学会		1998年2月～現在に至る
西日本心理劇学会		2001年1月～現在に至る
日本リハビリテーション心理学会		1997年4月～現在に至る
九州臨床心理学会		2006年4月～現在に至る
日本心理学会		2008年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究業績 総数 (2019.03.19現在) 著書 0(内訳 単0, 共0) 学術論文 0(内訳 単0, 共0) 翻訳 0(内訳 単0, 共0) 学会発表 0(内訳 単0, 共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	本学	○笹月桃子、野井未加、山本佳代子、文屋典子、樋口由貴子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター	研究員	2004年4月～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員	2006年4月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 文屋 典子	職名 講師	学位 修士(社会学) (関西学院大学 1994 年)
----------	-------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研 究 課 題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担 当 授 業 科 目
相談援助の理論と方法Ⅱ (通年) 相談援助実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 相談援助実習 (通年) 相談援助演習Ⅱ (前期) 基礎実習 (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅲ (通年) 保育実習Ⅲ (通年) 保育の表現技術Ⅰ (前期) 家庭支援論 (前期) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】</p> <p>一般システム理論がソーシャルワーク理論の中にどのように組み込まれ、現在のソーシャルワーク実践に結びついているかを理解すること、ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用視点を理解し、問題状況を捉える“視点”を涵養することに重点をおいた。</p> <p>ソーシャルワークのアプローチについては単なる暗記に終わらず、その起源となる社会的背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解することの重要性を繰り返し伝え、詳細な解説に努めた。具体的な事例を用いることにより、アセスメントや介入における各アプローチ特有の“視点”を理解すること、クライアントの状況に応じて、どのアプローチの視点に立ち、どのように問題を捉えて、解決に向けた支援のプランを描くことができるかを考察することに重点をおいた。</p> <p>学生には毎回の授業でリアクションペーパーに授業内容を要約して提出することを課し、記述内容から学生の理解度の把握と授業内容や進め方の見直しに役立てた。また、理解が不十分な点や誤りについては添削して返却、補足説明を行った。</p>

授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】

グループディスカッションを行う中で、学生同士が自身の意見を表明しながら、他者の意見を慎重に聴き取り、自分とは異なるものの見方を理解しようとしたり、一つの方向性にまとめていくために意見をすり合わせたり、試行錯誤の中で“話し合っただけで答えを出す”プロセスを学ぶ姿が見られた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を習得すると同時に、よりよい援助を実践するために協働するためのコミュニケーション技術を学んでいること、ことばの背後にある専門職としての価値観や倫理観を養うこと、事例を検討するうえで各専門科目の授業で得た知識をいかに活用してソーシャルワーク援助が組み立てていくのかを実際的に学ぶことに重点を置き、授業を展開した。

授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】

実習前の事前学習では個別指導を複数回行い、各自の関心事と実習に臨む姿勢・準備性をふまえたうえで、実習課題を明確化するよう心掛けた。前期実習終了後には、自己の実習課題に対する達成度と後期の実習までに自身が取り組むべき課題について各自が振り返りを深めるワークに取り組み、さらに成長して後期実習に臨むことができた。前期実習の終了から後期実習開始までの期間に学生が取り組んだ内容、成長した部分などを実習先の実習指導者と共有する中で、実習指導者より実習生に対するさらに細やかな指導やサポートをいただいたと同時に、各実習生の前期実習からの大きな成長を評価していただくことも多くあった。後期実習終了後は、全員が達成感に満ちた表情で、実習での学びの報告をすることができた。

授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】

子どもの発達や特性、子どもと家庭をめぐる社会的状況や社会的養護の現状について、グループ学習やプレゼンテーションを中心に学びと考察を深めた。見学実習においては、学生が実際に子どもたちとの関わりを体験し、知識理解を深めるきっかけとなること、自己の克服すべき課題に気づき、実習に向けて各自が目標と課題を明確にして事前準備に取り組むことをねらいとした。

授業科目名【 基礎実習 】

本科目は福祉の1年次に対人援助の現場で体験型の実習を行い、対人援助の仕事と利用者に対する理解を深めると同時に、福祉への学びの意欲を高めようとするものである。実習前には対人援助職に求められる基本的な姿勢について学び、実習への動機が高まるようグループ学習と個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。

授業科目名【 家庭支援論 】

現代の家族をとりまく状況を概観し、個人と深いかかわりをもつ家族に目を向けて支援することの意義、家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の多角的な視点を学生が理解できるよう努めた。本科目は知識習得にとどまらず、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲へとつながれば、卒業後も実践者としてさらに学びを進化させることにつながるものとする。数年前と比較すると、提出されたレポートの内容はよくまとめられたものが多かったが、「何を、どのように」調べ、考察し、レポートにまとめるのかを、評価の観点として学生に具体的に提示したことによる効果も加わったものとする。

授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】

本科目は3年次8月の保育所実習、3年次2～3月の施設実習の実習前・実習後指導に当たる科目である。実習目標の設定や実習計画書の作成、実習記録の書き方の指導においては保育士としての専門性を学ぶということを意識させ、特に施設実習においては社会福祉士としての視点と保育士としての視点が学生の中でも混在する部分を整理して、“社会福祉士としての視点をもちつつ保育士としての専門性を学ぶこと”について学生が理解して実習に臨めるよう実習前指導を行った。実習前の授業で保育技術についての演習を取り入れたことが、実習先での実践にもつながり、実際に子どもたちに対して保育活動を実施するうえで、留意すべきこと、保育の技術や知識を習得していくうえでの自己の課題について、各自が学びを深めるきっかけとなった。

授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】

本科目は3年次の保育所実習と施設実習を踏まえ、児童福祉施設における保育実習を希望する学生が履修する科目である。これまでの保育実習、相談援助実習において学んできたことと自身の課題をふまえて、実習目標を設定し実習計画書の作成すること、事前学習として、実習先での支援の実際、利用者や児童福祉施設の現状について理解を深めて実習に臨むよう、個別指導に重点をおいた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りに関して各学生の学びや課題を整理し、実習のまとめと実習報告につなげた。

授業科目名【 保育の表現技術Ⅰ 】

学生のこれまでのピアノの習熟レベルに応じて課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画を立てて授業に臨むよう指導した。今年度はピアノを弾いた経験のない学生・楽譜を読めない学生が多くいたため、指の動かし方や音感などピアノを演奏するうえで大切となる感覚を養うことと同時に、楽典の知識を習得して楽譜を自分で読めるようになることを一人ひとりの目標として意識させ、指導を行った。“弾けるようになりたい曲”を目標に設定することで、学生一人ひとりが練習に意欲的に取り組むことができ、すべての学生が目標を達成することができた。

授業科目名【 保育者論 】

学生の主体的に学ぶ意欲を高めてほしいと考え、視聴覚教材や保育教材を用いて具体的な子どもの姿をイメージすること、グループディスカッションや学生が発言する機会を多く設け、専門用語や知識を的確に用いて自分の考えを表明することに力点を置いた。また、福祉学科子ども家庭福祉コースにおいて、ソーシャルワークに関する知識や技術として学んでいることと、保育の知識・技術を修得することがつながる部分をできるだけ多く取り上げ、2つの専門性を習得することの強みを自覚して、学生の学びの意欲がさらに高まることをねらいとした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月～ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月～ ”
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月～ ”
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月～ ”
日本小児保健学会		1997年5月～ ”
日本特殊教育学会		1999年8月～ ”
日本保育学会		2011年10月～ ”
日本医療保育学会		2016年5月～ ”

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月 桃子 野井 未加 山本 佳代子 樋口 由貴子	2,009,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人 喜久茂会 北九州市 母子生活支援施設指定管理者検討会	評議員 構成員(検討会座長)	2017年4月1日～2021年6月 2019年10月
北九州市 ほっと子育てふれあい事業業務運営事業者選考委員会	委員長	2020年2月3日～2020年3月31日
社会福祉法人カリタスの園天使育児園運営改善委員会	委員長	2018年1月19日～2020年3月3日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生委員 キャンパスハラスメント相談員 吹奏楽部顧問

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	水貝 洵子	職名	講師	学位	臨床心理修士 (専門職)
----	-------	----	----	----	--------------

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学 発達臨床心理学	思春期 発達障害児者 生涯発達 アクションメソッド

研究課題
思春期における発達障害者への臨床心理学的支援の在り方について検討を行う。 臨床心理学的支援においても臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討を行う。

担当授業科目
家族心理学演習 (福祉学科, 前期) 保育の心理学Ⅱ (福祉学科, 前期) ヒューマンサービス基礎演習 (福祉学科, 前期) 臨床健康心理学 (看護学科, 後期) 障害者心理学 (福祉学科, 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【家族心理学演習】</p> <p>家族の成立から、その後の家族がたどる発達段階について解説を行った。学生の担当者を決め、それぞれの発達段階における臨時的課題などについてレジュメにまとめ発表する機会を設けた。学生同士の活発な議論がおこるよう配慮した。また、ロールプレイングなどの手法を用い、保護者の気持ちの理解等について、行為化を通じ、体験的な学びにつながるよう工夫を行った。</p>
<p>授業科目名【保育の心理学Ⅱ】</p> <p>乳幼児の行動や行動変化の背景にある子どもの発達について解説を行った。具体的な乳幼児の子どもの様子をあげ、学生がイメージしやすいよう配慮した。また、発達状況にあわせた適切な関わり方について考える機会を設けた。子どもへの一律的な対応でなく、個性や発達状況に応じた関りについて考えることの重要性について伝えた。</p>
<p>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】</p> <p>対人援助職の基礎として、他者との適切なコミュニケーションの在り方について体験し、対人関係における自分自身についての気づきを深める体験となることを目指し、様々なワークを行い、その都度、受講生自身による振り返りを行った。1年生前期での対人交流の演習のため、受講生の緊張感に配慮し、自発的にワークに臨めるようにワークの内容について吟味を行った。</p>
<p>授業科目名【臨床健康心理学】</p> <p>臨床心理学についての基礎知識および医療現場で出会う患者の心理についての解説を行った。受講生によって臨床心理学に関する基礎知識への理解度の差がみられたため、基礎的な内容について解説を行うとともに、医療現場ではどのように活かされるのか具体例を挙げたり、適切な対応例を挙げるなどして発展的な内容となるよう配慮した。</p>

授業科目名【障害者心理学】

精神障害から身体障害にわたり代表的な障害を取り上げ、診断的理解および社会生活において障害児者がどのような体験をしている可能性があるかについて生涯発達の見点から解説を行った。診断的理解にとどまらず、当事者の立場から障害について理解する視点が培われるよう、事例や当事者の手記等を適宜資料として提示した。実習等で本講義での知識が活かされるよう適切な援助の在り方についても、臨床心理学的援助を紹介しながら解説を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本リハビリテーション心理学会		2010年4月～現在に至る
日本臨床心理劇学会		2010年4月～現在に至る
日本心理臨床学会		2013年4月～現在に至る
特殊教育学会		2016年4月～現在に至る
発達心理学会		2016年4月～現在に至る
日本心理学会		2019年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 該当なし				
(学術論文) 該当なし				
(翻訳) 該当なし				
(学会発表) 該当なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター 大分県立病院	研究員 非常勤心理士	2019年4月～2020年3月 2019年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生個人情報保護委員会 2019年4月～現在に至る

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山根 正夫	職名	教授	学位	修士 (教育学)
----	-------	----	----	----	----------

研究分野	研究内容のキーワード
障害児・者の援助方法 応用行動分析学	障害児保育・社会情動スキル・行動分析・発達障害

研究課題
乳幼児の子どもの社会情動スキルの評価及びその援助方法に関する研究

担当授業科目
子ども家庭福祉論、障害者福祉論、障害児保育、社会的養護、社会的養護内容、 相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・保育実習Ⅲ、専門研究Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 子ども家庭福祉論・障害者福祉論 】</p> <p>社会福祉士国家試験受験のための必修科目であり、レジメを準備しパワーポイントを利用して講義した。レジメや時々及び時々のトピックスの論文などを適宜配布し、それぞれの科目の理解の深化に務めた。レジメについては毎年空欄を作って書き込めるようにしてほしいという要望があるが、何が大事か強調されているのかについての認知力を高める事も視野に入れてレジメを作成していることを学生に説明している。</p>
<p>授業科目名【 障害児保育 】</p> <p>演習系科目であり、副読本についてノート作成し定期的に提出させ、点検の上返却した。今年の授業の大半のコマは、課題に沿って担当学生を決め、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題は理解が深まっているがそれ以外の講義内容の理解についてはばらつきが大きい。来年度も学生の主体的学習を深めさせたい。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 】</p> <p>授業の方法はほぼ共通であるが、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ (Ⅴの後半部分はコミュニティワーク) については、現代の児童家庭の課題を示しそれについて学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられきらいがあり、個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得られなかったのではないかと危惧している。来年度はこの点を踏まえ、授業を進めていきたい。</p>
<p>授業科目名【 保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅲ 】</p> <p>複数教員による合同授業である。保育実践への導入教科であるため、より現場感覚に沿った授業構成とした。</p>
<p>授業科目名【 社会的養護・社会的養護内容 】</p> <p>保育士資格取得のための必修科目であるが、前者はオープン科目で、教科書を中心に理論的・制度的な理解を求めた。後者は演習科目であり、実践上必要な内容について調べ学習や討議を重視して授業を構成した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本特殊教育学会 日本行動分析学会 日本発達障害学会 日本福祉学会 日本保育学会 福岡教育大学付属障害児治療教育センター研究部員 日本保育ソーシャルワーク学会		昭和 51 年 4 月～ 昭和 61 年 4 月～ 平成 7 年 9 月～ 平成 12 年 11 月～ 平成 22 年 4 月～ 平成 28 年～

2019 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 特になし				
(学術論文) 保育士が必要とする保育ソーシャルワーク内容の因子構造	共著	2019 年 11 月	厚生労働統計協会 厚生労働の指標	保育所での様々な福祉的課題を持つ子どもへの支援への保育士などによるソーシャルワークの内容や専門性、方法論等について調査を実施し、一般的な妥当性を確認した。
(翻訳) 特になし				
(学会発表) 特になし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
北九州市児童福祉施設等第3者評価委員会委員 北九州市福祉事業団評議員 社会福祉法人福音会評議員 社会福祉法人喜久茂会理事 北九州市社会福祉審議会委員 北九州市社会福祉協議会評議員		平成28年4月～平成30年3月 平成29年4月～平成30年3月 平成29年11月～ 平成29年11月～ 平成29年4月～平成31年3月 平成29年4月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生総合支援室室長 倫理審査委員会委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 山本 佳代子	職名 助教	学位 学士 (体育学) 福岡大学 1996 年
-----------	-------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会体育学 レクリエーション	障害児・者 レクリエーション 放課後 余暇 きょうだい

研 究 課 題
障害のある子どもを育てる保護者が期待する、子どもの余暇の過ごし方についての考察 スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況と身体状況について 重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討

担 当 授 業 科 目
基礎実習 相談援助演習 I 相談援助実習指導 I 相談援助実習指導 II

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎実習】</p> <p>3名の教員で担当し、少人数のグループ指導及び個別指導を行った。履修者の多くが、初めての実習であるため実習先の具体的なイメージを抱くことができるよう、先輩の体験談や DVD を用いた。その後の事前学習では、個別指導を通し各自の実習目的を明確にできるよう促した。また実習中間で帰校日を設け、日誌と学生との面談から実習の進捗状況を確認し、また疑問点等についてはグループワークを行いながら全体の学びへつなげた。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習 I】</p> <p>福祉専門職への興味関心が広がるよう、また魅力が伝わるよう具体的な事例や DVD 視聴を取り入れ講義をすすめた。さらに難病の当事者を講師に迎え、相互にやりとりをしながら具体的な困難や支援の方法について学びを深めた。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導 I】</p> <p>それぞれの領域の実習について具体的に理解を深めることができるよう、先輩の報告会への出席や見学実習を行った。また車いす操作等の実技を取り入れ、介助者と介助される側の体験を通し、実習にいかすことができるよう学びを深めた。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導 II】</p> <p>一人ひとりが実習に対し、明確な目的を持ち、その目的達成のためにどのような準備が必要かを具体的に考え取り組めるよう、個別指導のもと必要書類の作成を行った。帰校日や巡回では、それぞれの課題達成度を確認し、方向性の転換や継続を学生本人と確認しながら、前向きに実習に取り組めるよう指導した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会		2004年～
九州レジャー・レクリエーション学会		2013年～

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月 桃子 野井 未加 文屋 典子 樋口 由紀子 山本 佳代子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
障害のある子どもときょうだいの余暇活動支援「ちゃれんじ」	子どもゆめ基金	150.000 円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
シニアサマーカレッジ 生き生きチャレンジキッズ	講師 講師	2019年8月2日 2019年12月21日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ボランティア相談室
- 障害のある子どもときょうだいを対象とした余暇活動支援「ちゃれんじ」

荣 养 学 科

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	青木 るみ子	職名	講師	学位	修士(栄養学)(神戸学院大学 2004年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
給食経営管理 健康教育学・食教育 栄養学	給食施設・衛生管理・HACCP 青年期・食教育・ライフスキル・ボディイメージ 幼児期・学童期・食育

研究課題
1. 中小規模給食施設における衛生管理体制に関する研究 2. 児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討 3. ライフスキル形成を基礎とするボディイメージ改善教育の検討

担当授業科目
給食計画論(2年前期) 給食経営管理論(2年後期) 給食経営管理実習Ⅰ(2年後期) 給食経営管理実習Ⅱ(3年前期) 総合演習Ⅰ(3年前期) 臨地実習Ⅰ(3年後期) 管理栄養士演習Ⅱ(4年通年) 卒業ゼミ(4年通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【給食計画論】2年前期科目</p> <p>後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ(以降、実習Ⅰとする)の基盤となる科目である。</p> <p>本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント、②食事摂取基準2020年版の給食管理における活用、③献立立案、④栄養・食事管理の評価、改善、について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義は、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめたPPを活用した。また、実習Ⅰ(後期)の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させ、実務に結びつける指導を意識している。得られた情報の秘匿性は十分に説明した上で、教員が情報を集約し、実習Ⅰのアセスメント情報として活用することとしている。</p> <p>本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」、「衛生管理」も詳細に解説している。特に「生産・提供管理」に関しては、給食の品質に大きく影響する管理事項であるため、履修学生には、本講義と当時開講されている給食経営管理実習Ⅱ(3年前期:以降、実習Ⅱとする)の給食試食および試食に関するレポート提出を義務付けている。試食の回数としては2回であるが、「給食」を経営管理する責任者としての管理栄養士の位置づけや、「献立作成」、「生産・提供管理」の注意点、「衛生管理」の重要性を意識する良い機会となっている。「衛生管理」については、厚生省食中毒発生状況調査等のデータを数値化して見せ、さらに実際の食中毒事故の原因や影響等を紹介し、「食中毒」という事故を身近な危険として認識させるようにし、衛生管理への意識向上を図っている。</p>

授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促している。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食材原価の管理に必要な「ABC分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。特に「ABC分析」には、前年度の実習Ⅰの食品の総使用量を使用しており実習と講義の連動性を重視している。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。この項目はライフステージ別の栄養学である『応用栄養学』や行政の栄養学である『公衆栄養学』との関連もあるため、これらの科目との関係性も意識した解説を心掛けている。また、各種特定給食施設の内容として、定期的に改定が行われる『診療報酬』や『介護報酬』についても、改定部分を簡略化して説明している。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Ⅰでは、「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを6班編成とし、3班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。近年の傾向として、調理技術が未熟な学生が多く、食材の取り扱いの基礎から指導の必要性が増している。また、衛生管理に関しても基本的な理解ができておらず、器具の取り扱いから作業区域の使い分けまでを徹底して指導を行った。給食施設で備える義務のある帳票の説明から書類の書き方の指導、確認を全て入念に行った。さらに、本実習では管理栄養士としてリーダーシップ力を身につけることも目的としているため、実習当日に十分な調理現場指導が行えるよう、作業工程の確認と打ち合わせの時間を別途授業時間外に設け、1班単位で指導を徹底した。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習Ⅰに引き続き、1クラス6班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「大学生(女性:18~29歳)対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数100食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」~「給食経営管理実習Ⅰ」~「本実習」というように、連動した内容としている。

実習を進めるにあたり、実習Ⅰ同様に、3班単位で業務を行わせ、「管理栄養士」業務担当班に管理者としての責務を課した。本実習では、実際に給食の食券販売を行い、現金管理を行わせ、食品納入業者との対応を通して、特定給食施設の運営および経営管理を行う上での管理責任者としての意識付けを行っている。近年、事業所給食における栄養管理や栄養情報提供の充実や食環境整備が推進されているため、昨年度より、栄養情報提供の媒体や食環境を充実させることに力を入れている。各実習班が提供する給食献立に沿った栄養教育媒体を作成し情報提供を行うと同時に、行事や季節、郷土色あふれる食空間のコーディネートも自由に行わせている。ただ作って提供する実習と比較して、準備に必要な労力は多くなったが、学生間のコミュニケーションもあわせて増加し、協働の姿勢が身につくと考える。例年、給食を提供するにあたって、提供当日の準備のみでは時間内の終了が難しいため、授業時間外での前日準備や指導を実施している。時間外の準備に関しては、学生の空き時間等を活用し、比較的、負担の無いように配慮を行っている。

授業科目【総合演習Ⅰ】3年前期科目

3年後期科目である「臨地実習Ⅰ(給食の運営)」のための事前指導を中心とした科目である。また、「高齢者施設」、「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関する講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。また、本学科の臨地実習として最初に学外へ出る実習であるため、実習Ⅰ~Ⅲに必要な準備物から社会的なマナー指導までを15回の時間内および時間外で徹底して取り組んでいる。この部分に時間を割くことが最も多く、近年では指導の難しさを痛感しているところでもある。

授業科目【臨地実習Ⅰ】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対する栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。また、事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会を実施した。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生のため導入教育としての位置づけも持たせている。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】4年通年

「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。前期では、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、後期では、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、大量調理施設衛生管理マニュアルの改定内容等を中心に重要ポイントを解説した。診療報酬および介護報酬は近年の改定内容を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約10年間の国家試験問題および業者模試の問題を徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書としている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所の見直しを行った。以上の指導方法は例年通りであるが、本年度も得点率は飛躍的に上昇した。

授業科目名【卒業ゼミ】4年通年

①児童対象の食教育を主体とした料理教室の企画・運営を実施させた。企画の段階から、学生の自主性を優先して計画を行わせ、要所での指導を行った。対象者の日常生活上の問題点の把握から行い、計画に反映させていった。教員主体ではなく、学生主体としたことで、学生自身の考える力や問題点の修正能力等が養われたと考える。料理教室の実施回ごとに反省会による振り返りを行い、学生同士で計画、実施内容、当日の進行等の問題点を抽出し、次回の計画へと反映するという一連の流れの定着が確認できた。また、栄養学科2~3年生のボランティア学生の指導も学生が行っており、人事管理の難しさや重要性に気づく機会となったようである。

②北九州市に本社を置くスーパーマーケット「ハローディ」と江崎グリコ様との共同でレシピ開発を行った。糖質OFFシリーズの「SUNAO」の菓子をういたレシピを学生が考案し、リーフレットを作成いただき、ハローディ店頭で配布をしていただいた。

③障害者支援施設の給食部門と連携したお弁当の企画・販売を行った。販売店舗の立地、客層、現在の人気商品等のマーケティングリサーチから行い、献立計画・立案を行わせた。今回は夏期（8~9月：5週間）の販売であったことから、夏野菜を多用した野菜摂取が可能な献立内容とした。栄養面はもちろん、衛生面でもらも弁当として適しているか、また、給食施設の人事・設備面で生産可能かどうかを考慮し、計画を進めた。今回の実践活動から、献立はただ単に栄養面に着目するだけでは不十分であることを身をもって学ぶことができたようである。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
日本給食経営管理学会	正会員・評議員	2013.9～現在
日本災害食学会	正会員	2016.4～現在
JKYB	正会員	

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(著書) 給食経営管理実習 第1版</p> <p>管理栄養士講座 三訂給食経営管理論</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2020.12</p> <p>2017.4.5</p>	<p>医歯薬出版株式会社</p> <p>建帛社</p>	<p>① 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015準拠の第12巻目の教科書である。給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解について纏められている。</p> <p>②監修 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 編者 富田教代, 神田知子, 朝見祐也 共著者 <u>青木るみ子</u>, 他 11名</p> <p>③担当部分 第3章 6) p.57～58 第4章 3)～5) p.68～75</p> <p>①管理栄養士養成課程に必要な給食経営におけるマネジメント、マーケティング、食品流通、給食のコントロールに関して詳細にまとめられている。</p> <p>②編者 朝見祐也, 小松龍史 外山健二 共著者 <u>青木るみ子</u>, 他 12名</p> <p>③担当部分 第16章 p.171～173 第21章 p.221～225</p>
<p>(学術論文) 高齢者対象弁当企画を 介した食生活支援活動</p> <p>大学連携事業としての 地域密着型食育活動の 展開—3年間の取り組み ならびに今後の課題—</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2018.3.</p> <p>2018.3</p>	<p>西南女学院大学紀要 Vol.22.</p> <p>西南女学院大学紀要 Vol.22.</p>	<p>①食生活の面から地域高齢者を支援することを目的に高齢者向け弁当の企画のための基礎調査の報告である。</p> <p>②共著者名 <u>青木るみ子</u>、 境田 靖子</p> <p>③p.101～109</p> <p>①2014～2016年度の3年間の活動報告と今後の展望を報告した。</p> <p>②共著者名 近江雅代、境田靖子、<u>青木るみ子</u>、辻澤利行、秋房住郎、日高勝美、田川辰也</p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) 食中毒統計調査結果を用いた給食施設の食中毒発生の現状分析	共著	2018.11	日本給食経営学会 (埼玉)	①2 食中毒統計調査は、我が国における食中毒の発生状況を把握するために厚生労働省が毎年実施している。当該調査結果は、食中毒の原因となった施設や病因物質、患者数等が報告されており、食中毒の発生状況を詳細に知る上で極めて重要な統計資料となっている。本研究は、食中毒統計調査結果を用いて、給食施設の食中毒発生の現状分析を試みた。
中小規模給食施設における衛生管理体制および施設構造の現状	共著	2019.9	日本栄養改善学会 (富山)	② 共同発表者 <u>青木るみ子</u> 、山崎正幸、朝見祐也 ①給食施設における食中毒総事件数のうち約 80%が中小規模施設で発生していることを報告してきた。今回、中小規模給食施設の衛生管理実態調査を実施した。本報告では、衛生管理体制および構造の現状について報告した。
中小規模給食施設における施設設備管理および食品取り扱いの現状	共著	2019.11	日本給食経営管理学会 (愛知)	②共同発表者 <u>青木るみ子</u> 、山崎正幸、朝見祐也 ①給食施設が原因となった食中毒のうち、約 80%が中小規模施設に集中していることに着目し、中小規模給食施設の衛生管理実態調査を実施した。今回は、施設・設備等の管理状況および食品の取り扱い状況の現状について報告した。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績総数 (2020年度3月現在) 著書 2 (内訳単0, 共2) 学術論文12 (内訳単1, 共11) 学会発表30 (内訳単2, 共28)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
中小規模給食施設における衛生管理体制の実態調査	独立行政法人 日本学術振興会	○青木 るみ子 (朝見 祐也)	不採択
中小規模給食施設における衛生管理体制に関する調査研究	西南女学院大学	○青木 るみ子 (朝見 祐也, 他 4名)	871,000円

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人北九州市福祉事業団 北九州市社会福祉研修所	令和元年度 栄養士研修会 令和元年度 保育所調理員研修会・講師 「食品衛生・アレルギー対応 研修」	2019年6月25日 2019年12月12日
日本給食経営管理学会	評議員・研修委員	2019年11月～

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

公開講座委員会 だいすきにつぼん食分野担当 料理研究部顧問

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	天本 理恵	職名	准教授	学位	博士 (医学) 九州大学 2012 年
----	-------	----	-----	----	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用栄養学 分野	小児栄養、母性栄養、栄養代謝 (特に葉酸)、生活習慣病 (主に癌、心疾患、加齢性疾患) とミトコンドリア

研 究 課 題
1. 生活習慣病 (主に癌や加齢性疾患) とエネルギーおよび栄養代謝 (ミトコンドリアを中心に) との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。 2. 極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。 3. 幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

担 当 授 業 科 目
応用栄養学Ⅰ (2 年後期 栄養学科)
応用栄養学Ⅱ (3 年前期 栄養学科)
総合演習Ⅰ (3 年前期 栄養学科)
総合演習Ⅱ (4 年前期 栄養学科)
応用栄養学実習 (3 年後期 栄養学科)
管理栄養士演習Ⅱ (4 年前後期 栄養学科)
臨地実習Ⅰ (3 年後期 栄養学科)
卒業ゼミ (4 年通年 栄養学科)
栄養学概説 (1 年後期 栄養学科)
母子栄養学 (前期 助産別科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説 】 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. 1 の教材を印刷したプリントと、関連資料を毎回配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書にて図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに書かれた学生からの質問や感想には、1 人ずつ全員に必ず答えて返却した。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。
授業科目名【 応用栄養学実習 】 毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特別な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手の方たちと一緒に

勤務時間外に試作を行うなどして検討した。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。

授業科目名【 総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ 】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言を行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。今年度は「応用栄養学」と「公衆栄養学」の一部を担当した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は出来るだけ板書し、何度も学生に書き取らせることで、理解を促した。毎回のテストの正解率を表にしたものを作成し、正解率の低い問題にはアドバイスやポイントを書いて配布して復習させた。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【 母子栄養学 助産別科 】

視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。母性の栄養補給法に関して、実習先での課題があれば出来る限りのアドバイスを行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

授業科目名【 卒業ゼミ 】

福祉学科が開いている極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』にゼミ活動の一環として、学生たちを参加させている。提供する間食の作製やレンピの作成、ほほえみの会の親子を支援するための教育媒体の作成など、試作、訂正を繰り返しながら、学生たちが主体的に動けるようにそのサポートを行った。また福祉や看護の学生たちと共に企画から実施、評価を行うことで、学生たちに自然と協働の精神が育まれていると考える。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会		2002年4月～現在に至る
日本栄養改善学会		2002年4月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2002年11月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会		2017年4月～現在に至る
日本癌学会		2010年6月～現在に至る
日本分子生物学会		2012年9月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(学会発表) ミトコンドリア機能異常と葉酸代謝亢進との関連性の検討	共	2019年9月	第66回日本栄養改善学会(於 富山県民会館等)	①葉酸代謝を介するOneCarbon代謝と生活習慣病との関連性が注目されており、かつミトコンドリア機能低下と生活習慣病との関連性も報告されていることから、本研究では、ミトコンドリア機能異常マウスを用いて、ミトコンドリア機能低下が原因となる心機能低下と葉酸代謝との関連性を解明することを目的に、分子生物学的手法にて検討した。 ②共同発表者名：天本理恵、八木美佳子、内海健(九大) ③第66回日本栄養改善学会抄録集 p.222
				教育研究業績 2019年度分 著書 0 (内訳 単0, 共0) 学術論文 0 (内訳 単0, 共0) 学会発表 1 (内訳 単0, 共1) その他 0 (内訳 単0, 共0)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
ミトコンドリア異常と代償的葉酸代謝亢進の分子基盤と予防栄養の探索	文部科学省 科学研究費補助金(基盤C)	○天本理恵 (内海 健)	3,510,000 (2017年4- 2020年3月)
九州地域における学生ネットワークの構築-学生の主体的学びを促進するために-	西南女学院大学 教育の質向上支援経費	○上村眞生 小田日出子 塚本美紀 他5名	624,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市食育推進懇話会 ・第 27 回 北九州市小児口腔保健学 総会・学術大会 ・北九州市立保育所給食調理業務 受託候補者選定検討会構成員（北九 州市こども家庭局） ・福岡県栄養士会研究教育事業部 ・健康・スポーツで北九州をぐっと盛 り上げる会（NPO）研修会 ・遠賀・中間地区保育士協会研修会 ・築上町保育士連盟研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 構成員（座長） 座長 構成員 連絡係 講師 講師 講師 	<ul style="list-style-type: none"> 2017年7月～2019年5月 2019年5月19日 2019年8月 2018年6月～2020年5月 2019年7月22日 2019年7月29日、2019年12月6日 2019年2月18日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室 室員（子ども・子育て支援分野） 2016年8月～現在に至る ・教育研究予算 委員 2019年4月～2020年3月 ・動物実験委員会 委員 2019年4月～現在に至る ・学生募集補助業務 飯塚高等学校 模擬授業 2020年2月17日 ・シニアサマーカレッジ 講師 2020年9月 ・ほほえみの会（主担当 福祉学科 野井 准教授）における栄養相談等の栄養士業務、子どもの遊びの支援 2014年4月～現在に至る ・チアリーディング部（ルーンス）顧問⇒同好会 2002年4月～現在に至る
--

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	近江 雅代	職名	教授	学位	博士(医学)(福岡大学 2002 年)
----	-------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究 ・一般財団法人肝疾患研究会との共同研究：肝疾患(慢性肝炎・脂肪肝)レシピの考案ならびに肝疾患の啓蒙・予防活動 ・株式会社西鉄ストアとの共同研究：栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案 ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立 ・『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開 ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

担当授業科目
栄養治療学Ⅰ(前期) 栄養治療学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担) 臨床栄養活動論(後期)(共担) 総合演習Ⅱ(前期)(分担) 臨地実習Ⅱ(後期)(共担) 管理栄養士演習Ⅱ(通年)(分担) 初年次セミナーⅠ(前期)(共担) 臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【栄養治療学Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。また、毎回の講義終了後、講義内容を復習するための確認テストを配布した。提出されたテストは次回の講義までに採点し、学生に返却することにより、学生は自身の知識の修得を確認することに繋がったものと思われる。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。</p> <p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】</p> <p>本実習では、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術の修得、ならびに、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整、栄養指導までの一連の流れについて修得することを目標としている。『栄養治療学Ⅰ・Ⅱ』で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。</p>

また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。さらに、献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数として評価した。加えて、数種類の症例を準備して、栄養アセスメント、ケア計画および栄養指導の実際としてロールプレイを実施し、栄養管理の一連の流れを体得できるよう、工夫した。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい実習を心がけた。また、学生にとっては病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。

授業科目名【臨床栄養活動論】

本科目は、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標としている。そのため、実務家教員として、医療の現場で活躍されている管理栄養士ならびに医療に関する法律の専門家を招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培った。実際、学生の多くは本科目受講により、職業選択に対し、参考になったと回答しており、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、3年後学期終了後、学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。

授業科目名【総合演習Ⅱ】

本科目は様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1～2疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3週間の実習を行うため、事前学習として、4回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の实習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】

本科目は、管理栄養士国家試験教科『臨床栄養学』分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は26/200問であり、本演習の中で、過去5年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1回の演習において、学生は10～15問の過去問を解き、その後、詳細な解説を配布して、1問ずつ説明を加えながら解説した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ】

大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本の強化を図るため、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用法等、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指す。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図る。管理栄養士を目指して入学した学生同士の交流を図りながら、学びの姿勢を育むため、グループワークを中心とした学修を展開した。また、学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等、実際の事例を用いることにより、理解を促した。

また、学生が4年間の学びを積極的に取り組むために、本学卒業生2名(栄養教諭・病院管理栄養士)からの講話を拝聴し、管理栄養士としての将来像を明確にできるよう、講演会を企画した。

授業科目名【臨床栄養学】

本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取り入れ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年 4月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員・評議員	2003年 4月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員・評議員	2003年 4月～現在に至る
日本給食経営管理学会	正会員	2012年 4月～現在に至る
日本臨床栄養協会	正会員	2012年 4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開～2018年度事業概要ならびに参加者の行動変容～	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	①本学では地域住民の健康増進に貢献すべく公開講座を開催している。2018年度参加者の殆どが市内住民であり、その数は開催以降、漸次増加し、本事業は地域に根差した食育活動として定着したと推察される。アンケート項目『塩分』については、本事業のテーマに複数回挙げられ、参加者は実際に減塩食を喫食し、調味に慣れてきたことが、行動変容の一因になったものと推察される。また、『血圧測定』の増加は、学生による血圧測定による効果と考えられ、本事業は参加者が自分自身の生活習慣を改善する強い動機づけになっていると考えられる。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 大量調理業務における歩数の経時的変化～実施回数による比較検討～	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	<p>②近江雅代、境田靖子、田川辰也、手嶋英津子、高橋甲枝、辻澤利行、引地尚子、中道敦子、石井愛子、田中貴絵、永田純美、八木康夫</p> <p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P242)</p> <p>①大量調理中の歩数を経時的に測定し、実施回数による比較検討した。調理3回目の歩数が開始直後から増加したのは、学生が経験を重ね、早い時間帯から下準備を進めたため、その後の主調理・盛り付け時の歩数が減少し、効率的かつ余裕をもち、作業できたと考えられる。一方、2回目の調理総歩数と変動係数が小さかったのは、実施間隔が短く、調理に対する慣れによるものと思われる。従って、学生が全体の流れを把握し、作業効率を考えながら従事するためには、実施間隔は2か月程度、3回以上の大量調理業務の経験が必要であると推察される。</p>
3. 熟成期間の異なる糠床の美味しさの評価～菌叢解析ならびに官能評価による比較検討～	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	<p>②石井愛子、境田靖子、手嶋英津子、近江雅代</p> <p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P302)</p> <p>①熟成年数の異なった糠床を用いて菌叢解析ならびに糠漬けの官能評価による比較検討を行った。熟成糠床の菌叢の約8割がL. acetotoleransが占めたのに対し、糠床(新)は約5割であり、熟成年数の違いにより、菌叢構造が大きく異なった。また、この違いが糠床の香气成分の産生に影響し、特に『旨味』に対する効果に違いがみられることが明らかとなった。</p> <p>②舩越淳子、飯田健一郎、波多野淳子、千々和勝己、近江雅代</p>

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. 女子学生および母親の月経前症候群と食品群別摂取量との関連	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会学術総会 (於 富山県民会館)	<p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P269)</p> <p>①女子学生および母親の月経前症候群(PMS)と食品群別摂取量との関連について検討した結果、月経随伴症状は女子学生、母親ともに月経前が月経後に比べて有意に高く、月経前に愁訴が強いことが示された。また、PMS症状に関わる食品群別摂取量は学生世代と母親世代で異なることが示唆された。しかし、いずれも決定係数が低いことから、PMSに及ぼす食事の影響はあまり大きくないことが考えられた。</p> <p>②森口里利子、今井克己、岩本昌子、中園栄里、<u>近江雅代</u>、津田博子</p> <p>③第66回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P310)</p>

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 看護・福祉・栄養学科教員 九州歯科大学	1,067,000
糠床および糠炊きの美味しさの検証ならびに穀類・豆類を利用した新規加工食品の創製	西南女学院大学共同研究費	○船越敦子 近江雅代 高橋幸夫 (飯田健一郎)	1,233,920
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	一般社団法人全国栄養士養成施設協会助成金	○八木康夫 栄養学科教員	70,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
肝疾患(慢性肝炎・脂肪肝)レシピの考案ならびに肝疾患の啓蒙・予防活動	一般財団法人 肝疾患研究会	500,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・福岡大学医学部看護学科『食と生活』	非常勤講師	2008年4月～現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品 (弁当・惣菜)の開発および提案	責任者	2014年3月～現在に至る
・西南女学院大学・九州歯科大学連携 公開講座(4回/年)	企画・給食担当	2014年4月～現在に至る
・一般財団法人肝疾患研究会との共同 研究：肝疾患レシピの考案ならびに 肝疾患の啓蒙・予防活動	責任者	2019年5月～現在に至る
・無法松酒造株式会社との共同研究： 酒粕・梅を使ったレシピ開発	責任者	2019年11月～現在に至る
・中村学園大学栄養学部栄養科学科 『臨床栄養学概論』『疾病別栄養管 理Ⅰ』	非常勤講師	2019年5月～7月
・第66回日本栄養改善学会学術総会 口頭発表『食品・食品成分・食品機 能3』	座長	2019年9月7日
・西南女学院大学・九州歯科大学連携 公開講座 2019年度第3回シンポジ ウム『健康で豊かに生きるために、 健康長寿を目指して～専門家によ る健診と自宅のできる健康管理～』	シンポジスト	2019年10月19日
・『発酵 JAPAN in 北九州 2019 秋』ぬ か炊き×大学コラボメニューにて1 位獲得	企画・作成・提供	2019年11月8日～10日
・令和元年度後期北九州市民カレッジ 『令和から始める食生活の改善～ 健康長寿を目指しましょう～』	講師	2019年11月14日
・2019年度一般財団法人肝疾患研究会 ×西南女学院大学栄養学科 学生 のための講演会『肝疾患～NAFLD と NASH について～』	企画・献立作成・給食担当	2020年1月18日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・教務委員(2014年4月～現在に至る)
- ・就職委員(2018年4月～2020年3月)
- ・教育の質保障プロジェクト委員(2014年6月～現在に至る)
- ・管理栄養士国家試験対策委員(2013年4月～2020年3月)
- ・管理栄養士国家試験対策講座(前期・夏期集中・後期・国試直前)

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 岡部 明仁	職名 教授	学位 博士 (バイオサイエンス) (奈良先端科学技術大学院大学 2001 年)
----------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質 (GABA、グリシンなど)、Cl ⁻ 共輸送体、細胞内 Cl ⁻ 濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研 究 課 題
1. 発達期における細胞内 Cl ⁻ 濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 2. 哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

担 当 授 業 科 目
生物と生命科学 (前期) 解剖生理学 (前期) 人体の構造と機能基礎実習 (分担・前期) 初年次セミナーI (分担・前期) 応用生理学 (後期) 解剖生理学実習 (後期) 初年次セミナーII (分担・後期) 管理栄養士演習 I (分担・通年) 生理学 (後期) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生物と生命科学 】 毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識ができないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。 定期テスト終了直後に解答を「講義資料配布システム」にて公開し、疑義紹介時間を設けるようにした。
授業科目名【 解剖生理学 】 講義を PowerPoint で行っているため、講義スライドを全て印刷し配布した。補足のスライドなどはカラーが多いので、「講義資料配布システム」を用いていつでもどこでもどの端末からでも講義スライドをカラーで見ることができるように配慮した。本年度は、人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。 定期テスト終了直後に解答を「講義資料配布システム」にて公開し、疑義紹介時間を設けるようにした。
授業科目名【 人体の構造と機能基礎実習 】 後半 10 回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらうことで、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。

<p>授業科目名【 初年次セミナーI 】</p> <p>栄養学科で必要な計算と単位について、講義・演習を行った。少しの油断で計算ミスや単位換算ミスをしてしまうことを特に意識してもらうようにした。大学生としては安易な計算ドリルを用いて計算速度を競ってもらい、その検算を電卓を用いていかに早く行えるかを競ってもらった。ゲーム的要素を取り入れることで、退屈させないよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 応用生理学 】</p> <p>講義を PowerPoint で行っているので、講義スライドを全て印刷し配布した。補足のスライドなどはカラーが多いので、「講義資料配布システム」を用いていつでもどこでもどの端末からでも講義スライドをカラーで見ることができるように配慮した。本講義内容は、管理栄養士国家試験に出題される内容が非常に多いので、それを意識してもらえるように注意を促し、試験問題を国家試験に出題されたものを一部利用して作成した。定期テスト終了直後に解答を「講義資料配布システム」にて公開し、疑義紹介時間を設けるようにした。</p>
<p>授業科目名【 解剖生理学実習 】</p> <p>実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーII 】</p> <p>栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて伝えた。特に口頭発表では、ニュースアナウンサーを例にして実生活との結びつきを意識してもらった。</p>
<p>授業科目名【 管理栄養士演習 I 】</p> <p>講義を PowerPoint で行い、講義スライドを全て印刷し配布した。補足のスライドなどはカラーが多いので、「講義資料配布システム」を用いていつでもどこでもどの端末からでも講義スライドをカラーで見ることができるように配慮した。また、単に過去問を解くのではなく、なぜこの選択肢が誤答になるのかを一つひとつ丁寧に解説し、類似問題にも対応できるようにした。</p>
<p>授業科目名【 生理学（福祉学科） 】</p> <p>毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。本年度は、血圧測定と肺活量測定を講義の中に取り入れ、自分の体を使った実習を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会	評議員（2002年4月～現在に至る）	1999年7月～現在に至る
日本解剖学会	代議員（2019年3月～現在に至る） 九州支部代議員（2013年11月～現在）	2001年10月～現在に至る
日本神経科学会		1996年7月～現在に至る
北米神経科学会		1999年11月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. Allopregnanolone augments epileptiform activity of an in-vitro mouse hippocampal preparation in the first postnatal week.	共著	2019年11月号 (Epub 2019年8月)	Epilepsy Research	著者: Sharopov, S., Winkler, P., Uehara, R., Lombardi, A., Halhuber, L., <u>Okabe, A.</u> , Luhmann, H.J., Kilb, W.
2. Development and persistence of neuropathic pain through microglial activation and KCC2 decreasing after mouse tibial nerve injury.	共著	Epub 2020年2月	Brain Research	著者: Kosaka, Y., Yafuso, T., Shimizu-Okabe, C., Kim, J., Kobayashi, S., Okura, N., Ando, H., <u>Okabe, A.</u> , Takayama, C.
(翻訳)				
(学会発表)				
1. 脊髄発達過程におけるグリシントランスポーター1 (GlyT1) の発現変化	共著	2019年11月9日	日本解剖学会第75回九州支部学術集会 (九州歯科大学、北九州)	著者: 清水千草、友寄竜司、平安山貴江、小林しおり、 <u>岡部明仁</u> 、高山千利
2. 脊髄におけるグリシントランスポーター1の発達変化	共著	2020年3月17-19日	第97回日本生理学会大会 別府コンベンションセンタービーコンプラザ (別府)	著者: 清水千草、小俣大輔、友寄竜司、岡野貴江、小林しおり、 <u>岡部明仁</u> 、高山千利
				教育研究業績 総数 (2020年3月31日現在) 著書 2 (全て共著、査読有、内訳 英文1 和文1) 学術論文 36 (全て共著、査読有) 学会発表 116 (全て共著、内訳 国際学会41 国内学会75)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）	
入学試験会議	委員 2019年4月1日～2020年3月31日
動物実験委員会	委員 2017年4月1日～現在に至る
同上	副委員長 2018年4月1日～現在に至る
学生募集委員	委員 2018年4月1日～2020年3月31日
FD委員会	委員 2018年4月1日～2020年3月31日
バトミントン部	顧問 2019年4月1日～2020年3月31日
公的研究費内部監査部門	責任者 2019年度～現在に至る

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	尾 上 均	職名	教授	学位	博士(医学)
----	-------	----	----	----	--------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca ²⁺ 動員機構 細胞内 Ca ²⁺ 恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌

研 究 課 題
① 細胞内カルシウム動因機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担 当 授 業 科 目
生活の中の化学) 生化学 I 生化学 II 生化学実習 人体の構造と機能実習 管理栄養士演習 I

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 生活の中の化学 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った ● 本科目、生化学 I および生化学 II をとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを配布し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた ● 講義は、スライドを用いて行った。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで配布した ● 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
<p>授業科目名【 生化学 I 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた ● 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした ● 講義に用いるスライドにも改訂を加えて使用した ● 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて配布した ● 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた ● 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した

<p>授業科目名【 生化学Ⅱ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。 ● 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した ● 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。 ● 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた ● 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
<p>授業科目名【 人体の構造と機能総合実習 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15回中5回を担当した ● 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした ● 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした ● 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた ● レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
<p>授業科目名 生化学実習 【</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実験を通じて「事実(データ)を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた ● 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした ● 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように指導した ● レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
<p>授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした ● 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った ● 練習問題はオリジナルに作成した

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生化学会		1995年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

--

2019 年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名 甲 斐 達 男	職名 教 授	学位 農学博士（九州大学 1992 年）
------------	--------	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用微生物学、食品科学、分子遺伝学、音声学	発酵、微生物、発酵種、製パン、酵母、乳酸菌、パネットーネ、ゲノム解析、音声解析、音源修復

研 究 課 題
(1) パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析 (2) 世界のパン発酵種に関する調査研究 (3) カストラートの音源修復 (4) 声楽家の歌声特性解析

担 当 授 業 科 目				
科 目 名		単 位 数		開講学期（備考）
		必 修	選 択	
微生物学	(栄養学科) × 2クラス	2		前期
食品衛生学実験	(栄養学科) × 2クラス	1		前期
初年次セミナー	(栄養学科、オムニバス) × 1クラス	2		前期 (担当コマ数：5)
調理師論	(栄養学科) × 1クラス		2	前期
加工食品機能論	(栄養学科) × 2クラス	2		後期
食品衛生学	(栄養学科) × 2クラス	2		後期
栄養学概説	(栄養学科、オムニバス) × 1クラス	2		後期 (担当コマ数：5)
卒業ゼミ	(栄養学科) 個人別		2	通年
管理栄養士演習 I	(栄養学科、オムニバス) × 1クラス	2	2	通年 (担当コマ数：2)
栄養学	(国立福岡教育大学) × 1クラス		2	前期
食物学実験実習	(国立福岡教育大学) × 1クラス	1		前期

授業を行う上で工夫した事項
<p>授業科目名【微生物学(3年生対象)・食品衛生学(2年生対象)・加工食品機能論(2年生対象)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の問題を9年連続で同じ内容と同じ形式(5択問題50問)にて実施してきた結果、学年ごとの学力特性が把握でき、4年次の国家試験対策への取り組み方を調整するのに役立った。 2. 学生の要望により、成績を開示しているため、評価方法に関するクレームは無かった。 3. 私語がほとんど無かったが、授業中に携帯をいじる学生が散見された。例年に比べ意欲は強いが、モラルの面で劣った。
<p>授業科目名【食品衛生学実験(3年生対象)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 例年通り、実験における班構成についてはチームワークが発揮できるよう学生の要望をうまく取り入れ、かつリーダーシップを発揮できるような学生を各班に配置し、学生同士が自由に前向きなディスカッションがしやすい雰囲気作りに努力した。この手法は今年度も成功した。班のメンバー構成は極めて重要であった。 2. 例年通り、全員参加型の授業(アクティブラーニング)になるよう工夫し、成功したと思われた。 3. カリキュラム改訂により今年度から、微生物学実験と食品衛生学実験の内容を統合したが、特に、トラブルはなく、円滑に遂行できた。

<p>授業科目名【調理師論(1年生対象)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調理師免許を在学中に取得する学生が増えてきた背景があり、管理栄養士の就職に有利な資格であるためこの資格取得をより推進するためにこの科目を新設した。 2. 夏休みの集中講義であったにもかかわらず、熱心に受講してくれた。 3. 今後、資格取得者が増えることを、他大学との差別化を図る意味で期待したい。
<p>授業科目名【卒業ゼミ】(4年生対象、卒ゼミ1名が受講)</p> <p>1名の受講者であったので、細やかな指導ができた。就職も早期に決まり、管理栄養士国家試験にも高得点で合格できた。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習 I】(4年生対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の学生は補講の出席率が極めて低く、学習しているのかどうかが見えず、非常にやり難い学年であった。 2. 担当分野である「食べ物と健康分野」の補講(単位とは無関係の補講)の回数は、基礎系の科目であることから、前期にウエイトを置いて実施した。前期は初心者向けの「よくわかる管理栄養士合格テキスト」を、夏休み以降は全国で最もよく利用されている「クエスチョンバンク」を用いて、その内容に添って解説することで、学生の理解度の向上を図った。 3. 「食べ物と健康分野」について言えば、結果的には、全国模試での出来は例年と変わらなかったもので、補講にはほとんどの学生が出席していなかったものの、自力で学習していたものと思われた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生化学会	正会員	1991年4月～現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994年4月～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995年4月～現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995年4月～現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000年4月～現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002年4月～現在に至る
日本音声学会	正会員	2010年4月～現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014年4月～現在に至る
日本調理食品研究会	正会員・理事	2017年4月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) ① 食品成分表の日独間比較研究(審査論文)	共著 原著 論文	2019年4月	日本調理食品研究会誌 Vol.25、No.1、p8-14、 2019 穴井由美子、長光里奈、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	国際食品成分表を構築するための準備研究として、今回はドイツの食品成分表を取り上げ、先行研究に添って、日本の食品成分表との比較検討を行った。掲載項目や分析項目については、日本の方が上回るものの、消費者にとっての利便性についてはドイツでは特筆すべき種々の工夫がなされていた。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
② 抗がん剤治療中のがん患者の食嗜好変化とその対応策 (審査論文)	共著 短報	2019年4月	日本調理食品研究会誌 Vol.25、No.1、p15-19、 2019 長光里奈、近江雅代、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	抗がん剤治療中の患者の食欲減退の実状を医療現場の視点から捉え、食嗜好の変化を観察した結果を報告するとともに、その原因解析と対策を、障害の状況や程度に応じて試行錯誤してきた結果として得られたノウハウを、今回簡潔にまとめ、資料として提供した。
③ アルタムーラのサワーブレッドとその発酵微生物 (審査論文)	単 総説	2020年3月	Vol. 25、No4、2019 印刷中	イタリアのサワーブレッドは、北のパネットーネと南のアルタムーラサワーブレッドが広く知られており、古くから、その発酵微生物に関する研究が盛んになされてきている。本総説では、多くの研究成果を、現代科学の視点から観てとりまとめた。
④ 大麦焼酎粕が製パン性に及ぼす影響 (審査論文)	共 原著 論文	2020年3月	日本食品・機会研究会誌、Vol. 39、No4、2019 印刷中 甲斐達男、吉野精一	産業副産物の有効利用の一環として焼酎粕のパンへの利用を検討した。小麦粉 100 に対して焼酎粕 10 までの添加によって、加工性を低下させることなく、風香味の優れたパンが得られた。
(講演・講習会) ⑤ 調理師講習 「食品学」	単	2019年9月 16日(日)、 10:00-13:00	福岡人材開発センター3F(福岡市東区千早5-3-1) 主催:職業訓練法人福岡地区職業訓練協会	福岡県調理師試験受験予定者を対象に、食品学分野の受験対策講習を行った。
⑥ 商品開発に役立つ製パンの科学と最新事情	単	2019年12月 10日(火)、 10:00-17:00	リファレンス西新宿(東京都新宿区西新宿7-21-3、西新宿大京ビル2階、205) 主催:株式会社テックデザイン	製パンおよび関連分野の一般企業技術者および国公立・私立研究組織に所属する技術者を対象とした基礎学、および、実践的技術に関する講習を行った。具体的には、筆者の開発経験に始まり、小麦粉、製パンシステム、使用原材料、食味と食感、最近のトピックスに分けて、詳細な解説を行った。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
⑦ パネットーネサワードウの発酵微生物に関する諸特性	単	2020年2月1日(土)、13:00-14:10	日本穀物科学研究会第181回例会・総会シンポジウム「グルテンフリーパンとサワードウ、パネットーネの利用」、神戸女子大学教育センター(兵庫県神戸市中央区中山手通2-23-1)	<p>シンポジストとしてパネットーネに関する十数年来の研究経過を報告した。サワードブレッドとしてのパネットーネの解説、種に棲息する酵母と乳酸菌の種類、製パン性、抗カビ因子、ゲノム解析などに関する検討経過を報告した。</p> <p>研究業績 総数 (2020.3.31現在)</p> <p>著書 4 (単0、編者・著者1、共著3)</p> <p>学術論文 59 (単12、筆頭20、責任著者19、共8)</p> <p>国内学会発表 15 (単0、筆頭6、責任発表者4、共5)</p> <p>国際学会発表 6 (単0、筆頭6、責任発表者0、共0)</p> <p>国内講演 5 (単3、筆頭2)</p> <p>海外講演 1 (単1)</p> <p>申請特許 15 (筆頭発明者6、筆頭責任発明者9)</p> <p>上市製品 12 (単独開発6、筆頭責任開発者4、産学共同開発2)</p> <p>公開講座・講習会講師 12 (単12、共0)</p>

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
1. バイオインダストリー協会	正会員	1989年4月～現在に至る
2. 内閣府食品安全委員会	モニター	2016年4月～現在に至る
3. 日本調理食品研究会	理事	2017年5月～現在に至る
4. 北九州市食品衛生懇話会	学識経験者会員・座長	2018年4月～現在に至る
5. 厚生労働省	行政モニター	2019年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

1. 学生募集委員
2. 学科初年次セミナーIワーキンググループメンバー
3. 学科国試対策委員 (担当コマ数：前期15コマ、夏期4コマ、後期6コマ、直前6コマ)
4. 学生の資格取得推進サポート担当

以上

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	藤和 太(銀光)	職名	准教授	学位	博士(医学)(九州大学 2005年)
----	----------	----	-----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研究課題
1. 症例対照研究におけるDNA修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究

担当授業科目
公衆衛生学Ⅰ(前期) 健康管理概論(前期) 管理栄養士演習Ⅰ(前期) 管理栄養士演習Ⅰ(後期) 公衆衛生学Ⅱ(後期) 卒業研究 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【公衆衛生学Ⅰ】</p> <p>聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気がつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。</p>
<p>授業科目名【健康管理概論】</p> <p>スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】</p> <p>国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。</p>
<p>授業科目名【公衆衛生学Ⅱ】</p> <p>公衆衛生学Ⅰでは、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学Ⅱの授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
アジア太平洋がん予防学会	会員	2002年 10月～現在に至る
日本疫学会	会員	2003年 1月～現在に至る
日本癌学会	会員	2003年 10月～現在に至る
日本がん疫学研究会	会員	2004年 8月～現在に至る
日本公衆衛生学会	会員	2010年 12月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 健康管理概論 第3版 第8章	共著	2019年2月	講談社	栄養学NEXT シリーズ 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
(学術論文) 1. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.		2018年2月	<i>Gene</i> . 2018 5:642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006年と2007の間で募集された35—69歳、4972人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた7つの選択されたSNPの連合を分析した。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相互作用が見られた。 ② 共著者 Seiki T, Naito M, <u>Guang Yin</u> , 他9名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P172-177
2. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	<i>Nutrients</i> . 2016 Sep 6;8(9). pii: E545.	① 日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの相互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。 ② 共著者 Hinako Nanri, <u>Guang Yin</u> , 他16名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P1-16

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	<i>Nagoya J Med Sci.</i> 2016 May;78(2):183-93.	<p>① 日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究において、ALDH2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。</p> <p>② 共著者 <u>Guang Yin, Mariko Naitou</u>, 他16名。</p> <p>③ 役割：論文作成、データ収集、統計分析 P183-193</p>
4. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015年3月	<i>Asian Pac J Cancer Prev.</i> 2015;16(5):2019-26.	<p>① この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミンDレセプターである <u>Apal</u> 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。</p> <p>② 共著者：Takeshige N, <u>Yin G</u>, 他 12 名</p> <p>③ 役割：データ収集、論文作成 P2019-2026</p>
5. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015年2月	<i>Ann Rheum Dis.</i> 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	<p>① この研究は、1994名の日本人男性痛風患者と2547名の健康な対照を用いた <u>Genome-Wide Association Study</u> である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。</p> <p>② 共著者 Mtsuo H <u>Yin G</u> 他 38 名</p> <p>③ 役割：論文作成、論文作成、データ収集 doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191</p>
(翻訳) なし				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. カフェイン代謝酵素 CYP1A2 遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020年2月	第30回疫学会総会(京都大学百周年時計台記念館)	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第2次調査に参加した35-69歳の男女2695名である。この研究では、CYP1A2 rs2472304 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他11名 ③第30回疫学会学術総会抄録集 (P146)
2. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連: 既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016年1月	第26回 日本疫学会学術総会(米子コンベンションセンター)。	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 静岡地区ベースライン調査に参加した35-69歳の男女4995名である。この研究では、日本人における赤血球系検査値と7種のSNPとの関連を確認した。 ②清木俊雄、内藤真理子、銀光、他9名 ③第26回疫学会学術総会抄録集 (P150)
3. がん罹患歴 PTPN11 遺伝子多型 (rs2301756) の関連: J-MICC Study 静岡地区	共著	2015年10月	第74回 日本癌学会学術総会(名古屋国際会議場)	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 静岡地区ベースライン調査に参加した35-69歳の男女5000名である。この研究では、PTPN11 遺伝子多型と女性のがん罹患歴との関連が示された。 ②川合紗世、銀光、浜島信之他5名 ③第74回癌学会学術総会抄録集 (P280) 教育研究業績総数 (2020年4月16日現在)

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				著書 3 (内訳 単 1,共 2) 学術論文 40 (内訳 単 0,共 40) 学会発表 26 (内訳 単 0,共 25)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)
情報システム管理運用委員会 委員 2013年度～2019年度 保健福祉学部研究所運営委員会 委員 2017年度～現在 衛生委員会 委員 2019年度～現在

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 相良かおる	職名 准教授	学位 博士(工学) 奈良先端科学技術大学院大学
----------	--------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
情報科学：自然言語処理	自然言語処理 辞書 データベース 医療用語 日本語学 語彙調査 語彙分類

研究課題
医療文書の分かち書き用辞書 ComeJisyo を作成し無償公開している。 実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

担当授業科目
情報処理基礎 (前期) (栄養学科) 情報処理応用 (後期) (栄養学科) 健康情報処理論 (前期) (栄養学科) 健康情報処理実習 (後期) (栄養学科) 卒業研究・演習 (通年) (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【情報処理基礎】</p> <p>「情報科学演習1」の科目名が「情報処理基礎」に変更された。</p> <p>本授業では、情報処理に必要な基本的知識、クラウドコンピューティングや SNS 等の最新の ICT に関する情報、インターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と、Word 及び Excel の基本操作の演習が含まれる。タイピング教材には日本国憲法全文と、管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている。</p>
<p>授業科目名【情報処理応用】</p> <p>本授業では、Word の演習としては、「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成、Excel の演習としては、銀行およびクレジット会社で使われている利息計算、そして社会調査に必要な知識・スキルを学ぶための教材としてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用い、情報の加工と表現法を行っている。また地域社会の一員としての貢献について気付き、学ぶために、自分の住む地域の名物料理、名産の食材とそれらの栄養成分、機能等を調べ、地域活性化事業を提案し、レポートにまとめ、PowerPoint を使ったプレゼンテーションの演習を行っている。パンフレットおよびプレゼンテーションについては、評価票を用いてクラス全員で評価し、成績評価に反映している。</p> <p>また、人工知能 (AI) が身近なところで利用されるようになってきたこともあり、コンピュータとの対話を経験するためにプログラミング言語 VB (Visual Basic) を使った実習を行った。</p>
<p>授業科目名【健康情報処理論】</p> <p>マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と、自分が必要とする健康情報の収集方法、そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業であるが、適切な教科書がなく、毎回資料を配布して授業を行っている。「フードファディズム (Food faddism)」と「三た論法 (飲んだ、治った、効いた)」については、具体的な事例を紹介し、また身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し、問題解決型の授業を行っている。</p> <p>資格取得のため、膨大な知識を暗記する科目が多いことを踏まえ、本授業では、暗記型、一方向型の講義ではなく、学生自身で情報を吟味し、問題を見付け、意思決定する過程を学ぶ「教えない」授業を心掛けている。</p>

授業科目名【健康情報処理実習】

本授業は、「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし、「栄養疫学（栄養学研究）」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である。管理栄養士として調査研究する際に必要な、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型、共同学習型の授業を構成し、成果物が卒業後も活用出来るように、教材（統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等）を作成している。また、評価においてもグループ評価 20%、課題提出 20%、授業貢献 10%とし、毎回の授業の取組を評価するようにしている。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
情報処理学会		1996年
教育工学会		2000年
医療情報学会		2002年
日本看護科学会		2004年
大学女性協会		2008年
日本女性科学者の会		2009年
言語処理学会		2011年
情報知識学会		2014年

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 実践医療用語の語構成要素－意味を基準とした分割	共著	2019年12月	情報処理学会シンポジウム シ リ ー ズ Vol.2019.No.1.人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 p.57-64.	全8頁 相良かおる, 山崎誠, 麻子軒, 東条佳奈, 小野正子, 内山清子 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から一般的な語を含む合成語 7,194 語を選定し、これらの語構成を明らかにしている。
(翻訳)				
(学会発表) 2. 実践医療用語の語構成への分割と意味ラベル付与	共著	2019年6月	言語資源活用コーパスワークショップ発表論文集 (LRW2019),pp.161-168	全8頁 山崎誠, 相良かおる, 小野正子, 東条佳奈, 麻子軒 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyoの見出し語から『分類語彙表 増補改訂版』に収録されている語を含む合成語 1,000語を抽出し、語構成要素に分割し、意味ラベルを付与し、意味ラベルによる語構成のパターンを調査している。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 実践医療用語の語構造に関する考察—医療記録に含まれる合成語の適切な細分割を目指して—	共著	2019年11月	第20回日本医療情報学会学術大会 39th JCFI(Nov.2019) pp.698-701	全4頁 相良かおる, 小野正子, 山崎誠 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyoの見出し語から『分類語彙表 増補改訂版』に収録されている語を含む合成語 2,771語について、語構成要素への分割を行い、語構成要素に付与した意味ラベルの解析を行っている。
			(2020年3月31日現在) 総数105 学術論文 33 (内訳 単著 8 共著 25) 学会発表 56 (内訳 単著 0 共著 56) 翻訳 1 (内訳 単著 0 共著 1) 図書&テキスト 3 (内訳 単著 0 共著 3) 随筆 10 (内訳 単著 10 共著 0) 報告書 2 (内訳 単著 1 共著 1) (特許 5)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究(B))	○相良かおる、 小野正子 (山崎誠、東条佳奈、内山清子)	2019年度 3,900千円(直接経費: 3,000千円、間接経費: 900千円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト (特定非営利活動法人 言語資源協会正会員)	代表	2012年～現在

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

◆ 図書委員

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 高崎 智子	職名 教授	学位 博士(医学)(九州大学 2001年)
----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
予防医学	健康寿命、生活習慣、がん教育 がん検診、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の延伸を図るため、一般市民への啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す がん検診に関する地域住民の意識と課題についての検討 がん検診における要精密者の受診率を高めるための課題についての検討

担当授業科目
病理基礎医学(後期)(栄養学科) 疾病診断治療学Ⅰ(前期)(栄養学科) 疾病診断治療学Ⅱ(後期)(栄養学科) 臨床栄養学実習Ⅰ(前期)(栄養学科) 管理栄養士演習Ⅰ,Ⅱ(前期,後期)(栄養学科) 初年次セミナーⅡ(後期)(栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【病理基礎医学】</p> <p>1年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていくよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、講義内容はプリントにして配布した。また講義の最後に確認テストを行い、講義内容の理解度を確認した。次回の講義の際に、採点したテスト用紙を返却するとともに理解度の低い箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
<p>授業科目名【疾病診断治療学Ⅰ】</p> <p>管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、講義内容はプリントにして配布した。また講義の最後に確認テストを行い、講義内容の理解度を確認した。次回の講義の際に、採点したテスト用紙を返却するとともに理解度の低い箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
<p>授業科目名【疾病診断治療学Ⅱ】</p> <p>疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めると共に、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して資料を配布し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、講義内容はプリントにして配布した。講義の最後に確認テストを行い、講義内容の理解度を確認した。さらに次回の講義の際に、採点したテスト用紙を返却するとともに理解度の低い箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>

<p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅰ】</p> <p>管理栄養士はチーム医療を担う一員である。栄養管理を行う上で対象者の健康状態を把握することが重要になるため、学生同士で模擬患者になり、医療面接法、身体診察法、救命救急法、心電図測定法などを体験した。また血圧、コレステロール、中性脂肪、血糖値などの検査指標を実際に測定し、疾病や病態についての解説を行うことで知識の定着を図った。さらにモデル症例を呈示し、病態把握・診断・治療法について検討・討議する症例検討を取り入れ、全員が発言する機会を持つよう討論形式で行った。各実習は、小グループに分けて行い、実習終了後には、実習内容を発展させた課題を提示し、レポート形式で提出させた。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ,Ⅱ】</p> <p>4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出題された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。演習問題を解くにあたり、その回答を導き出す過程や他領域との関連について図表を作成しながら説明し、総合的に考える習慣付けができるようにした。特に国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】</p> <p>1年生を対象として、「研究倫理」に関する講義を行った。研究不正行為に関して事例を挙げながら紹介し、それらの行為が学生にとっても無縁ではないことを説明した。大学生としての身近な例として、不正のない実験ノートやレポートの書き方に関する指導を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本人間ドック学会	人間ドック認定医 人間ドック健診専門医 人間ドック健診指導医 人間ドック健診情報管理指導士	2005年8月～現在に至る 2012年1月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2007年8月～現在に至る
日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医	2020年1月～現在に至る
日本がん検診・診断学会	がん検診認定医	2012年10月～現在に至る
肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定医	2017年4月～現在に至る
日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医	2006年10月～現在に至る
日本医師会	福岡県医師会認定総合医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医	2017年4月～現在に至る 2016年9月～現在に至る 2011年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究業績 総数 (2020年3月31日 現在) 著書 2 (内訳 共 2) 学術論文 7 (内訳 共 7) 学会発表 37 (内訳 共 37)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・周望学舎シニアサマーカレッジ ・『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開～西南女学院大学保健福祉学部・九州歯科大学口腔保健学科連携公開講座～	「正しく知ろう！がんの話」講師 「健康で豊かに生きるために、健康長寿を目指して～専門家による健診と自宅でできる健康管理～」講師	2019年9月6日 2019年10月19日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員会 委員（2019年4月1日～2020年3月31日） 栄養学科1年生、2年生、3年生アドバイザー（2019年4月1日～2020年3月31日） 管理栄養士国家試験対策講座（2019年4月1日～2020年2月28日） オープンキャンパス 模擬授業（2019年7月14日） 高校訪問（2019年8月）

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	田路 千尋	職名	准教授	学位	博士(学術)(奈良女子大学2014年)
----	-------	----	-----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
栄養教育、公衆栄養学	食育、食事調査

研究課題
<p>これまでの研究においては、地域住民に対して開発した食事調査法を用いた栄養教育と運動教育を行い、減量を目的とした前向き介入研究を実施してきた。今後も食事調査法の近未来のあり方を検討し、栄養教育による効果的なエビデンスの蓄積に努めたい。また、小倉駅商店街で SAT システムを使用した食事診断および学童保育での食育を行うことで地域貢献活動とした取り組みをしていく予定である。</p>

担当授業科目
<p>管理栄養士演習Ⅱ・ブラッシュアップゼミ(栄養教育論・公衆栄養学)、栄養教育論実習Ⅰ、公衆栄養学実習、栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養活動論、臨地実習Ⅱ、高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ(栄養教育論・公衆栄養学)担当】</p> <p>「栄養教育論」と「公衆栄養学」の分野の講義を担当。国家試験対策の模擬試験受験後に配布される解答・解説書は、解説が簡素すぎるが多いため、「栄養教育論」と「公衆栄養学」分野に苦手意識をもつ学生がいる現勤務校では、十分な学習効果が得られないと考えられた。出題された問題の各選択肢について、解答のみにとどまらず、その範囲で系統化して習得しておくべき基礎知識を解説したプリントを作成し、毎回の講義を行っている。</p>
<p>授業科目名【 栄養教育論実習Ⅰ 担当】</p> <p>3 年生配当科目「栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ」を担当。対象者の健康・食生活に関する情報収集、優先課題の特定、目標設定、学習計画の立案、実施、評価およびそのフィードバックまでの PDCA サイクルの作業を体験的に学び、活用できるスキルを習得することを目標に、個人・集団を対象とした栄養教育の実践を指導している。</p>
<p>授業科目名【「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」担当】</p> <p>管理栄養士国家試験の出題基準における「栄養教育論」分野は、出題範囲が広く、教科書の分量も多い。毎回の講義は、教科書に加えて、パワーポイントによるスライド(ムービー等も利用)とプリント資料(書き込み欄付)を作成・配布し、テキストとして利用した授業により、学生の理解度が深まる工夫を行っている。また、小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進めている。1 年生から履修する科目のため、教科書に記載の内容を習得することに加え、この科目を学ぶ重要性を理解させることもまた必須である。そこで、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するようにしている。時には過去問を示して解説を行うことで、講義で学習する内容が実際に国家試験で出題されているということを理解させるようにしている。</p>
<p>授業科目名【 公衆栄養学実習 担当】</p> <p>3 年生配当科目「公衆栄養学」を担当。提示した仮想地域に対するアセスメント結果から問題点を見つけたし、課題を改善するための模擬授業を実施した。対象者の健康・食生活に関する情報収集、優先課題の特定、目標設定、学習計画の立案、実施、評価およびそのフィードバックまでの PDCA サイクルの作業を体験的に学び、活用できるスキルを習得することを目標に、集団を対象とした公衆栄養学の実践を指導している。</p>

<p>授業科目名【専門科目「臨床栄養活動論」担当（分担）】</p> <p>「臨床栄養活動論」を分担。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、これまでに修得した栄養教育の知識や技術を基礎として、栄養ケア計画の作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することを目標とする。実務家教員として、病院管理栄養士を招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の役割をより深く理解する。また、将来、医療の場で活躍する場合に必要な知識を広く深く学ぶとともに、医療人としての心構えを培う。</p>
<p>授業科目名【専門科目「臨地実習Ⅱ」担当（分担）】</p> <p>臨地実習Ⅱでは、病院へ実習に行く学生の指導を行っている。実習期間中に実施される実習課題や研究授業内容を事前に何度も確認し、より円滑に実施できるように指導している。臨地実習の巡回時には、実習中の学生への助言及び学生の研究授業の講評を行っている。実習報告会では、各施設での実習内容について講評を行い、教員としての立場から実習の効果が最大限に得られるよう努めている。</p>
<p>授業科目名【学部共通科目「高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ」担当（分担）】</p> <p>西南女学院大学、九州歯科大学、西日本工業大学の3大学による合同授業及びチュートリアルを行っている。福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野分野の実務家教員が自らの実践経験を踏まえて解説・実技指導を行っている。栄養分野では、高齢者の低栄養・過栄養と高齢者に特有な病態との関連、必要なエネルギー及び栄養素とその食事バランス及び栄養状態の評価・判定について指導している。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会会員 日本栄養改善学会会員 日本疫学会会員 日本衛生学会会員 日本学校保健学会会員 日本予防医学会会員	第 16 回日本予防医学会学術総会企画 運営委員	2003年4月～現在に至る 2003年4月～現在に至る 2005年4月～現在に至る 2009年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2017年6月～現在に至る

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

地域貢献活動として「SAT システムを使った食事診断会」を実施した。北九州市小倉北区の商店街の中にある“まなびと ESD ステーション”で地域住民に対する食事診断を行った。

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	南里 宏樹	職名	教授	学位	博士 (医学) (九州大学 1983 年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
栄養代謝学 生化学 臨床栄養学 細胞生物学	活性酸素 酸化ストレス 抗酸化防御機構 糖毒性 糖化タンパク質 血管内皮細胞

研究課題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担当授業科目
基礎栄養学Ⅰ (新カリキュラム:1年生後期) 2クラス 基礎栄養学Ⅱ (新カリキュラム:2年生前期) 2クラス 臨床栄養学実習Ⅰ (旧カリキュラム:3年生前期;分担) 2クラス 栄養学実習 (新カリキュラム:3年生後期) 2クラス 運動・環境と栄養(3年生後期;分担) 2クラス 栄養学概説 (1年生後期;分担) 管理栄養士演習Ⅰ (4年生通年;分担) 2クラス 卒業ゼミ (4年生通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 基礎栄養学ⅠおよびⅡ 】</p> <p>基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多いので、生化学と関連づけながら講義した。また、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、全体の流れが分かるように留意し、重要事項は繰り返し強調するように心がけた。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配布した。また、管理栄養士国家試験の過去問題(2000年~2019年)の解説集、基礎栄養学の重要項目の練習問題を早期に配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。また、その日の授業に関連する練習問題を授業の終わりに学生に質問して答えさせるようにした。</p>
<p>授業科目名【 臨床栄養学実習Ⅰ 】</p> <p>2人の教員が分担する栄養学科3年生のための実習で、主に「栄養」に関連する分野を担当した。糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝、エネルギー代謝、貧血に関連する臨床検査指標の測定、数値の解釈について、各種疾患の病態と栄養代謝を関連づけて理解できるように留意した。また、実習内容の栄養学および医学的意義について考えさせるための課題を出し、レポートを提出させた。</p>
<p>授業科目名【 栄養学実習 】</p> <p>糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、エネルギー代謝、ビタミン、無機質などの栄養素およびその代謝産物を測定し、各栄養素の栄養学的意義とその代謝について理解できるように留意した。また、実習内容の栄養学および医学的意義について考えさせるためのレポートを提出させ、1,2年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。</p>
<p>授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】</p> <p>8人の教員が分担する栄養学科4年生のための演習で、「基礎栄養学」分野と「応用」分野を担当した。2000年~2019年の基礎栄養学に関する管理栄養士国家試験の問題について、分野別に分類し、分野ごとに10~15年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、問題に関連する周辺事項を幅広く理解させるため、問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習と自主講義と併せて、前期10回(うち自主講義8回)、後期13回(うち自主講義11回)実施した。</p>

また、夏休み期間に集中講義（演習）を 2 日間(4 コマ)、後期終了後、国試までの間に集中講義（演習）を 1 日間（2 コマ）実施した。
授業科目名【 運動・環境と栄養 】 3 人の教員が分担する栄養学科 3 年生のための講義で、「環境と栄養」を担当した。 ストレス、体内リズム、気温、気圧、重力など 5 つの環境因子について、「栄養」との関りを身近な具体例を挙げながら講義した。
授業科目名【 栄養学概説 】 3 人の教員が分担する「食事摂取基準」と「食品成分表」に関する栄養学科 1 年生のための講義で、「食事摂取基準」の基本的な考え方について講義した。
授業科目名【卒業ゼミ】 基礎栄養・応用栄養・臨床栄養に関連するテーマを自分で選択し、それについて主に文献的に調査・検討し、最後にレポート(パワーポイントによる発表とワードによる論文)にまとめるという形式で実施した。文献の集め方、発表の仕方、レポートの作成方法について指導した。毎年、テーマの選択は、自分の興味があるものを選ぶようにしているので、主体的な取り組みができていると思う。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本生化学会 日本栄養・食糧学会 日本肥満学会 日本栄養改善学会 2015 年第 62 回日本栄養改善学会学術総会実行委員会	総務委員会副委員長 (2014 年～2015 年)	1977 年 4 月より現在に至る 2003 年 5 月より現在に至る 2008 年 4 月より現在に至る 2014 年 1 月より現在に至る

2019 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績 総数 (2020.3.31 現在) 著 書 8 (単 0, 共 8) 学術論文 64 (単 3, 共 61) (Proceedings など 5 編を含む) 学会発表 97(単 0, 共 97)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

図書館長(2016年4月1日～2020年3月31日) 図書委員（委員長）(2016年4月1日～2020年3月31日) 研究紀要委員（2016年4月1日～2020年3月31日） 教員免許更新講習・講師(2019年8月21日)
--

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	林 裕二	職名	教授	学位	修士 (文学) (西南学院大学 1993 年)
----	------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研 究 課 題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担 当 授 業 科 目
人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科) 初年次セミナー I (前期) (観光文化学科) 基礎英語 (前期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科) TOEIC演習 A (前期) (観光文化学科) TOEIC演習 B (後期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ応用 (後期) (観光文化学科) 専門演習 II (通年) (観光文化学科) 卒業研究 (通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科)】</p> <p>人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目 (90 分 8 回) の二年目にあたる。人文学部の担当教員がそれぞれ原則として一コマ担当する。人文学部での学びの導入として、まずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。2018 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の約束事がシラバス (配布) にどのように示され、それをどう理解するかにも触れた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナー I (前期) (観光文化学科)】</p> <p>1 回目は学部全体で受講し、2 回目以降は学科の専任教員が担当する。専任教員 7 人で 1 学年の学生を均等に割り振りした少人数のクラス編成として、一人の教員が残りの 14 回を担当。まずは学生間の人間関係を作らせ、学習集団への帰属意識をもたせようとした。そのための手法として、座学の中にもペア学習、グループワークを取り入れた。また学科行事として 2 回の授業を使い、ディベート大会を行った。その際に授業で学んだ文献の探し方、わかりやすい発表のしかたを実践させることで、コミュニケーション能力の高め方を学び、グループとしての自主的な学習の動機付けを高めた。</p>
<p>授業科目名【基礎英語 (前期) (観光文化学科)】</p> <p>観光文化学科の専門必修科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目の 2 年目である。1 年次の学年を二分割したサイズである。授業では特にリスニング、読解力を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところは、丁寧に繰り返し説明をした。学習活動として、E-learning の CHleru の学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、オリエンテーション期間中にそれぞれの活動についての指導を行った。また CHleru の学習と英語の多読については、A、B のクラスを問わずに説明をして対応した。</p>

<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）】</p> <p>2019年度の新規科目。E-LearningのCHeru(チエル)を使うマルチメディア教室での必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、ほぼ毎回課題を出し、次回授業で理解度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも教材は利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるようにした。授業最初に小テストを毎回行い、遅刻者が出ないようにした。</p>
<p>授業科目名【TOEIC演習A（前期）（観光文化学科）】</p> <p>TOEIC演習A～Eシリーズの中での最も基本的なレベルである。基本的な文法力を養うことが必要であり、そこを強化しながら、さらに基礎的なリスニングや読解力を伸ばそうとして、少人数を生かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。</p>
<p>授業科目名【TOEIC演習B（後期）（観光文化学科）】</p> <p>受講生の三分の二が、前期のTOEIC演習Aと重なっていた。基本的な文法力の底上げが必要だった。3名という少人数を活かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。説明、理解、確認、定着というパターンを繰り返し行わせた。学生にも板書をさせて、ライティングの確認もさせた。</p>
<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）】</p> <p>前期のマルチメディアイングリッシュ基礎と同じ教室であり、前期のリフレクションから次のことを工夫した。学生の座席配置は、教卓背面のホワイトボードを位置的にも距離的にも、必ず見える位置になっているわけではない。そのホワイトボードを多用せずに、教卓の背後の左右のスクリーンを利用したTTPによる提示を中心にした。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ（通年）（観光文化学科）】</p> <p>年間を通して複数回、学生からの授業についてのコメント、要望を得た。それをシラバスにも沿うような形でできる限り取り入れて、最終的には学生の利益（卒業論文を仕上げることに）につながるように指導をした。また、学外授業として、小倉都心部での質的研究のフィールドワークを実際に行い、4年次の卒業研究に備えさせた。</p>
<p>授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科）】</p> <p>入学年度が2つの年度に別れる5名からなる少人数の授業だった。卒論指導については、学年当初は全体指導を中心とした。そして年度が進むにつれて、個別指導の時間を増やしながら、卒論制作に取り組みさせた。質的研究を取り入れることを3年時の最初には伝えていたが、どうしても就職活動との関係で取り組みが遅くなる傾向があるが、夏季休暇の終わりからは分析へと移る段階にはいるように指導した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部会長（2010年2月～2018年9月） 本部理事（2015年11月～2019年10月） 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(AEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査（2006年1月～2011年12月） 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 紀要査読委員（2018年1月～現在に至る） 九州支部副支部長(2008年10月～	1994年2月～現在に至る

日本コミュニケーション学会	2011年10月) 九州支部運営委員(2012年1月～ 現在に至る)	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部紀要編集委員(2011年9月 ～2015年6月)	2002年10月～2004年3月 2003年4月～2009年3月 2010年2月～現在に至る
万葉学会	九州支部会計監査(2013年3月～現 在に至る) 本部事務局長・理事	2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 日本語と英語の翻訳比較 による比較文化研究の潮流	単	2019.5	日本比較文化学会 第41回全国大会・2019 年度国際学術会議 (於：同志社大学今出川 キャンパス)	シンポジウムテーマ：比較文 化の教育と研究の新潮流と して、6名のパネリスト(日 本、韓国、台湾)の一人とし て提言した。提言内容は、主 に日英の翻訳の市場性の影 響について。
ノルウェイの森の一考察 —揺れ動く心—	単	2019.7	2019年第8回村上春樹 国際シンポジウム (於：北海道大学札幌キ ャンパス)	大会テーマ：村上春樹文学に おける「移動」(Movement) であり、主人公と彼を巡る登 場人物たちの心の深層の揺れ が描き出される手法を分析し た。 教育研究実績 総数 (2020. 3.31 現在) 著 書 0 (内訳 単0、共0) 学術論文 0 (内訳 単0、共0) 翻 訳 0 (内訳 単0、共0) 学会発表 2 (内訳 単2、共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

人文学部長 2018年4月1日～現在に至る
 公開講座委員長 2018年4月1日～2020年3月

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	八木 康夫	職名	教授	学位	博士(医学) (産業医科大学 2003年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研究課題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間 (RT) を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次脳機能に及ぼす効果についても検討している。

担当授業科目
運動と健康 (栄養学科、1年前期) チームスポーツ (栄養学科、1年前期) 生涯スポーツ (栄養学科、1年後期) 運動生理学 (栄養学科、4年前期) 健康体力評価論 (栄養学科、4年後期) 卒業ゼミ (栄養学科、4年通年) 卒業研究 (栄養学科、4年通年) 運動と健康 (英語学科、観光文化学科、1年前期) チームスポーツ (英語学科と観光文化学科、1年前期) 生涯スポーツ (英語学科と観光文化学科、1年後期) チームスポーツ (看護学科、1年前期) 生涯スポーツ (看護学科、1年後期) チームスポーツ (福祉学科、1年前期) 生涯スポーツ (福祉学科、1年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 運動と健康 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PCを用いてプレゼンテーション・ソフトウェアによる資料提示をおこない、必要に応じて資料を配布した。 2. 最新のトピックスの引用、および、最新の資料の提供に努めた。 3. 毎時間終了時に、授業の要点とまとめを学生は行なった。 4. また、最終時には、各時間の内容の記録、注目点と疑問点の調べをページ見開きにまとめ、そのノートのみを持込で、期末テストに臨ませた。その結果殆どの学生は積極的に授業に参加し、期末試験も高い点数を取るようになった。
<p>授業科目名【 チームスポーツ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 3. 前半3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。

- 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるようにした。
- 健康科学実習 I では、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。

授業科目名【 生涯スポーツ 】

1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. II では職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。

授業科目名【 運動生理学 】

1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。
2. 毎時間終了時に、授業の要点とまとめを学生は行なった。
3. 各時間の内容の記録、注目点と疑問点の調べをページ見開きにまとめ、そのノートのみで、期末テストに臨ませた。
その結果殆どの学生は積極的に授業に参加し、期末試験も高い点数を取った。

授業科目名【 健康体力評価論 】

1. 運動生理学の基礎的知識と基礎的実験測定の定着を前提とした、仮説の立て方、実験の方法、結果の解析方法を演習方式で講義した。
2. 数回の実験測定を実際に行い、結果の分析、統計処理を学生の前で行い、仮説の検証の実例を目の前で行い、全データ、統計処理結果を手渡し、レポートを作成させ、測定および解析の実体験から検証方法の基本的考え方を定着させるようにした。
3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、書くレポートごとに個別的指導を行い、論理的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本運動生理学会	常任理事 (2008.7~2015.3)	1992.4
日本体力医学会	会計補佐 (2018.4~至現在)	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

2 0 1 9 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(翻訳)				
(学会発表) 「食と健康」に関する地 域密着型食育活動の展 開～2018 年度事業概要 ならびに参加の行動変 容～	共	2019.9	第66回日本栄養改善学 会学術総会	①本学および九州歯科大学 は、2014 年度より、『食と健 康』に関する連携公開講座を 開催しており、地元住民の生 活習慣の改善を図ることを 目的としている。そこで、 2018 年度の事業概要及びア ンケート結果を報告する。 ②共同発表者名 近江雅代、 境田靖子、田川辰也、手嶋英 津子、高橋甲枝、辻澤利行、 引地尚子、中道淳子、石井愛 子、田中貴絵、永田純美、八 木康夫
(その他) 第 24 回全九州大学春季 バスケットボール選手 権大会 総合 6 位	共	2019.5.11-5.19	九州大学バスケット ボール連盟 (熊本、長崎)	春季の九州地区の大学の順 位を決めるトーナメントに おいて総合順位 6 位であっ た。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第 69 回九州地区大学 体育大会 第 3 位	共	2019.6.29-7.1	九州大学体育連合 (福岡)	大学学生課の運営で行われ る九州インカレは、九州地区 の大学のスポーツの祭典 である。この大会で 3 位であ った。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第 26 回九州大学バスケ ットボールリーグ戦 総合 4 位	共	2019.9.14-11.15	九州大学バスケット ボール連盟 (九州各地)	九州地区の大学の順位を決 める大会は、一部リーグで全 10 試合を行い 4 勝 6 敗であ った。総合順位 3 位であっ た。福岡大学と同率 3 位で会 ったが、直接対決で勝ち越 し、下位全勝の九州産業大学 にチャレンジマッチで勝ち 越し、晴れてインカレ出場権 を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
第55回三地区大学バスケットボール選手権大会 Aチーム準優勝	共	2019.11.29-12.1	九州、中国、四国大学バスケットボール連盟 主管：中国大学バスケットボール連盟 (北九州)	A・Bの2チームで出場し、参加大学約25大学中Bチームはベスト8、Aチームは準優勝をであった。 顧問：八木康夫 監督：木村友彦
全日本大学バスケットボール選手権大会 (出場、九州3位枠)	共	2019.12.9-12.15	全日本大学バスケットボール連盟 (東京)	本学チームは5年ぶりの出場となった。1回戦は優勝候補の早稲田大学との対戦となった。一步も引かず素晴らしい試合展開となったが、逆転勝利には至らず、63:76で苦敗した。 顧問：八木康夫 監督：木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
人生100年時代を健康に豊かに生きるための地域貢献活動の展開～他職種連携による食育推進～	西南女学院大学共同研究費	八木 康夫 高崎 智子 石井 愛子 田中 貴絵 永田 純美 長光 里奈 浅野 嘉延 高橋 甲枝 稲木 光晴 引地 尚子 辻澤 利行	1,043,060

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

栄養学科学科長 2018.4～至現在

栄養学科人事委員 2018.4～至現在

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 志麻	職名	講師	学位	博士 (歯学)
----	-------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域開発歯科学 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学 食品学 食育 高齢者 嚥下食 咀嚼 低栄養 口腔ケア 舌圧 健康増進 スポーツ栄養

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンターを利用する高齢者の身体状況 ・在宅高齢者の舌圧と栄養状態 ・部活生の食事指導

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・応用調理学実習 ・フードコーディネート論 ・管理栄養士演習 I ・初年次セミナー ・基礎調理学実習 ・調理学 ・高齢者支援学 I ・卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 応用調理学実習 】</p> <p>1 年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで多数の料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へのステップアップのための知識習得のため、する食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。</p>
<p>授業科目名【 フードコーディネート論 】</p> <p>フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に單元ごとにまとめて講義した。</p>
<p>授業科目名【 調理学 】</p> <p>調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い (保存や調理加工)、それにともなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。最終的には、單元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度が高いキーワードについて学習させた。</p>
<p>授業科目名【 基礎調理学実習 】</p> <p>食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理で困らないよう周知徹底させた。</p>

<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】</p> <p>1年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、国家試験問題の基礎固めを行った。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】</p> <p>初年次セミナーⅡは、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。</p>
<p>授業科目名【卒業ゼミ】</p> <p>11名のゼミ生に対し、それぞれのペースや内容にあわせ、指導助言を行い最終的に本人の経験や学習につながるようなゼミとなるよう努めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本家政学会 日本家政学会 九州支部	会計監査（2018年3月～） 2019年九州支部大会実行委員	1997年 1997年
日本口腔衛生学会 日本調理科学会		2013年 2013年

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 調理学の基本	共著	2019年3月	同文書院	管理栄養士国家試験に準拠した調理学の基本について、わかりやすく解説したテキスト。
(学術論文) 在宅要支援・要介護者における舌圧と栄養素の摂取量の関連	共著	2019年	口腔衛生会誌 日本口腔衛生学会 2019年 69.189-192	高齢者の舌圧の低下と栄養素のかかわりについて解析を行った。舌圧の低下はたんぱく質及びビタミンEの不足と関連が認められた。
(翻訳)				
(学会発表) 地域住民の運動と栄養に関する支援活動	共著	2019年9月	第66回日本栄養改善学会	運動を行っている地域在住高齢者の体組成を計測し、栄養相談を行った。筋肉量や身体機能の低下した者に対して指導を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
2019 グリーンパーク食育事業 (地域貢献活動：じゃがいもの収穫)	食育担当者、調理指導責任者	2019年
2019 浅生スポーツセンター栄養相談 (地域貢献活動：栄養相談)	栄養相談責任者	2019年 年2回
2019 年浅生スポーツセンターマラソン教室 栄養講座 (2回)	講師	2019年 2回
宅配ボランティア (高齢社会をよくする女性の会)		2019年12月
クリスマス礼拝募金活動		2019年12月
豊前市口腔ケアプロジェクト		2015年4月～

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

- ・ハラスメント防止委員 2019年4月1日～現在に至る
- ・COC+高齢者支援学委員 2016年4月1日～現在に至る
- ・アドバイザー 2016年4月1日～現在に至る
- ・高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ担当者 2017年夏期より集中講義～現在に至る
- ・生協理事 2017年4月1日～現在に至る
- ・フードスペシャリスト認定試験責任者 2018年4月～現在に至る
- ・バレー部体組成測定および栄養指導 2019年2月～現在に至る
- ・朝礼司会担当 2019年4月～現在に至る
- ・チャペルアワー 司会担当～現在に至る
- ・2018年度授業表彰 (2019年9月12日)
- ・2019年度 弓道部顧問

人 文 学 部

英 語 学 科

2019 年度教育研究活動報告用紙 (様式9)

氏名 アンデリュウ・ジッツマン	職名 講師	学位 修士 (言語学) (マクワォリ大学 2008 年)
-----------------	-------	------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
Critical Thinking Sociolinguistics	Intercultural communication Motivation Pragmatics Perceptions

研究課題
Student perceptions of university learning environments. Activating critical thinking in an EFL environment.

担当授業科目
英語コミュニケーション I, II 英語ディスカッション I, II ライティング基礎 パラグラフ・ライティング エリア・スタディ I, II Advanced English Discussion I, II 専門演習 I, II

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名 【 英語コミュニケーション I, II 】</p> <p>A new course which focused on communication skills. It aimed to move the students away from scripted conversations towards more self-directed conversations using a variety of vocabulary. The course also aimed to bring to the students' attention some of the pragmatic aspects that would send the students on to the next level of conversational ability.</p>
<p>授業科目名 【 英語ディスカッション I, II 】</p> <p>The course aimed to have students engage in discussion on various social topics. Various opinions were presented to encourage students to discuss in relation to their own opinions. Some topics were more challenging than others and often required more explanation for comprehension.</p>
<p>授業科目名 【 ライティング基礎 】</p> <p>Even after several years of writing English there are many fundamental elements that the students still have problems with. Steady and supportive assistance was provided to reinforce the basics and to get them prepared for larger writing assignments, such as essays and research reports.</p>
<p>授業科目名 【 パラグラフ・ライティング 】</p> <p>Putting ideas together into a paragraph format may seem a simple thing, yet many students had trouble doing this well. The course focused on the various types of paragraphs and then went on to explain how to transfer that knowledge to essay writing. The transition from paragraphs to essays is a problematic one which many students have trouble with and which this course hoped to correct.</p>

<p>授業科目名【 エリア・スタディ I, II 】</p> <p>For many students geography is a weak point. This course refreshed their sense of global location and worked on encouraging interest in the world around them by revealing the connections between the countries and Japan, as well as highlighting the similarities and differences.</p>
<p>授業科目名【 Advanced English Discussion I, II 】</p> <p>This course focused on developing critical thinking skills through discussion of topical issues in English. Some topics proved more challenging than others. This affected how the individual skills were developed by the students. It is hoped that the differences between cultures in the way of thinking was realized by the students.</p>
<p>授業科目名【 専門演習 I, II 】</p> <p>Developing a greater understanding of their own identity, personally, as a Japanese, and as a global citizen, was the goal of the course. Seeing how certain issues affect them on differing levels helped them to gain a better understanding of how issues are connected on various levels.</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	北九州支部報告担当 (2019年11月～) 学会ビジネス・マネージャー(2006年11月～2010年11月) 学会企画担当理事(2004年7月～2006年11月)	1994年～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) Seize the Keys of the TOEIC L&R Test	共	2020年1月	金星堂	このテキストは、TOEICを受験する学生のためのものである。文法解説・語句解説などを詳細に行っており、受験しない学生にとっても英語力の増強が見込まれるよう配慮している。
(学術論文) Implementing a Peer Support Program for Incoming College Students: Assessing Effectiveness	共	2020年3月	西南女学院大学紀要	この報告書は、英語学科に入学した新入生のための新たなピアサポート・プログラムの改善状況と両学年の学生たちへの効果を明らかにした。さらにこの報告書は、他の機関で実施されているプログラムに加え、今回の関係学生に対して行なった複数の方法を組み合わせた調査結果とコメントに基づきさらなる改善策を示唆するものとなった。

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) My Share of JALT2019	単	2019年11月	JALT 北九州支部	今回の発表では、JALT 国際会議での発表から得られた知見を共有した。一つは、学生が自分の切り抜きをペンフレンドに送ることで、バーチャルな海外旅行にやる国際交流を中心とするもの。もう一つは、無料のオンライン教材を使った活動で、シンボル使用された人気曲を題材にしたもの。最後に、ギリシャ語とラテン語の語源を使って語彙を学ぶアクティビティを行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は 学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

英語学科フレッシュ・キャンプ委員、プログラムの企画検討を行う。（行き先：山口県西長門リゾートホテル）
第1回KANAME杯委員
模擬授業の担当（北九州市内高校1校）
学内English Lectureで講師を担当（テーマ：カナダについて）
Orange Gospelでの教職員チームでの参加
シニア・サマー・カーレッジ講師の担当
ゆめみらい2019イベントの英語学科出展の企画検討を行う。
キリスト教センター便りへの寄稿
西南女学院大学図書館報への寄稿
大学祭での3年生ゼミの出店（二日間）
大学入試センター試験監督
Halloween イベントの企画検討を行う。
クリスマス礼拝の生誕歳への出演
ZIONCUP（スピーチコンテスト）の委員となって企画検討を行う。

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 太田 かおり	職名 教授	学位 博士(教育学)(国際基督教大学 2007年)
-----------	-------	---------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
英語学(英語音声学)・英語教育学(英語科教育法)・ICT英語教育(eラーニング)	英語の発音とリズムの指導法・小中連携英語教育・eラーニング英語教育

研究課題
英語学の分野において、初等中等教育における英語の音声指導の調査研究を行い、その重要性と課題点について考察を行う。また、英語教育学の分野では、小中高大連携を視座においたグローバル時代の英語教育の在り方についてや、eラーニング英語教育における教師の役割および効果的な指導に関する研究などを行っている。

担当授業科目
[2019年度 担当授業科目] 実践英語音声学Ⅰ (前期) (英語学科) 英語教科教育法Ⅱ (前期) (英語学科) 英語教科教育法Ⅳ (前期) (英語学科) 専門演習Ⅰ (前期) (英語学科) 教育実習Ⅱ (前期・後期) (英語学科) 事前及び事後の指導 (前期・後期) (英語学科) 実践英語音声学Ⅱ (後期) (英語学科) 英語教科教育法Ⅲ (後期) (英語学科) TOEIC 演習Ⅰ (後期) (英語学科) TOEIC 演習Ⅱ (後期) (英語学科) 教職実践演習(中・高) (後期) (英語学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (英語学科) 専門演習Ⅱ (後期) (英語学科)

授業を行う上で工夫した事項
<p>授業科目名【実践英語音声学Ⅰ】</p> <p>「実践英語音声学Ⅰ」の講義では、音声学を学問として初めて学ぶ学生が大半を占めているため、丁寧でわかりやすい授業を心がけた。英語の母音・子音の調音方法やIPA表記に加え、文レベルにおける音変化(連結・省略・同化など)についても理論と実践の両面で学ぶ。英語に特有のリズムについては、洋楽などを活用し、学生がより興味をもって楽しく学べるよう工夫した。また、学生ひとり一人が実際に声に出して発音する機会をより多く設けることによって、授業後の英会話や英語学習に活用できるよう、実用的な授業実践を意識した。学生は全体としてたいへん意欲的に授業に参加しており、個別やペア活動における発音訓練にも熱心に取り組んでいる。学生は、毎回の授業の終わりにコメントシートを記入し、学生からの質問に対してフィードバックを行うことによって、双方向型で活気ある授業を心がけた。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅱ】</p> <p>「英語教科教育法Ⅱ」は、英語科教育に関する理論的な学びに加え、ミニ模擬授業を行うことによって学習指導案の作成方法や授業展開、指導技術の基礎を学ぶ。模擬授業後、学生は相互に評価・講評し合い、良い点や改善点について学ぶ。4年次の教育実習に備えるため、実践的な指導を心がけた。</p>

授業科目名【 英語教科教育法Ⅳ 】

英語科の教職課程科目で学んできたことの集大成として、教育実習へ行く直前に、中学校・高等学校のグループにわかれて模擬授業を実施する。模擬授業担当学生は、英語科学習指導案、配布資料、板書計画等を事前に作成したうえで模擬授業に臨む。互いに授業を参観し合い、講評することによって、学生たちは相互に刺激を受け、改善点や課題点について学び合う。個別に一人一人丁寧な指導を行うことによって、各々の学生が自らの授業の良い点をさらに伸ばし、改善点を克服し、自信をもって教壇に立つことができるよう指導に力を尽くした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本音声学会 日本教育学会 国際教育学会 小学校英語教育学会 九州教育経営学会	福岡県理事	平成 22 年 12 月～現在に至る 平成 22 年 12 月～現在に至る 平成 23 年 4 月～現在に至る 平成 26 年 4 月～現在に至る 平成 28 年 4 月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. e-learning 英語教育の学習効果に関する研究－学習者の自律学習へ向けた教師の役割－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 7 巻第 2 号, 51-80.	大学生を対象に、4 ヶ月に亘って実施した e-learning 英語教育の成果報告を行った。また、e-learning 英語教育における教師の役割や、学習者の自律学習へ向けた授業運営の在り方等についても考察を行った。 (総頁数 30 頁)
2. 日本の英語科教育における音声指導の現状－初期英語教育における音声指導の導入及びその教授法の確立を目指して－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 69 号, 53-73.	日本の大学生を対象に、中学・高等学校の英語科教育における音声指導の実態調査を行い、その結果を報告した。調査結果に基づいて、英語科教育における音声指導の現状と問題点を提示し、さらには、小学校外国語活動も視野に入れつつ、今後の日本における英語音声教育の在り方について論じた。 (総頁数 21 頁)

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
3. 日本の英語教育における盲点－音声教育の現状と課題－	単著	平成 25 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 8 巻第 1・2 合併号, 37-70.	学校教育における英語の音声指導の実態について調査研究を行い、日本の初等・中等教育において英語の音声指導が充分に行われていない実態を明らかにした。また、音声指導の具体的な内容について詳細な調査を行った結果、子音や母音の音声指導だけでなく、リズム・強勢・イントネーション・連結・同化・省略などを含む超音節的側面についても、学校教育では、調和の取れた指導が十分ではない現状を明らかにした。日本における英語教育の盲点として、音声指導の必要性と重要性を論じた。 (総頁数 34 頁)
4. 学校教育の現場に学ぶ－小学校外国語活動の事例研究－	単著	平成 26 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 9 巻第 1・2 合併号, 19-38.	小学校外国語活動を論ずるにあたり、外国語活動の授業を参観した。その際の記録および所見について報告を行い、小学校外国語活動の現状と課題について考察した。 (総頁数 20 頁)
5. 教育の本質および教職の意義に関する一考察－全人教育としての教師の教育観・生徒観・指導観－	単著	平成 28 年 2 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 77 号, 23-45.	教育の目的及び教職の意義について考察し、教育の本質とは何かに迫った。教育基本法並びに学校教育法における教育の目的について概観し、全人教育を行う上での教師の教育観・生徒観・指導観、さらには、教師や学校の果たす役割について論じた。また、社会が求める人材について言及し、学校教育が育む人間像と実社会が求める人材像との一貫性について考察を行った。 (総頁数 23 頁)

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
6. 小学校外国語活動の課題と展望ー小学校外国語活動に関するアンケート調査から読み解くー	単著	令和2年3月	西南女学院大学紀 Vol. 24, 65-84.	北九州市内の全ての小学校135校(有効回答数 90校、有効回答率 66.7%)を対象に実施した「小学校における外国語活動に関するアンケート調査」の結果を分析し、小学校外国語活動の成果と課題について考察した。アンケート調査では、全体の97%(90校のうち87校)が小学校外国語活動に関して「課題はある」と回答し、ほとんどの小学校が外国語活動に課題を抱えつつも、学級担任とALTが授業工夫と努力を重ね、児童の英語力の素地づくりに鋭意取り組んでいる様子が明らかとなった。 (総頁数 19頁)
(翻訳)				
(学会発表) 英語科教育における音声指導のすすめー学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたかー	単独	平成24年8月26日	日本教育学会 第71回大会 (於 名古屋大学)	日本教育学会第71回大会において、『英語科教育における音声指導のすすめー学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたかー』と題し、音声教育に関する現状報告と問題提起を行った。 他

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
北九州市内の小学校における「外国語活動」に関する研究調査:現状と課題、及び改善策の提案~地域活性化へ向けたグローバル人材の育成強化を目指して~	産業経済局 高度人材育成課	500,000	平成25年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業

北九州市内の中学校における英語教育の小中連携に関する調査研究：現状と課題、および今後の展望～今後の教育改革を見据えた小中連携の在り方を考える～	産業経済局 高度人材育成課	350,000	平成26年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業
小学校・中学校・高等学校の英語教育をCAN-DO リストでつなぐ：「北九州市内高等学校の英語教育に関する調査研究」および「小中高一貫 CAN-DO リスト(試案)の開発」	産業経済局 高度人材育成課	1,000,000	平成27年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
中間市教育委員会 中間市点検評価委員 公益財団法人 日本英語検定協会	教育委員 評価委員 派遣講師	2019年7月8日～現在に至る 2018年4月1日～2019年6月18日 2019年4月1日～現在に至る
その他、県内外の小学校・中学校・高等学校の英語科教員や生徒を対象に、英語教育に関する講演会や研修会の講師を務める。		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生募集委員会	2019年4月1日～現在に至る
教職課程委員会	2019年4月1日～現在に至る
研究紀要委員会	2019年4月1日～現在に至る
学生委員会	2019年4月1日～2020年3月31日

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	大谷 浩	職名	教授	学位	EFL 修士
----	------	----	----	----	--------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育、第 2 言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研 究 課 題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担 当 授 業 科 目
英語学概論 I、英語学概論 II、ライティング基礎、パラグラフィティング、Creative Writing (再履修)、人文学入門、初年次セミナー、Academic English Writing, 専門演習 I、専門演習 II、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【英語学概論 I】</p> <p>教科書で説明されている内容をふまえ、より身近で学生達に馴染みのある事例を交えながら、わかりやすい説明を心がけた。抽象度が高く理解が進まない分野については、予定よりも多くの時間をかけて確実に理解できるまで説明した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。</p>
<p>授業科目名【 英語学概論 II 】</p> <p>英語学概論 I に同じ。</p>
<p>授業科目名【 ライティング基礎 】</p> <p>自主作成の e-l e a r n i n g ソフトと、教科書による説明を融合したブレンドラーニング方式で行った。</p>
<p>授業科目名【 パラグラフィティング 】</p> <p>ライティング基礎に同じ。</p>

<p>授業科目名【Creative Writing (再履修)】</p> <p>ライティング基礎に同じ。</p>
<p>授業科目名【人文学入門の担当者】</p> <p>第1週目の講義担当者として、学問領域における人文学の位置づけを説明し、次週以降に続く各論が、学問領域でどのような位置を占めるのか明確にし、学習効果の効率化を図った。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーI】</p> <p>各自が得意とする分野の発表をひとりひとりに行わせ、新クラスの中で臆せずものが言え、自分と他者を知ることができるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【 Academic English Writing 】</p> <p>教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、その後、各自でリサーチを行わせ、英語でまとめる演習を行った。Creative Writing までと異なり、引用文献の引用の仕方や、文献一覧の書き方も指導した。また、常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。</p>
<p>授業科目名【 専門演習 I】</p> <p>前期は、新聞記事を中心に、世の中での出来事が英語でどのように報じられているかを学習することに努めた。後期は、自分が興味を持つテーマに絞って資料を集める活動を行わせ、スクラップブックに保存させてゆくことで、卒業論文の下準備を始めさせた。</p>
<p>授業科目名【 専門演習 II】</p> <p>専門演習 I に同じ</p>
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <p>ひとりひとりのテーマに応じて、前半は総論的指導、後半は各自にきめ細やかに指導した。必要に応じてフィールド調査にも連れていった。全員の完成原稿をゼミ卒論集としてまとめ、学位授与式で各自に渡した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員 (常任)、幹事 (常任)、事務局長 (2001-2001)	1995 年 1994 年

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
英語学科学科長 全国高校生英語スピーチコンテスト（KANAME杯）創設 地域連携室室員（女性活躍WG責任者、オレンジゴスペル、クリスマス礼拝）

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 倉富 史枝	職名 特別契約Ⅲ種教授	学位 修士(文学)(久留米大学 1995年)
----------	-------------	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
家族社会学 ジェンダー論	近代家族、ジェンダー平等、ドメスティックバイオレンス、セクシュアルハラスメント

研究課題
ジェンダー論に関して社会構造の問題として、力と支配を中心に家庭内や職場という身近な場で起こる暴力問題を考察する。ジェンダー平等を目指した国際的な動向と国内の動向を比較し、なぜ、日本がジェンダギャップが大きいのかを近代化に伴う社会意識の形成と関連づけて考察する。

担当授業科目
ジェンダー論 (前期) (英語学科・観光文化学科) キャリア開発 (後期) (保健福祉学部及び人文学部の全学科1年次) 女性史 (後期) (保健福祉学部及び人文学部の全学科2年以上)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【ジェンダー論】</p> <p>CM映像やアニメや絵本などを教材として使用し、学生の関心を高めた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。英語学科と観光文化学科であることから、国際的な視野で日本の現状の課題を考えられるように教科書を活用した。</p>
<p>授業科目名【キャリア開発】</p> <p>外部講師から多様な分野を視野にいれたキャリア支援ができるよう講話した。</p> <p>双方向の授業として、学生から質問を受け回答するようにし、人数が多いため講師が複数の場合には、教室後部の学生にもマイクをまわした。キャリア形成は個人的課題だが、その背景の社会の構造と結びつけられるよう最後の講義では授業の振り返りに時間を使った。</p>
<p>授業科目名【女性史】</p> <p>ジェンダーの視点で歴史を見直すために、固定観念を覆すような写真や図表を使用した。このような視覚的資料は印刷して配布し、歴史的な流れを説明する際には板書を多用し、ノートをとることで理解を深めるようにした。</p>

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
西日本社会学会会員 日本社会分析学会会員		1993年9月～現在に至る 1993年10月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
こどもCAPふくおか 苅田町 NPO法人福岡ジェンダー研究所 福岡家庭裁判所 福岡家庭裁判所 春日市男女共同参画審議会 福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団 古賀市男女共同参画審議会 大川市男女共同参画推進審議会 福岡県人権施策推進懇話会	代表 男女共同参画推進委員 理事 家事調停委員 参与員 会長 講師 会長 会長 委員	1998年6月～現在に至る 2001年4月～現在に至る 2002年3月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2011年5月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2018年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る

福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会	委員	2018年4月～現在に至る
--------------------	----	---------------

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	塚本 美紀	職名	准教授	学位	修士(教育学)(テンブル大学 2005年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研究課題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担当授業科目
グラマー・コンポジション I (A)、(B) (前期) 専門演習 I (前期) グラマー・コンポジション II (A)、(B) (後期) 英語教科教育法 I (後期) 英語教科教育法 IV (後期) 専門演習 II (後期) 教職実践演習 (中・高) (後期) 北九州の過去・現在・未来 (後期) 初年次セミナーII (後期) 地域プロジェクト (後期) 国際ボランティア演習 (後期) 卒業研究 (通年) 事前及び事後の指導 (通年) 教育実習 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【グラマー・コンポジション I】 重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。
授業科目名【専門演習 I】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、動画を見たり、さまざまな国の人々と英語で交流したりする機会を持てるようにした。
授業科目名【グラマー・コンポジション II】 授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、多くの演習問題を行ったり、エッセーを書いたりする機会を設けた。

<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】</p> <p>学生にとっては、馴染みの薄い用語などが多く出てくるので、学生が理解しやすいよう具体例などもあげながら説明した。また、毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅳ】</p> <p>これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生同士、互いの模擬授業について、良かった点と改善点について討論する時間を設けた。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ】</p> <p>来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習（中・高）】</p> <p>学生が将来授業を行う際の選択肢が増えることをねらって、ワールドカフェ形式の討論やパワーポイントを用いた発表など、授業のやり方にさまざまな形を取り入れた。</p>
<p>授業科目名【北九州の過去・現在・未来】</p> <p>北九州出身ではない学生も多いので、北九州市についての基礎的な事項の紹介から始まり、北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう紹介した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについての発表を行い、学生同士が互いに学ぶ機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】</p> <p>レポート作成の際、どのように文章を構成したら良いかわかるように、例を紹介しながら、段階を追って説明し、スモールステップを設け、実際にレポートを作成してもらった。</p>
<p>授業科目名【地域プロジェクト】</p> <p>地域の環境問題について、国内外で様々な取り組みをしてきた方を外部講師としてお招きし、一人一人の学生が自分たちの専門性を生かして地域貢献ができるようなプロジェクトを行った。</p>
<p>授業科目名【国際ボランティア演習】</p> <p>一人一人が主体的に取り組めるよう、小さなグループでプロジェクトに取り組めるようにした。また、カンボジアの大学生とオンラインで互いの地域の状況などについて報告し、各自ができることについて話し合い、遠い国で起こっていることについても自分の問題として考えられるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。</p>
<p>授業科目名【事前及び事後の指導】</p> <p>英語教科教育法Ⅳで行った模擬授業で明らかになった課題を克服する形で、模擬授業を行ってもらった。このことによって、模擬授業を実施した学生も、見学した学生も、授業改善のプロセスの一部を体験できたと思う。また、中学校や高等学校の教員を招き、教員の在り方や指導法等について講演してもらった。</p>
<p>授業科目名【教育実習Ⅱ】</p> <p>教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本 ESD 学会 北九州サステナビリティ研究所	副代表理事(2016年8月～現在に至る)	1990年9月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年6月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) What EFL students learned from international sojourn and exchange programs: The case of Japanese and Cambodian university students	共	2020.2	16th CamTESOL Conference (於 Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia)	① 英語学習者が海外交流プログラムでどんなことを習得することができるかについての考察 ② 共同発表者名 井川好二 塚本美紀
			教育研究業績 総数 (2019.3.31 現在) 著書 1 (内訳 単 0、共 1) 学術論文 11 (内訳 単 6、共 5) 学会発表 10 (内訳 単 0、共 10)	

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
九州地域における学生ネットワークの構築- 学生の主体的学びを促進するために-	西南女学院	640,000円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International (世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体)	面接委員 会員 北九州ゾンタ書記	1993年7月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2018年6月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
学生募集委員会 委員 (2018年4月1日～2020年3月31日) キャンパスハラスメント相談員 (2014年4月1日～2020年3月31日) ゴールデンZクラブ 顧問 (2014年4月1日～2020年3月31日) 教職員懇親会 委員 (2016年4月1日～2020年3月31日) 学生個人情報保護委員会 委員長 (2018年4月1日～2020年3月31日)

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	ブラウン馬本 鈴子	職名	講師	学位	文学博士
----	-----------	----	----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レスリング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研究課題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。 現在の具体的な研究課題は、授業でも取り扱っている文学作品を扱った映画に関する研究を進めることである。

担当授業科目
前期 英検演習Ⅰ、英検演習Ⅱ、英語文学Ⅰ、英米文学研究、初年次セミナーⅠ、専門演習Ⅰ、卒業研究、英語通訳ガイド演習Ⅰ
後期 英米文学特殊講義、卒業研究、英語文学Ⅱ、英語通訳ガイド演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 英語文学Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学Ⅰ」から「英語文学Ⅱ」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である <i>The Tale of Peter Rabbit</i> を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料(DVD)を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。</p>
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <p>前期には、専門演習Ⅰ,Ⅱを得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターセッションの練習会も行った。</p>
<p>授業科目名【 英米文学特殊講義 】</p> <p>小林章夫著作の『イギリスの詩を読んでみよう』(NHK出版)の本が絶版になったので、学生に好評であったその本に書かれていた詩をベースに、技法説明や、詩の紹介などの内容は更に発展させ、詩の技法や鑑賞法を学習していくことができる書き込み式の学習教材を作成し、毎回の授業で配布した。更に、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習用のプリントも作成し、毎回配布した。学期後半にはいくつかの有名な詩を暗唱するテストを個別に行い、リズムや発音の指導も行った。</p>

授業科目名【 英米文学研究 】

Lauren Weisberger による The Devil Wears Prada: A Novel というベストセラーの小説のスクリーンプレイを映画と併用しながら精読することで、セリフや文化背景を紹介した。小説とスクリーンプレイの比較の中でフェミニズム的な文学の読みを実践した。学生には毎回プリントを配布し、理解度をモニタリングすると共に、感想を書かせてそれにコメントをつけ返却した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本英文学会九州支部 映画英語教育学会 (ATEM) 九州支部 日本オーステイン協会	支部評議員 (なし)	2001年10月～現在に至る 2006年10月～現在に至る 2015年11月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 特になし				
(学術論文) 特になし				
(翻訳) 特になし				
(学会発表) 特になし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
特になし			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
特になし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
特になし		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
倫理審査委員副委員長 教務委員委員 FD 委員 就職委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 マルコム ロス スワンソン	職名 教授	学位 大学教育部大学院修士課程
------------------	-------	-----------------

研究分野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研究課題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> • Advanced English Discussion I & II • English Extension I • English Extension II • リーディング I • リーディング III • メディア英語 I • メディア英語 II • 英語コミュニケーション I & II • 英語プレゼンテーション II • 専門演習 • 卒業研究 • 地域プロジェクト

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【英語プレゼンテーション II】</p> <p>2019 年度は、この授業は 6208 教室のマックルームを使用した結果成功した。学生はパソコンと iPad の両方を使用した技術開発を行うことに集中した。学生が最後の課題に作成したプレゼンテーションは今までのなかで最高の出来であった。2020 年度は作業に基づいた学習をコースに組み込む予定である。</p>
<p>授業科目名【メディア英語 I】</p> <p>CHIeru による学習は学生にとって実用的である。またこれは、英語で授業をする教師にとってもまた、学生のニーズに適した教材づくりとして利用できる。学生もまた他のメディアを試す機会となり、それぞれのプログラムに適合した授業をつくることができる。</p>
<p>授業科目名【English Extension I & II】</p> <p>1, 2 年生を対象にとっても充実したプログラムを提示することができた。通常の活動に加えて、「カナダ ウィーク」や「イングリッシュ ゲーム」、「卒論ポスターセッション」も実施した。全員高成績によりコースを修了している。2020 年度は、学年ごとのグループ活動を提示、挑戦する機会を作る予定である。</p>

<p>授業科目名【英語コミュニケーションⅠ&Ⅱ】</p> <p>学生の自然な会話技術の向上に焦点を当てた新テキストを使用。これは授業でより多くの会話を促すのに大成功であった。Bクラスの学生にはスキルアップのための補足が必要だった。2020年度は学生の会話技術向上のため、クラスサイズを縮小する予定。</p>
<p>授業科目名【地域プロジェクト】</p> <p>この授業は1年生を対象としており、プログラムを具体化するのにしばらく時間がかかった。すべての学生が環境及びSDGsの認識が深まったことから、全体的に成功した。2020年度は学生手作りの教材を取り入れる予定。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	会員 第44全国語学教育学会 大会研究発表記録集編集長 Website 編集委員	1996年～現在に至る 2019年11月 2010年5月～現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語教育コンソーシアム)	会員	2005年5月～現在に至る
Moodlemoot		
JASAL (Japan Association for Self-Access Learning)	会員 会員	2020年1月～現在に至る 2015年7月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 大学新入生のためのピアサポート・プログラムの実施：効果の評価	共著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	2019年の春、英語学科に入学した新入生のための新たなピアサポート・プログラムが開始された。このピアサポート・プログラム(PST)は、高校から大学へと移行する新入生を2年生が手助けをするために計画されたものであった。この報告書は、このプログラムの改善状況と両学年の学生たちへの効果を明らかにすることを目的とする。さらにこの報告書は、他の機関で実施されているプログラムに加えて、このたびの関係学生に対して行なった複数の方法を組み合わせた調査の結果とコメントに基づきさらなる改善策を示唆するものである。「アンデリユー・ジッツマン」

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				
Taking Learning Online	共著	2019年4月	JALT 北九州	発表では、融合した学習プログラムの一部として、オンライン学習を使用した授業の仕方を示した。 共同研究者：Paul Collett
Challenge-Based Learning (CBL) with Technology	共著	2019年7月	Apple Distinguished Educators Event (Australia)	授業のなかで、iPads のようなテクノロジーを使用した課題中心学習を使用したワークショップを行った。
Interactive Software for Language Classrooms	単著	2019年9月	JALT 北九州	学生の反応を調べるための学習用アプリ Plickers や Mentimeter という投票集計用アプリを紹介するワークショップを行った。
Design Skills for Teachers	単著	2019年11月	Apple Distinguished Educators Workshop Tokyo	このワークショップは、iOS や Mac で作成したものをより見やすく、分かりやすくするために、よいデザインの原理をどのように使えるかを発表している。
Radio Plays in English	単著	2019年11月	特定非営利活動法人 ACROSS 大阪	語学学習者が単独でボカリスケルに集中することができる Radio Plays の利用について、教員向けにプレゼンテーション及びワークショップを行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
梅光学院大学 ESS プレゼンテーション・コンテスト (1, 2位)	ESS Contest 審査員	2019年6月
西南学院大学 ドージアスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2019年7月
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート&スピーチ・コンテスト 審査員	2020年3月 (Cancelled)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教育経費予算配分委員

英語学科の予算委員を担当し、2014年度委員長となる。

情報システム管理運用委員

531 教師のアクティブ・ラーニング・センターについて取り組んだ。

オープンキャンパス、英語学科のオープンキャンパス、保護者懇談会、ZIONCUP（スピーチコンテスト）の委員となって企画、運営を行う。

英語学科ウェブサイトの管理

英語学科のウェブサイト情報をアップデートするための委員会の責任者となる。

第1回 KANAME 杯英語スピーチ・コンテストの運営委員メンバー。ウェブサイト運営、ポスターや出版物のデザイン、及び全メディアの対応を担当した。

英語学科フレッシュ・キャンプ委員

プログラムの企画検討を行う。（行き先：山口県西長門リゾートホテル）

教員免許状更新講習（8月）"Active Learning for Student Motivation" をテーマに2回ワークショップを担当。

大学祭での3年生ゼミの出店

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	横溝 紳一郎	職名	教授	学位	博士(ハワイ大学大学院 1997年)
----	--------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
高大連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり、教師教育者の役割、アクティブ・ラーニング	連携(アーティキュレーション)、学習意欲(モチベーション)、アクション・リサーチ

研究課題
高等学校と大学の英語教育の連携の「あるべき姿」について、科研調査を行っている。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行っている。加えて、「実習生や現職教師に対して、教師教育者がどのように働きかけるべきか」についての、理論的・実証的研究を進めている。また、アクティブ・ラーニングについて、理論・実践の両面で、研究を進めている。

担当授業科目
日本語教育実習(通年) 卒業研究(通年) 異文化間コミュニケーションⅠ(前期) 日本語教育方法論Ⅰ(前期) 日本語教育方法論演習Ⅰ(前期) 専門演習Ⅰ(前期) 異文化間コミュニケーションⅡ(後期) TOEIC 演習Ⅱ(後期) 日本語学概論(後期) 日本語教育方法論Ⅱ(後期) 日本語教育方法論演習Ⅱ(後期) 専門演習Ⅱ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【日本語教育実習】</p> <p>教育実習の教壇実習授業として、(1)中華人民共和国らの留学生相手の授業、(2)北九州YMCAでの授業と、2度実施した。昨年同様の実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。</p>
<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。</p>
<p>授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ】</p> <p>この分野についての専門的な知識をほとんど持っていない学生対象の授業であるため、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。また、集中力の維持をめざして、(1)教科書の使い方の工夫、(2)画像や映像教材の多用、(3)ふり返りの時間の確保、(4)わたしメッセージの発信、(5)座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。</p>

<p>授業科目名【日本語教育方法論Ⅰ】</p> <p>日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。また、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅰ】</p> <p>1 年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業なので、すでに得た知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅰ】</p> <p>『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の3つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。</p>
<p>授業科目名【異文化間コミュニケーションⅡ】</p> <p>日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
<p>授業科目名【TOEIC 演習Ⅱ】</p> <p>少人数の授業であったので、よりきめ細やかな個別対応の指導を行った。</p>
<p>授業科目名【日本語学概論】</p> <p>日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力検定試験の問題回答、という流れで進めた。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論Ⅱ】</p> <p>日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅱ】</p> <p>次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業の DVD を作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ】</p> <p>ロジカル・ライティングの能力向上をめざして、演習形式で授業を進めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本語教育学会	評議員（2001年7月～2007年6月） 研究集会委員（2006年7月～2011年6月） 理事（2007年7月～2013年6月） 言語系学会連合運営委員会委員（2013年7月～現在に至る） 授賞候補選考委員会（2016年7月～現在に至る） 地域ブロック運営委員会委員（2016年7月～現在に至る）	1988年8月～現在に至る

九州日本語連絡協議会 日本教師教育学会 日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク	代議員選挙管理委員会委員 (2016年7月～現在に至る) 事務局長 (2007年4月～2011年3月) 副代表 (2010年10月～現在に至る)	2005年10月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2010年10月～現在に至る
---	--	---

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 日本語教師のためのアクティブ・ラーニング	共著	2019年6月	くろしお出版	日本語教育分野でのアクティブ・ラーニングに関して、理論・実践の両面から包括的に紹介した啓蒙書
(学術論文) 特になし				
(翻訳) 特になし				
(学会発表) 特になし				
				<p>教育研究業績 総数 (2020.3.9 現在)</p> <p>著 書 27 (内訳 単3, 共24) 学術論文 38 (内訳 単30, 共8) 翻訳 1 (内訳 単0, 共1) 学会発表 66 (内訳 単33, 共35)</p> <p>(その他)</p> <p>視聴覚教材 3 (内訳 単2, 共1) 書 評 1 (内訳 単1, 共0) 科研成果報告書 4 (内訳 単0, 共4) 事 典 1 (内訳 単0, 共1) 文化庁委嘱 2 (内訳 単0, 共2) 事業報告書 その他の報告書等 11 (内訳 単0, 共11)</p>

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
ICT活用による授業の質向上および業務の効率化を目指した教員研修プログラムの開発	日本学術振興会	○ (山田智久) 横溝紳一郎	130,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
熟達英語教員が見出す中高と大学の英語教育の 実践知の共通性と差異性	日本学術振興会	1,040,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長	2007年4月～2018年3月
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員	2007年4月～2018年3月
福岡市国際教育礎プラン運営指導委員会	委員	2015年4月～2018年3月
福岡市国際教育懇話会	座長	2015年4月～2018年3月
福岡県教育委員会主催英語教員指導 力向上研修	指導助言者	2017年4月～2019年3月
福岡市次期教育振興基本計画策定検 討委員会	委員	2018年4月～2019年3月
福岡県立香住丘高等学校スーパーサ イエンス・ハイスクール事業運営指導 委員会	委員	2011年4月～現在に至る
福岡市中学英語教育研究会 主宰 Yoko-Yoko Network	コーディネーター	2012年4月～現在に至る
公益財団法人日本英語検定協会講師 派遣	講師	2012年4月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校スーパープロ フェッショナル・ハイスクール事業運 営指導委員会	委員	2015年4月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校評価委員会	委員	2015年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生部長 2018年4月1日～2020年3月31日
国際交流委員会 委員長 2016年4月1日～2020年3月31日
就職委員会 委員長 2018年4月1日～2020年3月31日
ハラスメント防止委員会 委員 2018年4月1日～2020年3月31日
学生個人情報保護委員会 委員 2018年4月1日～2020年3月31日
大学祭実行委員会 委員 2018年4月1日～2020年3月31日
学生募集委員会 委員 2013年4月1日～2018年3月31日
教職委員会 副委員長 2015年4月1日～2018年3月31日
外部資金導入プロジェクト 委員 2015年4月1日～2019年3月31日
就職委員会 委員（代理） 2017年8月1日～2018年3月31日
ハラスメント相談員 2017年4月1日～2018年3月31日

觀 光 文 化 學 科

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	池口 功晃	職名	准教授	学位	博士(経済学)(久留米大学 2019年)
----	-------	----	-----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光経済学、地域活性化	日帰り観光、観光の経済効果、産業連関分析

研究課題
<p>観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究は、観光地の「魅力」こそ、その核心であると捉えたものが多く、例えば、地域における温泉、食事、レクリエーションなど、いわゆる観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達、人々の目的地への移動を短時間で可能ならしめるため、地域経済活性化の研究においては観光地のみならず観光者にも焦点を当て、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③観光客の観光消費額をもとに産業連関表を通じた精緻な経済分析などを通じて計量的・客観的に行う必要がある。そこで、私の研究では、まず観光の概念を整理した上で観光者の行動を制約する2つの要素、すなわち「時間」と「費用」に着目し、その費消関係に対して、経済学の効用概念を援用しつつ、観光行動の類型化とその分析を試みた。そして、観光者による観光目的地の選択場面において、これら「時間」と「費用」が意思決定の重要な要素になるとの仮定のもと、国内の具体的な地域(大分県)を対象に、GIS(地理情報システム)等を用いて、各観光地が取り込む日帰り観光圏を分析し、さらに観光地間の競合関係を明らかにした。次に、大分県14市を事例に大分県産業連関表からそれぞれの産業連関表を作成した上で、観光客の観光消費額をもとに経済効果を測定し、観光がそれぞれの地域経済にどの程度寄与しているかを明らかにした。</p> <p>このように私の研究は、地域社会の課題を「観光」という切り口で捉え、観光を通じた計量的・客観的な地域経済の分析および評価を主とするものである。今後の研究の方向性としては、(i)サーベイ法を用いた日帰り観光の経済効果を計測することにより、日帰り観光の経済効果とその当該地域の産業構造の関係についてより精緻な考察を行うこと、(ii)修正ハフモデルを観光地間の競合関係により深く組み込んで精緻な分析を行うこと、(iii)以上を含めた手法を福岡県、とりわけ北九州にも応用し、九州の日帰り観光を総体として研究することを課題としている。</p>

担当授業科目	
<p style="text-align: center;">(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ (観光文化学科) ・国際ビジネス論 (英語・観光文化学科) ・初年次セミナーI (観光文化学科) ・日本経済入門 (観光文化学科) ・ビジネス演習A (観光文化学科) ・ビジネス演習B (観光文化学科) ・国際経済入門 (英語・観光文化学科) 	<p style="text-align: center;">((後期))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン論I (観光文化学科) ・ビジネスファイナンス (観光文化学科) ・多国籍企業論 (観光文化学科) ・地域活性化演習A (観光文化学科) ・地域活性化演習B (観光文化学科) ・ツーリズム演習 (観光文化学科) ・旅行産業論 (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 インターンシップ 】</p> <p>本学科は伝統的に学生に対し希望する事業先のアンケート調査をおこない、これに基づいて各事業先にインターンシップ受入れを依頼する方法をとっている。2019年度においては、私が本授業の担当となったためこの方法を踏襲し実施した。具体的な作業としては、①事業先への依頼、②日程の決定、③学生へ連絡、④インターンシップ依頼書および学生の自己紹介書の作成と添削、⑤覚書の作成、⑥起案書作成、⑦学生保険等の手続きなどである。非常に煩雑な作業ではあるが、学生の夢実現へ向けて他学科にはない取り組みをおこなっている。</p>

<p>授業科目名【 国際ビジネス論 】</p> <p>貿易取引のしくみ、貿易書類の読み取り方についてレジュメを作成し、学生に対しわかりやすく説明した。また毎回授業前に前回の授業を踏まえたミニテストを実施し、学習の定着を図っている。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>毎回授業の最初にディベートの練習をおこなった。テーマは7月におこなわれる本学科のディベート大会のものであるが、ディベートの手順、進め方や考え方を丁寧に細かく説明した。これにより学生のディベートのスキルが少しずつ上達したと自負している。</p>
<p>授業科目名【 日本経済入門 】</p> <p>経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、真に理解できない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、戦後の日本経済（GHQの占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）について上述した基礎を踏まえながら順に説明した。この授業では毎回作成されるレジュメを通して実施され、かつ授業前にミニテストを実施しているため、学生は経済用語の単なる暗記に終始せず、さまざまな経済要素が連動していることを理解できるものと思われる。</p>
<p>授業科目名【 ビジネス演習A・B 】</p> <p>毎回作成されるレジュメを通じて、ビジネス社会で必要とされる①仕事への取り組み方や②ビジネスマナー③知っておきたい会計・法律・税金の知識を詳しく丁寧に説明した。また、15回の授業において2回ほど中間テストを実施し、学習の定着を図っている。</p>
<p>授業科目名【 国際経済入門 】</p> <p>日本経済入門と同様、本授業においても金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、国際経済は真に理解できない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、①国際収支、②為替レートの決定や為替介入、③国際通貨、④GATT・WTO、⑤地域統合、⑥貧困問題、⑦環境問題など、国際経済を学ぶ上で広く必要な知識を毎回作成されるレジュメを通じて詳しく丁寧に説明している。</p>
<p>授業科目名【 キャリアデザイン論Ⅰ 】</p> <p>大学生の就職・キャリア支援のため、女性活躍推進やWLB推進に取り組む企業の推進担当者（労務・人事担当者など）を講師役として、業種や職種、職業生活における女性の活躍などについて、市内外の企業に勤める社会人を招聘し、リアルな声を聴くための場を講義として設けた。学生に対しては「就職して働くこと」や「自身のキャリア」について真剣に考える場を提供することができた。</p>
<p>授業科目名【 ビジネスファイナンス 】</p> <p>ビジネスではいわゆる数字（例えば、売上、原価、利益など）を読めることが大切である。本授業では、あらゆる業種の財務諸表を授業において実際に扱い、企業財務（ファイナンス）の分析手法について詳しく説明した。この授業により履修者の多くが一定水準の知識をもって財務諸表を読むことができるようになったと自負している。</p>
<p>授業科目名【 多国籍企業論 】</p> <p>経済活動のグローバル化が進むなか、国際ビジネス活動において主要な役割を演じている多国籍企業は、経済・社会・文化などの面で、世界に大きな影響を及ぼしている。このような多国籍企業を理解することを通して、国際ビジネス、（貧困問題を含めた）世界の動き、日本企業、欧米企業などについて詳しく説明した。</p> <p>また、多国籍企業はどのように生成・発展してきたのか、進出先の国、世界、および本社が所在する発祥国にどのようなメリット・デメリットを与えているのか、企業として存続し競争力を強める上でどのような戦略と行動（顧客志向の面など）をとっているのかを、多くの事例を通して学ぶ機会を提供した。</p>
<p>授業科目名【 地域活性化演習A・B 】</p> <p>本授業においては地域活性化の重要な担い手である企業等を中心とした生産主体に着目し、企業と学生の共同作業を通じて地域活性化に資する一定の成果を追求することを目的として実施した。具体的には、企業等の選定～共同作業の提案～成果発表に至る過程でアクティブラーニングの形式をとり、随時企業を訪問し共同作業をおこない、授業最終回ではご協力頂いた企業の担当者様をお招きし、「成果発表会」を実施した。</p>

<p>授業科目名【ツーリズム演習】</p> <p>九州におけるインバウンド観光振興のために、観光マーケティング及びインバウンド観光の知識を有するインバウンド対応型の観光人材の育成が求められている。本授業においては、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を詳しく説明した。</p>
<p>授業科目名【旅行産業論】</p> <p>訪日外国人数が 3,000 万人を超えた昨今において本授業では急増するインバウンドの現況とインバウンドビジネスの基礎知識について詳しく説明した。また訪日客の約 8 割はアジア諸国等（韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール）の人々であることから、これらの国々の観光・旅行業界の構造と最新トピックスについて説明した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本企業経営学会 九州都市学会 人文地理学会 経営行動研究学会 観光学術学会 日本観光研究学会 日本地理学会 福岡地理学会	設立発起人	2018年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2007年12月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 【博士学位論文】 日帰り観光の地域経済効果に関する研究—大分県14市の産業構造と観光商圏の分析を中心に—	単著	2019年4月	久留米大学	本論文は日帰り観光の地域経済効果を研究するため、大分県14市を例に日帰り観光者数、一人当たり観光消費額、地域の産業構造の3つをフレームワークとしてこれらの分析および考察を行った。初めに地域の産業構造と日帰り観光の経済効果との関係について産業連関分析を通じて明らかにし、次に、日帰り観光者数の増減要因のミクロ的分析として、「時間」と「費用」の制約下にある日帰り観光者の行動は、これらの観光地における費消割合の組み合わせから得られる効用の大きさによって決定されるとの仮定のもと、これらを要素とした日帰り観光行動の類型化を試み、さらに高速道路の新規開通がもたらす行動の変化について分析と考察を行った。

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				最後に、日帰り観光者数の増減要因のマクロ的分析として、高速交通網の整備に伴う各地の競合関係があるとの仮定のもと、WebGISによる平均的日帰り観光圏の導出を通じてこれらの分析と考察を行った。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
「輝こう！あまがせ・支援大使」（大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」）	観光に関する助言・指導	2013年9月～現在に至る
宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議 審議委員	副委員長	2015年7月～現在に至る
津久見市まちづくり推進事業審査委員	副委員長	2016年8月～現在に至る
日田市天瀬農業公園検討委員会	会長	2018年9月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会 学生委員会

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 神崎 明坤	職名 教授	学位 修士 教育学 九州大学 1995年
----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研究課題
① 中日の近代における思想家の道德修養に関する研究 ② 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
入門中国語会話(前期)		○	
中級中国語(前期)		○	
中国の社会と文化(前期)		○	
初年次セミナー(前期)	○		
基礎中国語(前期)		○	
応用日本語(後期)		○	
専門演習Ⅱ(通年)	○		
卒業研究(通年)	○		
初級中国語会話(後期)		○	
上級中国語(後期)		○	
中国語通訳ガイド演習(後期)		○	

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【 入門中国語会話 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 初級中国語会話 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 中級中国語及び基礎中国語 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 上級中国語 】

1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 中国の社会と文化 】

グローバル化の時代に異なる文化を持つ諸社会がお互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国—中国のことを幅広く学び、考えながら異なる社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。

1. 講義ならびにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
3. 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
4. 中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実際調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

授業科目名【初年次セミナー】

本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身につけていることがこの授業の旨である。

1. 講義並びにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高く向上させ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文化漢字や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の日本文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

1. この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでもらい、その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
2. 日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。
3. 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名【 卒業研究 】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

1. 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
2. それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員との交流を通し、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
3. 仮説を論文として展開する力等を養い、学生のオリジナルな論文を書くことを心がけてもらい、最終的に論文完成させる工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
九州中国学会	会員	1998年5月～現在に至る
九州教育学会	会員	1994年～現在に至る
日本比較文化学会	会員 (理事)	2011年～現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

2 0 1 9 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 中国の高等教育カリキュラム改革について	単著	2019年6月28日～29日	日本比較教育学会55回 東京外国語大学にて	2010年、中国の高等教育において、中長期教育改革・発展計画綱要を発表した。2015年中国の教育部「世界一流大学及び一流学科の構築を目指すプロジェクト」では「道德の樹立、人間お育成、主体的な学修教育への転換」人の全面的発達と社会の要請への適応の教育の質が求められている。従って高等教育の学士課程教育の構築が大きな課題となっている。特に学生の学習成果をどのようにあげるかが一つ焦点となっている。その中にカリキュラム改革が幅広く抜本的に進められている。その趣旨は大学生の総合的な能力の育成を理念として掲げ、従来の狭い専門教育偏重から深い教養教育と高い資質教育及び広い専門教育とのバランスを図るカリキュラム、教育内容への方向転換してきたことである。本研究の目的は重点大学と一般大学のカリキュラム調査の内、大学の教育の質的变化をカリキュラム問題に焦点を当てて、教養教育の実態の因子分析を行い、結果を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究～教養教育を中心として～	西南女学院大学	○神崎明坤 古川敬康 (林楽常、呉雲珠、張曉鵬)	1,229,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

○ 宗教主事補

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 高橋幸夫	職名 准教授	学位 経済学修士 (京都大学)
---------	--------	-----------------

研究分野	研究内容のキーワード
マーケティング (広告・ブランド) デザインマネジメント	地域におけるマーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 石炭流通における小倉商人 (中原嘉左右) の研究 デザイン重視の経営研究 (デザインマネジメント研究) 大学における地域活性化活動

担当授業科目
初年次セミナーⅠ (前期) 初年次セミナーⅡ (後期) 専門演習Ⅱ (前期・後期) 卒業研究 地域プロジェクト (後期) マーケティング入門 (前期) 消費者行動論 (前期・後期) イベント・テーマパーク論 (後期) 広告宣伝論 (前期) ブランド戦略論 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ (前期)】 <ul style="list-style-type: none"> 大学生生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。
授業科目名【初年次セミナーⅡ (後期)】 <ul style="list-style-type: none"> 学生生活で必須とされるレポートの必要性和書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。 初年次セミナーⅡのステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。 さらに、新聞記事に親しむ事を目的に「まわし読み新聞」を導入し、社会の仕組み、動きに興味関心を喚起させる内容とした。
授業科目名【専門演習Ⅱ (前期・後期)】 <ul style="list-style-type: none"> マーケティング論及びデザインマネジメントの基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。 西日本工業大学デザイン学部建築学科との課外活動「京築ヒノキと暮らすプロジェクト」、北九州市「カナル・ヴィオラ」プロジェクトなどマーケティング関連の課外活動を行った。

授業科目名【マーケティング入門】

- ・ 受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担っている役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。
- ・ 実用性の高い知識と応用力を身につけるために実務家の講義も実施した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
商品開発・管理学会		2005年4月から現在
日本商業学会		2006年4月から現在
産業学会		2006年4月から現在

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 西南女学院大学生のキャンパスニーズに関する調査 (報告)	共著	2019年	西南女学院大学紀要 Vol.23,2019	西南女学院大学・短期大学部では、各学科において、将来、専門職として働く人材を育成している。そこで協働するための基礎となる社会人基礎力の習得のための体系的な学びを促進するための環境づくりのための基礎資料をえることを目的としたキャンパスニーズ調査結果を報告した。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
九州地域における学生ネットワークの構築 ～学生の主体的学びを促進するために～	西南女学院	○上村眞生ほか	624,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
北九州市立響灘緑地において販売するオリジナル商品の開発およびイベント開発	(株) オリエンタルコンサルタンツ	500,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
We Love 小倉協議会 北九州市「平和資料館（仮称）」	幹事 展示設計業務委託審査委員	2018年4月～2021年3月 2020年6月まで

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生個人情報保護委員会委員長
 就職委員会委員
 西南女学院大学生協理事
 2019年度地域、企業との協働事業（課外活動）における学生指導
 「学び場」プロジェクト学科担当

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	友原 嘉彦	職名	准教授	学位	博士 (学術) (広島大学 2011 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光地理学、観光社会学、ドイツ語圏観光研究	女性と観光、観光と文化資本、サードプレイス研究

研究課題
<p>2018年3月をもって、3ヵ年に渡る女性と観光についての科研費採択課題が終了した。その後、新たな研究を模索する中で、地域貢献的な面も含め、観光目的地としての性格・求心力が弱い地方の鉱工業都市に焦点を当て、2018年度はこのような都市における観光都市的性格付けをテーマとして、研究し、論文にまとめた。</p> <p>しかし、2018年度の中盤からこうした都市について研究するモチベーションが著しく減退したため、また新たな研究を模索した。1つは Oldenburg(1989)によるサードプレイス論を観光に援用したサードエリア研究である。サードプレイスが近代後期の地方都市にとってうまくいかないため、エリアという枠組みでサードプレイスを検討し、これにかかる情報収集に時間を割いた。</p> <p>もう1つは上述の女性と観光の続編的な性格も有する研究であり、特に2019年度の最終盤である2020年より研究を始めた。具体的には地方都市が輩出した女性の偉人を同都市のアイデンティティの形成、さらには観光目的地としての振興に活用するといったことの過程を研究している。</p>

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・前期：「初年次セミナーⅠ」、「ツーリズム英語」、「欧米観光文化地理Ⅰ」、「観光フィールドワーク」、「観光学入門」、「比較文化論」 ・後期：「初年次セミナーⅡ」、「欧米観光文化地理Ⅱ」、「フィールドワーク入門」、「観光フィールドワーク」、「地域活性化研究」 ・通年：「専門演習Ⅱ」、「卒業研究」

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <p>3年次のゼミ「専門演習Ⅱ」からの流れを踏まえ、1年間を通して卒業論文執筆の助言に費やした。特に夏季において、入念に調査研究を行なってくれたこともあり、結果、受講生全員が学士として相応しい水準の論文を執筆することができた。</p>
<p>授業科目名【 専門演習Ⅱ 】</p> <p>4年次の「卒業研究」にスムーズに進めるよう、文献の探し方、構成、読み方などについて時間をかけて指導し、興味を持った文献について発表もしてもらった。また、福岡県那珂川市において「大都市近郊におけるクリエイティブシティの展開」をテーマにフィールドワークを行ない、その成果を第5回全国観光学専攻学生発表会で発表してもらった。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】</p> <p>本科目は1クラス30名規模の一年次後期の演習である。友原嘉彦編(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院、を教科書に選定し、これをクラスで輪読、観光を切り口として特に近代後期における女性の人生を検討した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本科目は1クラス10名規模の一年次前期の演習である。受講生各自の気になるニュースの紹介などから、それらを全員で吟味、多様な角度から検討することで、大学という世界の物の見方や考え方について、これらの能力を涵養した。</p>

<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅰ 】</p> <p>西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 観光社会学 】</p> <p>教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 比較文化論 】</p> <p>ホックシールド著、布施由紀子訳(2018)『壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き』岩波書店、を教科書に選定し、世界中で顕在化するリベラルと保守とのものの見方や考え方について比較・考察した。また、保守がなぜそのようなふるまい、考え方に至るのか環境についても着目し、総合的に議論した。</p>
<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅱ 】</p> <p>東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 観光フィールドワーク 】</p> <p>北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に口頭発表をしてもらった。また、フィールドワークの成果を第5回全国観光学専攻学生発表会で発表してもらった。</p>
<p>授業科目名【 ツーリズム英語 】</p> <p>アガサ・クリスティーの推理小説『オリエント急行殺人事件』の原文を教科書に選定し、輪読するとともに、20世紀初頭から第二次世界大戦前までにおける欧州の旅行のあり方についてもレジュメで補い、総じて観光史の知識・教養を身に付けた。</p>
<p>授業科目名【 フィールドワーク入門 】</p> <p>最大3名までの小グループを作ってもらい、北九州市、および、その周辺地域を対象地としてフィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に口頭発表をしてもらった。予め、フィールドワークの意義や方法を説明してからの催行であり、各グループはそうした諸点を踏まえ、熱心に調査することができた。</p>
<p>授業科目名【 地域活性化研究 】</p> <p>地域がクリエイティブかどうかは、地域が活性するかどうかにかかり、1つの大きな要因となっている。本講ではこうした点を踏まえ、クリエイティブな都市とそうでない都市とは何がどのように異なるのか、国内外の事例や研究者の言説を紹介し、検討した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本国際観光学会		2008年4月～現在に至る。
日本観光研究学会		2008年7月～現在に至る。
観光学術学会		2012年7月～現在に至る。

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員会 副委員長

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	林 裕二	職名	教授	学位	修士 (文学) (西南学院大学 1993 年)
----	------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研 究 課 題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担 当 授 業 科 目
人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科) 初年次セミナー I (前期) (観光文化学科) 基礎英語 (前期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科) TOEIC演習 A (前期) (観光文化学科) TOEIC演習 B (後期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ応用 (後期) (観光文化学科) 専門演習 II (通年) (観光文化学科) 卒業研究 (通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科)】</p> <p>人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目 (90 分 8 回) の二年目にあたる。人文学部の担当教員がそれぞれ原則として一コマ担当する。人文学部での学びの導入として、まずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。2018 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の約束事がシラバス (配布) にどのように示され、それをどう理解するかにも触れた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナー I (前期) (観光文化学科)】</p> <p>1 回目は学部全体で受講し、2 回目以降は学科の専任教員が担当する。専任教員 7 人で 1 学年の学生を均等に割り振りした少人数のクラス編成として、一人の教員が残りの 14 回を担当。まずは学生間の人間関係を作らせ、学習集団への帰属意識をもたせようとした。そのための手法として、座学の中にもペア学習、グループワークを取り入れた。また学科行事として 2 回の授業を使い、ディベート大会を行った。その際に授業で学んだ文献の探し方、わかりやすい発表のしかたを実践させることで、コミュニケーション能力の高め方を学び、グループとしての自主的な学習の動機付けを高めた。</p>
<p>授業科目名【基礎英語 (前期) (観光文化学科)】</p> <p>観光文化学科の専門必修科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目の 2 年目である。1 年次の学年を二分割したサイズである。授業では特にリスニング、読解力を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところは、丁寧に繰り返し説明をした。学習活動として、E-learning の CHleru の学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、オリエンテーション期間中にそれぞれの活動についての指導を行った。また CHleru の学習と英語の多読については、A、B のクラスを問わずに説明をして対応した。</p>

<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）】</p> <p>2019年度の新規科目。E-LearningのCHeru(チエル)を使うマルチメディア教室での必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、ほぼ毎回課題を出し、次回授業で理解度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも教材は利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるようにした。授業最初に小テストを毎回行い、遅刻者が出ないようにした。</p>
<p>授業科目名【TOEIC演習A（前期）（観光文化学科）】</p> <p>TOEIC演習A～Eシリーズの中での最も基本的なレベルである。基本的な文法力を養うことが必要であり、そこを強化しながら、さらに基礎的なリスニングや読解力を伸ばそうとして、少人数を生かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。</p>
<p>授業科目名【TOEIC演習B（後期）（観光文化学科）】</p> <p>受講生の三分の二が、前期のTOEIC演習Aと重なっていた。基本的な文法力の底上げが必要だった。3名という少人数を活かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。説明、理解、確認、定着というパターンを繰り返し行わせた。学生にも板書をさせて、ライティングの確認もさせた。</p>
<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）】</p> <p>前期のマルチメディアイングリッシュ基礎と同じ教室であり、前期のリフレクションから次のことを工夫した。学生の座席配置は、教卓背面のホワイトボードを位置的にも距離的にも、必ず見える位置になっているわけではない。そのホワイトボードを多用せずに、教卓の背後の左右のスクリーンを利用したTTPによる提示を中心にした。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ（通年）（観光文化学科）】</p> <p>年間を通して複数回、学生からの授業についてのコメント、要望を得た。それをシラバスにも沿うような形でできる限り取り入れて、最終的には学生の利益（卒業論文を仕上げることに）につながるように指導をした。また、学外授業として、小倉都心部での質的研究のフィールドワークを実際に行い、4年次の卒業研究に備えさせた。</p>
<p>授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科）】</p> <p>入学年度が2つの年度に別れる5名からなる少人数の授業だった。卒論指導については、学年当初は全体指導を中心とした。そして年度が進むにつれて、個別指導の時間を増やしながら、卒論制作に取り組ませた。質的研究を取り入れることを3年時の最初には伝えていたが、どうしても就職活動との関係で取り組みが遅くなる傾向があるが、夏季休暇の終わりからは分析へと移る段階にはいるように指導した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部会長（2010年2月～2018年9月） 本部理事（2015年11月～2019年10月） 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(AEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査（2006年1月～2011年12月） 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 紀要査読委員（2018年1月～現在に至る） 九州支部副支部長(2008年10月～	1994年2月～現在に至る

日本コミュニケーション学会	2011年10月) 九州支部運営委員(2012年1月～ 現在に至る)	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会	九州支部紀要編集委員(2011年9月 ～2015年6月)	2002年10月～2004年3月
英語コーパス学会		2003年4月～2009年3月
日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月～現 在に至る)	2010年2月～現在に至る
万葉学会	本部事務局長・理事	2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 日本語と英語の翻訳比較 による比較文化研究の潮流	単	2019.5	日本比較文化学会 第41回全国大会・2019 年度国際学術会議 (於：同志社大学今出川 キャンパス)	シンポジウムテーマ：比較文 化の教育と研究の新潮流と して、6名のパネリスト(日 本、韓国、台湾)の一人とし て提言した。提言内容は、主 に日英の翻訳の市場性の影 響について。
ノルウェイの森の一考察 —揺れ動く心—	単	2019.7	2019年第8回村上春樹 国際シンポジウム (於：北海道大学札幌キ ャンパス)	大会テーマ：村上春樹文学に おける「移動」(Movement) であり、主人公と彼を巡る登 場人物たちの心の深層の揺れ が描き出される手法を分析し た。 教育研究実績 総数 (2020. 3.31 現在) 著 書 0 (内訳 単0、共0) 学術論文 0 (内訳 単0、共0) 翻 訳 0 (内訳 単0、共0) 学会発表 2 (内訳 単2、共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

人文学部長 2018年4月1日～現在に至る
公開講座委員長 2018年4月1日～2020年3月

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 八尋春海	職名 教授	学位 修士 (文学) (1993 年九州大学)
---------	-------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学	観光資源、阿蘇市、公的機関

研 究 課 題
阿蘇市における観光資源の活用

担 当 授 業 科 目
<p>前期 初年次セミナー I、人文学入門、初級日本語、中級日本語、海外旅行実務、専門演習 II、卒業研究</p> <p>後期 映画で学ぶ世界遺産。映画で学ぶ欧米文化。上級日本語、エアライン英語、ホテル・ブライダル論。専門演習 II、卒業研究</p> <p>上記は全て観光文化学科での授業</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 例年、地図が苦手な学生が多かったため、なるべく長い時間をかけて種類を減らした上で地図を活用した。</p>
<p>授業科目名【ホテル・ブライダル論】 ホテルに関しては「宿泊産業論」でも学習する機会があるため、ブライダルの方に力点を置いて解説を行った。ホテルとブライダルをはっきりと区分して、それぞれの理解が進むようにした。</p>
<p>授業科目名【初級日本語】 日本に来て間もない留学生が学ぶ科目であるため、まずは生活に困らないように日常生活に必要な言葉を学ぶようにした。</p>
<p>授業科目名【上級日本語】 日本語学習の総仕上げということで、日本人が普通、読む本や見るテレビから題材を取って生の日本語を学ぶようにした。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本比較文化学会	会長 (2018年～2019年)	1996年
日本比較文化学会九州支部	九州支部長 (2010年～現在)	1996年
余暇ツーリズム学会	九州支部事務局長 (2014年～現在)	2005年
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長 (2015年～現在)	2013年

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 阿蘇の宿泊施設による地域貢献	単独	2019年9月	2019年度余暇ツーリズム学会九州支部大会 (於 都久志会館)	阿蘇の宿泊施設が地元食材をどう生かしているのか、地域の自然資源をどう生かして宿泊パックに取り入れているのかについて発表を行った。

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

観光文化学科長 図書委員 教育経費予算委員 入試委員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 劉 明	職名 准教授	博士 (経営学) [立命館大学 2011 年] 学位 修士 (観光学) [桜美林大学 1996 年])
--------	--------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディステイネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違

研 究 課 題
<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディステイネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

担 当 授 業 科 目																												
<table> <tr><td>観光学入門</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>アジア文化交流演習 B</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>アジア観光文化地理 I</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>アジア観光文化交流論</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>初年次セミナー</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>ホスピタリティ論</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>観光産業論</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>アジア観光文化地理 II</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>アジア観光文化地理</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>ツーリズム演習</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>旅行商品企画論</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>経営学入門</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>専門演習 II</td><td>(通年)</td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>(通年)</td></tr> </table>	観光学入門	(前期)	アジア文化交流演習 B	(前期)	アジア観光文化地理 I	(前期)	アジア観光文化交流論	(前期)	初年次セミナー	(前期)	ホスピタリティ論	(後期)	観光産業論	(後期)	アジア観光文化地理 II	(後期)	アジア観光文化地理	(後期)	ツーリズム演習	(後期)	旅行商品企画論	(後期)	経営学入門	(後期)	専門演習 II	(通年)	卒業研究	(通年)
観光学入門	(前期)																											
アジア文化交流演習 B	(前期)																											
アジア観光文化地理 I	(前期)																											
アジア観光文化交流論	(前期)																											
初年次セミナー	(前期)																											
ホスピタリティ論	(後期)																											
観光産業論	(後期)																											
アジア観光文化地理 II	(後期)																											
アジア観光文化地理	(後期)																											
ツーリズム演習	(後期)																											
旅行商品企画論	(後期)																											
経営学入門	(後期)																											
専門演習 II	(通年)																											
卒業研究	(通年)																											

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【観光学入門】</p> <p>「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。また、プリント・PC・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。</p> <p>さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。</p>

<p>授業科目名【アジア文化交流演習 B】</p> <p>「アジア文化交流演習 B」では、豊かな国際感覚を養うため、世界特にアジアに視野を広め、他国の地・上海で新しい自分を発見したり、いろいろな人との交流を深めるため、上海師範大学旅遊学院へ研修に行き、観光業務知識の研修・現地観光産業界への視察をしながら、観光中国語・中国観光文化及び観光産業の知識を学ぶ。本演習では上海への海外研修の事前指導及び学生の異文化理解能力の変化や自文化に対する意識の変化に心掛け、学生がよく理解できるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【アジア観光文化地理 I】</p> <p>「アジア観光文化地理 I」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【アジア観光文化交流論】</p> <p>「アジア観光文化交流論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア特に中国・上海からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業界への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナー】</p> <p>初年次セミナー I では、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ITC 活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【ホスピタリティ論】</p> <p>ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【観光産業論】</p> <p>「観光立国」と 2020 年の東京オリンピックの影響で、観光産業界に多くのインバウンド対応型の観光人材が求められている。本講義ではこのような状況を背景に、観光産業とはいかなる産業なのか、観光産業の範囲・特徴及び各産業の実情について学ぶ。それと同時に観光産業界への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。</p>
<p>授業科目名【アジア観光文化地理 II】</p> <p>「アジア観光文化地理 II」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【アジア観光文化地理】</p> <p>「アジア観光文化地理」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国をはじめ、アジア諸国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【旅行商品企画論】</p> <p>「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。</p> <p>また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。</p>

<p>授業科目名【経営学入門】</p> <p>本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説すし、学生がよく理解できるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【ツーリズム演習】</p> <p>「ツーリズム演習」では、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学び、観光文化学科が実施しているインバウンド観光研修や日本・九州での外国人観光客との異文化交流の具体的な事例をおりこみ、インバウンド観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】</p> <p>「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。</p> <p>また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会		1994年9月ー現在に至る
日本観光研究学会入会		2001年1月ー現在に至る
ツーリズム学会 (現在の余暇ツーリズム学会) 入会		2007年12月ー現在に至る
観光学術学会		2012年2月ー現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 海外研修の教育的効果について ー上海研修を事例として (審査有)	単	2020年3月	余暇ツーリズム学会誌 第7号	日本では、インバウンドだけではなく、アウトバウンドも促進しようとする動きが高まっている。若者世代が海外旅行・海外研修を通じて、異文化を知り、多様な価値観に触れることは、今後の国際協調にも良い結果をもたらす。また、インバウンド観光客の集客や満足度向上にも、こうしたグローバル人材・インバウンド観光対応型人材は欠かせない。アウトバウンドはインバウンド市場にとっても密接に関係した存在である。

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				本論文では、西南女学院大学人文学部観光文化学科の上海研修の事例を取り上げ、学生の異文化理解能力の変化や自文化に対する意識の変化及び研修の教育的効果について考察する。
(翻訳)				
(学会発表) 海外研修の教育的効果 について —上海研修を事例 として (審査有)	単	2019年9月	2019年度 余暇ツーリズム学会 九州支部会にて	西南女学院大学人文学部観光文化学科の上海研修の事例を取り上げ、学生の異文化理解能力の変化や自文化に対する意識の変化及び研修の教育的効果について考察する。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

1. 国際交流委員
2. 情報システム管理運用委員
3. 懇親会委員

助 産 別 科

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	古賀 玉緒	職名	講師	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2009 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	周産期・更年期・教育

研究課題
周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担当授業科目
【助産別科】 女性の健康支援論・助産診断ケア学Ⅱ (分娩期)・助産診断ケア学Ⅲ (産褥期)・助産学基礎実習：(前期) 助産診断ケア学Ⅵ (健康教育演習)・助産診断ケア学Ⅶ (助産過程演習)：(通年)・助産学研究演習 (通年) 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：(後期)
【看護学科】 母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論：(看護学科 3 年前期)、母性看護学実習・母性看護方法論：(看護学科 2 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅱ・Ⅲ 】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やDVD教材を使用し形態を立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。また、事前学習をふまえて知識の確認をしたうえで、演習では実践に活用できることを意図し模擬患者を用いてロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ 】 主に、産褥期、思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。なお、健康教育演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【 助産学実習 (基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理) 】 実習ごとに施設の指導者と効果的な実習にむけた調整を行ったうえで実習に臨んだ。実習中も記録の確認や各個人の学習の進捗状況を把握したうえで臨床指導者と適宜意見交換を行い指導方法の共通理解に務め、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。
授業科目名【 母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論 】 看護学科 2 年生、3 年生を担当し、周産期における女性 (胎児・新生児を含む) の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像や模型を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。また、看護過程演習や母性看護技術演習では臨床実習を見据え、実践で活用できるよう個人ワークや技術練習の時間を設け技術の向上に努めた。ウイメンズヘルス看護論においても、少人数を担当し、個々の学生がもつ興味から、テーマや課題を引き出し、文献検索を通して考察が深まるよう指導に取り組んだ。
授業科目名【 母性看護学実習 】 適宜、指導者と相談し、教員間では定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえて効果的な実習指導を

心がけた。また、グループダイナミクスや学生の学習進捗状況を確認し、適宜指導体制を変更するなどの工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本母性衛生学会		2007年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月～現在に至る
福岡県看護協会		2008年4月～現在に至る
日本助産学会		2011年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2014年5月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 新郷 朋香	職名 助教	学位 助産修士 (専門職) 天使大学大学院 2009 年
-------------	----------	---------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア、産後ケア、母性看護学	助産ケア、産後ケア、継続支援、子育て支援

研 究 課 題
助産師の妊娠期から産褥期における継続的ケアについて考察する

担 当 授 業 科 目
母性看護学実習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【母性看護学実習】 学生の受け持ちなどを決定する際、学生の自主性を伸ばせるよう前もって学生の目標や意見などを聞き、実習担当者と調整を行っている。それに応じた受け持ちを選定・ケアへ繋げることが出来るよう心掛けている。周産期における継続ケアについて理解しやすいよう支援を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会		2009年4月～現在に至る

2019 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
なし				
(学術論文)				
なし				
(翻訳)				
なし				
(学会発表)				
なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

なし

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	田中 満由美	職名	教授	学位	修士 (経済学)(山口大学 1999 年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
助産学	就労女性の仕事と子育ての両立、ペリネイタル・ロス、不妊症患者に関する看護、父性の研究、女性の尿失禁、性教育

研究課題
<p>「就労女性の仕事と子育ての両立」を主軸に、「不妊症患者に関する看護」「ペリネイタル・ロスを経験した母親や父親についての援助方法」「妊娠・分娩・子育て期の看護」「性教育」「父性の研究」「女性の尿失禁」をテーマに研究をしている。学会発表においては、第 41 回日本母性衛生学会会長賞を受賞し、山口県母性衛生学会奨励賞は 5 回受賞している。特に助産学の研究に力を入れ、助産学の質向上に努めている。「就労女性の仕事と子育ての両立」については、就労女性の疲労度を軽減するにはどのような援助が必要かを明らかにし 援助方法を提示している。「仕事と不妊治療の両立に必要な援助方法に関する研究」では就労女性の不妊治療における困難やストレスの内容、就労と治療の調整を困難にしている要因を明らかにし、看護援助や治療環境のあり方を提示している。「助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセス」の研究では助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセスを明らかにし、ペリネイタル・ロスのケアに対する助産師教育の方向性を提示している。</p>

担当授業科目	
基礎助産学 I (前期)(助産別科)	助産学基礎実習 (前期)(助産別科)
助産管理学 (前期・後期)(助産別科)	助産学実習 I (正常) (前期)(助産別科)
助産診断・ケア学 7 (前期・後期)(助産別科)	助産管理実習 (後期)(助産別科)
助産学研究演習 (前期・後期)(助産別科)	母性看護学概論 (前期)(看護学科)
キリスト教と生命倫理 (後期)(助産別科)	ウィメンズヘルス看護論 (前期)(看護学科)
子育て支援論 (前期)(助産別科)	
キャリア開発 (後期)(看護学科・人文学部・福祉学科・栄養学科)	
総合看護学 (前期)(助産別科)	

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 基礎助産学 I 】 範囲が広いので、授業にはパワーポイントで展開し、国家試験出題基準も意識し、資料はカラーの使用で覚えるところの強調等をして作成した。限られた時間ではあるが、学生に討議するなどの時間もつくれた。</p>
<p>授業科目名【 助産管理学 】 病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学 7 】 助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>

<p>授業科目名【 助産学研究演習 】</p> <p>前半は研究の講義を実施し、後半はグループ担当教員を決め、担当教員の元、グループでテーマを決めて研究計画書の作成を行い、構想発表会を実施した。構想発表会では学生は自分たちで研究計画書作成のプロセスでの教員とのやり取りの中での学びをもとに活発な質疑応答を実施することができた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 キリスト教と生命倫理 】</p> <p>8 コマ中、4 コマ担当している。担当部分に関しては、倫理と助産業務、生命倫理(生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生診断)などについて講義をするとともに討論した。本科目のコマは受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、そのことを念頭に入れて申請書に沿った 授業を展開した。次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 子育て支援論 】</p> <p>担当分 4 コマについては講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論することができた。効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 総合護学 】</p> <p>担当部分は看護理論であるが、助産別科学生は大学卒、看護学校卒、専攻科卒、5年一貫卒と基礎教育がばらばらであり、それぞれの学校で看護過程を展開する基盤となる主に使用する理論も違っているため、そこを意識し、主たる看護理論を概説した。</p>
<p>授業科目名【 助産学基礎実習 】</p> <p>担当が名古屋市梅坪のクリニックであるため、教員はずっと毎日顔を合わせて指導はできないので、いない間は毎日学生にメールで記録物を送ってもらい、記録物をメールで添削、コメント、指導するようにした。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習Ⅰ(正常) 】</p> <p>担当が名古屋市梅坪のクリニックであるため、教員はずっと毎日顔を合わせて指導はできないので、いない間は毎日学生にメールで記録物を送ってもらい、記録物をメールで添削、コメント、指導するようにした。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 助産管理実習 】</p> <p>担当は福岡県北九州市の四つ葉助産院と子育てプラザであった。両施設とも学生は自立して積極的に実習できた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学概論 】</p> <p>8 コマで教科書1冊を教授するという制約の中で、国家試験の意識しながら、ギューギューに内容を詰め込んでいるが、学習の理解を助けるため、授業始めに前回のポイントを5分程度使用して復習している。時間内に質問は実施しているが、もっとゆっくり考える時間をとりたい。授業初めに前回のポイントを5分程度使用して復習については効果があるので、次年度も継続するが、優先度の低いところを削るという作業を少し実施し、時間的余裕をもって講義を展開したい。</p>
<p>授業科目名【 ウィメンズヘルス看護論 】</p> <p>学生の興味のあるテーマで助産別科担当教員が各人に対してマンツーマンで指導している。担当教員は時間内にすべて指導できるわけではないので、大変ではあるが、学生は指導の中で、研究の基礎となる「調べること」「書く」「まとめる」などの基礎をプロセスとして学習し、学生の満足度は高かった。学生は自分の 興味あることを積極的に図書館の利用、医中誌などの利用などを通して調べること、まとめることの面白さが分かったようである。</p>

授業科目名【 キャリア開発 】

キャリアを考える場合、大学生生活は性についてしっかり考えたうえで、行動することが大事であることから、1 コマを担当させていただいている。授業後のアンケートから性感染症について理解していない学生や妊娠について理解できていない学生も中にはいることが明らかになった。アンケートで質問や相談、誤った認識に対しては手紙で返答した。次年度も基本的なことからより丁寧に説明したい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本母性衛生学会	2009.4～2016.3 評議員、論文査読委員	1974.4～現在に至る
日本看護学会		1975.6～現在に至る
日本助産学会	学術学会査読委員	1995.5～現在に至る
STTI	2012.7～2014.6 役員	2004.4 現在に至る
NHS		2002.9～現在に至る
山口医学	2003.4～評議員(現在に至る)(2003～2年幹事)	1999.4～現在に至る
山口県母性衛生学会	2003.7～2018.6 理事、2003.7～査読委員(現在に至る)	1984.7～現在に至る
日本母性看護学会	2019年3月～2019年4月学術学会査読委員	2015.10～現在に至る
日本看護診断学会		1995.4～2003.3
日本看護研究学会		1997.4～2003.3
日本解剖学会		1999.9～2018.3
日本神経科学学会		2000.5～2018.3
日本神経内分泌学会		2000.10～2018.3

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1 大学生のコンドームに関する知識習得状況およびコンドーム使用に関する自己効力感の実態	共著	2020年7月	母性衛生 Vol.60 (2)	①大学生のコンドームに関する知識習得状況およびコンドーム使用に関する自己効力感の実態を明らかにすることを目的に無記名自記式質問紙法でアンケート調査をした。分析対象は439名である。性交経験あり群は約34%であった。避妊法はコンドームが最も多かったが、コンドームについて学校で習ったものは約半数であった。コンドームに関する20項目について過半数が知らないと回答した項目は性交経験あり群は4項目、なし群は14項目であった。性交経験あり群を

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 死産ならびに新生児死亡を経験した母親の乳汁分泌および乳汁分泌抑制に対する思い	共著	2020年3月	山口県母性衛生学会誌 Vol.36	<p>「大学生用日本語版コンドーム使用自己効力感尺度」得点を分析した結果、「使用スキル」「コントロール」「用意行動」で女性の得点が低かった。</p> <p>共著者名 亀崎明子、金梨華、河本恵理、田中満由美</p> <p>③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p> <p>①死産ならびに新生児死亡を経験した母親の乳汁分泌および乳汁分泌抑制に対する思いを明らかにすることを目的とした。妊娠27週以降の死産から経過が18か月未満または新生児死亡からの経過が18か月未満の母親で、乳汁分泌が停止している者を対象者とした。6名を対象に半構成面接を実施した。その結果、乳汁分泌に対する思いとして【子どもに直接授乳したい】【子どもに母乳を与えたい】【子どもが存在した証】【搾乳で供養したい】【乳汁分泌停止によって実感する喪失感】【母乳を与える子どもがいない喪失感】の6カテゴリーが抽出された。乳汁分泌抑制に対する思いは一人一人異なっていた。医療者は児の誕生とともに死を受け入れなければならない母親の思いに寄り添いながら、思い込みや慣例にとらわれず、授乳や乳房ケアを行う必要がある。また、母親自身が乳汁分泌を抑制するか否か意思決定できるよう医療者が支援する必要性が示唆された。</p> <p>②共著者名 武原夕子、田中満由美、亀崎明子</p> <p>③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p>
(翻訳) なし				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1 妊婦の口腔ケアに関する知識ならびに口腔ケアの実態調査	共著	2019年6月	山口県母性衛生学会	①妊婦の口腔ケアに関する知識習得状況や口腔ケアの実態、歯周病セルフチェック票の得点を明らかにすることを目的に妊娠23～25週の妊婦41名を対象に質問紙調査を実施した。分析対象は38名であった。結果から知識が十分でないことが明らかになった。また、歯周病セルフチェックにおいても「健全」は10.5%、「中等度」39.5%、「重度」「軽度」はそれぞれ23.7%であった。専門職は、妊婦に口腔ケアの重要性について指導する必要があることが明らかになった。また、妊婦が歯周病予防のためのセルフケアを実施できるように支援する必要性が示唆された。小林美緒、坪井陽子、松生晴美、坂口真梨、中川真緒、松永一枝、工谷亜希子、塩道敦子、大田まゆみ、亀崎明子、田中満由美 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
山口県実習指導者講習会 (実習指導者対象「実習評価」講義)	講習会講師	2019.10.23～10.28
山口県看護協会 (助産師職能対象「臨床推論」講演)	講演講師	2020.1.18
シニアカレッジ (高齢者対象「脳の性差」講義)	講師	2019.8.30

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

助産別科長、入試委員会委員、学生支援委員会委員、

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 前田 幸	職名 講師	学位 助産修士 (専門職) 天使大学 2006 年
---------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、子育て支援 保健指導、助産 (師) 学生、分娩介助、乳がん検診

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着に与える影響について考察する ・助産師学生の分娩介助の習得過程に関して考察する ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

担 当 授 業 科 目
<p>【助産別科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産診断・ケア学Ⅰ 妊娠期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ 産褥期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅴ 周産期のハイリスク (前期) ・助産診断・ケア学Ⅶ 助産過程演習 (前期) ・助産学研究演習 (通年) ・実習：助産学基礎実習 (前期) <p style="padding-left: 40px;">助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習 (後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産診断・ケア学Ⅱ 分娩期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅳ 新生児・乳幼児期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ 健康教育演習 (前期) ・女性の健康支援 (前期) ・基礎助産学Ⅱ (前期) <p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護方法論 (2年後期) ・母性看護学演習 (3年前期) ・母性看護学実習 (3年後期～4年前期) ・ウイメンズヘルス看護論 (3年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ】</p> <p>助産診断・ケア学では、各領域の基礎的知識及び助産技術習得ができるように、事前課題やワークシートなどを用い、学生自身が主体的に自ら考え、意欲・関心が得られるように、工夫した。グループディスカッションや発表を取り入れるなど学生同士の学びの共有ができる工夫を行った。演習においては、学習で得た知識を統合させ、助産ケアの実践につながるよう、担当教員とともにデモンストレーションの工夫を行い、また、実習で体験する場面やケアなどを取り入れていった。また、最新のガイドラインなどを意識した演習を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) では、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第3者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。また、演習後は、観察したことをアセスメントし、体験を通して考えたこともふまえレポートにて振り返る機会をもった。 2. 助産診断・ケア学Ⅱ (分娩期) では、前半は主に分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法についての講義を行った。学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、グループごとに主体的に考える機会を取り入れるなど工夫した。後半は主に演習を行った。演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づ

けを行った。

実習において、必須である分娩介助やそれに伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。

授業科目名【助産学基礎実習】

実習目標の到達に沿って、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。特に基礎実習では、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように関わった。学生個々の価値観等を考えながら、臨床指導者や他の教員と意見交換し、支援するとともに、学生の実習に対して、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントを考えたうえで、今後どのようなことが予測されるか、対象者に今必要なケアは何か、学習で得た知識を活用し、考えることができるようにフィードバックを行った。

授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理】

実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるように、学生の支援を行った。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して関わった。また正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを行えるよう助言等の工夫をした。臨床指導者や他の教員と連携をとり、意見交換し、支援するとともに、学生がより個別性を考えたケアを行うことができるように工夫してフィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、1つ1つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。

授業科目名【母性看護方法論】

今年度は、産褥期と新生児期を担当した。学生が母性看護学に興味を持てるよう、また主体的に学習ができるように、事前に予習プリントを配布し講義をすすめた。また、講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機会を設けた。事例や周産期の現場で起こりうること、看護者としての考え方や対象者とのかかわり方、また学生自身の身体と結び付けるような情報を講義で紹介し、学生が教科書の知識と結び付けてイメージしやすいように工夫を行った。

授業科目名【母性看護学演習・実習】

演習では、実習を考慮し、看護過程と看護技術習得が行えるように関わっていった。今年度は、演習で小グループでの活動を取り入れ、学生同士が主体的に学び合う機会を設けた。各小グループの担当教員が主にサポートとして関わった。

実習に関しては、看護過程の展開を通し、学生個々に合わせたフィードバックを行うことで実習目標の到達できるように関わっていった。ケアの実施の際には、科学的根拠を考えて実施していくことの必要性を伝えていった。実習を通して周産期におけるケアや退院した後の継続ケアを理解できるような支援を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会 母性衛生学会		2003年4月～現在に至る 2017年3月～現在に至る 2018年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員（2019年～現在に至る） 研究推進委員（看護学科/助産別科）（2016年～現在に至る） 周望学舎 シニアサマーカレッジ（2019年 担当科目の一員として参加） 助産別科 クラス副担当 助産別科 助産師国家試験担当/家族計画実施指導員資格認定担当 助産別科 教務担当 助産別科 アドバイザー

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 恵	職名	助教	学位	学士 (教養)
----	------	----	----	----	---------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア 女性の健康支援 思春期健康教育 母子の愛着 (アタッチメント)	女性の健康 予防行動 セルフチェック 母子関係 アタッチメント 敏感性 寄り添う支援

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の女性の健康に関する意識や予防行動の実際を調査し、健康増進のために必要な支援の効果を考察していく。 ・アタッチメントに問題を抱えている母親に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。

担 当 授 業 科 目
<p><助産別科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合看護学 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ (産褥期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ (健康教育演習) (通年) ・女性の健康支援論 (前期) ・助産学基礎実習 (前期) ・助産学実習Ⅱ (正常逸脱) (後期) ・助産学研究演習 (通年) ・助産診断・ケア学Ⅱ (分娩期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅳ (新生児・乳幼児期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅶ (助産過程演習) (前期) ・助産学実習Ⅰ (正常) (後期) ・助産管理実習 (後期) <p><看護学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学演習 (前期) ・母性看護学実習 (後期) ・ウイメンズヘルス看護論 (前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 総合看護学 】</p> <p>体験学習や共同学習を取り入れ、学生の自発性を高めるよう工夫した。特に時間内で学習したこと、理解した内容を言語化させ、「何となくわかった」から「このように理解した」とそれぞれの学びの内容を確認し、次回の講義に反映させた。</p>
<p>授業科目名【 女性の健康支援論 】</p> <p>教科書内の内容だけでなく、最近の動向や新たな知見、助産ケアの対象者の実像を具体的に提示して、社会が求める助産師の役割について考える機会とした。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) Ⅱ (分娩期) Ⅲ (産褥期) Ⅳ (新生児・乳児期) 】</p> <p>知識を統合させケア実践につながるよう、シミュレーション教育を行った。演習計画はできるだけ詳細に立案し、公平性が保てるよう時間調整した。また、学生全体で検討する機会を設け、意見交換できるよう工夫した。</p>

<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習） 】</p> <p>母性看護過程展開の経験の有無や、理解度を把握した上で個別対応した。講義時間外でもできるだけ学生対応に努め、学習が円滑に進むよう支援した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 】</p> <p>集団に対する思春期健康教育を実施できるよう中高に依頼した。企画立案から運営まで学生主体で行えるよう計画した。指導内容に関して中高の教育と齟齬がないよう指導案や教材の確認を行い、教育の質の保障に心がけた。また、コロナウイルスの影響等で実践できなかったが、学生の達成感が反れないよう、成果物を披露する機会を設け、評価した。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ）（管理） 】</p> <p>今年度より 2 か所の新規実習施設が加わったため、実習開始に向けて実習施設と綿密に調整を行った。また他県での実習となるため、学生の負担をできるだけ軽減できるよう、宿泊施設や必要物品の調達を経理課の協力のもと行った。</p> <p>また、遠方実習中の学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。学生の心身の体調把握に努め、必要時指導者へ連絡し過度な負担とならないよう調整を図った。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では 31 名の学生を担当した。演習資料は、実習で活用できるよう臨床経過に基づいた内容で作成し、提示した。演習では小グループ活動を取り入れ、学生間の学び合いの場を設けた。成果物の確認後、随時個別指導を行った。国家試験対策につながるよう、教科書を活用した学習方法を提案、指導した。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学実習 】</p> <p>新規実習施設の実習引率を担当した。多数の看護学校を受け入れているため、本校の実習目標や目的を理解し、学生の目標達成に向けて指導していただけるよう調整連携した。</p>
<p>授業科目名【 ウイメンズヘルス看護論 】</p> <p>8名の学生を担当した。ウイメンズヘルケアに興味関心が持てるよう、話題提供に努めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州子育て支援と子ども文化ネットワーク ムーブフェスタ 2019	シンポジスト	2019年7月13日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p><別科学生募集他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度のオープンキャンパス企画・運営担当 ・ブログ担当 <p><別科業務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習コーディネーター補佐として施設との調整、実習に関する準備等を行った。 ・助産学生4名のアドバイザー担当 <p><学生支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学科教員や保健室職員の要請に応じて、看護学科学生等の健康相談を行った。関連する病院の紹介や連絡調整を図った。

大学短期大学部

保 育 科

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	阿南 寿美子	職名	准教授	学位	修士 (教育学)
----	--------	----	-----	----	----------

研究分野	研究内容のキーワード
幼児心理 幼児教育 保育者養成	社会的能力の発達 規範意識 いざこざ 保育観 子どもの学び 保育カンファレンス 保育記録

研究課題
<p>幼児期の対人交渉場面において、乳幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。子どもの遊びの中における学び（育ち）の捉え方について考察する。</p> <p>保育者養成校の学生が、2年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。</p> <p>保育の質を向上するための保育カンファレンスのあり方について考察する。</p>

担当授業科目
<p>学校法人西南女学院 西南女学院大学短期大学部 保育科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の心理学Ⅰ（前期）（1年生） ・こども家庭支援の心理学（後期）（1年生） ・こどもの発達理解とあそび（複数担当教員）（前期）（2年生） ・教育実習指導（複数担当教員）（2年間通年）（1年生、2年生） ・教育実習Ⅰ（複数担当教員）（通年・学外）（1年生） ・教育実習Ⅱ（複数担当教員）（前期・学外）（2年生） ・教育実習Ⅲ（複数担当教員）（後期・学外）（2年生） ・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数担当教員）（後期）（2年生） ・こども学基礎演習（通年）（1年生） ・こども学特別演習（通年）（2年生） <p>学校法人弘徳学園 姫路大学教育学部こども未来学科通信教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学（後期）（3年生）レポート試験 ・発達検査法（後期）（4年生）レポート試験

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【保育の心理学Ⅰ】</p> <p>「保育の心理学Ⅰ」では子どもの発達を理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【こどもの発達理解とあそび】</p> <p>共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に参加する際、保育者としての視点を持ちながら取組み、子どもの思いへの理解を深めた計画を立てることができるよう配慮した。また、他者の指導案を添削することで、自身への気付きが持てるように授業を展開した。</p>

<p>授業科目名【こども学基礎演習】</p> <p>今年度より「遊び体験」として近隣の保育園または幼稚園で実際に子どもと触れ合う時間を設けた。体験後は振り返りを行い、困ったこと、わからなかったことなどゼミごとに意見を出し合い、グループワークを行った。その後、全体の前で発表した事例についての解説を複数の教員が行うことにより、学生の直接体験による学びを深められるよう授業を展開した。</p>
<p>授業科目名【こども学特別演習】</p> <p>毎年行っているボランティアを中心とした活動を学生の自主性を重視しながら展開できるよう指導した。2019年度の主な活動は、学校見学会（模擬授業）、近隣保育園での遊びの実践、その他保育園での子どもとの触れ合いなどである。また、学内に整備された「えほんの部屋」にて、附属幼稚園の園児を対象に月1回のおはなし会を実施。さらに下曽根のショッピングモールにおいてもモールに来ている親子対象におはなし会を実施した。行事の提供は教員が行ったが、内容決めから台本作成にいたるまで、ゼミ長、副ゼミ長、各行事担当を中心に準備を進め、実践を行っている。</p>
<p>授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】</p> <p>様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2人1組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生に保育者としての意識が高まるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【教育実習指導】</p> <p>事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。</p> <p>報告会は1、2年生合同で行い、2年生よるポスター発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2012年～
日本保育者養成教育学会	会員	2018年～
日本乳幼児教育学会	会員	2018年～

2 0 1 9 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 幼稚園教育実習・保育所実習における読み聞かせの実態～実習事後指導のアンケート調査より～	共著	2020年3月	福岡女学院大学	保育者養成校の学生は各実習において、配属クラスの子どもに応じた絵本や紙芝居などの教材を準備し、実践している。その際、学生がどのような絵本・紙芝居の実践を行っているのかを検証した。
2. 保育カンファレンスにおける保育記録の活用のあるあり方	共著	2020年3月	別府大学短期大学部	保育の質を高めるためには、保育者の子どもの姿を見とる力が必要である。その為の保育カンファレンスのあり方、また保育者の抱えている困難についてインタビューを行い、SCATを用いた分析を用いて検証した。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
実習時における学生の困難事例についての検討 ～乳幼児との対応を中心に～	全国保育士養成協議会ブロック研究助成金	(○脇信明) (古林ゆり) (金子幸) (上原真幸) <u>阿南寿美子</u> (島田知和) 末寄雅美 (藤本朋美)	150,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
九州保育者団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員 第 50 回福岡集会副実行委員長	2012 年 4 月～現在に至る 2016 年～現在に至る 2019 年～現在に至る
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016 年 4 月～現在に至る
NPO 法人あゆみの森共同保育園	第三者委員	2018 年 1 月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<p>教職課程委員会 副委員長 (2013 年 4 月～現在に至る)</p> <p>入学試験会議委員 (2014 年 4 月～現在に至る)</p> <p>西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員 (2016 年 4 月～現在に至る)</p> <p>西南女学院評議員 (2016 年 4 月～2020 年 3 月)</p> <p>教員免許状更新講習コーディネーター (2014 年 4 月～現在に至る) ・ 講座担当補佐 (2018 年 8 月 21 日、2019 年 1 月 12 日)</p> <p>短期大学部第三者評価 ALO (2016 年～現在に至る)</p> <p>認定絵本士資格講座責任者 (2018 年～現在に至る)</p> <p>2018 年度ガイダンス等 (5 回) 、高校訪問 他</p>

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	池田 佐輪子	職名	専任講師	学位	修士 (人間関係学) (北九州市立大学 2014 年)
----	--------	----	------	----	--------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床教育学	代替的愛着、行動制御システム、内的作業モデル、 自我・社会性の発達、養育者支援

研 究 課 題
臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りが感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。保育所での3歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であることから、養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

担 当 授 業 科 目														
<table border="0"> <tr> <td>保育者論 (前期)</td> <td>在宅保育 (後期)</td> </tr> <tr> <td>乳児保育Ⅱ (前期)</td> <td>乳児保育Ⅰ (後期)</td> </tr> <tr> <td>こども文化 (前期)</td> <td>保育・教職実践演習 (幼稚園) (後期)</td> </tr> <tr> <td>こども学基礎演習 (通年)</td> <td>保育総合表現 (後期)</td> </tr> <tr> <td>こども学特別演習 (通年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育実習指導Ⅰ (通年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年)</td> <td></td> </tr> </table>	保育者論 (前期)	在宅保育 (後期)	乳児保育Ⅱ (前期)	乳児保育Ⅰ (後期)	こども文化 (前期)	保育・教職実践演習 (幼稚園) (後期)	こども学基礎演習 (通年)	保育総合表現 (後期)	こども学特別演習 (通年)		保育実習指導Ⅰ (通年)		保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年)	
保育者論 (前期)	在宅保育 (後期)													
乳児保育Ⅱ (前期)	乳児保育Ⅰ (後期)													
こども文化 (前期)	保育・教職実践演習 (幼稚園) (後期)													
こども学基礎演習 (通年)	保育総合表現 (後期)													
こども学特別演習 (通年)														
保育実習指導Ⅰ (通年)														
保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年)														

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 保育者論 】</p> <p>テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。事前に課題を提示し、個別に考えをまとめたうえでグループワークを取り入れることで、自分の意見をもち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるように仕向けて行った。</p>
<p>授業科目名【 在宅保育 】</p> <p>基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、それぞれの意見を交換しながら保育内容を検討する授業を行った。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討していった。</p>
<p>授業科目名【 乳児保育Ⅰ 】</p> <p>まずは保育所実習で3歳未満児と関わることを念頭に、3歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な3歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点について講義を行った。また保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、関わり方の基礎が学べるようにした。</p>
<p>授業科目名【 乳児保育Ⅱ 】</p> <p>1年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びを踏まえて、知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるように指導計画を立てて検討したり、人形や教材を活用した演習も取り入れたりしていった。</p>

<p>授業科目名【 こども文化 】</p> <p>具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、教員が資料を用いてデモンストレーションを行い、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が実際に制作、発表することで、実践力が身につくようにした。お互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本土の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。</p>
<p>授業科目名【 こども学基礎演習 】</p> <p>子どもや保育への理解を体験的に深めることができるように、学生が主体的に考え工夫し、他者と協力しながら活動することを意識しながら授業・演習を行った。また実際に子どもたちと触れ合う機会を作り、学んだことを確認したり軌道修正したりしながら、実践力が定着するように心がけた。</p>
<p>授業科目名【 こども学特別演習 】</p> <p>学生の主体的な学びを重視しながら、積極的に企画を出し合い、近隣の幼稚園や保育所、親子ふれあいルームなどに出向いて子どもたちと触れ合いながら、応用的な実践力が身につくように心がけた。また本学「えほんのへや」でのおはなし会の開催や書店との共同企画での絵本の紹介やおはなし会なども行った。</p>
<p>授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】</p> <p>様々な児童福祉施設の特徴を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。</p>
<p>授業科目名【 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ 】</p> <p>自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的な取り組みができるようにしていった。また学生同士のワークショップを行い、お互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。</p>
<p>授業科目名【 保育・教職実践演習（幼稚園） 】</p> <p>実際に保育指導計画を作成して模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。</p>
<p>授業科目名【 保育総合表現 】</p> <p>今年度より本学マロリーホールを会場に、市内の幼稚園、保育所の子どもたちを招待して作品の発表を行った。これまで学んできたことを総合的に活用し、学生同士でアイデアを出し合って一つの作品を作り上げられるように、また演技・演出に加え、音響や照明も学生同士で協働していくなかで、困難を乗り越えていく喜びを感じられるように心掛けた。教員はできるだけサポートに回り、学生の主体性を引き出しながら発表へと導いた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
保育学会		2018年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 保育所における子どもの愛着形成の理解と支援 その2	共著	2020.3	北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）第27巻	① 保護者との愛着形成に課題を抱えた、発達の状態に課題を持つ子どもとその保護者に対し、保育所で行う代替的愛着形成と保護者支援について論じた。 ②共著者名 楠凡之 ③ (P13～34)
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・ コラボラキャンパスネットワーク 親子ふれあいルーム	実行委員 オブザーバー	2009年4月～2015年3月 2015年4月～現在に至る
・ 特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州	理事	2013年3月～現在に至る
・ NPO 法人あゆみの森共同保育園	苦情解決体制における 第三者委員	2018年9月1日～2020年3月31日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
図書委員会（副委員）	2018年4月～現在に至る
学生個人情報保護委員会（副委員）	2018年4月～2020年3月
後援会学校委員大学短期大学部保育科 学年部	2019年4月～2020年3月
教員免許状更新講習講師	2019年4月1日～2020年3月31日

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 笠 修彰	職名 准教授	学位 修士(健康福祉学)(西九州大学 2007年)
---------	--------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担 当 授 業 科 目
こども家庭福祉(前期) 社会的養護(前期) 社会福祉(後期) 社会的養護内容(後期) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習指導Ⅲ(通年) こども学基礎演習(通年) こども学特別演習(通年) 施設実習Ⅰ(学外実習) 施設実習Ⅱ(学外実習)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 こども家庭福祉 社会福祉 社会的養護 】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。
授業科目名【 社会的養護内容 】 具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
一般社団法人日本社会福祉学会	会員	2008年7月
日本保育学会	会員	2016年9月

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学术论文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る
『保育福祉小六法』(株) 未来	編集委員	2016年4月～現在に至る
公益社団法人日本社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る
公益社団法人福岡県社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生募集委員会 副委員長 (進学ガイダンス6回, 高校訪問10校)	2019年4月1日～2020年3月31日
キャンパス・ハラスメント相談員	2019年4月1日～2020年3月31日

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 篠木 賢一	職名 講師	学位 修士(体育学 鹿屋体育大学 2001年)
----------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研究課題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力・食生活習慣との関連について考察する。

担当授業科目
スポーツ実技、運動と健康、こどもの運動あそび、こども学基礎演習、こども学特別演習、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育所実習Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 こどもの運動あそび 】</p> <p>子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。</p>
<p>授業科目名【 こども学特別演習 】</p> <p>子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。</p>
<p>授業科目名【 運動と健康 】</p> <p>運動・スポーツが体に及ぼす効果や、運動によって健康・体力の維持、増進させる方法について学生の理解を深めるために、さまざまな事例を用いて解説している。</p>

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会		1997年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2013年12月～現在に至る

2019年度研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
九州地域における学生ネットワークの構築 - 学生の主体的学びを促進するために -	西南女学院大学	○上村眞生 小田日出子 天本理恵 塚本美紀 高橋幸夫 篠木賢一	624,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学バレーボール連盟 附属シオン山幼稚園「運動あそび」 九州大学バレーボール連盟 第13回北九州市精神障害者バレーボール大会 第19回西日本大学バレーボール5学 連女子選抜対抗戦	女子強化委員 講師 競技委員副委員長 審判委員長 コーチ	2006年4月～現在に至る 2013年6月～毎月1回程度 2013年4月～現在に至る 2018年9月 2018年12月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員 2017年度～現在に至る 教育経費予算配分委員 2018年度～現在に至る 排球部 監督 2014年度～現在に至る

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9(2019))

氏名	末寄 雅美	職名	教授	学位	修士(教育学)(九州大学大学院1998年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研究課題
保育者養成における体験的な学びを通じた保育観・子ども観の育成ー環境遊びを中心として

担当授業科目
教育実習指導(通年) こども学基礎演習(通年) 保育原理(前期) 教育原理(前期) 生活の中の環境学(前期) 保育・教育実践演習(後期) 保育メディア演習(後期) 保育内容「環境」(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。ノートを取る習慣をきちんと身につけるよう、ノートプリントは提出を求めるようにした。
授業科目名【教育原理】 17年の教育要領・保育指針改定により保育における幼児教育の意義づけや保育者としての新たな役割について、特に幼児教育の無償化や危機管理について等、保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。
授業科目名【保育内容「環境」】 授業に屋外での体験学習を積極的に取り入れ、学生の生活環境への関心を引き出せるようなアクティブ・ラーニングになるよう工夫した。 また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー(到津の森公園、獣医師)を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂いた。
授業科目名【保育メディア演習】 メディア環境について、学生の関心を高めるためにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。より学生の理解が深まった。
授業科目名【教育実習指導】 「観察実習」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。実習事後指導では一人一人の学生に対し面接を行い、また丁寧な日誌指導を行った。実習報告会の実施など、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。

特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。またモンテッソーリ教育については、「保育原理」の授業と関連させ、教材の部屋で実際に体験してみる工夫も行った。

授業科目名【教職実践演習】
現場での保育実践を見越したアクティブラーニングの授業を行った。「模擬保育」ではクラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い、意見交換を行った。「行事について」では、グループワークを行い園行事への理解を深めた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。

授業科目名【こども学基礎演習】
科目の主担当者となり2年目を迎えた。特に今年度は「認定絵本士」の資格取得のための指定講座を複数回設けた、絵本やおはなしの技術向上に向けた学習や「絵本専門士」として活動する外部講師や児童演劇を専門とする外部講師を招いた授業を行った。
前期では、学生の子ども理解を深めるべく「遊び体験実習」と「アフターミーティング」を組み合わせた授業を行い、現場での実習体験と日頃学んでいる専門領域と関連付ける学習を実施した。この「遊び体験実習」は、非常に高い学習効果を生んだ。
後期には「おはなし発表会」をマロリーホールで実施し、ゼミ毎に絵本を題材にした劇・ペープサートなどの発表を行うための準備、指導を行った。

授業科目名【こども学特別演習】
2年次のゼミ活動の科目であり、体験学習や学外研修を中心に行った。科学への関心を深めるために身近な科学遊び、具体的には教育支援職員の援助で行った草木染め体験、ろうそくづくり、バスボムづくり、塩と氷の冷却現象を用いたアイス作りなどを行い、活動後には学科ブログに掲載することで学生の活動を情報発信できるよう工夫を行った。学外研修では、2019年6月には「到津の森公園」での園外保育を想定した体験学習、11月に北九州市「環境ミュージアム」での幼児向け研修引率体験を行った。2020年2月に長崎県小値賀町野崎島での宿泊野外学習を行う予定だったが、新型肺炎の流行対策として中止した。

授業科目名【生活の中の環境学】
19年度から開講の一般教育科目。外部講師による授業、特に「NPO 法人北九州魚部」の協力を得て、北九州地区の生活環境への関心を高め、様々な分野の専門家による講義を行い、保育者として実践に活かせるような学習内容を積極的に取り入れた。北九州の自然環境について、水生生物や昆虫の生態について、里山の食の恵みとそれらを支える人々について、島の暮らしについて、「発酵」と自然と食について、幼児教育に活かせるネイチャーゲームなど生活環境や科学的関心を引き出す多岐に亘る内容で授業を行うことができた。履修者は少なかったが、学生同士の意見の交流が活発に行えるよう、授業内での対話を多く行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会		2013年5月～ 現在に至る
日本保育者養成教育学会		2017年3月～ 現在に至る
日本社会教育学会		1996年4月～ 現在に至る
日本生活体験学習学会	理事 (2004-2010年、2018年-)	1998年10月～ 現在に至る
九州教育学会	事務局幹事 (1996-1998年)	1996年4月～ 現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 保育者養成課程の学生が持つ子どもの遊び環境への理解	共著	2019年7月	日本生活体験学習学会紀要 生活体験学習研究第19巻	① 保育者養成課程の学生が、遊びに関わる資質をどのように形成するのかを測定する尺度の作成とその信頼性を検証する論文である。保育活動に遊びを取り込み、援助者となる資質を問う尺度44項目を採取し、157名の学生を対象に調査を行い、主成分分析を行った結果16項目を抽出し、その信頼性を確認した。 ② 共著者 命婦恭子 ③ P.53-58
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
実習時における学生の困難事例についての検討—乳幼児との対応を中心に	一般社団法人 全国保育士養成協議会ブ ック研究助成 金	○脇信明 古林ゆり 金子幸 上原真幸 阿南寿美子 島田知和 末寄雅美 藤本朋美	150,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016年9月～現在に至る（2020年9月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006年4月～現在に至る
八女市子育て支援員講座	講師	2015年～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018年8月～現在に至る
筑後地区保育士会研修	講師	2020年2月
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018年8月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会 副委員長 2018年4月～2020年3月 ・人事委員会 副委員長 2018年4月～2020年3月 ・教員免許状更新講習「保育の質の向上と保育の専門性：保育における遊び環境について」講師 2019年8月22日 ・キリスト教保育連盟 西南女学院大学短期大学部保育科代議員・代表者 2018年4月～2020年3月 ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 幼稚園運営委員 2018年4月～現在 ・オープンキャンパス 模擬授業担当「遊びが広げる子どもの世界」2019年8月18日 ・進学ガイダンス福岡県立響高校「幼い子どもの育ちを支えるー保育・幼児教育の仕事」講師、2019年7月12日 <p>他、学生募集のための高校訪問の実施等</p>
--

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	未成 妙子	職名	教授	学位	教育学修士 (音楽教育学)
----	-------	----	----	----	---------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児教育学 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害教育 (聴覚障がい児の器楽合奏教育) ・こども音楽療育 ・表現 (身体・音楽)

研究課題
<p>「こども音楽療育」の分野に関して、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え、考察し、音楽の実践力をつける方法を研究する。こどもの演奏を存分に引き立たせ、なおかつ保育者にとって演奏しやすい効果的な楽曲を創作し、活用して、実際の保育の場面で実践し、その効果を検証する。障がいのある子ども、そうでない子ども、共に活動ができ、発達を促すために十分配慮した「音あそび」「表現あそび」について研究する。障がいの中でも、特に聴覚障がいについては早期に障がいを知らされても、0、1、2歳へ支援が十分とは言えていない現状を見据えて、言葉の指導を含めて音楽を使った聴覚活用について引き続き研究をする。</p>

担当授業科目
<p>こどものうたあそび (後期) 保育内容「表現 (身体・音楽表現)」(前期) 保育総合表現 (後期) こども音楽療育概論 (前期) こども音楽療育概論 (後期) こども音楽療育実習 (後期) こども学基礎演習 こども学特別演習</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 こども学基礎演習 】</p> <p>年間のおおむねの流れは学部全体で決まっているが、未成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということで、新入生研修におけるゼミ活動では「パラパラどんぐりころころ」というなじみのある子どもの歌をハイテンポにアレンジしたものを使っての身体表現、目隠しをして保育の日常で使う打楽器を聞き分けるゲームなどを実施した。また後期の「お話発表会」では、「おどりたいの」という絵本を用いて学生の非常に積極的な取り組みを目の当たりにし、リーダーを中心に物語を構築していく活動を学生自身が積極的に楽しみ、充実感を持って取り組んでいたのが大変有意義な展開だった。1年間の学びは保育の現場で必ず役立つものだと強く感じた。</p>
<p>授業科目名【 こども学特別演習 】</p> <p>音楽ラボと銘打ったゼミ活動は、年間を通して音楽に満たされた活動になった。前期の最初は保育現場で用いる器楽合奏を各々が選び、実際に演奏する中でより良い響きを工夫し、既成の楽譜に手を加えるという作業は通して、「音楽の道しるべ」というべき楽譜の存在の正確さ、すばらしさを実感できたと考える。また、保育の現場で歌われている歌をピアノの「連弾」で演奏する活動を通して、各々のピアノテクニクに見合ったアレンジで友達と演奏する喜びを体感した。前期の終わりにはミニ発表会を実施した。</p>

後期は西南女学院 100 周年プレイベントの一つとして井堀市民センターにおいて「小さな森の音楽会」を開催し、ゼミ生による音楽物語「ごんぎつね」を演奏し大いに成果を上げることができた。来場した子どもたちにもストーリーがわかりやすいように大型紙芝居を用いて情感あふれる合唱物語を歌う上げ、また北九州交響楽団の演奏するアンダーソンの「タイプライター」という曲では、実際のタイプライターをゼミ生がソリストとして参加し、たくさんの拍手をいただいた。学外の会場で音楽会を開催するという過程で、学生のスキルアップは目を見張るものがあった。

授業科目名【 保育内容「表現（身体・音楽）」 】

後期の総合表現につなげるために「音楽を用いた身体表現」、「劇あそびと音楽を関連つけた表現あそび」を実体験するように構成した。身近な楽器の特性と演奏効果を十分に理解し、さまざまなリズムを身体表現とピアノ以外の楽器の効果を使いながら表現することを学ばせるなど、学生が体を使っての音楽的な活動を体験しながら表現の楽しさを実感でき、さらにお互いの表現活動を考察する授業展開を構築した。音楽表現を使った劇遊びでは、グループによる協働作業を重視した。未成自作の楽曲を多く使い、全音音階を用いた旋法の和声の響きを体感させた。

授業科目名【 こども音楽療育実習 】

障がいのある子どもたちが音楽をとおして、コミュニケーションの手段を少しずつ手に入れ、ゆっくりだが着実に周りとの関係性を深めていく姿をイメージさせながら、音楽の力を使った様々なセッションを行った。資格習得のために学生も緊張感を持って臨んでいた。23名の受講生はまじめなあまり、最初は固くなってうまく子どもに自分の思いが伝わらないもどかしさを感じていたようだが、向学心を持ち、お互いの良いところを評価し合いながら和やかな雰囲気の中で力をつけていった。幸せなことに、本年度のこども音楽療育受講生 23名は未成ゼミとともに 11 月 30 日に「西南女学院 100 周年プレイベント」として井堀市民センターにて「小さな森の音楽会」を開催することができた。北九州交響楽団、本学の地域連携室など様々な方々のご尽力を得て、音楽会の全プログラムに学生が参加し、地域の子供たちと密にかかわる音楽会を、音楽の多様な力を持って成功させた。

授業科目名【 保育総合表現 】

保育科全体のまとめと位置づけられている科目であり過去 4 年間は外部のホールにて土曜日の午後で開催してきたが本年度初めて 2020 年 1 月 15 日（金）に、本学マロリーホールにおいて「シオンの丘子ども劇場」というタイトルで開催した。園バスや徒歩で北九州の 7 つの園から 300 名を超える園児さんと引率の保育士さんが参集くださり、大変活気のある素晴らしいまとめの発表を行うことができた。学生は協力して行うことの大切さ、そして表現する充実感を存分に味わうことができた。舞台に立った演技者はもちろん、大道具、小道具、衣装、音響は生の楽器を使った臨場感あふれるものを、照明はマロリーの機材を駆使して、学生自身の手によって行い、おのおの力を結集し、充実した舞台を作ることができた。学内で行う利点は、リハーサルと本番が同じステージでできること、会場費を削減できたこと、日程を変えたことで保護者に頼らず幼稚園・保育園の学外行事として来ていただけたので、毎年の懸案事項であった「集客」という、最も難しい問題をクリアできたことだったと考える。会場はたくさんの子どもの笑顔と元気な声に包まれて、次年度への弾みにもなった。プログラムの作成、当日の案内、お礼状の作成まで学生各々が自覚を持って取り組むことができた。他の授業との連絡、機材の新調などが課題として考えられるが、できる範囲で改善しながら次年度に向けて考えたい。

授業科目名【 こども音楽療育演習 】

学生はグループごとに萌文書院「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」から、楽曲を選びセッションを実演しながら、お互いを評価し合う授業を行った。スマートフォンの普及で、こどもの「手遊びうた」「うたあそび」は、どこの誰とも知れない個人のアップした映像をまねるという短絡的な資料で行う傾向がある。しかしこの授業では障がいのある幼児さんとかかわるときに曲はどのようにアレンジしたらよいかということをも未成と個別に検討し、楽譜に書き表すという大変手間のかかる作業をすることで、本当に自分が現場で使えるセッションを構築することができると考えて、学生は時間を惜しまず取り組んだ。ピアノにとられず様々な楽器を使うことや、言葉かけの方法、曲の提示の仕方を未成の助言を参考にしながら、後期の「こども音楽療育実習」につなげることを目指した。

授業科目名【 こどものうたあそび 】

「積極的にピアノ伴奏を学生が行ってほしい」ということを授業の初めに伝え、次週の課題となる曲目をはっきり提示して予習が必ずできるように心掛けた。保育園・幼稚園では年間を通じて毎日必ず音楽を使った活動や歌う活動がある。「うたあそび」つまり、歌いながら手や指先、からだを動かしてあそぶこと、リズムにのってあそぶことが人間関係を深めていくこと、園生活において保育者は「うたあそび」を積極的に取り入れ、子どもたちに歌いかけ、スキンシップをし、ふれあいながら遊ぶことが集団遊びにつながることで、そして保育者や友達と一緒にリズムに乗って軽快に動く遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つことを毎回多くの楽曲をとおして学ぶ授業とした。歴史的なわらべ歌から最近のこどもの歌まで、莫大な数のこどものうたから、わずか 15 回の講義にどの曲を学ばせるかは、童謡コンクールに携わった経験も含めて十分に精査して講義を進めた。伴奏に関して、最初はためらいの多かった学生も、回を重ねるごとに自信をつけたり、互いに励ましあったりして、1 度も講義をする側の未成から指名してピアノに向かわせるということなかった。各自が持ち前の個性を發揮して、積極的に取り組んだ。この積極性は保育科のすばらしさであると改めて実感した。明るくはっきりした歌声で歌い合い、見せ合い、動き、あそび、たくさんの歌を自分のものにしていった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞って提示することと、単独の身体表現を含めてのうたあそび・輪唱あそびを行うなかで積極的に「うたあそび」を楽しむ姿勢が身についた。

授業科目名【 こども音楽療育概論 】

長年にわたり未成の行ってきた実践を多く取り入れて講義を進めた。まず、未成の専門分野である聴覚障害の実際について、具体的な様々な角度からの不自由さを理解し、映像などを提示しながら、音楽の力と障がいのある子どもへの理解を深めさせた。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持って受講しているので 23 名の学生は大変まじめで向学心を持ち、緊張感を持っていた。講義の初め頃は地域の障がい者施設、音楽の多様な力を持ってする療育的保育ということにはなじみが薄いという印象もぬぐえなかったが、回を追うごとに大変積極的な調べ学習や取り組みが見られた。発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知り、近年ますます多様化、重複化するこどもの障がいを理解するために、できるだけ実際の音や効果、方法、音楽の力を示しながら講義を進めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011 年～現在に至る

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 「聴覚障害乳幼児への音楽的アプローチ」	単独	2020 年 10 月 19 日	日本音楽教育学会第 50 回東京大会	聴覚障害乳幼児への支援はその発見が早期に行われているにもかかわらず 0, 1, 2 歳は法整備の網の目からこぼれているのが現状です。そのことを改善するための調査に参加したことをもとに音楽が聴覚障害乳幼児教育にいかにか有効かを検証しました。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

国際交流委員会 公開講座委員会	副委員長 副委員長	留学生選考の面接試験において試験官を務めた。
8月18日（日）	オープンキャンパス	模擬授業「体験！こども音楽療育士」担当
8月21日（金）		保育士免許更新講座担当「（選択科目）子どもの可能性を広げる保育者の援助」
11月30日（土）		西南女学院100周年プレイベント 地域活動の一環として井堀市民センターにおいてこども音楽療育受講生とゼミ生を中心にした「小さな森の音楽会」開催

以上

2019 年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名	谷崎 太	職名	准教授	学位	経営学修士
----	------	----	-----	----	-------

研究分野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研究課題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担当授業科目
初年次セミナー（1年前期） 経済学入門（1年前期） 子ども学基礎演習（1年前期・後期） 子ども学特別演習（2年前期・後期） メディアリテラシー（1年後期） キャリア開発（1年後期） 情報処理入門（2年前期） 保育メディア演習（2年後期 AB クラス） 保育メディア演習（2年後期 CD クラス） 実践キャリアプランニング（2年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【初年次セミナー】</p> <p>汎用的技能、スタディスキル、スチューデントスキルを身につけるために、グループワークを中心とした演習を順序で行った。全体に共通した課題に対する討論をしながらグループを形成する。その後、グループごとに別れた課題について資料を集めながらグループとしての発表資料を作成する。一連の活動を振り返り、個人と振り返りレポートを作成する。これらによって、「聞く、調べる、読む、書く、考える、発表する、討論する、鍛錬・強化する姿勢を養う」「グループワーク、チームビルディングを通して、自己および他者を理解する姿勢を」「課題解決のために、テーマを探求し、解決の方策を探る姿勢を養う」「自らの行動を省察し、成長へと繋げ、を養う」ことを促した。</p>
<p>授業科目名【保育メディア演習】</p> <p>保育実践の記録化・可視化を行う上で有用な情報ツールを利用できるよう、文書ならびにプレゼンテーションの作成、利用についての技能向上を図った。現場で必要とされる資料作成の留意点等について考察する課題を提示し、課題の作成から提出までを、ブラウザ、Word、PowerPoint、電子メール等で完結させることでテーマの考察と PC 操作の習熟とを同時に促した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本簿記学会	監事 (2000年～現在に至る) 中四国支部幹事 (2001年～2003年)	1994年4月
日本会計史学会		1996年11月
国際会計研究学会		1996年11月
日本企業経営学会		1997年3月
日本会計研究学会		1997年9月
日本生産管理学会		1998年4月
広島大学マネジメント学会 経営行動研究学会		2000年12月 2008年8月

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
職業能力開発協会 CS 検定	主任試験官	(2018年4月～2020年3月)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生委員（2019年4月～2020年3月） 情報システム管理運用委員（2019年4月～2020年3月） 大学短期大学部一般教育課程委員（2019年4月～2021年3月）
--

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	戸田 由美	職名	教授	学位	修士 (文学)
----	-------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石・文芸学的諸相・見立て・日本語文法・東洋的見地及び西洋的見地

研究課題
漱石文芸における「不思議さの究極にあるものとはなにか」という私見に沿って、その本質究明を研究課題とする。漱石文芸にたたずむ根幹である「見立て」の思想は、その文化的意義または日本文化の特異な表現スタイル、ひいては西洋と東洋の相違から、人間観の相違が見いだされることによって導き出されるものである。以上を研究のステージにのせて論及するものである。

担当授業科目
文学 (保育科・英語学科・観光文化学科・看護学科・福祉学科・栄養学科) 日本語表現法 (保育科・英語科・観光文化学科・看護学科・福祉学科・栄養科) こどもの文学と物語 こども基礎演習 こども特別演習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 文学 】</p> <p>「文学とは何か」ということをあいまいにして講義は成り立たないので、その意義、および、作品世界のドラマ化された表現、発想思念等々を学生とともに考えながら講義を進めていった。上質な文学作品や事例が現代の日常にどう生きているのか、生かされているのか、自身のアイデンティティーとどのようにかかわっているのかを解明することに的を絞って講義した。</p>
<p>授業科目名【 日本語表現法 】</p> <p>社会に出ても、立派に通用するように、あるいはまた就職試験に対処できるような数々の用例の認識、小論文作成、短文作成、添削指導、文章をうまく書くコツ、面接の対応の仕方、など、読む、書く、聞く、話すという観点にもとづいて講義解説に力を入れた。</p>
<p>授業科目名【 こどもの文学と物語 】</p> <p>「子どもの文学」は一般の文学とは異なり、子供の成長にかなった幼児教育ができるか否かに重要な課題があるため、その点を見極めて、絵本の与え方、内容、子供の成長過程、右脳あるいは左脳の発達に即した教え方等々、多角的視点から保育と国語の教育を兼ねて講義をした。</p>
<p>授業科目名【 こども特別演習 (ゼミ) 】</p> <p>私のゼミではファンタジー文学ゼミを開講している。</p> <p>ファンタジーとは何か、決して空想といった生易しいものではなく、「ゆきてかえりし世界」であり主人公がファンタジーの世界へ行く前と行った後の世界観は全く違うものであること、そしてそこに人間的成長があることを、実際の幼稚園、あるいは保育の子供の世界になぞらえて、学生たちとともに試行錯誤している。学生自身の向上が見えるところまで徹底教育している。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本文芸学会		1983年
日本キリスト教文学会		1991年
日本近代文学会		1985年
日本語教育学会		2002年

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 宮澤賢治の深層世界				今の世に至るまでなぜこれほどまでに賢治文学が愛されるのか、を究明したものである。
(翻訳) ただいま翻訳継続中				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
子ども・子育て専門委員	専門委員	

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
短期大学部長 西南女学院理事 附属シオン山幼稚園園長

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	東 彩子	職名	講師	学位	修士 (宣教学) (Fuller Theological seminary)
----	------	----	----	----	--

研究分野	研究内容のキーワード
①キリスト教教育・キリスト教女子教育 ②キリスト教と身体 (演劇・ダンス等身体表現含む)	キリスト教教育、キリスト教女子教育、宣教、礼拝、身体、神秘劇

研究課題
1 : キリスト教教育における身体の神学的意義を探り、演劇やダンスの実践を伴うキリスト教教育の教育的・宣教的効果について、ホリスティックな観点から研究を進める。 2 : 中世の神秘劇研究を土台とし、現代の世界各地における神秘劇について神学的・宣教学的の研究を進める。

担当授業科目
<p><保育科></p> <p>キリスト教学Ⅰ (1年前期)、キリスト教学Ⅱ (2年後期)、キリスト教保育 (1年後期)</p> <p>こども学基礎演習 (1年通年)、こども学特別演習 (2年通年)</p> <p><大学人文学科 (英語・観光文化) ></p> <p>キリスト教学 (旧約聖書) (1年前期)、キリスト教学 (新約聖書) (1年後期)</p> <p><大学共通></p> <p>キリスト教文学と文化 (後期)</p> <p>キリスト教と文化 (後期 8 コマ)</p> <p>キリスト教と西南女学院の歩み (1 コマ)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>アクティブラーニング型の授業を目指し、学生は聖書の輪読、賛美、祈り、ディスカッションや紙芝居・絵本読みなどに参加した。また、視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。チャペルポートフォリオ導入により、通年でチャペルの振り返りを行い、建学の精神の学びの確認を行った。</p>
<p>授業科目名【キリスト教保育】</p> <p>キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業を行った。「世界の子ども」の発表では、世界のこどもたちの現状について調べ、グループ発表を行い、自分たちに何が出来るかを検討した。</p> <p>聖書劇の創作の回では、シナリオ作成における聖書の理解を深めると同時に、こどもたちにわかりやすく聖話を伝えるための実践により、チームワークやリーダーシップなどについて洞察を深める機会を作った。</p>
<p>授業科目名【大学人文学部 キリスト教学 (旧約・新約)】</p> <p>前期は旧約聖書、後期は新約聖書にわけて講義を行うため、視覚教材もあわせて深い掘り下げが可能となった。学生が1年間を通して聖書全体を概観でき、「感恩奉仕」の精神の土台となる聖書の知識を身につけられるよう、聖書の登場人物を中心に解説した。最後には、学生自らが興味を持ったキリスト教に関連する事柄を調べグループ発表する機会を作り、キリスト教の幅広い世界を、発表によって互いに知ることが可能となった。</p>
<p>授業科目名【大学共通新カリキュラム キリスト教と文化】</p> <p>新カリキュラムの科目として、キリスト教文化に幅広く触れる機会を提供した。キリスト教の歴史や人物、芸術や文学などについての解説を中心に、学生が興味をもった分野について、自らテーマを決めて発表する機会を設けた。少人数だったため、時間をかけて丁寧に発表や質疑応答を行うことが可能となった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本基督教学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年9月～現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) キリスト教教育における「身体」の意義	単	2020.3	西南女学院大学紀要 Vol.24 P.111-117	キリスト教教育における「身体」の意義について、心身二元論に偏りがちであるキリスト教界の傾向を問題提起とし、創世記におけるユダヤ教的心身一体の人間観に立ち返る試みとして、創世記1章27節と2章7節について、モルトマン、パネンベルクを中心とした現代神学を土台として考察した。これを踏まえ、Iコリント12章の「キリストの体」に関するパウロの神学を取り上げ、現代のキリスト者へ問題を提示すると共に、キリスト教教育における「身体」の意義について考察を行った。
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他)	単	2019.12	公益財団法人 東京YWCA 新聞 巻頭言	「クリスマスの光」というタイトルで、東方の三博士に関するメッセージを執筆した。

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
キリスト教学校教育同盟 全国新任夏期研修会	運営・実行委員	2018年4月～現在
日本バプテスト小倉キリスト教会	会員 教会学校青少年担当教師 主日礼拝奨励（牧師不在時） 主日礼拝こどもメッセージ	2011年4月～現在 2017年4月1日～現在（毎週日曜） 2019年6月30日 2019年4月14日 2019年5月12日 2019年6月9日 2019年7月28日 2019年11月10日 2020年1月19日
ワールド・ビジョン・ジャパン 日本YWCA	会員・チャイルドスポンサー 会員	2010年7月～現在 2010年7月～現在
北九州市立到津小学校	PTA 広報委員	2019年4月1日～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<キリスト教関係>	
西南女学院大学短期大学部宗教主事補	2014年4月1日～現在（2013年度を除く）
キリスト教センター運営委員	2010年4月1日～現在（2013年度を除く）
キリスト教教育研究会委員	2010年4月1日～現在（2013年度を除く）
大学宗教委員会副委員長	2010年4月1日～現在（2013年度を除く）
クリスマス礼拝総監督	2010年4月1日～現在（2013年度を除く）
学科推薦チャペル講師講演会コーディネーター	2014年4月1日～現在
新任オリエンテーション聖書学課講師	2019年4月2日
大学・大学短期大学部チャペル奨励	2019年4月17日 2019年5月22日 2019年11月20日
西南女学院聖書学課司会	2019年7月18日 2019年12月5日
キリスト教教育特別研究会司会	2019年5月7日 2019年11月12日
保育科同窓会「要の会」礼拝司式	2019年11月23日
西南女学院中高クリスマスツリー点灯式奨励	2019年11月14日
学生ボランティア活動のための日曜礼拝司式	2020年1月12日
English Bible Study コーディネーター	2020年11月～現在
西南女学院月報巻頭言執筆	第662号（2019年6月号） 第664号（2019年8月号） 第668号（2019年12月号） 第670号（2020年2月号）
キリスト教センターだより編集	第106号～第110号

キリスト教センターだより執筆
しおんのそののあゆみ巻頭言執筆

第110号(2019送別号P6)
2019年10月号執筆

<キリスト教関係以外>

学生募集委員

2018年4月1日～現在

地域連携室女性活躍ワーキンググループ員

2017年4月1日～現在

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤田 稔子	職名	准教授	学位	修士 (看護学) (神戸市看護大学 2005 年)
----	-------	----	-----	----	---------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症 (感染症対策、予防接種) 小児ぜんそく

研究課題
<p>【現在取り組んでいる研究課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「(身体や症状を表す)ことば」について調査する。→現在の国内で入手可能な「うんち」に関する絵本の調べ中。 ・医療保育→現在、北九州地区で活躍している医療保育専門士等と医療保育における5領域の活用等を研究課題として取り組んでいます。 <p>【継続していきたい研究課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。

担当授業科目
こども学基礎演習 (保育科1年 前期・後期) こども学特別演習 (保育科2年 前期・後期) 初年次セミナー (保育科1年 前期) 保育内容「健康」(保育科1年 前期) こどもの保健演習 (保育科2年 前期) こどもの保健 (保育科1年 後期) こどもの保健Ⅱ (保育科2年 後期) こども音楽療育実習 (保育科2年 後期) 在宅保育 (保育科2年 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【こども学特別演習】</p> <p>本学地域連携室への地域貢献活動の申請を行っての正式な活動「フレイ隊」として月1回のペースで地域の子育て支援を実践してきました。本年度は、ゼミ生が4名と少人数ながら、お互い支え合いながら全プログラムを果たしました。年度当初は、ありきたりな企画案を示してきますが、少しずつ創意工夫できるようアドバイスをすることで、徐々に発想豊かな内容を作り上げることができていました。また、外部の方との打ち合わせ、会計管理等、自分達でおこなうことにより、社会性や計画性等様々な要素を身につけたように感じます。</p> <p>また、大学祭においては、1年生ゼミが例年のように関与できなかった関係で、前日までの準備は4名のみでおこないました。卒業生達の評価も今まで最も高い出来栄となり、自信につながったようでした。学生達が伸び伸びと、自分たちの発想が形となるように支援することを本年度は心がけました。</p>
<p>授業科目名【こどもの保健】</p> <p>本年度からカリキュラムが改正され、今まで講義4単位でおこなっていた内容を講義2単位でおこなえるよう内容を厳選し授業を組み立てました。90分、15回という限られた中で、保育現場で困らないレベルの知識の獲得、子ども達に不利益が生じないレベルを担保することに重点を置き、授業内でできないが、ぜひ保育職としておさえて欲しいことは自己学習できるように配布プリントに示すように心がけました。</p>

その結果、毎年課しているノートの8割強は、自己学習の成果が示されていました。今までの学生と比較して十分な内容ができたとは言いがたいですが、しかし、興味関心を高め、現場に出た時の道しるべは与えられたのではないかと思います。そのための「興味を高める」ことを中心におこないました。

授業科目名【こどもの保健Ⅱ】

昨年度「こどもの保健Ⅰ」に際して学生達からの苦情等が多く、授業を開始するにあたって、内容および授業の展開の変更を考え準備を進めました。しかし、現在保育現場で活躍している卒業生達からの「一部の学生の意見だけ取り上げるのはおかしい」「質を下げるな」等の意見をもらい、まず、1回目の授業において、本科目の意義等を説明し、学生全員にアンケートをとりました。その結果、ほんの少数のみが不満を持っており、大半の学生が卒業生と同等の授業を求めていることが分かりました。配布物の工夫、ノート作成を絶対条件にしない、内容を少し減らす、等の工夫をして授業を行いました。最終的には、不満を持っていた学生も授業に真摯に向き合ってくれ、全員単位取得が可能となりました。

授業科目名【こども音楽療育実習】

本年度は、時間割等の関係上、特別支援学校でのクリスマスコンサートが出来ず、代わりに、地域貢献活動および女学院100周年プレイベントも兼ねた、地域の皆様を招待しての演奏会を開催しました。井堀のコンサートでは、教員が前面に立って動くことで学生の学びになって欲しいと思い活動しました。演奏会に向けて日に日に完成度をあげ、素晴らしい演奏会になりました。しかし、その後の保育園のクリスマスコンサートでは、学生主体にシフトした結果、学生間の不調和が起り、コンサート自体は成功しましたが、学生の達成感は低い状況で終わってしまいました。このフォローは、個人面談にておこないましたが、課題が残った状況です。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本小児保健学会		2000年4月～現在に至る
日本小児看護学会		2005年4月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009年4月～現在に至る
日本学校保健学会		2009年4月～現在に至る
日本医療保育学会		2010年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2010年4月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 子どもの保健と安全	共	2020.3.31	教育情報出版	8章2節「子どもの歯の健康状態」 9章3節「子どもと呼吸器の病気」 9章5節「子どもと血液の病気」を執筆
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				教育研究業績 総数 (2020.3.31現在) 著書 4 (単0 共4) 学術論文 3 (単1 共2) 学会発表 12 (単2 共10) その他 8 (単0 共8)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
だいすき にっぽん 活動助成	芳賀文化財団	藤田稔子 青木るみ子	120,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市開発審査会	委員	2013年11月～現在に至る
北九州市保育園連盟	外部理事	2019年4月～現在に至る
北九州市保育士会	講師	2019年7月19日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・委員会
 - 倫理委員会 副委員長 2010年4月1日～現在に至る
 - 就職委員会 副委員長 2016年4月1日～現在に至る
 - FD委員会 2018年4月1日～現在に至る
- ・S.D.C顧問
- ・アドバイザー関連
 - 保育科1年ゼミ アドバイザー
 - 保育科2年ゼミ アドバイザー
- ・学生募集関連
 - 併設校、高大連携講座 2019年6月5日
 - 門司大翔館高等学校 進路ガイダンス 2019年6月11日
- ・附属シオン山幼稚園
 - 運動会救護担当 2019年10月14日
- ・地域貢献
 - 井堀市民センター「音楽会」の開催 2019年11月30日
 - 「だいすき にっぽん」 2019年5月12日
 - 8月20日
 - 12月21日
- ・卒業生支援
 - 学会発表支援（2019.6.22-23開催「日本医療保育学会」）のため所属病院より協力依頼を受ける
北九州地区医療保育士との共同研究および勉強会の支援

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	村上 里絵	職名	教授	学位	修士 (福岡教育大学 1995 年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
発達心理学、応答的保育	乳幼児の言語発達、応答的保育、幼児の思考力

研究課題
発達心理学を基盤に、乳幼児の育ちと保育を考える。特に、乳幼児期の子どものことばの発達と人的環境（特に母親を中心とする養育者や保育者）との関わりについて考察する。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容総論（前期） ・こどもの発達理解と遊び（前期） ・教育実習指導（前期・後期） ・こどもの生活と遊び（後期） ・保育の計画と評価（保育課程含む）（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【 保育内容総論 】</p> <p>乳幼児期は、小学校以降の教科別教育と異なり、領域別に保育されるものではなく、子どもが主体の総合活動であり、環境を通して行うものである保育の本質について繰り返し説明する。また、五領域の視点は、保育の振り返りに必要であり、活動にバランスよく組み込まれていることが大切であることを実践事例を基に説明する。更に保育現場でのエピソードを用い、子どもの姿が思い描けるような工夫をしている。</p>
<p>授業科目名【 こどもの発達理解と遊び 】</p> <p>乳幼児期の発達を理解しながら、子どもの成長発達に必要な遊びや活動を体験し、体で会得できるようにする。また、学生自身の実習での指導計画作成に生かされるように、授業中に説明した「配慮事項」や「援助」などを授業シートに記録する時間を確保し、指導している。</p>
<p>授業科目名【 保育の計画と評価（教育課程を含む） 】</p> <p>目の前にいない子どもの姿について想像力を働かせながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園保育要領から、各幼稚園・保育園(所)・認定こども園の保育計画（教育課程・保育課程・全体的な計画）に繋がっていることを理解できるように説明する。また、実際の保育計画を見ながら、各年齢の繋がり、計画→実践→記録→評価のPDCA サイクルについて、理解を促すよう工夫している。</p>
<p>授業科目名【 こどもの生活と遊び 】</p> <p>乳幼児期の生活と遊びが子どもたちに学びをもたらせ、小学校低学年の生活科に繋がることを様々な事例を通して理解できるように説明する。また、日常生活における子どもの遊びの種類や知識の引き出しが増やせるように実際に子どもの室内における遊びを体験し、興味を持って理解する時間を作った。</p>

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 保育教諭養成課程研究会		1985 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市児童福祉施設第三者評価委員	委員	2012年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	命婦 恭子	職名	准教授	学位
----	-------	----	-----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学	学校臨床 子育て支援 ストレス メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研 究 課 題
研究課題は大きく3つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、本学附属幼稚園での発達相談員としての臨床実践とその実践に関する臨床研究である。さらに、2016年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

担 当 授 業 科 目												
<table border="1"> <tr> <td>障害児保育Ⅱ (前期)</td> <td>保育実習指導Ⅰ (通年)</td> </tr> <tr> <td>こども家庭支援の心理学 (後期)</td> <td>保育実習指導Ⅱ (通年)</td> </tr> <tr> <td>保育相談支援 (後期)</td> <td>保育実習指導Ⅲ (通年)</td> </tr> <tr> <td>臨床心理学(カウンセリングを含む) (後期)</td> <td>保育所実習Ⅰ (学外実習)</td> </tr> <tr> <td>こども学基礎演習 (通年)</td> <td>保育所実習Ⅱ (学外実習)</td> </tr> <tr> <td>こども学特別演習 (通年)</td> <td></td> </tr> </table>	障害児保育Ⅱ (前期)	保育実習指導Ⅰ (通年)	こども家庭支援の心理学 (後期)	保育実習指導Ⅱ (通年)	保育相談支援 (後期)	保育実習指導Ⅲ (通年)	臨床心理学(カウンセリングを含む) (後期)	保育所実習Ⅰ (学外実習)	こども学基礎演習 (通年)	保育所実習Ⅱ (学外実習)	こども学特別演習 (通年)	
障害児保育Ⅱ (前期)	保育実習指導Ⅰ (通年)											
こども家庭支援の心理学 (後期)	保育実習指導Ⅱ (通年)											
保育相談支援 (後期)	保育実習指導Ⅲ (通年)											
臨床心理学(カウンセリングを含む) (後期)	保育所実習Ⅰ (学外実習)											
こども学基礎演習 (通年)	保育所実習Ⅱ (学外実習)											
こども学特別演習 (通年)												

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 臨床心理学 (カウンセリングを含む) 】</p> <p>心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取って授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を指しにとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【 保育相談支援 】</p> <p>これまでの臨床経験をもとに、架空の事例を作成し、それについて学生自身が自分に出来る対処法を考える授業を実践している。考えた内容については、それぞれの個性が反映されているととらえ、学生の意図を尊重した上でよりよい対処法をさらに考えるような講義内容になるようにコメントを工夫している。</p>
<p>授業科目名【 障がい児保育Ⅱ 】</p> <p>保育現場で接することが多い発達障害の子どもたちへの支援方法を中心テーマとして授業を構成した。2年生を対象としていることから、指導案の作成や教材作成も取り入れて実践的な内容とした。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康心理学会		1997年4月～現在
日本心理臨床学会		1998年4月～現在
日本心理学会		2000年4月～現在
日本行動医学会		2001年4月～現在
日本ストレスマネジメント学会		2002年4月～現在
日本こども健康科学会		2009年4月～現在
日本健康支援学会		2010年4月～現在
日本保育学会		2014年4月～現在
日本生活体験学習学会		2018年11月～現在

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 保育者養成課程の学生 が持つ子どもの遊び環 境への理解	共著	2019年7月	日本生活体験学習学 会誌	保育者養成課程の学生を対象 に、遊びに関わる資質を明らか にするための尺度を作成し、そ の信頼性を検証した。その結 果、16項目の尺度が作成され、 十分な信頼性が確認された。
幼児におけるソーシャ ルスキルの発達と適応	単著	2020年3月	西南女学院大学紀要	幼児期のソーシャルスキルの 発達と社会適応について検討 した。その結果、幼児期にソー シャルスキルが不足していると ポジティブな仲間関係を形 成しにくく、その後の社会適 応にも影響していた。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期等
日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員	会員 会員	2002年4月～現在 2002年～2007年、 2014年4月～現在
北方シネマ運営委員会 わかぞのインクルーシブコミュニ ィ構想運営委員会	会員 会員	2017年2月～現在 2018年11月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

研究紀要委員 地域連携室室員 内部監査委員 キャンパスハラスメント相談員 附属シオン山幼稚園発達相談員

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 山路 麻佳	職名 特任講師	学位 修士 (教育学) (福岡教育大学 2013 年)
----------	---------	-----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	ピアノ演奏表現、音楽科教育、保育者養成ピアノ教育 幼児の音楽表現、器楽アンサンブル(合奏)

研 究 課 題
<p>保育者養成のためのピアノ教育において、経験のない初心者への効率的な指導法を童謡の弾き歌いにおけるピアノ伴奏を中心にして考察する。また、保育者養成におけるピアノ教育が幼児の音楽表現にどのように関わっていくのか、ピアノ演奏表現も関連させながら考察する。</p> <p>幼児の音楽表現に関して、器楽アンサンブル(合奏)を中心にして考察する。</p> <p>ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。</p>

担 当 授 業 科 目
こどものためのピアノⅠ (前期) こどものうたと伴奏法Ⅰ (前期) 音楽の基礎 (前期) こどものためのピアノⅡ (後期) こどものうたと伴奏法Ⅱ (後期) 器楽アンサンブル (後期) 保育総合表現 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【こどものためのピアノⅠ】</p> <p>ピアノの基礎的な演奏技能を学んでいく上で、学生に応じた進捗で技術を向上していけるよう複数教員のもと個人レッスン形式で進めた。今回初心者が増加しているのを受け、最初の3コマは初心者対象講座として別途初心者のみのグループをつくり、基礎の部分に時間をかけ丁寧に説明することで、より理解を深めて実技に結び付けることができるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【こどものためのピアノⅡ】</p> <p>昨年度に導入した「ローテーション」を継続して行った。個別レッスンを受ける形態の中、各教員のグループから1人ずつ科目担当者のレッスンを受け、更に今回はその際に発表の場を設けた。これにより各自の意識が高まるだけでなく、目標に向けて計画的に課題に取り組めるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【こどもの歌と伴奏法Ⅰ】</p> <p>保育者として音楽を楽しんで表現することができるよう、昨年度までの課題曲を見直し、コード伴奏の曲も取り入れることで、学生が曲のイメージを広げ曲に合った伴奏をつくり弾きうたいができるよう工夫した。また、2年次になり実習や就職試験など授業外でピアノが課せられることが増え、学生がより実践の場で力を発揮していくことができるよう、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【こどもの歌と伴奏法Ⅱ】</p> <p>これまでに習得したピアノ演奏技術をもとに、学生の習得状況に応じた課題を準備し、それぞれが保育現場に出るから必要な力を身につけられるよう配慮した。また、演奏技術に不安がある学生に対して、簡易伴奏譜を作成し、その方法についても学生に教授することで、より現場で演奏技術が活かしていけるよう工夫した。</p>

<p>授業科目名【音楽の基礎】</p> <p>今回、座学で学んだ内容を実技の実践へ繋げていくために、グループワークの時間をつくり発表の場を設けることでより理解が深められるよう工夫した。また、机間指導を適宜行いながら進めることで学生から質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【器楽アンサンブル】</p> <p>初回授業にボディパーカッションを導入することで、自分自身の体でリズムを表現し、苦手意識のある学生にも楽しみながら自然とリズム感覚が身につくよう工夫した。</p> <p>また、履修者が少人数だったため、保育現場で正しく楽器を扱っていけるよう学生が全ての楽器や指揮を体験できるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【保育総合表現】</p> <p>今回からマロリーホールにて発表を行うにあたり、脚本等の制作や当日の進行だけでなく、ステージの使い方や照明も全て学生にて行った。限られたものを使って学生が協力して考え進めることで、より現場に近い形で創り上げていくことができるよう心掛けた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会 九州公私立音楽学会		2018年10月～現在に至る 2019年9月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 保育者養成におけるピアノ演奏技術の習得に関する考察－初心者のための教則本の比較－	単著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	①近年ピアノの経験がない初心者の入学生が増加していることから、保育者に必要なピアノ演奏技術を効率よく効果的に身につけるために、全国の保育者養成校で使用されている教則本を調査した上で、どのような教材を採択するのがよいか考察を行った。 ②p.127-139
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州音楽協会	協会員	2015年4月～現在に至る
福岡青年音楽家協会	協会員	2016年4月～現在に至る
むなかた第九コンサート	伴奏ピアニスト	2016年4月～現在に至る
JR九州「ななつ星 in 九州」金星ラウンジ	ピアニスト	2019年5月12日
JR九州「ななつ星 in 九州」列車内「九州山口ジュニアピアノコンクール」審査員	ピアニスト 審査員	2019年6月1日～2019年6月2日 2019年7月27日
福岡女学院高等学校音楽科「卒業生演奏会」	ピアニスト	2019年8月1日
「東京インテリア家具 MOA café コンサート」	ピアニスト	2019年8月12日
「さわやかむなかたのもり 慰問演奏」	伴奏ピアニスト	2019年8月25日
「第24回九州ハンドベルフェスティバル」	指揮	2019年10月14日
「Trio Munacco」コンサート出演	ピアニスト	2019年11月24日
「第九コンサートむなかた2019」出演	伴奏ピアニスト	2019年12月22日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

チャペルアワー 奏楽
入学式における奏楽
クリスマス礼拝 奏楽 2019年12月19日
ハンドベルクワイヤー 指導指揮 2019年度～現在に至る
ハンドベル定期演奏会 指揮・ピアノ 2019年12月15日